G-CLASS
取扱説明書

ユーザーのみなさまへ

このたびはメルセデス・ベンツをお買い上げいただき、ありがとうございます。
この取扱説明書は、車の取り扱い方法をはじめ、機能を十分に発揮させるための情報や、危険な状況を回避するための情報、万一のときの処置などを記載しています。車をお使いになる前に、本書を必ずお読みください。

- 取扱説明書は、いつでも読めるように必ず車内に保管してください。
- この取扱説明書には、日本仕様とは異なる記述やイラスト、操作方法などが含まれている場合があります。
- 装備や仕様の違いなどにより、一部の記述やイラストが、お買い上げいただいた車とは異なることがあります。また、形状や装備、操作方法、マルチファンクションディスプレイの表示内容などは予告なく変更されることがあります。
- マルチファンクションコントローラーについては、別冊の取扱説明書をお読みください。
- 車を次のオーナーにお譲りになる場合は、車と一緒にすべての取扱説明書と整備手帳をお渡しください。
- オプションや仕様により異なる装備には＊マークがついています。
- 関連する内容が他のページにもある場合は、該当ページを（100ページ）のようなかたちで示しています。
- 操作手順などは、文頭に番号を記しています。
- ご不明な点は、お買い上げの販売店または指定サービス工場におたずねください。

表記や記載方法について

⚠ 警　告

重大事故や命にかかわるけがを未然に防ぐために必ず守っていただきたいことです。

注　意！

けがや事故、車の損傷を未然に防ぐため、必ず守っていただきたいことです。

知　識

知っていると便利なことや、知っておいていただきたいことです。

ダイムラー・クライスラー日本株式会社

環境保護について

ダイムラー・クライスラー社では、大気汚染の抑制、資源の有効利用をはじめとする環境保護対策に取り組んでいます。環境保護のため、お車をお使いになるときは以下の点にご協力ください。

- タイヤの空気圧が適正であることを確認してください。
- 停車したままの暖機運転は必要ありません。
- 急発進や急加速は避けてください。
- エンジン回転数がその車の許容限度の2/3（例えば許容限度が6,000回転のときは約4,000回転）を超えないように運転してください。
- 不必要な荷物を載せたままにしないでください。
- 長時間の停車時は、エンジンを停止してください。
- 指定サービス工場で適切な時期に点検整備を受けてください。

を示す説明箇所には、特に環境保護のためのアドバイスや守っていただきたいことを記載しています。

⚠ 警　告

車両には警告ラベルが貼付されています。これらの警告ラベルには危険な状況を回避するための情報をはじめ、車を安全に使用するための情報が記されています。
警告ラベルは絶対にはがさないでください。

目　次

目　次

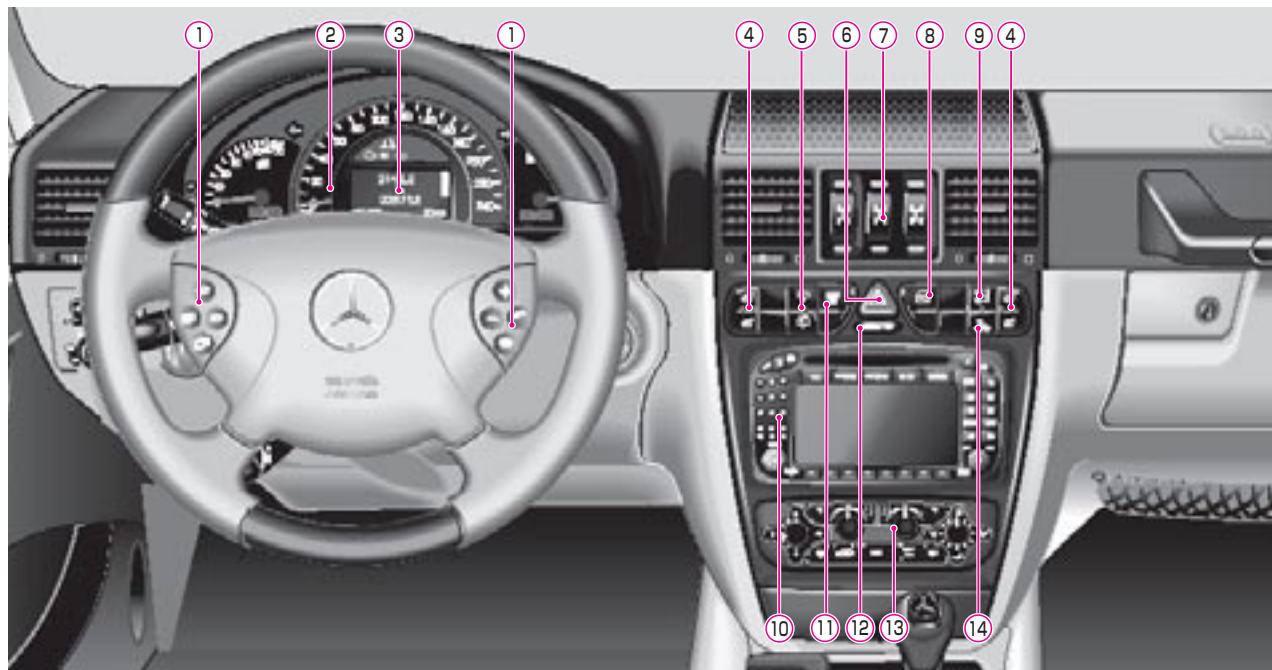
目　次

①
②
③
④
⑤
⑥
⑦
⑧
⑨
⑩
⑪
⑫
⑬
⑭
⑮
⑯
⑰
⑱
⑲
⑳
㉑
㉒

①	スペアタイヤカバー	230ページ
②	リアワイパー	173ページ
③	テールゲート	73ページ
④	テールゲートハンドル	73ページ
⑤	チャイルドプルーフロックノブ（テールゲート）	72ページ
⑥	燃料給油口	86ページ
⑦	パワーウインドウ	92ページ
⑧	ワイパー	171ページ
⑨	ボンネット	82ページ
⑩	方向指示灯 非常点滅灯	169ページ 170ページ
⑪	ドアミラー	97ページ

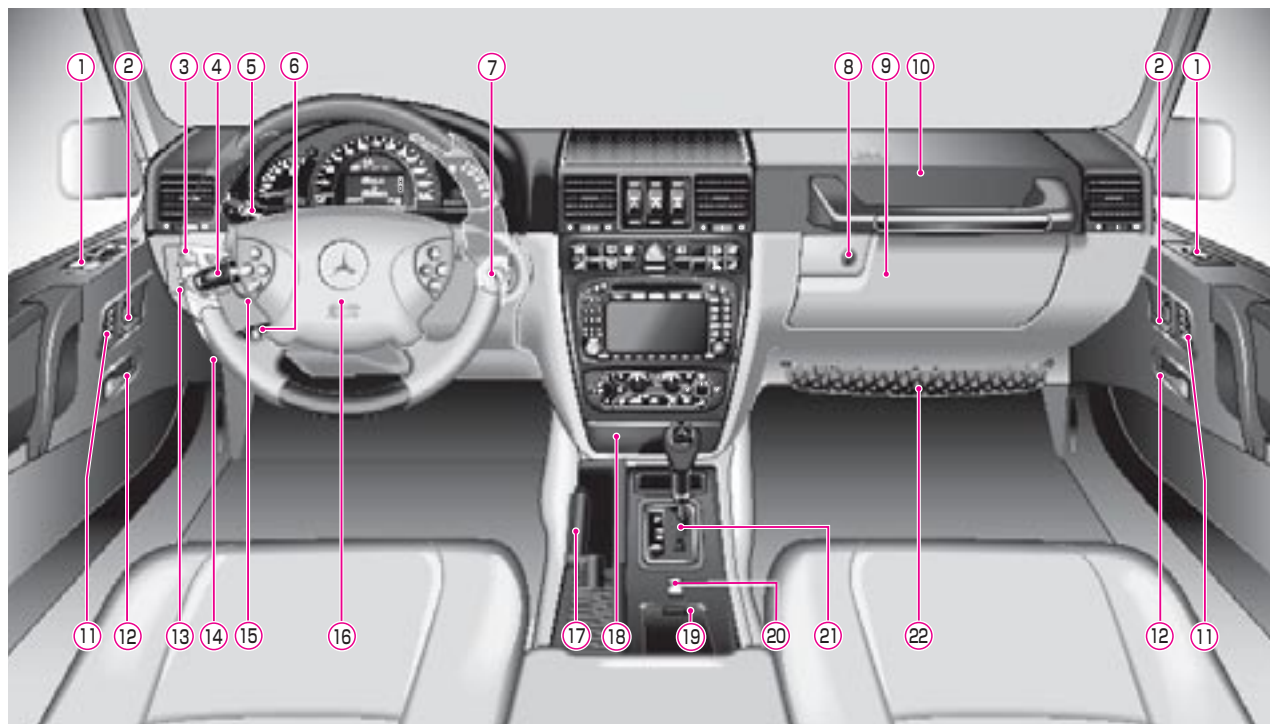
⑫	バックランプ	274ページ
⑬	リアけん引フック	227ページ
⑭	パークトロニックセンサー	192ページ
⑮	リアフォグランプ	165ページ
⑯	テールランプ、ブレーキランプ	274ページ
⑰	フロントけん引フック	227ページ
⑱	フロントフォグランプ	165ページ
⑲	ヘッドランプ	165ページ
⑳	タイヤ / ホイール	259ページ 279ページ
㉑	ドア	67ページ
㉒	チャイルドプルーフロックノブ（リアドア）＊	72ページ

＊オプションまたは仕様により装備が異なります

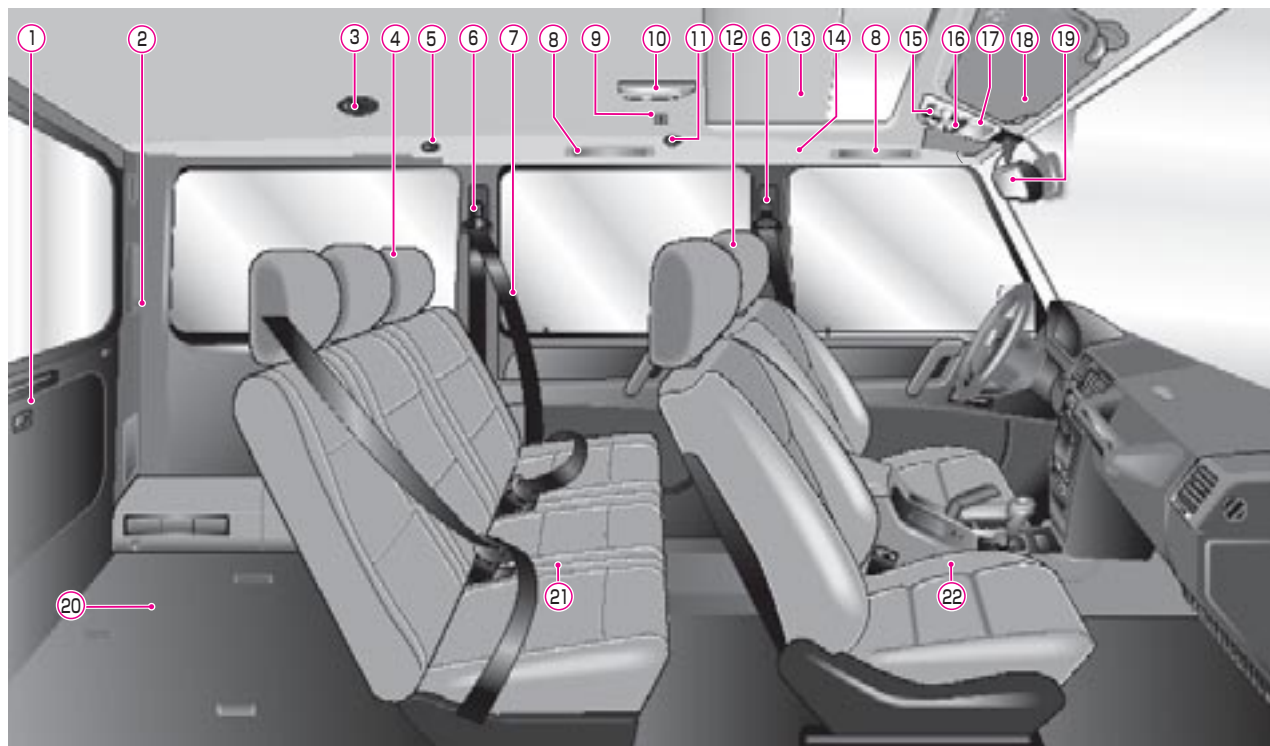
1
2
3
1
4
5
6
7
8
9
4
10
11
12
13
14

①	マルチファンクション ステアリングスイッチ	104ページ
②	メーターパネル	101ページ
③	マルチファンクション ディスプレイ	104ページ
④	シートヒータースイッチ＊	63ページ 64ページ
⑤	リアワイパー／ ウォッシャースイッチ	173ページ
⑥	非常点滅灯スイッチ	170ページ
⑦	デファレンシャルロックスイッチ	151ページ

⑧	ドアロックスイッチ	69ページ
⑨	けん引防止警報機能 解除スイッチ	90ページ
⑩	マルチファンクション コントローラー	別冊
⑪	ESP OFFスイッチ	183ページ
⑫	助手席エアバッグオフ表示灯	46ページ
⑬	エアコンディショナー操作部	196ページ
⑭	モーションセンサー 解除スイッチ	91ページ

＊オプションまたは仕様により装備が異なります

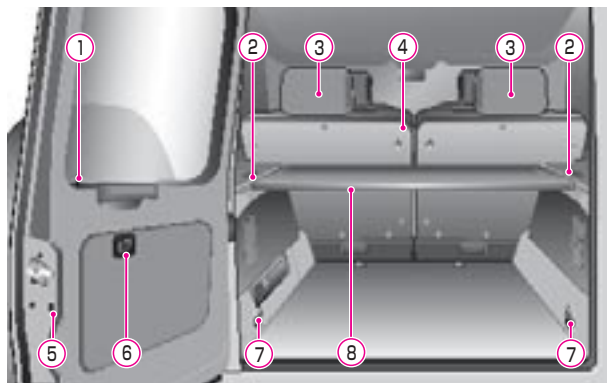
1
2
3
4
5
6
7
8
9
10
2
1
11
12
13
14
15
16
17
18
19
20
21
22
12
11

①	パワーウインドウスイッチ / セーフティスイッチ＊	92ページ
②	シート調整スイッチ	59ページ
③	ドアミラー調整スイッチ	97ページ
④	コンビネーションスイッチ (ヘッドランプ、方向指示灯、ワイパー)	167ページ 169ページ 171ページ
⑤	クルーズコントロール / 可変スピードリミッターレバー	185ページ 189ページ
⑥	ステアリング調整レバー	100ページ
⑦	エンジンスイッチ	140ページ
⑧	グローブボックス キーシリンダー	215ページ
⑨	グローブボックス	215ページ
⑩	助手席エアバッグ	39ページ
⑪	シートメモリースイッチ	62ページ
⑫	ドアレバー	67ページ
⑬	ランプスイッチ	165ページ
⑭	ボンネットロック解除レバー	82ページ
⑮	ヘッドランプ照射角度調整ダイヤル	168ページ
⑯	運転席エアバッグ	39ページ
⑰	駐車ブレーキレバー	175ページ
⑱	灰皿 / ライター	209ページ 211ページ
⑲	センターコンソール小物入れ	216ページ
⑳	トランスファーケーススイッチ	155ページ
㉑	セレクターレバー	143ページ
㉒	収納ネット	217ページ

＊オプションまたは仕様により装備が異なります

1
2
3
4
5
6
7
8
9
10
11
12
6
13
14
8
15
16
17
18
19
20
21
22

①	テールゲートレバー	73ページ
②	電源ソケット	218ページ
③	リア中央席用シートベルトホルダー＊	36ページ
④	リアヘッドレスト	65ページ
⑤	セーフティネット用フック2	75ページ
⑥	シートベルトアンカー	35ページ
⑦	シートベルト	33ページ
⑧	アシストグリップ	217ページ
⑨	リアルームランプ	205ページ
⑩	モーションセンサー	91ページ
⑪	セーフティネット用フック1	76ページ
⑫	フロントヘッドレスト	59ページ 61ページ
⑬	スライディングルーフ＊	93ページ
⑭	ウインドウバッグ＊	39ページ
⑮	スライディングルーフ＊スイッチ	93ページ
⑯	ルームランプスイッチ	205ページ
⑰	ルームランプ	205ページ
⑱	サンバイザー	208ページ
⑲	ルームミラー	96ページ
⑳	ラゲッジルーム	75ページ
㉑	リアシート	65ページ
㉒	フロントシート	59ページ

＊オプションまたは仕様により装備が異なります

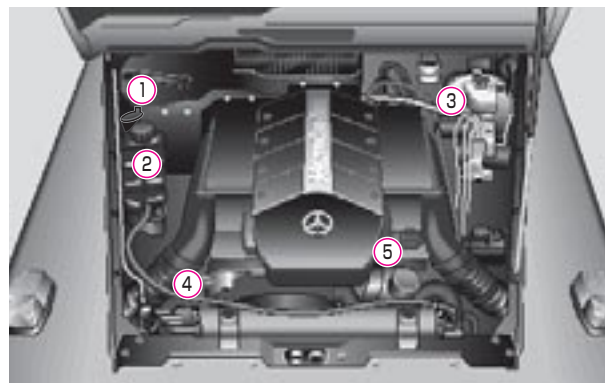
G 320

G 320 long / G 500 long / G 55 AMG long

①	ロックノブ	74ページ
②	小物入れ	216ページ
③	リアヘッドレスト	65ページ
④	分割可倒式リアシート	66ページ
⑤	チャイルドプルーフロックノブ（テールゲート）	72ページ
⑥	テールゲートレバー	74ページ
⑦	荷物固定用リング	80ページ
⑧	ラゲッジルームカバー	78ページ

①	ロックノブ	74ページ
②	リアヘッドレスト	65ページ
③	分割可倒式リアシート	66ページ
④	セーフティネット	75ページ
⑤	チャイルドプルーフロックノブ（テールゲート）	72ページ
⑥	テールゲートレバー	74ページ
⑦	荷物固定用リング	80ページ

G 320 / G 320 long

G 500 long

①	ウォッシャー液リザーブタンク	258ページ
②	冷却水リザーブタンク	252ページ
③	ブレーキ液リザーブタンク	256ページ
④	エンジンオイルレベルゲージ	254ページ
⑤	エンジンオイル フィラーキャップ	254ページ

①	ウォッシャー液リザーブタンク	258ページ
②	冷却水リザーブタンク	252ページ
③	ブレーキ液リザーブタンク	256ページ
④	エンジンオイルレベルゲージ	254ページ
⑤	エンジンオイル フィラーキャップ	254ページ

※仕様により、部品の形状などがイラストと異なる場合があります。

G 55 AMG long

①	ウォッシャー液リザーブタンク	258ページ
②	冷却水リザーブタンク	252ページ
③	ブレーキ液リザーブタンク	256ページ
④	エンジンオイルレベルゲージ	254ページ
⑤	エンジンオイル フィラーキャップ	254ページ

※仕様により、部品の形状などがイラストと異なる場合があります。

安全のために

走行する前に

点検と整備

日常点検や定期点検は、使用者自身の責任において実施することが法律で義務づけられています。これらの点検項目については、別冊の「整備手帳」をお読みください。

夏季の取り扱い

- 夏を迎える前にエアコンディショナーの冷媒に不足がないか、指定サービス工場で点検を受けてください。
- オーバーヒートの予防策として、いつもより頻繁に冷却水量を点検してください。

日ごろの状態と異なるとき

エンジンをかけたとき、いつもと異なる音やにおいを感じたり、駐車していた場所に水やオイルの跡が残っているときは、すみやかに指定サービス工場で点検を受けてください。

ドアを開くと

ドアを開くと、一部の装置が自動的に動き始め、作動音などが聞こえることがありますが、異常ではありません。

タイヤの点検

タイヤの空気圧や溝の深さが十分あり、タイヤに損傷や異常な摩耗がないことを点検してください。タイヤの空気圧が低かったり、損傷したタイヤで走行すると、タイヤが破裂したり、火災が発生するなど、事故を起こすおそれがあります。

シートベルトは必ず着用

走行を開始する前に、すべての乗員がシートベルトを着用してください。

運転席足元に注意

- 運転席の足元には、物を置かないでください。ブレーキペダルやアクセルペダルの下に物が入ると、ペダルを操作できなくなるおそれがあります。
- フロアマットは純正品のみを正しく使用してください。車に合ったものを使用しないと、ペダル操作ができなくなるおそれがあります。

車庫内では

車庫などの換気の悪い場所ではエンジンを停止してください。排気ガスに含まれる一酸化炭素を吸い込むと、一酸化炭素中毒を起こしたり、死亡するおそれがあります。
一酸化炭素は、無色無臭のため気がつかないうちに吸い込んでいるおそれがあります。

ウォーミングアップ（暖機運転）
エンジンが冷えているときでも、停車したままでの暖機運転は必要ありません。エンジンの始動後は、急加速を避けて車全体をウォーミングアップしてください。

燃料の給油
- 燃料は無鉛プレミアムガソリンを使用してください。有鉛ガソリンや粗悪なガソリン、指定以外の燃料(高濃度アルコール含有燃料など)を使用したり、添加剤などを混入すると、エンジンなどを損傷することがあります。
- 目的地まで余裕を持って走れるように、十分な量を補給してください。
- 燃料給油口には、純正品以外のキャップを使用しないでください。
- セルフ式のガソリンスタンドなどで給油するときは必ず以下の点を守り、安全に十分注意して作業を行なってください。身体に静電気を帯びていると、放電による火花で燃料に引火したり、火傷をするおそれがあります。
  ◇エンジンを停止し、ドアやウインドウなどを閉じる
  ◇燃料給油口を開くことからはじまる一連の給油作業は、必ずひとりで行なう
  ◇給油作業をするひとは、作業の前に金属部分に触れるなどして身体の静電気を除去する
  ◇作業中は車内に戻らない(帯電するおそれがあります)
  ◇キャップの開閉 (86ページ)は確実に行ない、火気を近づけないようにする
  ◇ガソリンをこぼさないように注意する(塗装面を損傷するおそれがあります)
  ◇気化した燃料を吸い込まないように注意する
  ◇給油作業をするひと以外は燃料給油口に近づかない
  ◇ガソリンスタンド内に掲示された注意事項を守る

荷物を積むとき
- 荷物はできるだけラゲッジルームに積み込んでください。
- 車内に荷物を積むときは、動かないように確実に固定してください。固定できていないと、急ブレーキ時に荷物が放り出され、乗員がけがをするおそれがあります。
- ラゲッジルームカバー＊の上に荷物を置かないでください。急ブレーキや急ハンドルまたは事故のとき、荷物が前方に放り出され、乗員がけがをするおそれがあります。
- 鋭い角のある物は、角の部分に必ずカバーをしてください。
- 荷物をシートのバックレストより高く積み上げないでください。

燃える物は積まない
燃料を入れた容器や可燃性のスプレー缶などを積まないでください。万一のときに引火や爆発のおそれがあります。

＊オプションまたは仕様により装備が異なります

子供を乗せるとき

子供にも必ずシートベルトを着用

- 子供であっても、シートベルトを正しく着用し、シートやヘッドレストが正しい位置になっていることを大人が確認してください。正しくシートベルトが着用できない小さな子供は、チャイルドセーフティシートを使用してください。
- 乳児や子供を抱いたり、ひざの上に乗せて走行しないでください。急ブレーキ時や事故のとき、大人と車の間に挟まれて重大なけがをするおそれがあります。

小さな子供にはチャイルドセーフティシート

- 6歳未満の子供にはチャイルドセーフティシート(44ページ)を使用することが義務づけられています。

子供はリアシートに

- 子供はできるだけリアシートに乗せてください。助手席では、子供の動きが気になったり、子供が運転装置をさわるなど、運転の妨げになることがあります。
- チャイルドセーフティシートは、できるだけリアシートに装着してください。やむを得ず助手席に装着するときは、車の進行方向に向けてチャイルドセーフティシートを装着し、助手席シートを最後部に移動してください。
- 子供を助手席に座らせるときは、シートを最後部にし、正しく座らせてください。エアバッグの作動時に大きな衝撃を受けるおそれがあります。

子供には操作させない

- ドアやドアウインドウは大人が開閉してください。子供自身が操作すると、身体を挟んだり、けがをするおそれがあります。
- リアドア＊やテールゲートのチャイルドプルーフロック(72ページ)、パワーウインドウのセーフティスイッチ＊(92ページ)を活用してください。

ドアウインドウやスライディングルーフ＊から身体を出さない

子供がドアウインドウやスライディングルーフの開口部から身体を出さないように注意してください。けがをするおそれがあります。

車から離れるとき

子供だけを車内に残して車から離れないでください。運転装置に触れてけがをしたり、事故の原因になることがあります。また、炎天下では車内が高温になり、熱中症を起こすおそれがあります。

＊オプションまたは仕様により装備が異なります

走行するとき

アクセルペダルはおだやかに操作

- 発進や加速するときは、タイヤを空転させないようにおだやかにアクセルペダルを操作してください。タイヤを空転させると、タイヤだけでなくトランスミッション、駆動系部品を損傷することがあります。
- 車間距離を十分に確保し、不用な急発進や急加速、急ブレーキを避けてください。

横風が強いとき

横風が強く、車が横方向に流されそうなときは、ステアリングをしっかりと握り、いつもより速度を下げて進路を保ってください。

トンネルの通過

トンネルに進入するときは、ヘッドランプを点灯してください。内部照明が暗いトンネルでは、進入直後に視界が悪くなることがありますので、十分注意してください。

エンジンブレーキの活用

下り坂が続くときは、エンジンブレーキを活用してください。ブレーキペダルを長時間踏み続けると、ブレーキディスクが過熱してブレーキの効きが悪くなるおそれがあります。

エンジンブレーキ：走行中、アクセルペダルを戻したときに発生するエンジン内部の抵抗をエンジンブレーキといいます。低速ギアほど効きが強くなります。

自動車電話、携帯電話

運転者は、走行中に自動車電話や携帯電話を使用しないでください。道路交通法違反になります。なお、ハンズフリー機能は使用できますが、注意力が散漫になり事故の原因になるおそれがあります。安全な場所に停車してから使用してください。

滑りやすい路面

滑りやすい路面で、シフトダウン操作による急激なエンジンブレーキを効かせないでください。

水たまりの通過後

水たまりの通過後は、ブレーキの効きが遅れたり、悪くなることがあります。このようなときは、後続車に注意しながら低速で走行し、ブレーキの効きが回復するまでブレーキペダルを数回軽く踏んでください。

スタック(立ち往生)したとき

- ぬかるみなどでタイヤが空転したり脱輪した状態から脱出するときは、周囲の安全を十分に確認してください。脱出直後に車が突然動き出し、事故につながることがあります。また、このような脱出時にタイヤを高速で空転させないでください。高速で空転させると異常な過熱が起こり、タイヤが破裂したり、火災など事故が起きたり、トランスミッションを損傷するおそれがあります。
- スタックした状態から脱出するときは、タイヤ前後の土や雪などを取り除いたり、タイヤの下に板や石などをあてがうと効果的です。

道路冠水や車が水没したとき

- 豪雨などで道路が冠水し、マフラーに水が入ったときは決してエンジンを始動しないでください。そのままエンジンを始動すると、エンジンに重大な損傷を与えるおそれがあります。
- 車が水没した場合は、水が引いたあとでもエンジンを始動せずに、指定サービス工場に連絡してください。

走行中に異常を感じたら

警告灯が点灯したとき

ただちに安全な場所に停車してエンジンを停止し、本書に従い対処してください。それでも警告灯が消灯しないときは、指定サービス工場に連絡してください。警告灯が点灯したまま走行を続けると、事故を起こしたり、車に重大な損傷を与えるおそれがあります。

ボディ下部に強い衝撃を受けたとき

ただちに安全な場所に停車してボディの下側を点検し、ブレーキ液や燃料などが漏れていないか確認してください。漏れやボディ下部に損傷を見つけたときは、運転を中止して指定サービス工場に連絡してください。損傷を放置したまま走行を続けると、事故を起こすおそれがあります。

走行中にタイヤがパンクしたり、破裂したとき

あわてずにしっかりステアリングを支えながら、徐々に減速して安全な場所に停車してください。急ブレーキや急ハンドル操作をすると、車のコントロールを失い、事故を起こすおそれがあります。

雨降りや濃霧時の運転

雨降りや濃霧時の注意事項

雨が降っていたり、濃霧が発生しているときは、路面が濡れて滑りやすく視界も悪くなります。以下の点に注意し、いつもより慎重に運転してください。

- 路面が滑りやすいので、タイヤの接地力が大きく低下し、通常より制動距離も長くなります。また、見通しが悪いので歩行者や障害物の発見が遅れがちになります。いつもより速度を下げ、車間距離を十分にとってください。
- 濡れた路面では急激なエンジンブレーキを効かせないでください。滑りやすい路面で急激なエンジンブレーキを効かせると、スリップして車のコントロールを失い、事故を起こすおそれがあります。
- 路面が濡れているときは、クルーズコントロールは使用しないでください。
- 水たまりの通過後は、ブレーキの効きが遅れたり、悪くなることがあります。このようなときは、後続車に注意しながら低速で走行し、ブレーキの効きが回復するまでブレーキペダルを数回軽く踏んでください。
- 安全な視界を確保するため、デフロスターやリアデフォッガー、またはエアコンディショナーを作動させて車内を除湿してください。
- 雨降りや濃霧時は、自分の車の存在を周囲に知らせるため、ヘッドランプやフォグランプを点灯してください。ただし、ヘッドランプを上向きにすると、雨や濃霧に反射して視界を損なったり、対向車を眩惑するので、下向きで点灯してください。
- 濃霧のときはフォグランプを点灯し、速度を落として走行してください。危険を感じるときは、霧が晴れるまで安全な場所に停車してください。

駐停車するとき

駐車するときの注意事項

- マフラーは非常に高温になります。周囲に枯れ草や紙くず、油など燃えやすい物がある場所には駐停車しないでください。
- 同乗者がドアを開くときは、周囲に危険がないことを運転者が確認してください。
- 見通しの悪い場所や暗い場所では駐車しないでください。
- 炎天下での駐車時には、車内各部の温度が非常に高くなります。ステアリングやセレクターレバー、シートなどに触れると、場合によっては火傷をするおそれがあります。
- 炎天下に駐車するときは、フロントウインドウにカバーをしたり、ステアリングやセレクターレバー、シートなどにカバーやタオルをかけて、温度の上昇を抑えてください。
- 炎天下に駐車した後は、乗車する前に換気をするなどして、車内各部の温度を下げてください。

雪が降っているときは

車の周囲が雪で覆われているときは、雪を取り除いてからエンジンを始動してください。積雪によりマフラーがふさがれ、排気ガスが車内に侵入するおそれがあります。

急な坂道では

急な坂道で駐車するときは、セレクターレバーを P に入れ、駐車ブレーキを確実に効かせてください。さらに輪止めをしてください。

仮眠するとき

やむを得ず車内で仮眠するときは、安全な場所に駐車して必ずエンジンを停止してください。無意識のうちにセレクターレバーを動かしてアクセルペダルを踏み込むと、車が動き出し、事故を起こすおそれがあります。
またアクセルペダルを踏み続けると、エンジンやマフラーが異常過熱して火災の原因になるおそれがあります。

後退するとき

後方視界が十分に確保できないときは、車から降りて後方の安全を確認してください。

こんなことにも注意

運転するときの注意事項

- 服用後の運転が禁止されている薬や、酒類を飲んだ後は絶対に運転しないでください。
- ライターを車内に放置しないでください。炎天下の車内は非常に高温になるため、ライターが発火したり爆発するおそれがあります。
- ペダル操作の妨げになるような靴(厚底靴など)やサンダル履きで運転しないでください。
- ウインドウなどに吸盤を貼り付けないでください。吸盤がレンズの働きをし、火災が発生するおそれがあります。

ナビゲーションシステムは走行中に操作しない

ナビゲーションシステムの操作は、できるだけ走行中を避け、安全な場所に停車してから操作してください。走行中に画面を見るときは、必要最小限(約1秒以内)にとどめてください。

違法改造はしない

- 違法改造はしないでください。違法改造や純正以外の部品の使用は、保証の適用外になるだけでなく、事故の原因になります。
  定期交換部品などは純正品だけを使用し、燃料や油脂類などは指定品を使用してください。
- ガソリンやオイルの添加剤などは一切使用しないでください。故障の原因になることがあります。
- 無線機や、オーディオなどの電装品を装着したり取り外すときは、指定サービス工場におたずねください。

きびしい条件下での運転

発進、停止を繰り返す市街地走行、山間部や路面の悪い道路などきびしい条件下での走行が多いときは、タイヤやエアクリーナー、オイル、フィルター類の点検整備や交換を、定期的な交換時期よりも早く行なうことが必要になります。

オートマチック車の取り扱い

運転する前に、オートマチック車の特性や操作上の注意を理解し、正しく操作してください。「オートマチック車の運転」も併せてお読みください（147ページ）。

オートマチック車の特性

クリープ現象：エンジンがかかっているとき、セレクターレバーが P か N 以外に入っていると、動力がつながった状態になり、アクセルペダルを踏み込まなくても車がゆっくり動き出します。これをクリープ現象といいます。

キックダウン：走行中にアクセルペダルをいっぱいまで踏み込むと、自動的に低速ギアに切り替わり、エンジンの回転数が上がって素早く加速します。これをキックダウンといいます。

エンジンの始動前

- ブレーキペダルは必ず右足で操作してください。不慣れな左足で操作すると、事故を起こすおそれがあります。
- ブレーキペダルを踏み込み、踏みしろや踏み込んだときにペダルが一定のところで止まることを確認してください。

エンジンの始動

セレクターレバーが P に入っていることを確認し、ブレーキペダルを確実に踏んでエンジンを始動します。アクセルペダルを踏む必要はありません。

発進

- エンジンが適正なアイドリング回転数になっていることを確認してください。
- セレクターレバーを D か R に入れるときは、必ずブレーキペダルを十分に踏み込んでください。
- アクセルペダルを踏んだまま、セレクターレバーを動かさないでください。車が急発進するおそれがあります。
- 急な上り坂で発進するときは、駐車ブレーキを効かせたままブレーキペダルから足を放し、アクセルペダルをゆっくり踏んで、車が動き出すのを確認してから駐車ブレーキを解除して発進してください。

走行中

- 走行中はセレクターレバーを N に入れないでください。エンジンブレーキがまったく効かないため事故につながったり、トランスミッションを損傷するおそれがあります。
- 滑りやすい路面で急激なエンジンブレーキを効かせると、スリップを起こして車のコントロールを失い、事故を起こすおそれがあります。

停車

- 停車中はエンジンの空ぶかしをしないでください。万一、セレクターレバーが走行位置に入ると、車が急発進して事故を起こすおそれがあります。
- 急な上り坂での停車時、後退しようとする車をアクセルペダルを踏むことにより停止状態を保たないでください。トランスミッションを損傷するおそれがあります。
- 車が完全に停止する前に、セレクターレバーを P に入れないでください。トランスミッションを損傷するおそれがあります。

駐車

- 駐車時や車から離れるときは、必ずセレクターレバーを P に入れ、駐車ブレーキを確実に効かせて、エンジンを停止してください。
- 後退したあとは、すぐにセレクターレバーを P か N に戻すように心がけてください。R に入っていることを忘れてアクセルペダルを踏み込み、車が後退して事故を起こすおそれがあります。

4輪駆動車(4WD)の取り扱い

4輪駆動走行は、滑りやすい路面などで本来の優れた走行性能を発揮しますが、どこでも走れる万能車ではありません。路面の状況や斜面に注意して安全運転を心がけてください。
オフロードでの走行(158ページ)も併せて参照してください。

オフロード走行は慎重に
急加速や急ブレーキ、急ハンドルを避けてください。横滑りや横転などの原因になります。また、車をジャンプさせないでください。車体や駆動装置を損傷するおそれがあります。

積雪路や凍結路を走行するときは
できるだけ低速で走行し、急加速や急ブレーキ、急ハンドルを避けてください。

砂地やぬかるみを走行するときは
車から降り、砂地やぬかるみの状態を確認してから、できるだけ低速で走行してください。

急な坂道を上るときは
土手や斜面では、傾斜に対してまっすぐに走行してください。斜めに走行すると、車が横転するおそれがあります。

乾燥した舗装路、高速道路を走行するときは
- トランスファーを"LOW"位置(155ページ)にしないでください。エンジンが高回転になり、エンジンを損傷するおそれがあります。
- デファレンシャルロック(151ページ)を作動させないでください。ハンドルが切れにくくなるため、車が直進し、事故につながるおそれがあります。また、駆動装置を損傷するおそれがあります。

オフロード走行後
損傷した箇所がないか入念に点検してください。損傷があるときは、ただちに指定サービス工場で点検を受けてください。

慣らし運転

新車の場合、エンジンなどの機械部分が馴染むまで「慣らし運転」することをおすすめします。
新車時に十分な慣らし運転を行なうことにより、将来にわたって安定した性能を維持することができます。

知　識

新車時の高速走行後など、エンジンルームからわずかに白煙が出たり、独特の臭いがすることがあります。これは防錆保護ワックスが加熱されて発生するもので、故障や異常ではありません。走行距離が増すと臭いはなくなります。

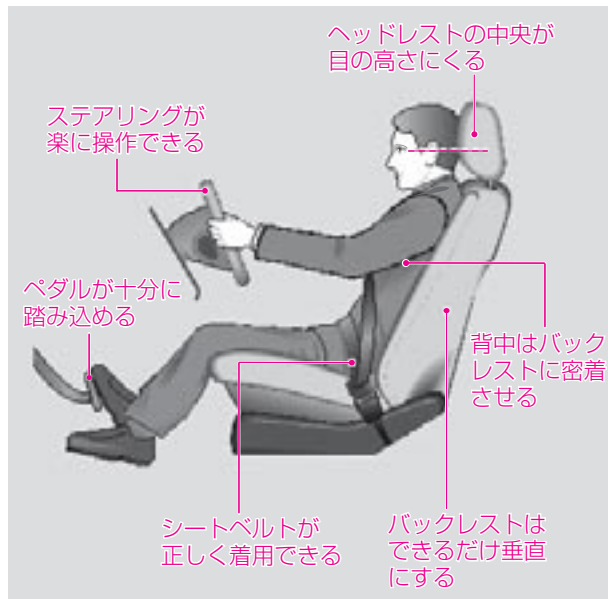
最初の1,500kmまでは以下の注意事項を守ってください。

- エンジン回転数が許容限度の2/3(例えば許容限度が6,000回転のときは約4,000回転)を超えないように運転してください。
- エンジンに大きな負担のかかる運転は避けてください。
- いつも一定のエンジン回転数で走行するのではなく、負担のかからない範囲で回転数と速度を変えてください。
- キックダウンや過度のエンジンブレーキは避けてください。
- ティップシフト位置 3 、 2 、 1 は山道などを低速で走行するときだけ使用してください。

走行距離が1,500kmを超えたら、エンジン回転数を徐々に高回転まで上げてください。

知　識

- G 55 AMG longは、最初の1,500kmまではエンジン回転数が4,500回転を超えないように運転してください。
- エンジンや駆動系部品の分解や交換をした後は、慣らし運転を行なってください。
- **キックダウン**：走行中にアクセルペダルをいっぱいに踏み込むと、自動的に低速ギアに切り替わり、エンジンの回転数が上がって素早く加速します。これをキックダウンといいます。
- **エンジンブレーキ**：走行中、アクセルペダルを戻したときに発生するエンジン内部の抵抗をエンジンブレーキといいます。低速ギアほど効きが強くなります。

安全装備

正しい運転姿勢

正しい運転姿勢になるように上記の点に注意してシートを調整(59ページ) してください。

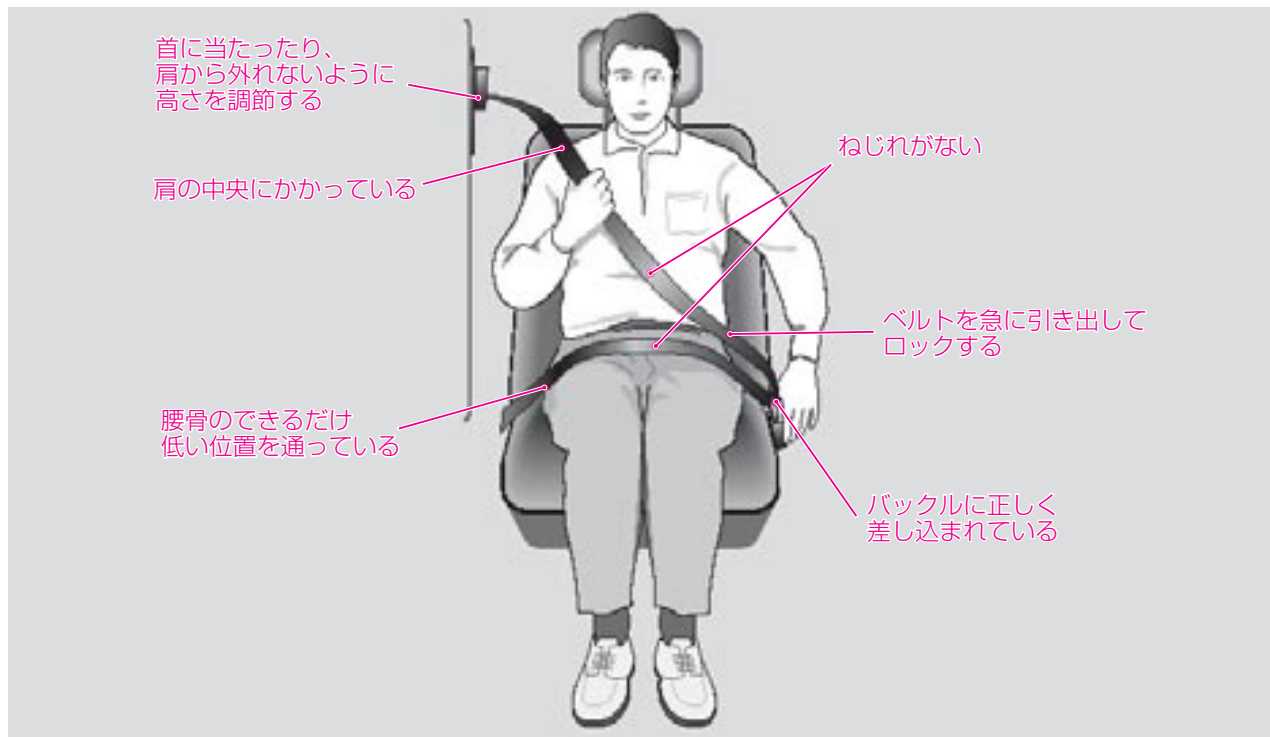
⚠ 警　告

- **運転席の乗員は必ず運転前に自分の運転姿勢に合った正しいシート位置に調整してください。運転中に調整して操作を誤ると、車のコントロールを失い、事故を起こすおそれがあります。**
- **バックレストと背中の間に物を挟まないでください。事故のとき、けがをするおそれがあります。**
- **シートのバックレストを大きく傾けた状態で走行しないでください。事故のとき、身体がシートベルトの下を抜けてベルトの力が腹部や首にかかり、致命的なけがをするおそれがあります。**

注　意！

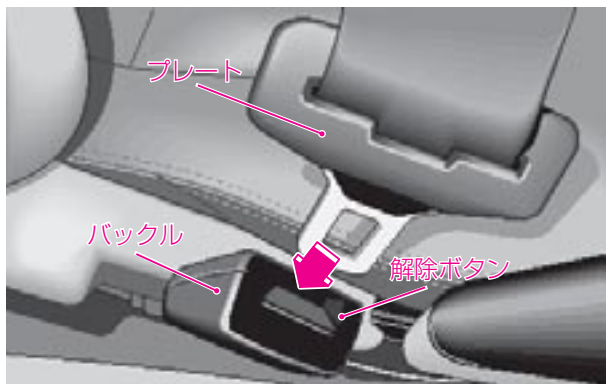
- シートを調整しているときは、シートの下や横に身体を入れたり、作動部に触れないでください。挟まれてけがをするおそれがあります。
- シートの一部が身体に当たったときは、それ以上操作しないでください。
- ドアが開いているときに誤ってドアのシート調整スイッチに触れるとシートが動き、乗員がけがをするおそれがあります。子供を乗せているときは十分注意してください。

シートベルト

シートベルトは、万一の衝突時などに乗員が受けるけがの被害を最小にする乗員保護装置であり、急ブレーキや衝撃などを感知するとシートベルトをロックして乗員がシートから放り出されないように拘束します。
シートベルトの効果を十分に発揮させるためには、走行前に正しく着用し、正しく取り扱うことが必要です。

⚠ 警　告

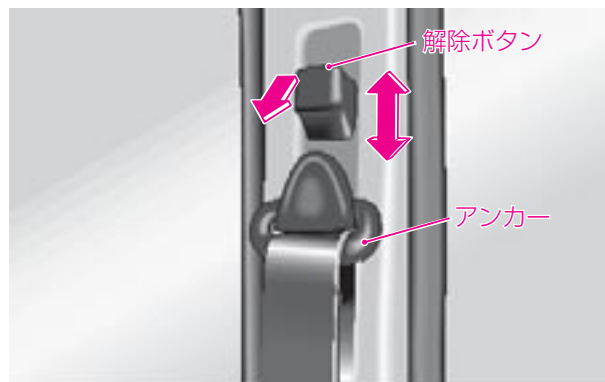
- 全員がシートベルトを着用してください。シートベルトを着用していないと、急ブレーキ時や衝突時などに頭や身体を車内に激しくぶつけたり、車外に放り出されて致命的なけがをするおそれがあります。
- シートベルトの効果が発揮できるように、以下の点に注意して正しく着用してください。
  ◇シートに深く腰かけてください。
  ◇コートなどの厚手の衣類は脱いでください。
  ◇バックレストを大きく傾けないでください。
  ◇肩を通るベルトを脇の下に通さないでください。上体を固定できず、頭や首、肋骨や腹部に衝撃を受けます。
  ◇腰を通るベルトは腰骨のできるだけ低い位置にかけてください。腹部にかけると衝突したときなどに腹部が強く圧迫されます。
  ◇シートベルトはねじれた状態で着用しないでください。衝撃を分散できなくなります。
  ◇1本のシートベルトを2人以上で共用したり、シートベルトと身体の間にバッグなどを挟み込まないでください。
  ◇シートベルトクリップなどを使用してシートベルトにたるみをつけないでください。
  ◇子供が着用するときは、着用状態を運転者が確認してください。また、正しく着用できない体格の子供は適切なチャイルドセーフティシートを使用してください。

注　意！

- シートベルトを正しく機能させ、損傷を防ぐために以下の点に注意してください。
  ◇ドアに挟んだり、鋭利な部分に当てない
  ◇たばこの火や熱い物を近づけない
  ◇着用時は胸ポケットにペンや眼鏡などを入れない
  ◇分解や改造などをしない
  ◇バックル部分に異物が入らないようにする
- 衝突後やシートベルトが大きな衝撃を受けたときは、必ず指定サービス工場で新品と交換し、関連部品の点検を受けてください。
- 純正部品以外のシートベルトは使用しないでください。
- 妊娠中の方やけがの治療中の方は、医師に相談の上、シートベルトを着用してください。
- シートベルトの強度が低下するのでシートベルトを清掃するときは以下の点に注意してください。
  ◇強い酸性やアルカリ性洗剤、有機溶剤などを使用しない
  ◇乾燥時にドライヤーや直射日光を当てない
  ◇シートベルトを漂白したり、染色しない

シートベルトの着用

1 プレートを持ってシートベルトをゆっくり引き出します。シートベルトがロックして引き出せないときは、シートベルトを少し戻してから、ゆっくり引き出します。
2 シートベルトにねじれがないことを確認し、プレートの先端をバックルに差し込みます。
3 腰を通るベルトは腰骨のできるだけ低い位置にかかるようにして、ベルトにたるみがないように身体に密着させます。
4 肩を通るベルトが肩の中央にかかっていることを確認します。

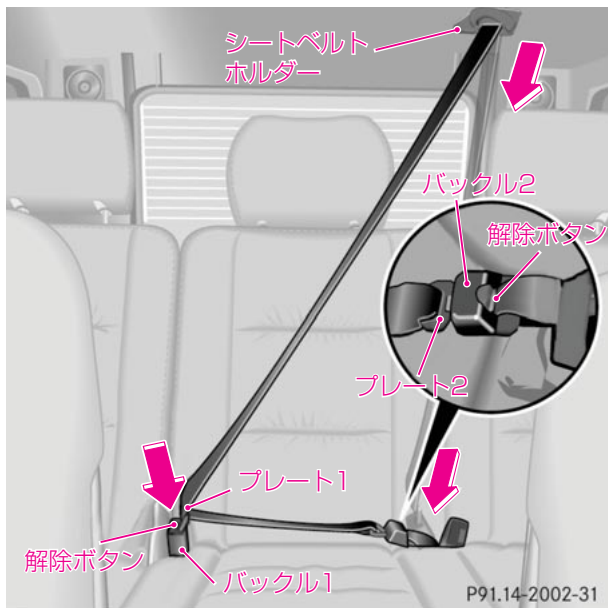
シートベルトを外す

手でプレートを持ち、バックルの解除ボタンを押し、シートベルトをゆっくり巻き取らせます。

シートベルトの高さ調整(フロント / リア左右＊)

シートベルトが首にかかったり、肩から外れたりしないように高さを調整します。
5段階に高さを調整できます。

高さを調整する

上げるときはアンカーを持ちそのまま押し上げます。
下げるときは解除ボタンを引いたまま下げます。
調整後は確実にロックしていることを確認してください。

＊オプションまたは仕様により装備が異なります

分割収納式シートベルト＊の着用

リア中央のシートベルトには分割収納式シートベルトを装備しています。

1　ルーフのシートベルトホルダーから、プレート1､2を後方に引いてシートベルトを取り出します。
2　シートベルトをゆっくり引き出します。
3　シート左側のバックル2に、シートベルト先端のプレート2を差し込みます。
4　プレート1を持ち、腰を通るベルトが腰骨のできるだけ低い位置にかかるようにして、ベルトにたるみがないように身体に密着させます。
5　シート右側のバックル1に、プレート1を差し込みます。
6　肩を通るベルトが肩の中央にかかっていることを確認します。

シートベルトの収納

1　バックル1の解除ボタンを押しながらプレートを引き出します。
2　バックル2の解除ボタンを押しながらプレートを引き出してシートベルトをゆっくり巻き取らせます。
3　ルーフのシートベルトホルダーにプレート1、2を差し込みます。

知　識

バックルは、シートの切り欠き部に収納することができます。

＊オプションまたは仕様により装備が異なります

シートベルト警告灯

エンジンスイッチを2の位置にすると点灯し(点灯しないときは警告灯が故障しています)、数秒後に消灯します。エンジンスイッチを2の位置にしても点灯しないときは、すみやかに指定サービス工場で点検を受けてください。

シートベルト警告アラーム

運転者がシートベルトを着用せずにエンジンスイッチを2の位置にすると、警告音が数秒間鳴り、シートベルトの着用を促します。

シートベルトテンショナー

シートベルトテンショナーは、車の前後方向から大きな衝撃を受けたときにシートベルトを引き込み、シートベルトの効果を高める装置です。助手席には乗員検知機能があり、助手席に乗員がいないときは作動しません。
リア中央を除くシートベルトに装着されています。

ベルトフォースリミッター

ベルトフォースリミッターはシートベルトに一定以上の荷重がかかったときに作動し、乗員の胸にかかる力を軽減します。
リア中央を除くシートベルトに装着されています。

注　意！

- シートベルトテンショナーが作動すると、シートベルトに強く締めつけられることがあります。
- シートベルトが強く締めつけられている状態でシートベルトを外すときは、シートベルトのプレートを確実につかみながら解除ボタンを押してください。シートベルトの張力により、解除したプレートが跳ね返り、けがをすることがあります。
- バックル部分には作動の妨げになるような物を置かないでください。
- 作動したシートベルトテンショナーは、必ず新品と交換してください。

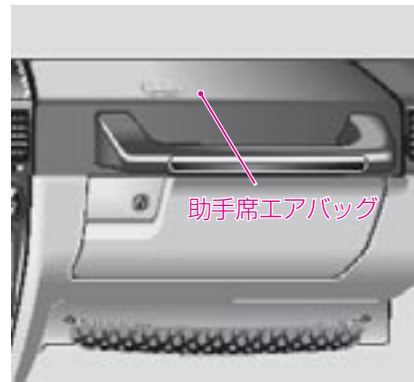
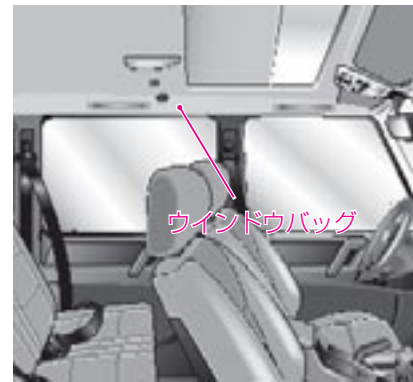
知　識

- シートベルトテンショナーの作動時にわずかながら白煙が発生することがありますが、火災の心配はありません。また、ぜんそくなどの呼吸疾患のある方は一時的に呼吸障害を起こすおそれがありますので、安全を確認のうえ車外へ出るか、ドアウインドウを開き換気を行なってください。
- シートベルトテンショナーの作動時に爆発音が聞こえますが、通常では聴力への影響はありません。
- 助手席シートに重い荷物などを積んでいると、衝突時などに助手席シートベルトテンショナーが作動することがあります。
- リアのシートベルトテンショナーは、作動するとバックルが引き込まれます。
- ドアロックスイッチや車速感応ドアロックなどにより車が施錠されていても、シートベルトテンショナーやエアバッグが作動すると、ドアは自動的に解錠されます。
- 未作動のシートベルトテンショナーを廃棄するときは、廃棄専用の処置が必要です。指定サービス工場、または専門業者に依頼してください。

安全のために
安全装備
運転する前に
運転するとき
快適・室内装備
万一のとき
点検と整備
サービスデータ
こんなときは

SRSエアバッグ

エアバッグの収納場所

運転席エアバッグ
ステアリングのパッド部

助手席エアバッグ
助手席のダッシュボードパネル部

ウインドウバッグ＊
フロントピラーからリアピラー部までのルーフライニング部

知　識

SRSはSupplemental Restraint System(乗員保護補助装置)の略です。

＊オプションまたは仕様により装備が異なります

SRSエアバッグ

エアバッグは、シートベルトの効果を補助する装置です。
エアバッグの効果を発揮させるためには、シートベルトの正しい着用が条件になります。
衝突時のように車が強い衝撃を受けると、収納されているエアバッグが瞬時にふくらんで乗員の前面や周囲にエアクッションを作り、乗員への衝撃を分散・軽減します。
衝撃を受ける状況によって、作動するエアバッグが異なります。

運転席 / 助手席エアバッグの作動

前方からの強い衝撃を受けると作動し、乗員の頭部や胸部への衝撃を分散・軽減します。
助手席には乗員検知機能を装備しており、助手席に乗員がいないと判断したときは作動しません。
また、助手席エアバッグオフ表示灯が点灯しているときも、助手席エアバッグは作動しません。

ウインドウバッグ＊の作動

横方向からの強い衝撃を受けると、衝撃を受けた側のウインドウバッグが作動し、頭部などへの衝撃を軽減します。

SRS エアバッグシステム警告灯

エンジンスイッチを1の位置にすると数秒間点灯します。また2の位置にすると点灯し（点灯しないときは警告灯が故障しています）、エンジンを始動すると消灯します。
点灯しないときや点灯後消灯しないとき、走行中に点灯したときは、エアバッグシステムやシートベルトテンショナー、助手席乗員検知機能 / チャイルドセーフティシート検知システムの故障です。ただちに指定サービス工場で点検してください。

知　識

- 車の前方からの衝撃が弱いときはシートベルトテンショナーだけが作動し、エアバッグは作動しないことがあります。
- 助手席シートに重い荷物などを積んでいると、衝突時などに助手席エアバッグが作動することがあります。
- エアバッグやシートベルトテンショナーが作動すると、ドアを施錠していても自動的に解錠されます。
- エアバッグが作動すると非常点滅灯が自動的に点滅します。自動的に点滅した非常点滅灯を消灯するときは、非常点滅灯スイッチを押します。

＊オプションまたは仕様により装備が異なります

⚠警　告

- エンジン始動後もエアバッグ警告灯が点灯するときは、事故などの衝撃があってもエアバッグやシートベルトテンショナーが作動しないことがあります。また不意に作動することもあります。すみやかに指定サービス工場で点検を受けてください。
- 運転席シートは正しい位置に調整し、助手席シートはできるだけ後方に動かし、エアバッグとの間隔を確保してください。間隔が狭すぎると、エアバッグが作動する衝撃でけがをするおそれがあります。
- 運転中はステアリングのパッド部を持ったり、身体をステアリングやダッシュボードにのせないでください。
- ウインドウやピラーの周囲にアクセサリーなどを取り付けないでください。
- アシストグリップやコートフックに、固い物や鋭利な物をかけないでください。
- ステアリングのパッド部やエアバッグ収納部に、バッジ、ステッカー、リモコンなどを貼り付けたり、市販のカップホルダーやアクセサリーなどを取り付けないでください。
- エアバッグ収納部やその近くに物を置かないでください。
- 膝の上に物を抱えるなど、エアバッグと乗員との間に物を置かないでください。
- ルームミラーに市販のワイドミラーなどを取り付けないでください。
- ドアの内張りによりかからないでください。

注　意！

- エアバッグは高温のガスによりふくらむため、すり傷や火傷、打撲などをすることがあります。
- エアバッグの作動後はエアバッグや関連部品に手や身体を触れないでください。部品が熱くなっており、火傷をするおそれがあります。
- エアバッグが作動した後は、必ず指定サービス工場で新品と交換してください。
- エアバッグを取り外したり、関連部品や配線などを改造しないでください。誤作動でけがをしたり、正しく作動しなくなります。

知　識

- エアバッグの作動時にわずかながら白煙が発生することがありますが、火災の心配はありません。また、ぜんそくなどの呼吸疾患のある方は一時的に呼吸障害を起こすおそれがありますので、安全を確認のうえ車外へ出るか、ドアウインドウを開き換気を行なってください。
- エアバッグの作動時に爆発音が聞こえますが、通常では聴力への影響はありません。
- ボディの部位によって受けた衝撃を吸収する度合いが異なるので、損傷の大きさとエアバッグの作動は必ずしも一致しません。
- 未作動のエアバッグを廃棄するときは、廃棄専用の処置が必要です。指定サービス工場または専門業者に依頼してください。

運転席 / 助手席エアバッグが作動するとき

正面衝突など車の前方左右約30度以内の方向から強い衝撃を受けたとき

約30°　約30°

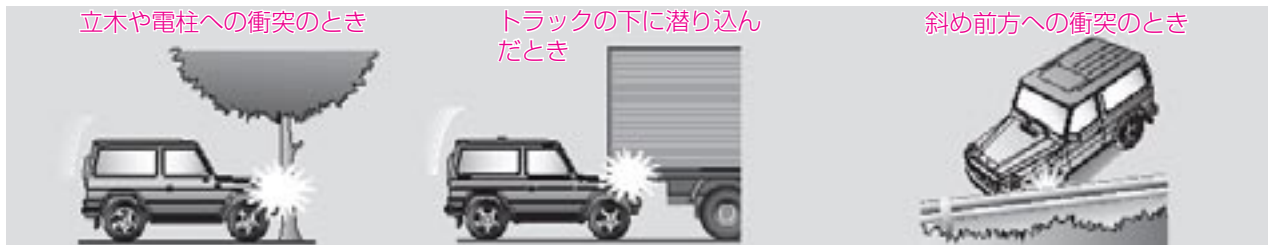
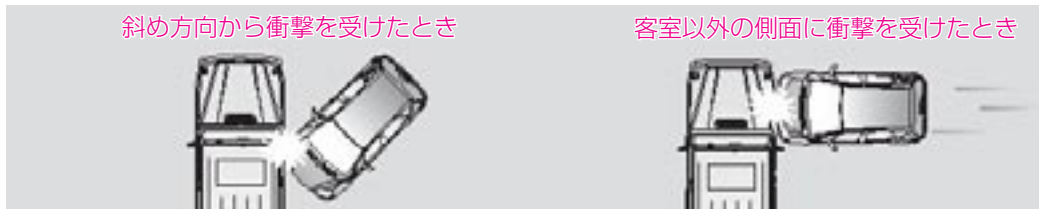
作動範囲

かたいコンクリートの壁などに正面衝突したとき

ウインドウバッグが作動するとき

いずれかのエアバッグが作動する場合があるとき

運転席 / 助手席エアバッグが作動しないとき

運転席 / 助手席エアバッグが作動しないことがあるとき

ウインドウバッグが作動しないことがあるとき

チャイルドセーフティシート

シートベルトは身長150cm以上の人が使用することを前提にしています。シートベルトが正しく着用できない体格の子供などは、適切なチャイルドセーフティシートを使用してください。

チャイルドセーフティシートの取り扱いや取り付け方法については、製品に添付されている「取扱説明書」をお読みください。

注　意！

リアシートにチャイルドセーフティシートを取り付けるときは、バックレストを起こして、確実にロックしてください。

⚠ 警　告

- 6歳未満の子供を乗せるときは、チャイルドセーフティシートを使用することが法律で義務づけられています。
- 6歳以上の子供でも、シートベルトが正しく着用できない子供は、チャイルドセーフティシートを使用してください。
- シートベルトが正しく着用できない体格の子供が、そのままシートベルトを着用すると、首を締めつけたり、腹部を強く圧迫したりして致命的なけがをするおそれがあります。
- チャイルドセーフティシートの下にクッションなどを置かないでください。チャイルドセーフティシートが確実に装着されないおそれがあります。
- チャイルドセーフティシートは直射日光に当てないでください。炎天下では車内に置いたチャイルドセーフティシートが高温になり、子供が火傷をするおそれがあります。
- 子供だけを車内に残して車から離れないでください。運転装置に触れてけがをしたり、事故の原因になることがあります。また、炎天下では車内が高温になり、熱中症を起こすおそれがあります。

純正チャイルドセーフティシート
チャイルドセーフティシートの取り扱いや取り付け方法については、製品に添付されている「取扱説明書」をお読みください。
ダイムラー・クライスラー社の純正チャイルドセーフティシートには、助手席に装着すると、助手席エアバッグの作動を解除するセンサー付きのシート(ベビーセーフ、デュオ、キッド)があります。
やむを得ず、助手席にチャイルドセーフティシートを装着するときは、このセンサー付きシートを使用してください。

純正チャイルドセーフティシートには、以下のタイプがあります。

選択の目安

シート名	体　重	年　齢
ベビーセーフ	10kg以下	生後9ヵ月位まで
デュオ	9~18kg	生後8ヵ月~4歳位
キッド	15~36kg	4歳~12歳位

※チャイルドセーフティシートの種類や名称は予告なく変更されることがあります。詳しくは販売店におたずねください。

チャイルドセーフティシート検知システム
助手席のシート座面とセンサー付きチャイルドセーフティシートとの間で自動的に信号の発信 / 受信を行ない、チャイルドセーフティシートの有無を判断するシステムです。
助手席にセンサー付きの純正チャイルドセーフティシートを装着すると、助手席エアバッグが作動しなくなり、助手席エアバッグオフ表示灯が点灯します。

注　意！
助手席のシート座面とチャイルドセーフティシートの間に物を入れないでください。チャイルドセーフティシートを検知できなくなるおそれがあります。

助手席エアバッグオフ表示灯

助手席エアバッグオフ表示灯はエンジンスイッチを**1**か**2**の位置にすると点灯し(点灯しないときは警告灯が故障しています)、数秒後に消灯します。点灯後消灯しないとき、またセンサー付きチャイルドセーフティシートを装着していないのに点灯するときは、システムの故障です。すみやかに指定サービス工場で点検を受けてください。

注　意！

センサー付きチャイルドセーフティシートを助手席に装着しても、助手席エアバッグオフ表示灯が点灯しないときは、助手席エアバッグが作動します。表示灯が点灯しないときは、チャイルドセーフティシートをリアシートに装着してください。また、すみやかに指定サービス工場で点検を受けてください。

⚠ 警　告

- 身長150cm未満の子供は純正チャイルドセーフティシートを使用して確実に身体を固定してください。
- チャイルドセーフティシートを使用しないと、急ブレーキ時や衝突時などに身体を車内に激しくぶつけたり、車外に放り出されて致命的なけがをするおそれがあります。
- 子供の体格に適合したチャイルドセーフティシートを使用し、子供を正しい姿勢で座らせ、身体をシートベルトで確実に固定してください。
- センサー付きチャイルドセーフティシートを助手席に装着するときは、必ず助手席エアバッグオフ表示灯が点灯することを確認してください。
- センサー付きチャイルドセーフティシート以外のチャイルドセーフティシートは、リアシートに装着してください。やむを得ず助手席シートに装着するときは、前向きに装着し、助手席シートの位置を最後部にしてください。事故のとき、助手席エアバッグが作動する衝撃で致命的なけがをするおそれがあります。
- チャイルドセーフティシートが損傷しているときは新品と交換してください。大きな衝撃を受けたり、損傷したものは子供を保護できません。
- チャイルドセーフティシートを使用しないときは、車から取り外すか、確実にシートに装着してください。急ブレーキ時などに、チャイルドセーフティシートが放り出されて乗員がけがをするおそれがあります。

チャイルドセーフティシート固定機構＊

チャイルドセーフティシートを取り付けるとき、シートベルトをロックするシステムです。運転席以外のシートベルトに装備されています。

※車種や仕様により、後席シートベルトにチャイルドセーフティシート固定機構が装備されていない場合があります。

⚠ 警　告

子供をチャイルドセーフティシート固定機構で遊ばせないでください。固定機構が作動するとシートベルトが引き出し方向に動かなくなるため、誤ってシートベルトが首に巻き付くと、窒息など致命的なけがをするおそれがあります。

注　意！

助手席シートベルトにチャイルドセーフティシート固定機構が装備されていますが、チャイルドセーフティはできるだけリアシートに固定してください。
やむを得ず助手席にチャイルドセーフティシートを装着するときは、助手席エアバッグの作動を解除するセンサー付きの純正チャイルドセーフティシートを装着してください(45ページ)。

固定機構を使用する

1　チャイルドセーフティシートを、製品に付属の取扱説明書に従って正しく取り付けます。
2　シートベルトのプレートをバックルに差し込んだ状態でシートベルトをいっぱいまで引き出した後、チャイルドセーフティシートが確実に固定できる位置までシートベルトを巻き取らせます。

注　意！

チャイルドセーフティシートを固定後、シートベルトが引き出し方向に動かないことを確認してください。

固定機構を解除する

シートベルトのプレートをバックルから外し、シートベルトを巻き取らせます。

注　意！

シートベルトを着用した状態で上体を大きく動かしたときに、シートベルトがいっぱいに引き出されてチャイルドセーフティシート固定機構が作動することがあります。このときは、固定機構を解除してから、シートベルトを再度着用してください。

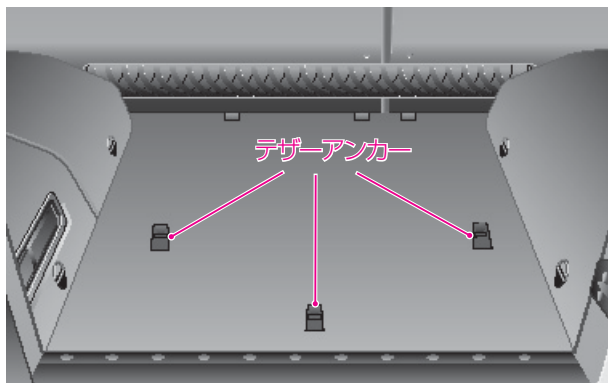
＊オプションまたは仕様により装備が異なります

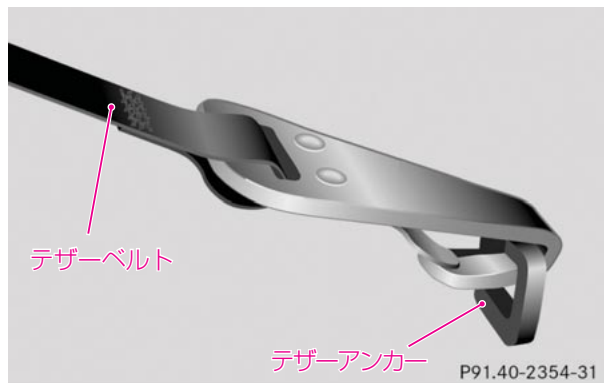
ISO-FIX対応チャイルドセーフティシート
固定リング＊

左右のリアシートに、ISO-FIX対応チャイルドセーフティシート用の固定リングを装備しています。

⚠警　告

- 固定リングは、体重22kg以下の子供を乗せるときに使用してください。
- チャイルドセーフティシートは、必ず製品の取扱説明書の指示に従い、左右の固定リングに装着してください。装着のしかたを誤ると、事故のとき、十分な効果が得られなかったり、チャイルドセーフティシートが外れるおそれがあります。
- チャイルドセーフティシートや固定リングが事故で損傷したり強い負荷を受けた場合は、指定サービス工場で新品に交換してください。

＊オプションまたは仕様により装備が異なります

テザーアンカー＊
ISO-FIX対応チャイルドセーフティシートをリアシートに装着するとき、チャイルドセーフティシートの上部をテザーベルトで固定することにより、事故のとき、チャイルドセーフティシートが前方に移動することを抑えます。
ラゲッジルームに3名分のテザーアンカーを装備しています。

チャイルドセーフティシートの取り扱いや装着方法については、製品に添付されている「取扱説明書」をお読みください。

⚠ 警　告

- **テザーベルトは、チャイルドセーフティシートの位置に対応したテザーアンカーに取り付けてください。**
- **テザーベルトがねじれたり、複数のテザーベルトが交差しないことを確認してください。**
- **テザーアンカーに、テザーベルトが確実にかかっていることを確認してください。**

＊オプションまたは仕様により装備が異なります

運転するまえに

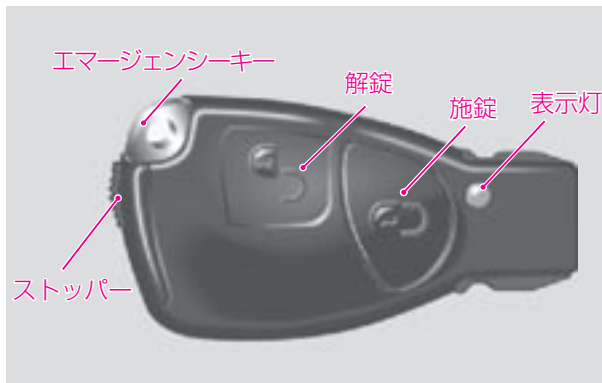
キー

リモコン機能付きのキー(2本)が付属しています。また、それぞれのキーにはエマージェンシーキーを収納しています。
2つのキーを見わけるためキーのストッパーの色がそれぞれ異なります。

⚠ 警　告

キーに重い物や必要以上に大きなキーホルダーなどを装着しないでください。走行中にキーホルダー自体の重みでキーがまわってしまい、エンジンが停止すると、事故を起こすおそれがあります。

注　意！

- キーを紛失したときは、盗難や事故を防ぐため、ただちに指定サービス工場に連絡してください。
- キーを強い電磁波にさらすと、リモコンに障害が発生するおそれがあります。
- キーは強い衝撃や水から避けてください。故障の原因になります。
- キーの先端部を汚したり覆ったりしないでください。故障や誤作動の原因になります。
- 盗難や事故を防ぐため、車から離れるときは必ず車を施錠してください。

エンジンの始動および車の解錠 / 施錠に使用します。
リモコン機能では、以下の操作をすることができます。
- ドア、テールゲート、燃料給油フラップの解錠 / 施錠
- ドアウインドウとスライディングルーフ＊の開閉

知　識

- 新たにキーをつくる場合、従来のキーと同じ機能を持つ“交換キー”と、メモリー機能などを持たない“追加キー”の2種類があります。
- シートやステアリングの位置、ドアミラーの角度などの設定を、それぞれのキーごとに記憶させることができます。

＊オプションまたは仕様により装備が異なります

リモコン機能

エンジンスイッチにキーを差し込んでいないとき、ドア、テールゲート、燃料給油フラップを解錠 / 施錠できます。操作時に表示灯が短く点灯します。

解錠する

🔓を押すと、ドア、テールゲート、燃料給油フラップが解錠され、非常点滅灯が1回点滅します。

施錠する

🔒を押すと、ドア、テールゲート、燃料給油フラップが施錠され、非常点滅灯が3回点滅します。

リモコン操作ですべてのドアウインドウとスライディングルーフ＊を開閉することができます。
詳しくは(55ページ)をご覧ください。

注　意！

- 高圧電線や電波発信塔付近などの強電界下でリモコン操作を行なうと、リモコンが作動しなかったり、誤作動することがあります。
- リモコン操作でドアウインドウやスライディングルーフを閉じるときは、障害物がないことを確認してください。
- リモコン操作で施錠したときは、非常点滅灯が3回点滅したこと、ドア、テールゲート、燃料給油フラップが確実に施錠され、すべてのドアウインドウとスライディングルーフが閉じていることを確認してください。
- 貴重品は絶対に車内に置いたままにしないでください。盗難のおそれがあります。

＊オプションまたは仕様により装備が異なります

リモコン機能の設定の切り替え

リモコン操作での解錠時に、運転席ドアと燃料給油フラップだけを解錠することもできます。

- [解錠]と[施錠]を同時に約6秒間押し続けるとキーの表示灯が2回点滅し、設定が切り替わります。この状態では以下のように作動します。
  ◇[解錠]を1回押すと、運転席ドアと燃料給油フラップが解錠されます。
  ◇続けて約40秒以内に[解錠]を押すと、助手席ドア、リアドア＊、テールゲートが解錠されます。

元の設定に戻すには、再度[解錠]と[施錠]を同時に約6秒間押し続けます。キーの表示灯が2回点滅し、元の設定に戻ります。

知　識

- リモコン操作での解錠後約40秒以内に、以下のいずれかの操作をしないと、再び施錠されます。
  ◇ドアを開く
  ◇テールゲートを開く
  ◇エンジンスイッチにキーを差し込む
  ◇ドアロックスイッチを押す
- 車がバッテリーあがりを起こしたときは、リモコンの電池が正常でもリモコン操作での解錠／施錠はできません。
- リモコンの電池が消耗すると操作時に表示灯が点灯せず、リモコン操作ができなくなりますが、エンジンは始動できます。

ロケイターライティング機能

周囲が暗いとき、リモコン操作で車を解錠すると、ヘッドランプの車幅灯、フロントフォグランプ、テールランプ、ライセンスランプが点灯します。ルームランプが自動点灯モードのときはドアミラーランプも点灯します。
点灯したランプは、運転席ドアを開いたとき、または約40秒後に消灯します。

この機能の設定については(128ページ)をご覧ください。

＊オプションまたは仕様により装備が異なります

リモコン操作でドアウインドウ、スライディングルーフ＊を開閉する

キーのリモコン操作でドアウインドウ、スライディングルーフを開閉できます。

開く

運転席ドアハンドルに向けて[解錠ボタン]を押し続けると、ドアウインドウとスライディングルーフが開きます。

[解錠ボタン]から手を放すと、作動中のドアウインドウとスライディングルーフはその位置で止まります。

閉じる

運転席ドアハンドルに向けて[施錠ボタン]を押し続けると、ドアウインドウとスライディングルーフが閉じます。

[施錠ボタン]から手を放すと、作動中のドアウインドウとスライディングルーフはその位置で止まります。

注　意！

- 高圧電線や電波発信塔付近などの強電界下でリモコン操作を行なうと、リモコンが作動しなかったり、誤作動することがあります。
- リモコン操作でドアウインドウとスライディングルーフを開閉するときは、必ず運転席ドアハンドルに向けて操作してください。車の前方または後方から操作すると作動しません。
- ドアウインドウとスライディングルーフを閉じているときに身体や物などが挟まれそうになったときは、ただちに[施錠ボタン]を放し、[解錠ボタン]を押し続けてください。すべてのドアウインドウとスライディングルーフを開くことができます。
- リモコン操作で施錠したときは、非常点滅灯が点滅することと、ドア、テールゲート、燃料給油フラップが確実に施錠され、すべてのドアウインドウとスライディングルーフが閉じていることを確認してください。

＊オプションまたは仕様により装備が異なります

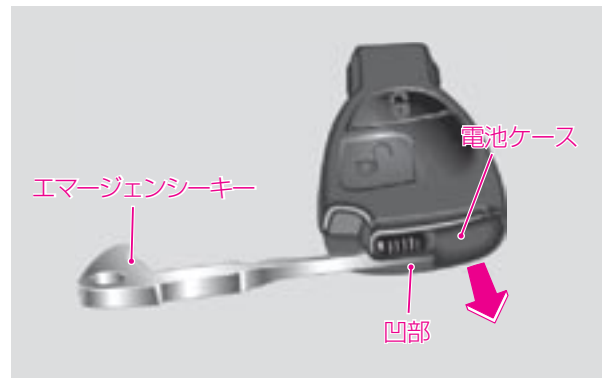
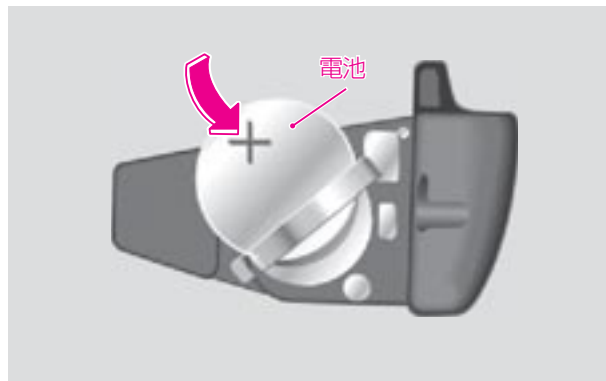
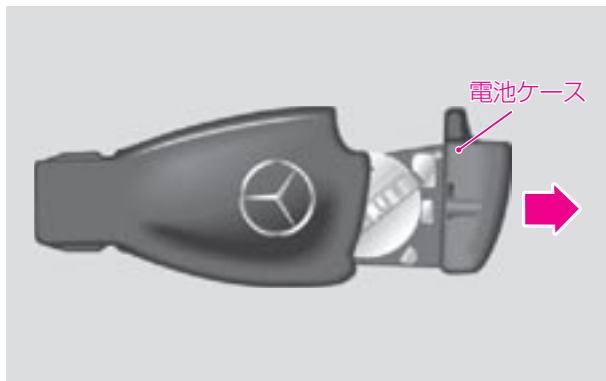
エマージェンシーキー
キーに収納されています。
グローブボックスを施錠するときに使用します。
また、リモコンが作動しないときに、運転席ドア、テールゲートを解錠 / 施錠することができます(68、73、215ページ)。

エマージェンシーキーを使用する
ストッパーを矢印①の方向に押しながら、エマージェンシーキーを矢印②の方向に抜き取ります。
収納するときは元の位置に戻します。

電池の交換
リモコンの作動可能距離が短くなったり、スイッチを押しても作動しない場合は電池の消耗が考えられます。指定サービス工場で点検を受けてください。

知　識
リモコンスイッチのいずれかを1秒以上押し続けたときに表示灯が一度点滅すれば電池は正常です。

電池の交換手順

1 ストッパーを矢印の方向に押して、エマージェンシーキーを抜き取ります。

2 エマージェンシーキーでストッパーの凹部を押しながら、電池ケースを矢印の方向に引いてロックを外します。

3 電池ケースを矢印の方向へゆっくり取り出します。
4 電池を外し、新しい電池と交換します。電池は2個とも⊕を上にして、電極板の間に取り付けます。
5 電池ケースを本体の溝に合わせ、押し込んでロックします。
6 エマージェンシーキーをキーに収納します。

電池の交換は指定サービス工場で行なうことをお勧めします。

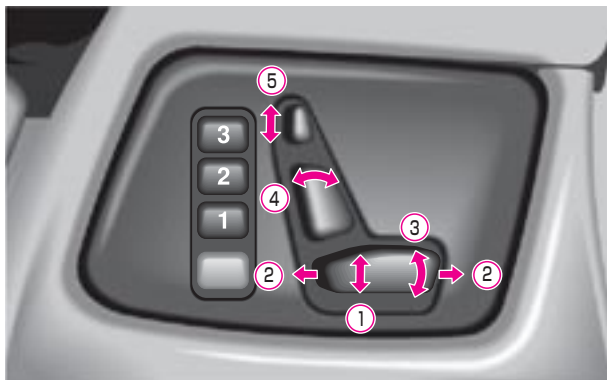
⚠ 警　告

電池は子供の手の届かないところに保管してください。誤って電池を飲み込むおそれがあります。もし電池を飲み込んでしまったときは、ただちに医師の診断を受けてください。

知　識

リチウム電池(CR2025)を2個使用しています。

環境保護のため、使用済みの電池を廃棄するときは、新しい電池をお買い求めになった販売店で処分をお願いしてください。

フロントシート

左側ドア

シートの調整
エンジンスイッチが**1**か**2**の位置のとき、または調整する側のフロントドアが開いているときに操作できます。

シートの高さ
①の矢印の方向に操作します。

シートの前後
②の矢印の方向に操作します。

クッションの傾き
③の矢印の方向に操作します。

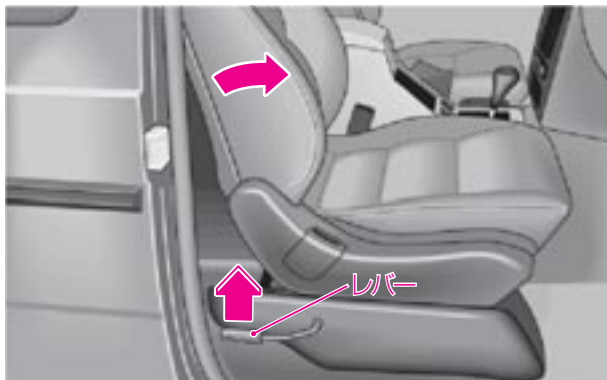
バックレストの傾き
④の矢印の方向に操作します。

ヘッドレストの調整
⑤の矢印の方向に操作して上下位置を調整します。角度の調整はヘッドレストの上側を押して / 引いて調節します。

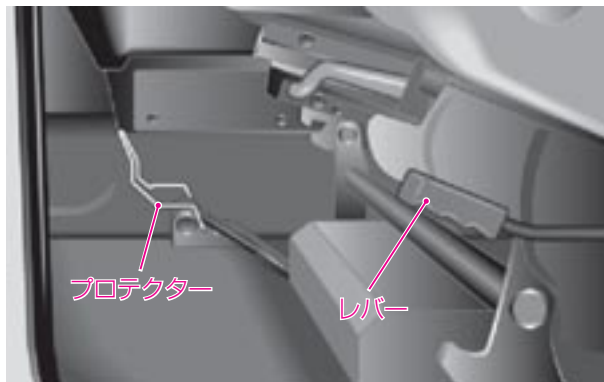
⚠ 警　告

乗車しているときは、必ずヘッドレストを取り付けてください。事故のとき、首にけがをするおそれがあります。

注　意！

シートの調整をするときは他の乗員の身体が挟まれないように注意してください。

リアシートへの乗降(G 320)
レバーを引き上げフロントシートを前方にいっぱいに倒します。
元に戻すときは、シートを後方に起こしてロックさせます。

知　識

フロントシートを前に倒すと、リアシートへの乗降に適した位置までシートが自動的に動き、シートを戻すと元の位置に戻ります。

G 320には、フロントシートの後側にプロテクターが装備されています。これは後席の乗員がフロントシートの下側に足を挟まれないようにするためのものです。

注　意！

フロントシートを下げるときは足を挟まれないように注意してください。

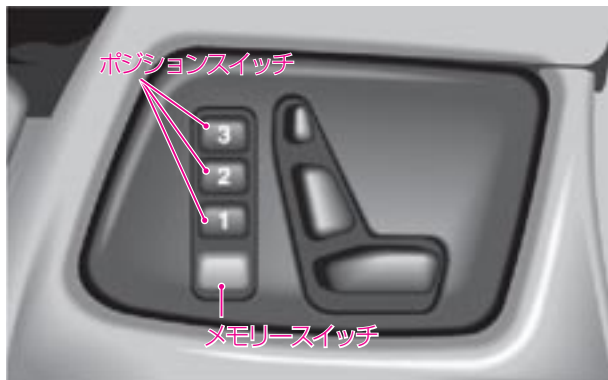
注　意！

- シートを上下させるときは、身体が挟まれないように注意してください。もし身体が挟まれたときは、シートスイッチのいずれかを操作するとシートの動きが止まります。
- シート位置を前寄りにセットしていたときは、シートがダッシュボードなどに触れることがあります。また、シートレールが後ろに突き出すことがありますので、乗降時には注意してください。
- シートを元に戻すときは、確実にロックされたことを確認してください。

ヘッドレストの取り外し / 取り付け

取り外すときはヘッドレストスイッチでヘッドレストをいっぱいに上げてから、ヘッドレストの支柱を持ち、引き上げます。
取り付けるときは、ヘッドレストの支柱を取り付け穴に差し込み、押し込みます。

警　告

- **乗車しているときは、必ずヘッドレストを取り付けてください。事故のとき、首にけがをするおそれがあります。**
- **フロントシートとリアシートのヘッドレストを逆に取り付けないように注意してください。**

シート位置の記憶と呼び出し

シート位置をポジションスイッチに記憶させることができます。さらにキーごとに違うシート位置を記憶させることもできます。

エンジンスイッチが**1**か**2**の位置のとき、または記憶させる側のドアが開いていて、エンジンスイッチにキーが差し込まれているときに記憶と呼び出しができます。

シート位置を記憶させる

1　正しいシート位置に調整します。
2　メモリースイッチを押します。
3　3秒以内にポジションスイッチ(**1**〜**3**)のいずれかを押します。そのポジションスイッチにシート位置が記憶されます。

他のポジションスイッチにも同様の方法でシート位置を記憶させることができます。何人かで運転をするときに使い分けると便利です。

記憶させたシート位置を呼び出す

呼び出したいポジションスイッチ(**1**〜**3**)を押し続けるとシートが動きはじめ、記憶させた位置になると停止します。

注　意！

バックレストを大きく後ろに傾けた位置にしているときは、記憶位置を呼び出す前に、バックレストを起こしてください。

知　識

- 安全のため、ポジションスイッチから手を放すと、ただちにシートの動きが停止します。
- 運転席は、シート位置とともに、ステアリングの位置と左右のドアミラーの角度も記憶されます。
  左右のドアミラーの角度を調整し、記憶させるときは、エンジンスイッチを**1**か**2**の位置にして行なってください。
- キーごとに違うシート位置を記憶させたいときは(135ページ)をご覧ください。

シートヒーター

スイッチはセンターコンソールにあります。
エンジンスイッチが**1**か**2**の位置のときに使用できます。

弱にする：上側を押すと約30分間作動します。表示灯が1つ点灯します。
強にする：下側を押すと表示灯が2つ点灯し約5分間作動します。その後、弱に切り替わり約30分間作動します。

弱のときはスイッチの上側を、強のときはスイッチの下側を押すと作動が停止します。

注　意！

- コートや厚手の衣服などを着用している状態や、毛布などの保温性の高いものをシートにかけた状態でシートヒーターを使用したり、シートヒーターを連続して使用すると、異常過熱による低温火傷(紅斑、水ぶくれ)をしたり、故障するおそれがあります。
- 以下の事項に該当する方は、熱すぎたり、低温火傷をするおそれがありますので十分に注意してください。
  ◇乳幼児、高齢者、病人、体が不自由な方
  ◇皮膚が弱い方
  ◇疲労の激しい方
  ◇眠気をさそう薬を服用した方
  ◇飲酒した方
- シートに凸部のある重量物を置かないでください。故障の原因になります。

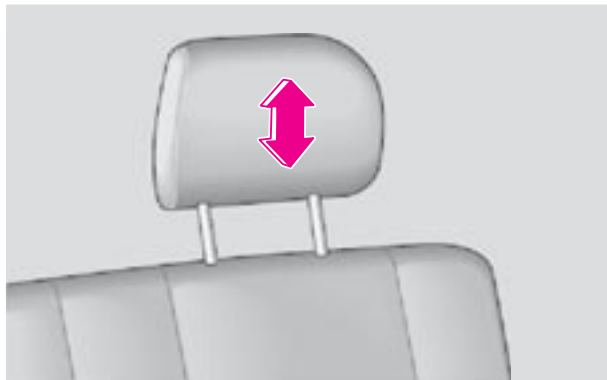
知　識

多くの電気装備を使用していたりバッテリーの電圧が低くなると、シートヒーターがオフになることがあります。このときは表示灯が点滅します。電圧が回復すると、再び自動的に作動し、表示灯が点灯します。

リアシートヒーター＊
エンジンスイッチが**2**の位置のときに使用できます。

弱にする： 上側を押すと約30分間作動します。表示灯が1つ点灯します。
強にする： 下側を押すと表示灯が2つ点灯し約5分間作動します。その後、弱に切り替わり約30分間作動します。

弱のときはスイッチの上側を、強のときはスイッチの下側を押すと作動が停止します。

＊オプションまたは仕様により装備が異なります

リアシート

ヘッドレストの調整

上下の調整

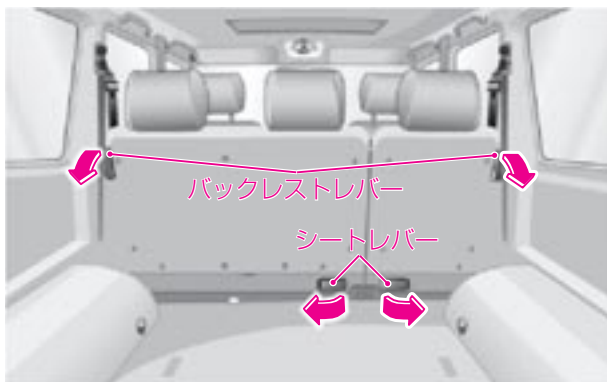
矢印の方向に手で上下させます。

ヘッドレストの取り外し / 取り付け

ヘッドレストを引き上げて取り外します。

取り付けるときは、ヘッドレストの支柱を取り付け穴に差し込み、押し込みます。

⚠ 警　告

- 乗車しているときは、必ずヘッドレストを取り付けてください。事故のとき、首にけがをするおそれがあります。
- フロントシートとリアシートのヘッドレストを逆に取り付けないように注意してください。

G 320 long / G 500 long / G 55 AMG long

分割可倒式リアシート
バックレストの左右いずれか一方、または両方を倒すことができます。
また、リアシートの左右いずれか一方、または両方を折りたたむことができます。

バックレストの倒しかた
1 ヘッドレストを一番下まで下げます。
2 バックレストレバーを矢印方向に引き、バックレストを前方に倒します。

バックレストを元の位置に戻すとき
バックレスト背面を押し付けながら、バックレストレバーを引き上げてロックを外し、バックレストを引き起こします。

リアシートを折りたたむとき
1 バックレストを前方に倒します。
2 シートレバーを引いてリアシートの後部に手を掛けて引き起こし、前方に折りたたみます。

リアシートを元に戻すとき
シート後部を下げてロックします。

知　識

リアシートを折りたたんでいない状態でセーフティネットを脱着するときは、バックレストを起こしたままシートレバーを引いて、リアシートを前方に倒します(75､77ページ)。

⚠ 警　告

- **走行中にシートを折りたたまないでください。**
- **リアシートを折りたたんで、荷物を積むときは、必ず荷物を固定してください。荷物が放り出され、乗員がけがをするおそれがあります。**

注　意！

- リアシートを折りたたむときは、身体や物などが挟まらないように注意してください。
- リアシートを折りたたむときは、フロントシートの位置を前方に移動し、バックレストを起こしてください。シートを損傷するおそれがあります。

ドア

左側ドア

車内からの開閉

開く　　：ドアレバーを矢印の方向に引きます。
閉じる　：ドアインナーグリップを持って確実に閉じます。

車内からの解錠 / 施錠

解錠する：ドアレバーを矢印の方向に引きます。
施錠する：ロックノブを押し込みます。

車外からの開閉

開く　　：キーシリンダーを押しドアハンドルを持ってドアを開きます。
閉じる　：ドアハンドルを持って確実に閉じます。

⚠ 警　告

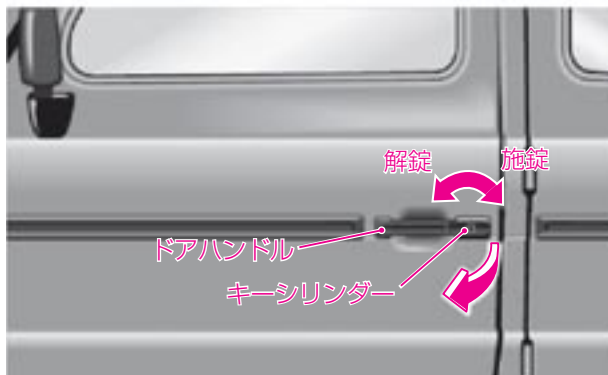
- **ドアは確実に閉じてください。ドアの閉じかたが不完全(半ドア)な場合、走行中にドアが開くおそれがあります。**
- **ドアを開くときは、周囲の安全を十分確認してください。**
- **同乗者がドアを開くときは、危険がないことを運転者が確認してください。**

注　意！

- 施錠後は、すべてのロックが確実に施錠されていることを確認してください。ロックノブが完全に下がっていないドアがあるときは、そのドアをいったん開き、再度閉じてから施錠してください。
- ドアを閉じるときは、身体や物が挟まれないように注意してください。車の周りに子供がいるときは、特に注意してください。

知　識

助手席のドアとリアドア＊、テールゲートは、開いているときにロックノブを押し込んでから閉じると施錠されます。

＊オプションまたは仕様により装備が異なります

エマージェンシーキーでドアを解錠 / 施錠する

リモコン操作ができないときは、運転席のドアハンドルのキーシリンダーにエマージェンシーキーを差し込み、解錠 / 施錠することができます。

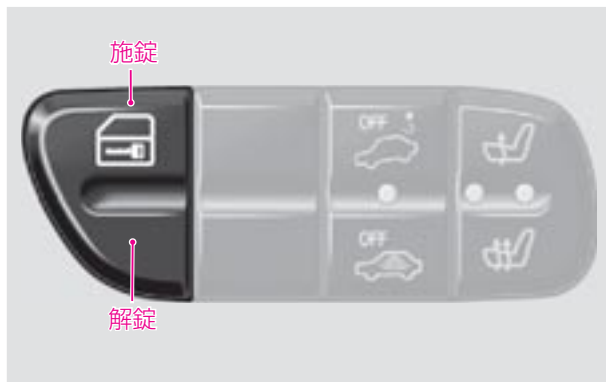
解錠：前方にまわします。
施錠：後方にまわします。

注　意！

- リモコン操作で施錠した後に、エマージェンシーキーで運転席ドアを解錠して開くと、盗難防止警報システムが作動します。警報を止めるには、キーの（解錠）か（施錠）を押すか、キーをエンジンスイッチに差し込みます。
- 車から離れるときは、ドアウインドウやスライディングルーフ＊を閉じてからエンジンを停止し、必ずドアを施錠してください。
- エマージェンシーキーで運転席ドアを解錠 / 施錠しても、他のドア、テールゲート、燃料給油フラップは解錠 / 施錠されません。

知　識

助手席のドアにはキーシリンダーはありません。

＊オプションまたは仕様により装備が異なります

ドアロックスイッチ
車内から、すべてのドアとテールゲートをスイッチ操作で解錠 / 施錠することができます。

解錠する：スイッチの下側を押します。
施錠する：スイッチの上側を押します。

注　意！

ドアのロックノブが下がっていても、車内のドアレバーを引くとドアは開きます。子供を乗せたときは注意してください。

知　識

- ドアロックスイッチで施錠してあるとき、車内からフロントドアを開くと、他のドア、テールゲートも解錠されます。
- ドアロックスイッチで施錠しても、燃料給油フラップは施錠されません。
- リアドア＊やテールゲートが開いているときにドアロックスイッチで施錠すると、開いているリアドアやテールゲートのロックノブが下がります。そのまま閉じると施錠されます。
- 助手席ドアが開いているときは、ドアロックスイッチで施錠することはできません。
- リモコン操作で施錠してあるときは、ドアロックスイッチで解錠することはできません。

＊オプションまたは仕様により装備が異なります

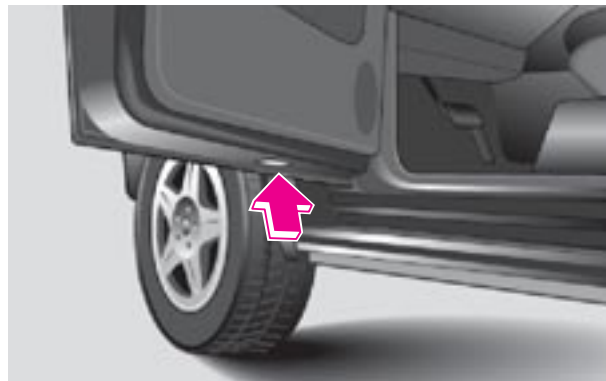
車速感応ドアロック

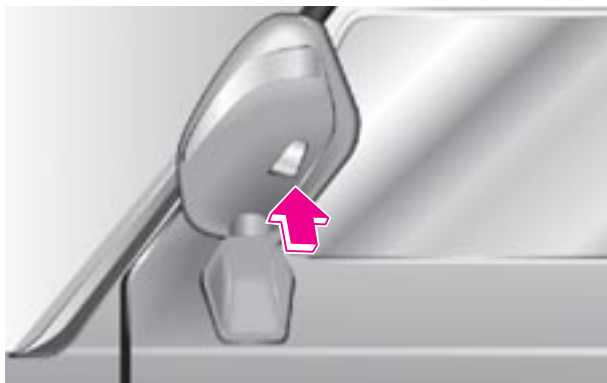
速度が約15km/h以上になると、ドアとテールゲートを自動的に施錠する機能です。
この機能をマルチファンクションディスプレイで設定 / 解除することができます(132ページ)。

知　識

車速感応ドアロックで施錠されている状態で、ドアを開いて解錠したときは、開いたドアを再度閉じて車速が約15km/h以上になると、ドアは再び施錠されます。

注　意！

- 車速感応ドアロックを設定した状態で、車を押したり、タイヤ交換などで車を持ち上げるときは、エンジンスイッチを**0**の位置にしてください。タイヤが回転すると施錠され、車外に閉め出されるおそれがあります。
- 車速感応ドアロックで施錠されたドアをドアロックスイッチで解錠すると、ドアを開くかエンジンをかけ直すまで、車速感応ドアロックは作動しません。

乗降用ランプ

周囲が暗いとき、ルームランプを自動点灯モードにすると、ドアの開閉に応じて点灯 / 消灯します。

ドアミラーランプ

ロケイターライティング機能(54ページ)として作動します。ルームランプが自動点灯モード(205ページ)になっていて周囲が暗いとき、リモコン操作で車を解錠すると点灯し、フロントドアを開くと開いた側のドアミラーランプが消灯します。フロントドアを開かない場合は、約40秒後に消灯します。

イージーエントリー機能

運転席への乗り降りを容易にするため、次のいずれかの操作をすると、ステアリングが上方に動きます。

- エンジンスイッチからキーを抜く
- エンジンスイッチが0か1の位置のときに運転席ドアを開く

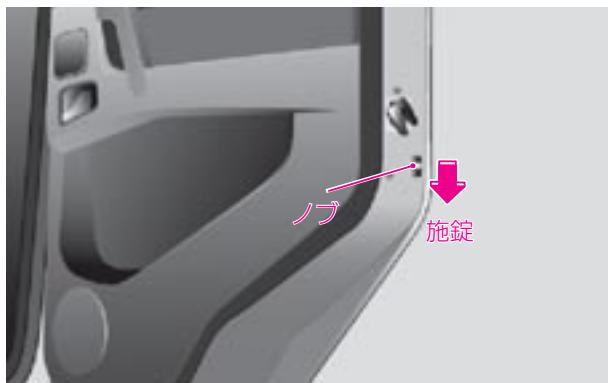
ステアリングは、ドアを閉じて次のいずれかの操作をすると、元の位置に戻ります。

- エンジンスイッチにキーを差し込む
- エンジンスイッチが0の位置のときは1の位置にする
- エンジンスイッチが1の位置のときは2の位置にする

この機能が作動しないようにすることもできます。

設定 / 解除については(134ページ)をご覧ください。

注　意！

イージーエントリー機能が作動しているときは、身体が挟まれないように注意してください。ステアリングの動きを止めるときは、ステアリング調整レバーかシートメモリーのポジションスイッチを押してください。

リアドア＊

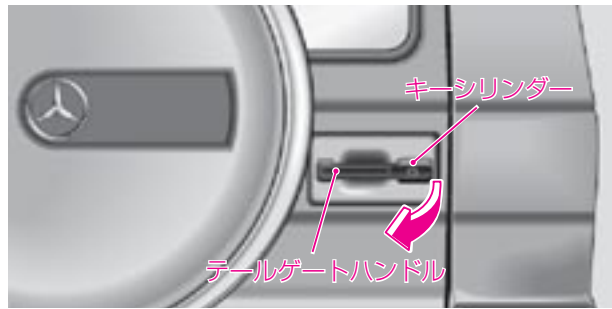
テールゲート

チャイルドプルーフロック

車内のドアレバーを引いてもドアが開かないようにする装備です。
リアドア＊とテールゲートに装備されています。
リアドアまたはテールゲートにあるノブをキーの先端やドライバーなどで下側の位置にしてから閉じると設定されます。
子供を乗せるときに使用してください。

知　識

ドアを開くときは、リモコン操作やドアロックスイッチでドアやテールゲートを解錠して、車外から開いてください。

＊オプションまたは仕様により装備が異なります

テールゲート

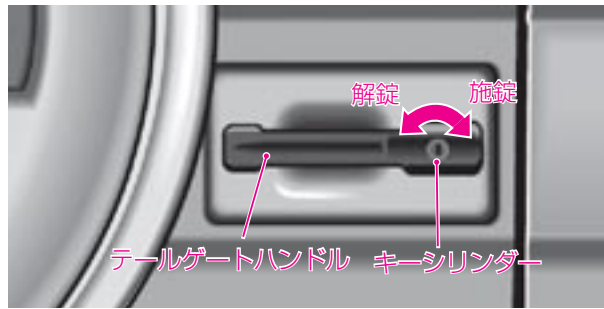
車外から開く

キーシリンダーを押しテールゲートハンドルを持って、テールゲートを開きます。

注　意！

エマージェンシーキーでテールゲートを解錠して開くと、盗難防止警報システムが作動します。警報を止めるには、キーの🔓か🔒を押すか、キーをエンジンスイッチに差し込みます。

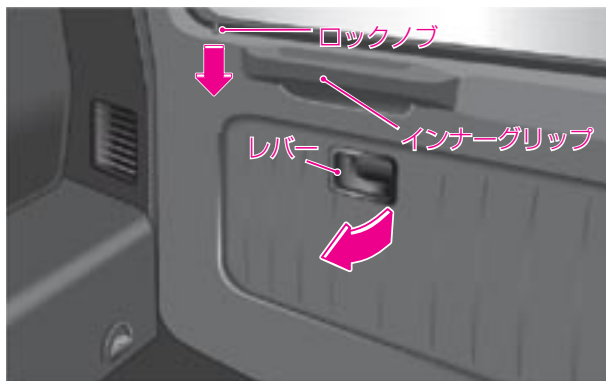
⚠ 警　告

エンジンがかかっているときは、テールゲートを開いたままにしないでください。排気ガスが車内に入り、意識不明になったり、中毒死するおそれがあります。

エマージェンシーキーでのテールゲートの解錠 / 施錠

リモコンが機能しないときは、テールゲートハンドルのキーシリンダーにエマージェンシーキーを差し込み、解錠 / 施錠することができます。

注　意！

エマージェンシーキーでテールゲートを解錠 / 施錠しても、ドア、燃料給油フラップは解錠 / 施錠されません。

解錠する：反時計回りにまわします
施錠する：時計回りにまわします。

車内からの開閉
開く　　　：レバーを矢印の方向に引きます。
閉じる　　：インナーグリップを持って確実に閉じます。

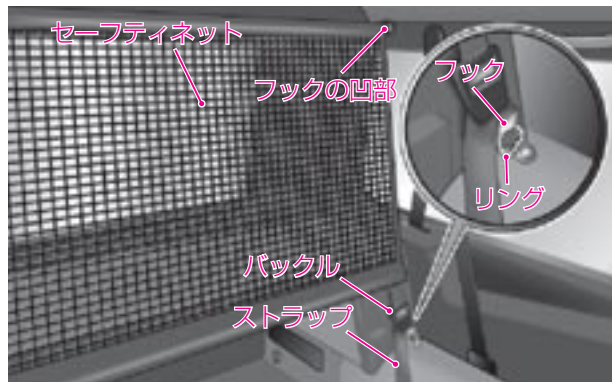
車内からの解錠 / 施錠
解錠する：レバーを矢印の方向に引きます。
施錠する：ロックノブを矢印の方向に押し込みます。

注　意！

- テールゲートが確実に閉じていることを確認してください。
- テールゲートを開くときは、後方に十分な空間があることを確認してください。
- テールゲートを閉じるときは、身体や物を挟まないように注意してください。車の周りに子供がいるときは、特に注意してください。
- リモコン操作で施錠した後に、レバーを引いてテールゲートを解錠して開くと、盗難防止警報システムが作動します。警報を止めるには、キーをエンジンスイッチに差し込むか、キーの🔓か🔒を押します。

ラゲッジルーム

G 320

G 320 long / G 500 long / G 55 AMG long

セーフティネット
荷物を積むときに荷物が前方に放り出されるのを防ぐために使用します。
リアシートを折りたたんでいない状態、折りたたんだ状態のどちらでも使用できます。

⚠ 警　告

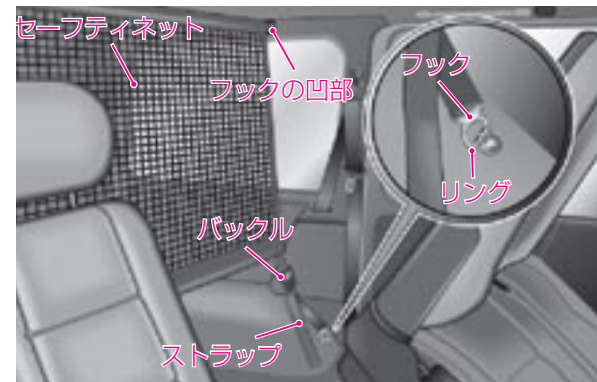
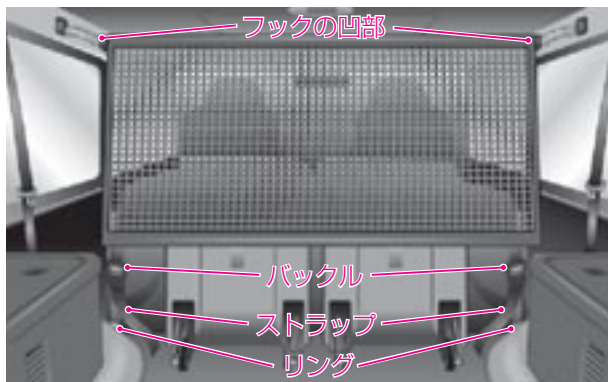
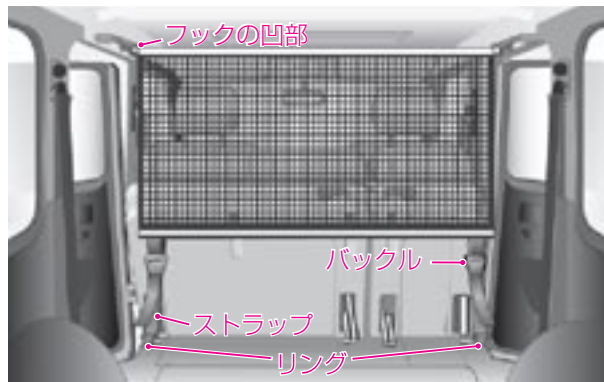
- **荷物を積むときは、荷物が前方に放り出され、乗員がけがをしないよう、必ずセーフティネットを使用してください。**
- **セーフティネットでは、急ブレーキや事故などのときに、重い荷物を固定することはできません。重い荷物を積むときは、ロープやストラップで正しく固定してください(80、81ページ)。**

リアシートを折りたたんでいない状態での使いかた

1 バックレストを起こしたまま、リアシートを前方に倒します(66ページ)。
2 ストラップのバックルが前方に向くようにして、セーフティネットをフックの凹部にかけます。
3 バックルでストラップの長さを調整し、フックをリングにかけます。フックをリングにかけたら、ストラップの先端を引き、セーフティネットが軽く張る程度に調節します。

知　識

リアシートを折りたたんでいない状態で使用するリングは、G 320はリアホイールアーチ後方、G 320 long、G 500 long、G 55 AMG longはリアホイールアーチ前方にあります。

4 リアシートを元の位置に戻し、ロックさせます。

G 320

G 320 long / G 500 long / G 55 AMG long

リアシートを折りたたんだ状態での使いかた

1 リアシートを折りたたみます(66ページ)。
2 ストラップのバックルが後方を向くようにセーフティネットをフックの凹部にかけます。
3 バックルでストラップの長さを調節し、フックをリングにかけます。フックをリングにかけたら、ストラップの先端を引き、セーフティネットがぴったりと張るように調節します。

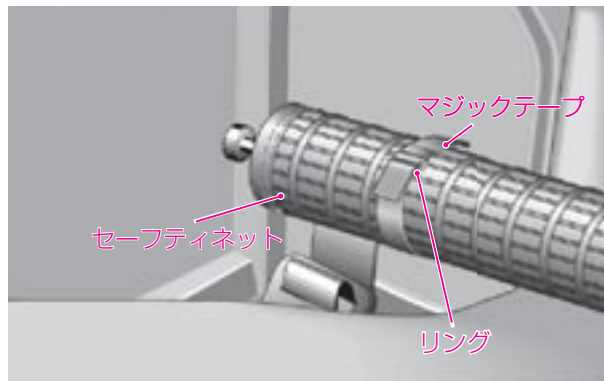
知　識

リアシートを折りたたんだ状態で使用するリングは、G 320はリアホイールアーチ前方、G 320 long、G 500 long、G 55 AMG longはリアシート下の図の位置にあります。

注　意！

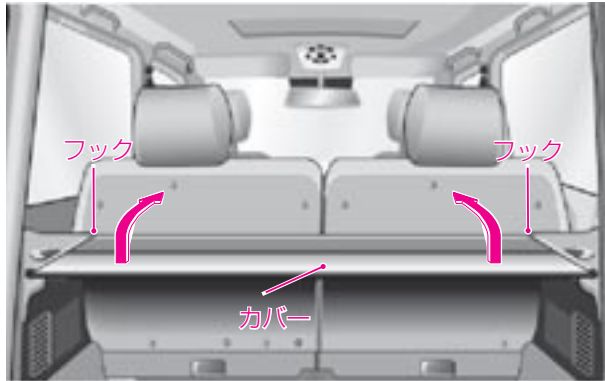
- セーフティネットのストラップは強く締めてください。
- 少し走行した後に、セーフティネットの張り具合を点検してください。必要があれば締めなおしてください。
- 大きな荷物や重い荷物を積むときは、必ずセーフティネットを使用してください。また、リアシートには人を乗せないでください。

セーフティネットを取り外すとき

1 リアシートを折りたたんでいない状態でセーフティネットを使用しているときは、リアシートを前方に倒します(66ページ)。
2 バックルを水平にしてストラップをゆるめ、フックをリングから外します。
3 セーフティネットをフックの凹部から外します。

G 320

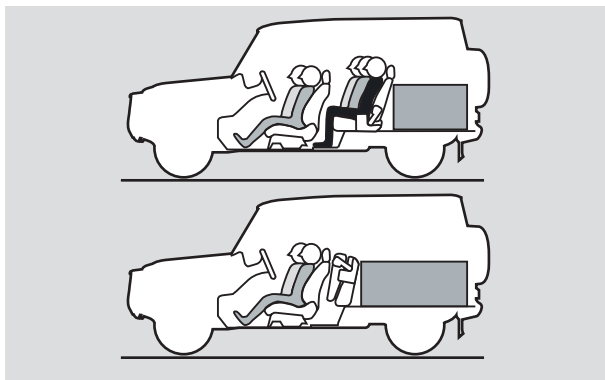
セーフティネットを収納するとき

G 320
セーフティネットを巻き、マジックテープをリングに通して固定します。
G 320 long / G 500 long / G 55 AMG long
セーフティネットを巻き、マジックテープをリングに通して固定します。セーフティネットはリアシートの後側に収納します。

知　識
- マジックテープはグローブボックス内にあります。
- G 320は、マジックテープをラゲッジルームの小物入れ内の切り欠きに通して、セーフティネットを固定することができます。

ラゲッジルームカバー＊
使用するときは、カバーを広げて、カバーの両側をマジックテープで止めます。取り外すときは、リアシートのバックレストを前に倒し、カバーをフックから外します。

⚠ 警　告

- ラゲッジルームカバーは、リアシートを起こした状態で使用してください。
- ラゲッジルームカバーの上に荷物を置かないでください。荷物が放り出され、乗員がけがをするおそれがあります。

＊オプションまたは仕様により装備が異なります

荷物を積むときは

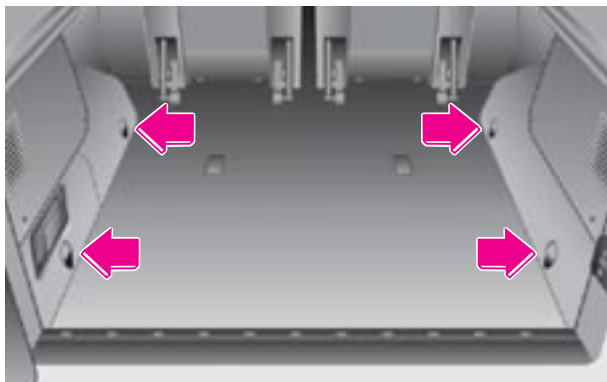
- 荷物はできるだけシートの背面に接するように積んでください。そして重い荷物をシート背面近くに配置してください。荷物の積みかたは走行安定性に大きく影響します。
- 荷物はできるだけ人が座っていないシートの後方に積んでください。
- 荷物をバックレストより高く積み上げないでください。
- ウインドウに荷物が当たらないように注意してください。ウインドウガラスを破損したり、リアデフォッガーの熱線を損傷するおそれがあります。
- 荷物を積むときは、必ずセーフティネットを使用してください。

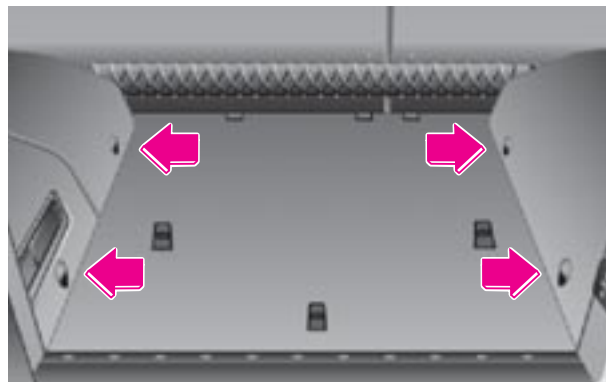
- 大きな荷物を積まないときは、リアシートのバックレストを起こし、ヘッドレストを装着してください。
- リアシートに人を乗せないときは、図のように左右のシートベルトプレートを反対側のバックルに差し込んで、シートベルトが交差するようにしてください。
- 燃料を入れた容器やスプレー缶などを積まないでください。引火や爆発のおそれがあります。

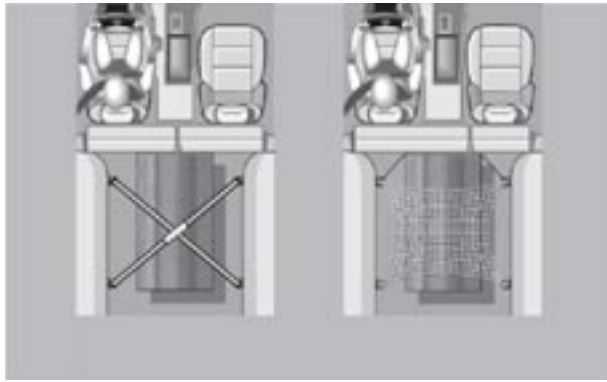
注　意！

ラゲッジルームに積載できる荷物の重量には制限があります。制限重量は(280ページ)に記載されています。

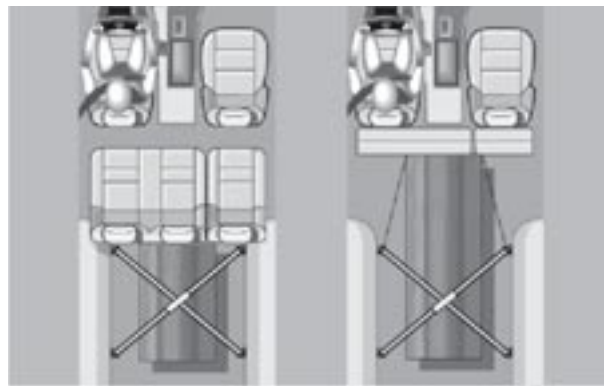
G 320

G 320 long / G 500 long / G 55 AMG long

荷物を固定するときは

- 荷物は確実に梱包し、固定してください。荷物の積みかたが悪かったり、荷物を固定していないと、荷物が前方に放り出され、乗員がけがをするおそれがあります。
- 荷物の積みかたの注意を守っていても、荷物が多くなるほど、事故の際にけがをする危険度は増します。
- 荷物の固定には擦れに強く丈夫なロープを使用し、ラゲッジルームの4個の荷物固定用リング(G 320はラゲッジルームに2個、リアシート下部に2個)に通して確実に結んでください。
- 荷物固定用リングには均等に力がかかるようにしてください。

G 320

G 320 long / G 500 long / G 55 AMG long

ネットなどで荷物を固定するときは

荷物固定用のアクセサリーは、ダイムラー・クライスラー社の推奨品の使用をお勧めします。詳しくは指定サービス工場におたずねください。

- 伸縮性のあるロープやネットを使用しないでください。重い荷物を固定することができず、事故のとき、乗員がけがをするおそれがあります。
- 固定するロープやネットが荷物の角にかからないようにしてください。
- 鋭い角のあるものは、角の部分にカバーをしてください。

- 荷物をテンションネットで固定するときは、荷物全体の上にネットを被せ、フックを荷物固定用リングにかけます。テンショナーを使用してストラップを強く締めてください。
- 締め付けストラップは、図のように荷物の上で交差するようにかけ、荷物の重量が各荷物固定用リングに均等にかかるようにします。締め付け金具を使用する場合は、荷物固定用リングに過大な力がかからないように注意してください。
- 締め付けストラップは、少なくとも張力700kg以上、幅25mm以下のものを使用してください。

ボンネット

ボンネットを開く

1　運転席側のインストルメントパネル下にあるボンネットロック解除レバーを手前に引きます。

2　ボンネットを少し引き上げて、ボンネットとラジエターグリルの隙間に手を入れ、レバーを矢印の方向に引きながらボンネットを開きます。

※車種や仕様により、レバーを後方に押しながらボンネットを開くタイプもあります。

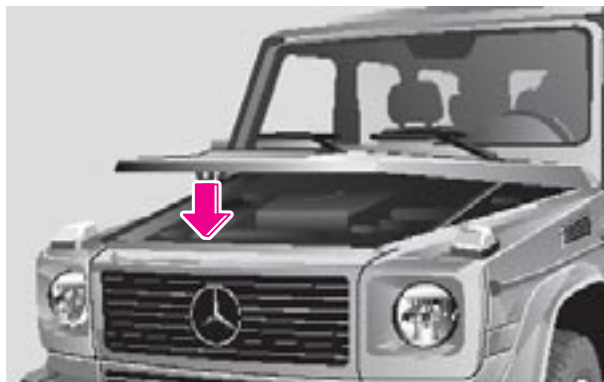
⚠ 警　告

- ボンネットから炎や煙が見えたときは、ボンネットを開かないでください。火傷をするおそれがあります。
- 走行中はロック解除レバーを引かないでください。ボンネットが開いて事故を起こすおそれがあります。

⚠ 警　告

- **走行前に、ボンネットが確実にロックされていることを確認してください。走行中にボンネットが開いて事故を起こすおそれがあります。**
- **エンジンを始動しているときやエンジンがかかっているとき、またはエンジンスイッチが2の位置のときは、ボンネットを開いた場合でもエンジンルーム内には手を触れないでください。高電圧の発生部分や高温部分、回転している部分があり、それらに触れると非常に危険です。**
- **ボンネットを開いたとき、ラジエターに装備している電動冷却ファン周囲に手を触れたり、手に持っているウエス（清掃布）などを近づけないでください。電動冷却ファンが回転し、巻き込まれるおそれがあります。**

注　意！

- ワイパーアームを起こしたままボンネットを開かないでください。ボンネットとワイパーが当たり、損傷するおそれがあります。
- 強風のときにボンネットを開くと、風にあおられ、ボンネットが不意に下がるおそれがあります。風の強い日には十分に注意してください。また、ボンネットに雪が積もっているときも同様に注意してください。
- エンジンがかかっているときなど、ボンネットのレバーが熱くなっている場合がありますので注意してください。

ボンネットを閉じる

ボンネットを下げ、ボディとの距離が約20cmになったところで手を放し、自然に落下させます。完全に閉じなかったときは、もう一度ボンネットを開き、もう少し高い位置から落下させてください。

注　意！

- エンジンルーム内に物を置いたままボンネットを閉じると、ボンネットが変型するおそれがあります。
- ボンネットを押さえつけないでください。ボンネットが変型するおそれがあります。
- ボンネットを閉じるときは、手を挟まないように注意してください。

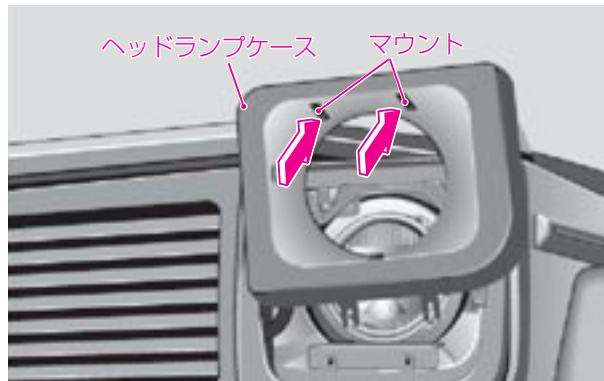
ヘッドランプガード

1　ドライバーでヘッドランプケースの取り付けネジをゆるめ、ヘッドランプケースを上に引き抜きます。

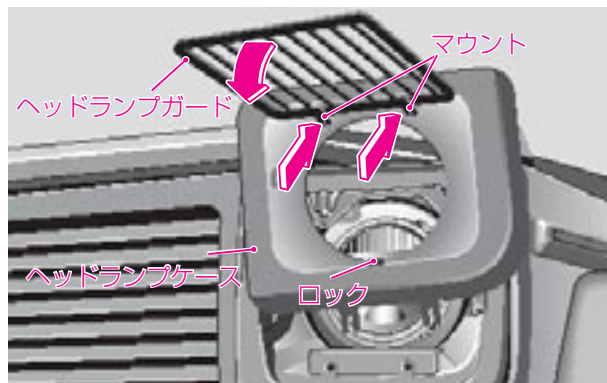
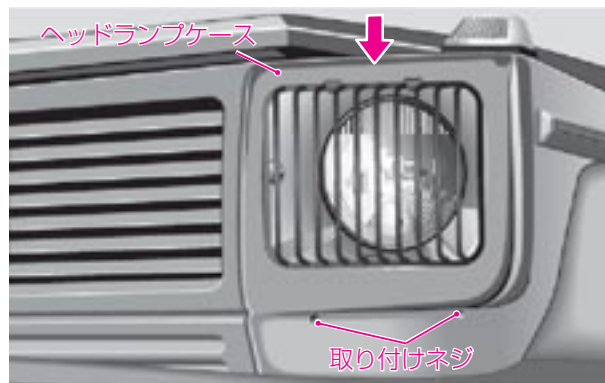
知　識

ヘッドランプケースはヘッドランプウォッシャーが取り付けられているため、取り外すことはできません。

注　意！

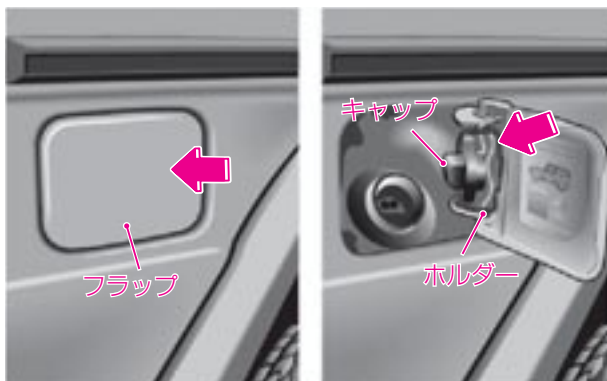
取り付けネジは、ヘッドランプケースが引き抜ける程度までゆるめてください。ゆるめすぎるとネジが脱落したり紛失するおそれがあります。

2　プラスドライバーでヘッドランプケース上側のネジを外し、マウントを取り外します。

注　意！

ネジを外すとヘッドランプケース裏側のワッシャーが外れます。紛失しないように注意してください。

3 ヘッドランプガードの図の位置にマウントをはめ込み、ヘッドランプケースにネジ止めします。
4 ヘッドランプガードを下げ、ロックにはめ込みます。

5 ヘッドランプケースを上から差し込みます。
6 取り付けネジを締め、ヘッドランプケースを固定します。

注　意！

ヘッドランプガードやヘッドランプケースはきつくネジ止めしないでください。ヘッドランプケースを損傷するおそれがあります。

燃料給油口

車が解錠されているとき、矢印の位置を押すとフラップが開きます。
閉じるときはフラップを押します。

キャップを外す
キャップを反時計回りに少しゆるめてタンク内の圧力を抜いてから外します。

キャップを取り付ける
キャップを時計回りにいっぱいにまわします。

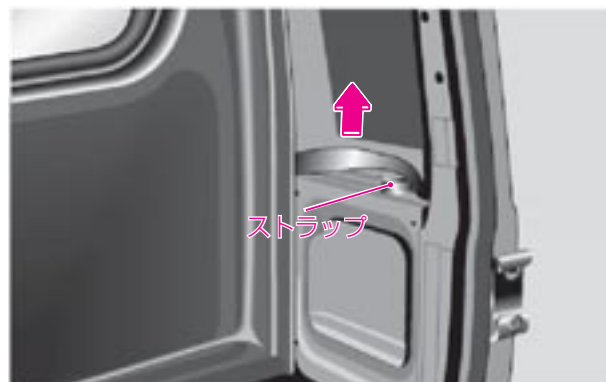
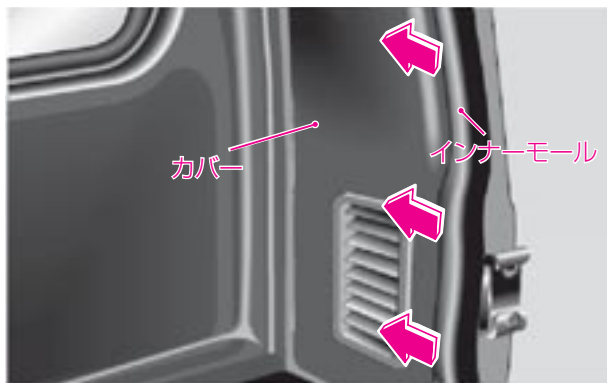
⚠ 警　告

- **エンジンをかけたまま給油しないでください。火災が発生するおそれがあります。**
- **周囲にガソリンがあるときやガソリンの匂いがするときは、決して火気を近づけないでください。火災が発生するおそれがあります。**

注　意！

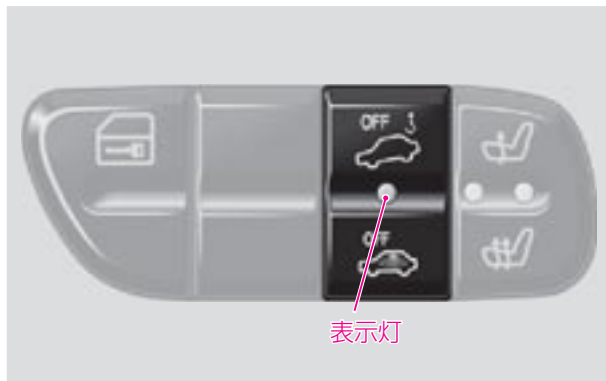
- 燃料は無鉛プレミアムガソリンを使用してください(278ページ)。
- 給油ノズルが最初に自動停止した時点で給油を停止してください。燃料を入れすぎるとエンジンが不調になったり、停止することがあります。
- 燃料をこぼさないように注意してください。
燃料が車の塗装面に垂れたときは、すぐに拭き取ってください。塗装面を傷めるおそれがあります。
- 燃料給油口が開かない場合は、指定サービス工場に連絡してください。

知　識

- 外したキャップはフラップの裏側にあるホルダー(矢印)に固定できます。
- フラップの裏側に、タイヤ空気圧ラベルが貼付してあります。タイヤ空気圧ラベルの見かたについては(261ページ)をご覧ください。

燃料給油フラップが開かないとき
(G 320 long / G 500 long / G 55 AMG long)
車を解錠しても燃料給油フラップが開かないときは、ラゲッジルーム右側後部のカバーを取り外し、手動でロックを外します。

1 インナーモールを取り外し、カバーを外します。
2 ストラップを引き上げてロックを外し、車外から燃料給油フラップを開きます。

注　意！
G 320は、燃料給油口が開かない場合は指定サービス工場に連絡してください。

盗難防止警報システム

ドア、テールゲート、ボンネットなどが閉じていることを監視し、車がリモコン操作以外の方法で開けられたときや、ウインドウを割って中からドアを開けるなどの異常事態やけん引などにより車両が傾くのを感知すると、サイレンと非常点滅灯の点滅で周囲に知らせます。

システムを待機状態にする

リモコン操作で車を施錠すると、スイッチの表示灯が点滅し、約10秒後に待機状態になります。システムが待機状態のときは、ドアロックスイッチの表示灯が点滅を続けます。

待機状態を解除する

リモコン操作で車を解錠すると、待機状態は解除されます。

警報の作動

システムが待機状態のとき、以下のような状況を感知すると警報が作動します。

- リモコン操作以外の方法で車が解錠され、ドアが開けられたとき
- リモコン操作以外の方法で車が解錠され、テールゲートが開けられたとき
- ボンネットが開けられたとき

バッテリーの接続が絶たれたときも、サイレンが鳴ります。

警報が作動したときの解除方法

キーの か を押すか、エンジンスイッチにキーを差します。

注　意！

- システムが待機状態のとき車内からドアやテールゲートを開くと警報が作動します。車内に人がいるときは待機状態にしないでください。
- 盗難防止警報システムを待機状態にしても、表示灯が点滅しない場合は、すみやかに指定サービス工場に連絡してください。

知　識

- リモコン操作で施錠した後、エマージェンシーキーで運転席ドアやテールゲートを解錠して開くと、警報が作動します。
- ドアやテールゲート、ボンネットなどを開いて警報が作動したときは、それらをすぐに閉じても、警報は解除されません。

けん引防止警報機能

盗難防止警報システムが待機状態のとき、けん引などで車が持ち上げられ車が傾くと、けん引防止警報機能が働き、サイレンと非常点滅灯の点滅で周囲に知らせます。

システムを待機状態にする

リモコン操作で車を施錠すると、スイッチの表示灯が点滅し、約30秒後に待機状態になります。
リモコン操作で車を解錠すると、待機状態が解除されます。

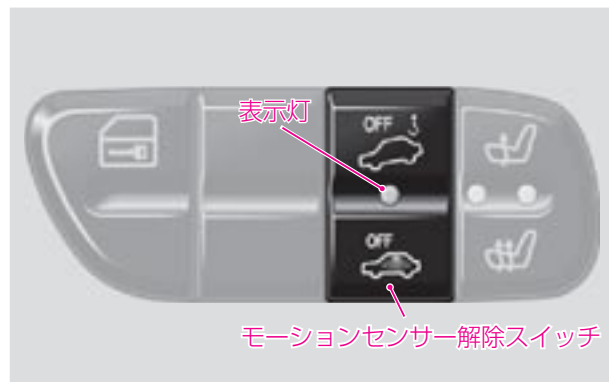
警報が作動したときの解除方法

キーの🔓か🔒を押すか、エンジンスイッチにキーを差します。

車を立体駐車場に入れたり、カーフェリーや車両運搬車に乗せて移動するときは、けん引防止警報機能が作動することがあります。そのようなときはけん引防止警報機能を解除してから施錠してください。

けん引防止警報機能の解除

1　エンジンスイッチを**0**か**1**の位置にします。またはキーを抜きます。
2　けん引防止警報機能解除スイッチを押します。表示灯が約2秒間点灯し、その後消灯して、けん引防止警報機能が解除されます。
3　リモコン操作で車を施錠します。

上記の操作で盗難防止警報システムのけん引防止警報機能が解除され、車が傾いても警報が作動しなくなります。
ただし、盗難防止警報システムは作動します。

モーションセンサー
車内の状態を監視し、ウインドウが割られたり、車内での人の動きなどを感知すると、サイレンと非常点滅灯の点滅で周囲に知らせます。
モーションセンサーは車内のルーフ中央部にあります。

システムを待機状態にする
リモコン操作で車を施錠すると、スイッチの表示灯が点滅し、約40秒後に待機状態になります。
リモコン操作で車を解錠すると、待機状態が解除されます。

警報が作動したときの解除方法
キーの[解錠]か[施錠]を押すか、エンジンスイッチにキーを差します。

注　意！

- ルームミラーにアクセサリーなどをぶら下げたままモーションセンサーを待機状態にしないでください。モーションセンサーが誤作動するおそれがあります。
- アームレストの上に物を置いたままモーションセンサーを待機状態にしないでください。モーションセンサーが正常に作動しなくなるおそれがあります。

車内に人が残る場合などは、モーションセンサーを解除してから車を施錠してください。

モーションセンサーの解除
1 エンジンスイッチを**0**か**1**の位置にします。またはキーを抜きます。
2 モーションセンサー解除スイッチを押します。表示灯が数秒間点滅し、その後消灯して、モーションセンサーが解除されます。
3 リモコン操作で車を施錠します。

⚠ 警　告

子供だけを車内に残して車を離れないでください。誤って装置を作動させたりして、けがをするおそれがあります。また、炎天下では車内が非常に高温になり、熱射病や脱水症状を起こすおそれがあります。

パワーウインドウ

G 320 long / G 500 long / G 55 AMG long

ドアウインドウの開閉

ドアウインドウスイッチは各ドアにあります。
運転席ドアには、すべてのドアウインドウスイッチがあります。
エンジンスイッチが**1**か**2**の位置のときに操作できます。

知　識

リモコン操作でドアウインドウを開閉することができます。詳しくは(55ページ)をご覧ください。

開く　：スイッチを軽く押すと、押している間だけ開きます。スイッチから手を放すとドアウインドウはその位置で停止します。
スイッチをいっぱいに押し込むと、自動で開きます。途中でスイッチを軽く操作すると、ドアウインドウはその位置で停止します。

閉じる：スイッチを引くと、引いている間だけ閉じます。スイッチから手を放すとドアウインドウはその位置で停止します。

注　意！

ウインドウを閉じるときは、身体や物などを挟まないように注意してください。特に子供には注意してください。

セーフティスイッチ＊を●の見える位置(右にスライド)にすると、リアドア＊のスイッチでドアウインドウを開閉することができなくなります。子供をリアシートに乗せるときに使用してください。

＊オプションまたは仕様により装備が異なります

スライディングルーフ＊

エンジンスイッチが**1**か**2**の位置のときに操作できます。

スライディングルーフの開閉
スイッチを押している間スライディングルーフが動きます。スイッチから手を放すと止まります。

開く　：①の方向に軽く押します。
②の方向にいっぱいに押し込むと、自動で開きます。途中でスイッチをいずれかの方向に操作すると、スライディングルーフはその位置で停止します。
閉じる：③または⑤の方向に軽く押します。

チルトアップ / チルトダウン
チルトアップ：④の方向に押します。
チルトダウン：⑤の方向に引きます。

知　識
リモコン操作でスライディングルーフを開閉することができます。詳しくは(55ページ)をご覧ください。

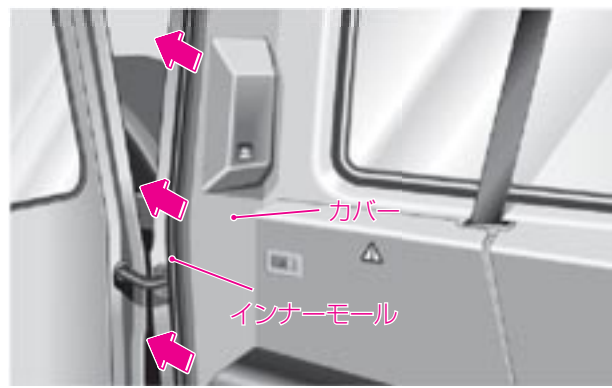
自動で開かないとき
バッテリーあがりやバッテリー交換などで、一時的に電源が断たれたときは、スライディングルーフが自動で全開しないことがあります。このときは、スイッチを④の方向に押してチルトアップし、そのまま約2秒以上保持してください。再びスライディングルーフが自動で全開できるようになります。

＊オプションまたは仕様により装備が異なります

注　意！

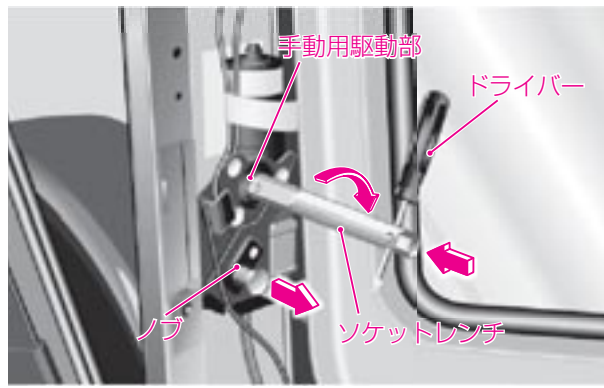
- 走行中はスライディングルーフから身体を出さないでください。けがをするおそれがあります。
- スライディングルーフを閉じるときは、身体などを挟まないように注意してください。特に子供には注意してください。
- スライディングルーフの開口部に腰をかけたり、荷物を載せたりして大きな力を加えないでください。スライディングルーフを損傷するおそれがあります。
- 車から離れるときや洗車のときは、ドアウインドウとスライディングルーフが完全に閉じていることを確認してください。
- スライディングルーフの開口部から、角の尖った物を出し入れしないでください。スライディングルーフのシール部を損傷するおそれがあります。
- 降雨後や積雪後にスライディングルーフを開くときは、ルーフ上の水や雪などを取り除いてください。車内に水や雪などが入るおそれがあります。

知　識

スライディングルーフを開いて走行しているとき、走行風の影響などで空気の振動を感じる場合は、スライディングルーフの開度を変えるかドアウインドウを少し開くと、解消することがあります。

スイッチで開閉できないとき

バッテリーあがりを起こしたり、スライディングルーフが故障してスイッチで閉じることができないときは、手動で閉じることができます。

手動で閉じるとき

1 インナーモールを取り外し、カバーを外します。G 320は、小物入れ内のカバーの取り付けネジを外してからカバーを外します。
2 ノブを手前に引きます。
3 車載工具のソケットレンチを駆動部（六角形のボルト）に差し込みます。
4 ソケットレンチの穴にドライバーを差し込み、ソケットレンチが抜けないように駆動部をまわします。

開いているルーフを閉じるとき

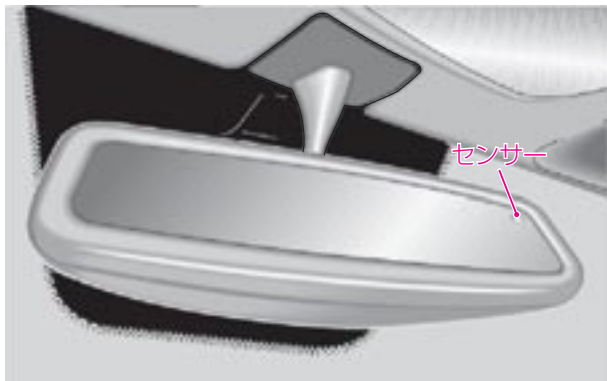
時計回りにまわします。

チルトアップしているルーフを下げるとき

時計回りにまわします。

注　意！

- ソケットレンチは確実に奥に差し込んでください。差し込みが十分でないと、駆動部を損傷するおそれがあります。
- 無理にまわさないでください。スライディングルーフを損傷するおそれがあります。

ルームミラー

角度の調整

手で調整します。

⚠ 警　告

走行前に後方視界が十分に確保できるように、調整してください。走行中に調整すると、事故を起こすおそれがあります。

自動防眩機能

エンジンスイッチが**1**か**2**の位置のとき、夜間、ルームミラーのセンサーが後続車のライトを受けると、自動的にルームミラーの濃度が変わり眩しさを防止します。

知　識

- ルームミラーのセンサーに後方からのライトが当たらないときは自動的に防眩しないことがあります。
- セレクターレバーが R に入っているときやフロントルームランプが点灯しているときは自動的に防眩が解除されます。

注　意！

- ミラーのガラスが破損すると、液体が漏れ出すことがあります。この液体は物を腐食させる性質がありますので、皮膚や目に直接触れないよう注意してください。万一、液体が目に入ったときは、ただちに清潔な水で5分以上洗い流し、医師の診断を受けてください。
- 液体が車の塗装面に垂れたときは、ただちに水で湿らせた布などで拭き取ってください。塗装面を傷めるおそれがあります。

ドアミラー

角度の調整

エンジンスイッチが**1**か**2**の位置のときに調整できます。

1 調整したい側のドアミラー選択ボタンを押します。
2 調整スイッチを操作してドアミラーの角度を調整します。

⚠ 警　告

走行前に、後方が十分確認できるように調整してください。走行中に調整すると、事故を起こすおそれがあります。

自動防眩機能

エンジンスイッチが**1**か**2**の位置のとき、夜間、ルームミラーのセンサーが後続車のライトを受けると、自動的にドアミラーの濃度が変わり眩しさを防止します。

注　意！

- ドアミラーに写った像は実際よりも遠くにあるように見えます。ドアミラーで後方を確認するときは十分注意してください。
- ドアミラーには死角があります。車線変更をするときは、必ずルームミラーで後方を確認してください。また、肩ごしに直接斜め後方を確認してください。

知　識

- ドアミラーにはヒーターが装着されています。外気温度が下がると自動的に温められ、凍結を防ぎます。
- ドアミラーの角度は、運転席シートやステアリングの位置と併せて記憶させることができます(62ページ)。
- ルームミラーのセンサーに後方からのライトが当たらないときは自動的に防眩しないことがあります。
- セレクターレバーが**R**に入っているときやフロントルームランプが点灯しているときは自動的に防眩が解除されます。

後退時の助手席ドアミラーの角度

セレクターレバーを R に入れたときに、助手席ドアミラーが自動的に下向きになり、車両後方下部の視界を確保して後退を容易にすることができます。マルチファンクションステアリングで設定したり解除することができます。エンジンスイッチが**2**の位置のときに作動します。

助手席ドアミラーは次のいずれかのときに元の位置に戻ります。

- セレクターレバーを R の位置から他の位置に入れて約10秒経過したとき
- 車速が約10km/h以上になったとき
- 運転席ドアミラー選択ボタンを押したとき

この機能の設定については(135ページ)をご覧ください。

後退時の助手席ドアミラーの角度を記憶させる

後退時の助手席ドアミラーの角度を調整し、記憶させることができます。記憶させるときは、エンジンスイッチを**2**の位置にして、ブレーキペダルを踏み、以下の操作をします。

1 助手席ドアミラー選択ボタンを押します。
2 調整スイッチで、後退時に自分が後方を確認しやすい角度にドアミラーを調整します。
3 メモリースイッチを押し、約3秒以内に調整スイッチをいずれかの方向に押します(このときミラーは動きません)。ミラーが動いたときは最初からやり直してください。

この後セレクターレバーを R に入れると、助手席ドアミラーの角度がこのとき調整された位置になります。

注　意！

走行するときは、ドアミラーを元の位置に戻してください。

知　識

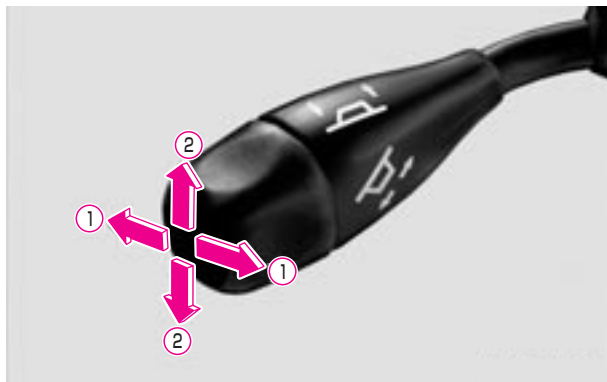
運転席ドアミラー選択ボタンが押されているときは、助手席ドアミラーは自動的に下向きにはなりません。

ドアミラーの格納 / 展開

手で格納 / 展開します。

注　意！

- 走行するときはドアミラーを走行時の位置に戻してください。
- ドアミラーを動かしているときは、手を挟んだり、異物が挟まらないように注意してください。車の周りに子供がいるときは、特に注意してください。
- 洗車機を使用するときはドアミラーを格納してください。ドアミラーを損傷するおそれがあります。
- ドアミラーは車体の側面から突き出ています。すれ違いや車庫入れのとき、また、歩行者などに十分注意してください。
- ドアミラーの汚れを取るときは、必ず純正のガラスクリーナを使用してください。ミラーが変色するおそれがあります。

ステアリング

ステアリング位置の調整
エンジンスイッチが**1**か**2**の位置のとき、または運転席ドアが開いているときにステアリングの位置を調整することができます。レバーはステアリングの左側下部にあります。

前後位置の調整：レバーを①の方向に操作します。
上下位置の調整：レバーを②の方向に操作します。

知　識

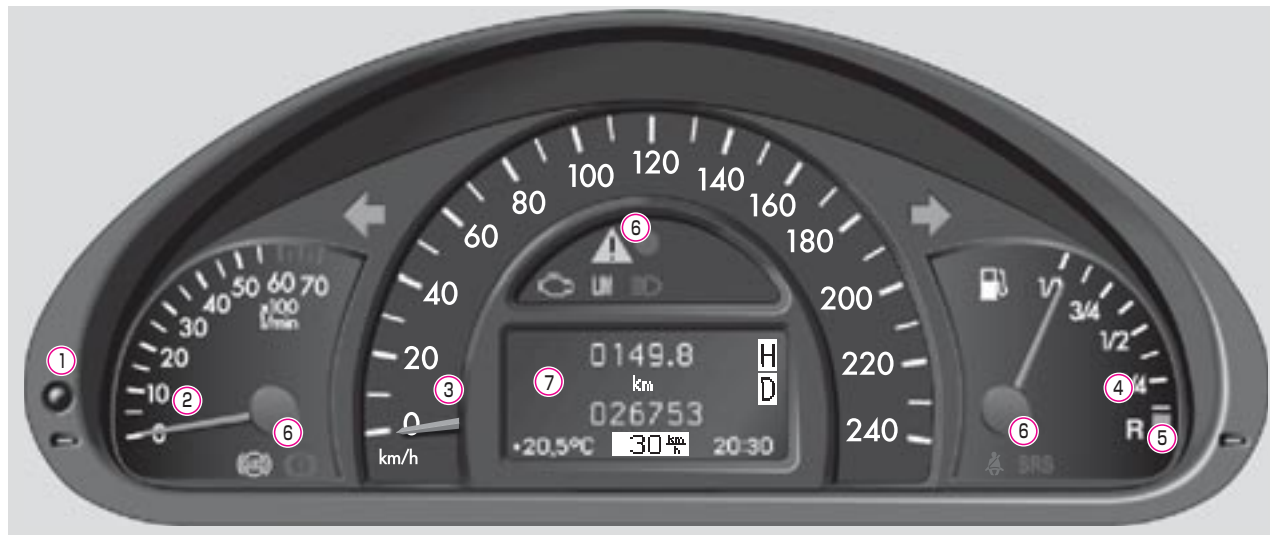
ステアリングの位置は、運転席シートの位置やドアミラーの角度と併せて記憶(62ページ)させることができます。

⚠ 警　告

- **ステアリングの調整は、必ず運転前に行なってください。運転中に調整すると、車のコントロールを失い、事故を起こすおそれがあります。**
- **運転中はステアリングのパッド部を持たないでください。万一のとき、エアバッグの作動を妨げるおそれがあります。**
- **ステアリングのパッド部にカバーをしたり、エアバッグの上にバッジ、ステッカー、オーディオのリモコンなどを貼り付けないでください。エアバッグの作動を妨げたり、作動時にけがをするおそれがあります。**

注　意！

- ステアリングをいっぱいに切った状態を長く保たないでください。ステアリング装置を損傷するおそれがあります。
- 故障などでエンジンを停止してけん引されるときは、十分注意してください。エンジンが停止していると、通常のときに比べてステアリング操作に非常に大きな力が必要です。

メーターパネル

メーターパネルのディスプレイは以下のときに点灯します。

- 運転席のドアを開いたとき(約30秒後に消灯)
- リセットボタンを押したとき(約30秒後に消灯)
- エンジンスイッチを**1**か**2**の位置にしたとき
- 車外ランプをオンにしたとき

① メーター照度調節ボタン / リセットボタン

メーター照度調節ボタン
周囲が暗いときに明るさを調整することができます。ボタンを時計回りにまわすと明るくなり、反時計回りにまわすと暗くなります。

リセットボタン
トリップメーターや各種設定をリセットするときに使用します。

② タコメーター
1分間あたりのエンジン回転数を表示します。

③ スピードメーター
車の走行速度を表示します。

④ 燃料計
燃料の残量を表示します。
燃料タンク容量は約95リットルです。

注　意！

給油のときはエンジンを停止してください。

⑤ 燃料残量警告灯
燃料の残量が少なくなると点灯します。加えて、マルチファンクションディスプレイに“ﾈﾝﾘｮｳ ｷｭｳﾕ ｼﾃｸﾀﾞｻｲ”と表示されます。警告灯が点灯したときの残量は約13リットルです。

知　識

走行前に燃料の残量が十分あることを確認してください。高速道路や自動車専用道路などでの燃料切れは道路交通法違反になります。

⑥ **表示灯と警告灯**

エンジンスイッチを**2**の位置にすると点灯し、エンジン始動後に消灯します。
消灯しなかったり、走行中に点灯したときは、安全な場所に停車し、指定サービス工場に連絡してください。

ハイビーム表示灯(167ページ)

方向指示表示灯(169ページ)

可変スピードリミッター表示灯(188ページ)

エンジン警告灯(290ページ)

シートベルト警告灯(37、289ページ)

SRS
エアバッグシステム警告灯(40、289ページ)

ブレーキ警告灯(176、289、292ページ)

ABS警告灯(179、288ページ)

ESP表示灯(182、288ページ)

⑦ **マルチファンクションディスプレイ**

各種設定画面や警告などを表示します。
運転席ドアを開くと表示され、約30秒後に消灯します。
エンジンスイッチを**1**か**2**の位置にすると表示されたままになります。

知　識

エンジンスイッチが**0**の位置のとき、またはキーを差し込んでいないときにマルチファンクションディスプレイを表示させたいときは、リセットボタンを押してください。約30秒間表示させることができます。

マルチファンクションディスプレイ

注　意！

走行中にステアリングスイッチを操作するときは、直進時に限って行なってください。ステアリングをまわしながらスイッチを操作すると、事故を起こすおそれがあります。

ステアリングのスイッチ

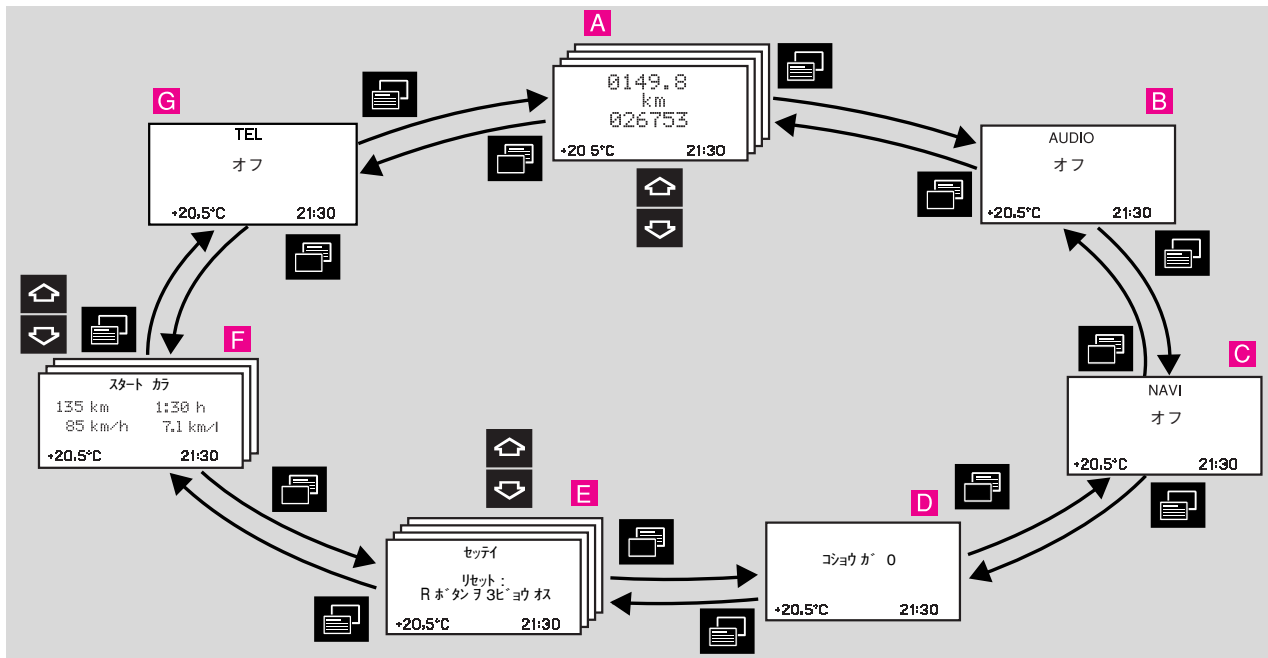
マルチファンクションディスプレイの表示を切り替えたり設定を変更するときは、ステアリングのスイッチを使用します。

① **、表示切り替えスイッチ**
メイン画面を選択します。

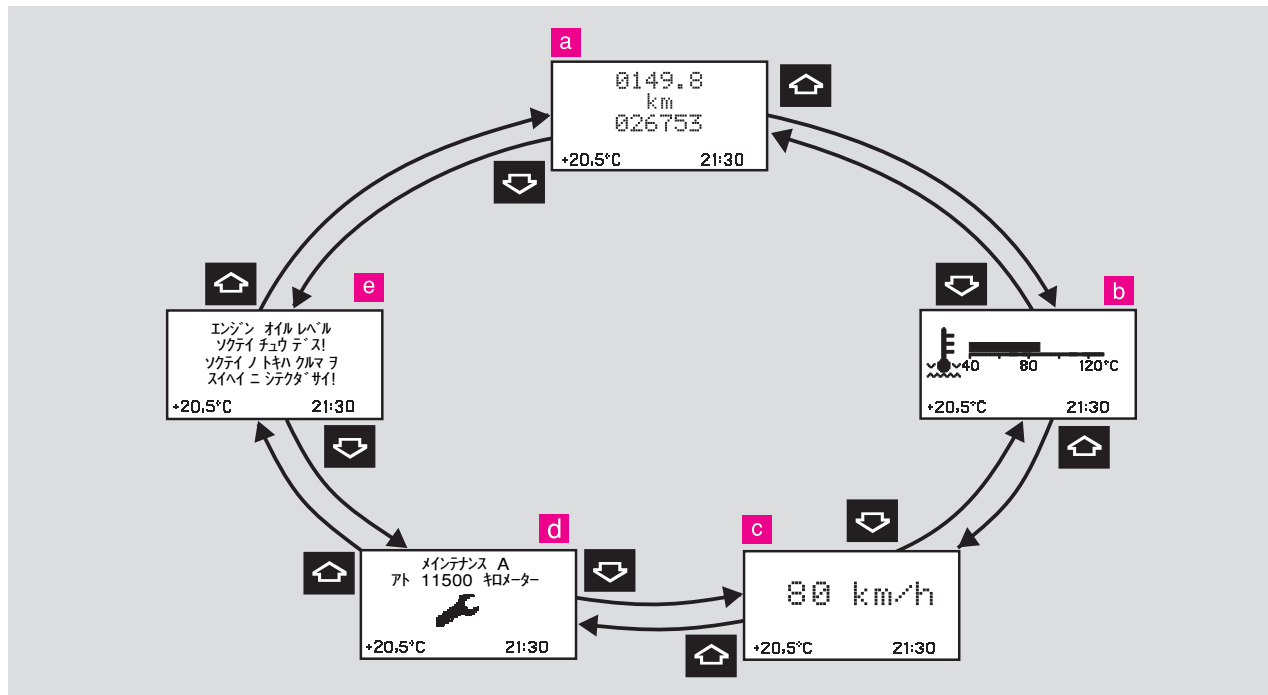
② **、スクロールスイッチ**
選択したメイン画面内のサブ画面を切り替えます。

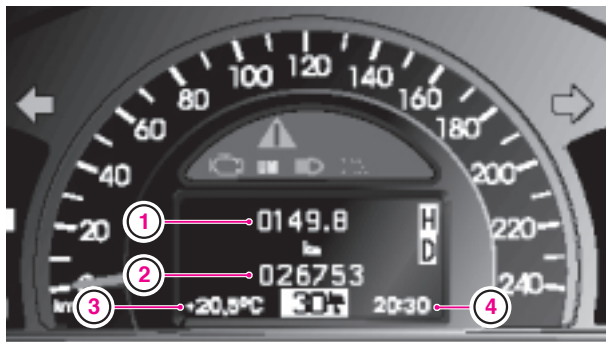
③ **＋、－ 設定スイッチ / 音量スイッチ**
サブ画面表示中に、設定項目を選択したり、機能のON / OFFを選択します。
各メイン画面とオーディオ画面表示中に操作すると、音量を調整できます。

④ **通話開始スイッチ(電話)**
⑤ **通話終了スイッチ(電話)**

電話の操作については、別冊「マルチファンクションコントローラー」の取扱説明書をお読みください。

メイン画面一覧
マルチファンクションディスプレイでは、車の情報や故障の表示および各種の設定をすることができます。
以下のように主要な機能が7つあります。

- **A 車両情報(106ページ)**
- **B オーディオ(115ページ)**
- **C ナビゲーション・進行方向表示(116ページ)**
- **D 故障表示(117ページ)**
- **E 各種設定(118ページ)**
- **F トリップコンピューター(136ページ)**
- **G 電話(138ページ)**

※マルチファンクションディスプレイに表示されるメッセージの表記などは、予告なく変更されることがあります。

A 車両情報

※上記の内容は取扱説明書作成時点のもので、予告なく変更されることがあります。

a 車両情報メイン画面
（トリップメーター、オドメーター、外気温度 / 走行速度表示、時計）

① **トリップメーター**
リセット後の走行距離を表示します。リセットするときは、「0000.0」になるまでリセットボタンを押し続けます。

② **オドメーター**
これまで走行した距離の総合計を表示します。

③ **外気温度 / 走行速度表示**
外気温度または走行中の速度を表示します。

⚠ 警　告

温度表示が0℃以上でも、路面が凍結していることがあります。走行には十分注意してください。

注　意！

外気温度の上昇や下降は、少し遅れて表示に反映されます。

知　識

温度をフロントバンパー付近で測定しているため、温度表示は路面からの輻射熱などの影響を受けます。したがって、温度表示が実際の外気温度と異なることがあります。

④ **時計**
時刻を表示します。

b 冷却水温度画面
エンジンスイッチが2の位置のとき、エンジンの冷却水温度を表示します。

1 [ボタン]または[ボタン]を押して、車両情報メイン画面を表示させます。
2 [↑]または[↓]を押して、冷却水温度画面を表示させます。

知　識

- 指定の冷却水を適切な混合比で使用しているときは、約130℃までオーバーヒートを起こしません。
- 暑い日の渋滞時や上り坂が続くときなどに、120℃付近を示すことがありますが、オーバーヒート警告が表示されない限り、問題ありません。
- 冷却ファンが故障したときは、故障 / 警告メッセージが表示されます(294ページ)。

走行速度表示画面

外気温度表示画面

C 走行速度 / 外気温度表示画面

走行中の速度、または外気温度を表示します。表示の切り替えは各種設定の "インストゥルメント パネル" の "車両情報メイン画面の表示設定画面" (125ページ)で行ないます。

1 または を押して、車両情報メイン画面を表示させます。

2 または を押して、走行速度 / 外気温度表示画面を表示させます。

知　識

走行速度の単位表示をkm/h表示またはmph表示に切り替えることができます(124ページ)。

d **メンテナンスインジケーター画面**
走行距離や経過時間などに応じて、メーカー指定点検整備の実施時期を表示します。メンテナンスインジケーターが表示されたときは、メーカー指定点検整備を行なってください。

手動で確認する
エンジンスイッチが**1**か**2**の位置のときに表示されます。

1 または を押して、車両情報メイン画面を表示させます。
2 または を押して、メンテナンスインジケーター画面を表示させます。

自動表示機能
次のメーカー指定点検整備実施日の約10日前か約1,000km前になると、エンジンスイッチを**2**の位置にしたときや走行中に、メンテナンスインジケーター画面が自動的に表示されます。

表示メッセージ
表示メッセージは、日頃の運転スタイルなどに応じて以下のように変化します。

- **点検実施前**
  “ﾒｲﾝﾃﾅﾝｽ A ｱﾄ XX ﾆﾁ”
  “ﾒｲﾝﾃﾅﾝｽ B ｱﾄ XX ﾆﾁ”
  “ﾒｲﾝﾃﾅﾝｽ A ｱﾄ XX ｷﾛﾒｰﾀｰ”
  “ﾒｲﾝﾃﾅﾝｽ B ｱﾄ XX ｷﾛﾒｰﾀｰ”
- **点検実施時期になったとき**
  “ﾒｲﾝﾃﾅﾝｽ A ｼﾞｯｺｳ ｼﾃｸﾀﾞｻｲ”
  “ﾒｲﾝﾃﾅﾝｽ B ｼﾞｯｺｳ ｼﾃｸﾀﾞｻｲ”
- **実施時期を過ぎたとき**
  実施時期を過ぎたときは、以下のメッセージとともに警告音が鳴ります。
  “ﾒｲﾝﾃﾅﾝｽ A XX ﾆﾁ ｦ ｺｴﾏｼﾀ”
  “ﾒｲﾝﾃﾅﾝｽ B XX ﾆﾁ ｦ ｺｴﾏｼﾀ”
  “ﾒｲﾝﾃﾅﾝｽ A XX ｷﾛﾒｰﾀｰ ｦ ｺｴﾏｼﾀ”
  “ﾒｲﾝﾃﾅﾝｽ B XX ｷﾛﾒｰﾀｰ ｦ ｺｴﾏｼﾀ”

画面は約30秒後に表示前の画面に戻ります。
表示中に画面を戻すときは、リセットボタンを押します。

注　意！

- メンテナンスインジケーターは、エンジンオイル量表示やエンジンオイル量の警告表示ではありません。
- メーカー指定点検整備を指定の時期までに行なわなかった場合は、保証などの対象外になることがあります。

知　識

- "ﾒｲﾝﾃﾅﾝｽ A" または "ﾒｲﾝﾃﾅﾝｽ B" は、次回のメーカー指定点検整備の内容を示すもので、どちらが表示されるかは日頃の運転スタイルや走行距離などにより異なります。詳しくは整備手帳をご覧ください。
- メーカー指定点検整備の実施時期までの走行距離は、一定ではなく、運転スタイルなどにより変わります。エンジン回転数を適度に保ち、短距離短時間の運転を避けると、次の実施時期までの距離が伸びることがあります。
- バッテリーの接続を外している間の経過日数は、加算されません。

リセット

メーカー指定点検整備後に、整備を実施した指定サービス工場でメンテナンスインジケーターをリセットします。
点検整備を指定サービス工場以外で実施した場合は、メンテナンスインジケーターをリセットすることが必要です。

リセット後、次回メーカー指定点検整備までの基本サイクルは、走行距離では15,000km、日数では365日に設定されます。

注　意！

メンテナンスインジケーターの表示などに異常を感じるときは、すみやかに指定サービス工場で点検を受けてください。

e エンジンオイル量点検画面
エンジンオイルの量を点検し、表示します。

注　意！
運転前に必ずエンジンオイルの量を点検してください。

エンジンオイル量の点検

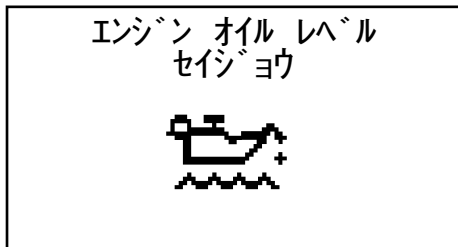
1　車を安全で水平な場所に停車します。
2　エンジンを始動し、エンジンオイルを温めます。
3　エンジンを停止し、約5分待ちます。
4　エンジンスイッチを2の位置にします。

知　識
画面に "ｴﾝｼﾞﾝ ｵｲﾙ ﾚﾍﾞﾙﾉ ﾀﾒﾆ ｲｸﾞﾆｯｼｮﾝ ｵﾝ!" と表示されたときは、エンジンスイッチを2の位置にしてください。

5　[button] または [button] を押して、車両情報メイン画面を表示させます。
6　[button] または [button] を押して、エンジンオイル量点検画面を表示させます。
"ｴﾝｼﾞﾝ ｵｲﾙ ﾚﾍﾞﾙ ｿｸﾃｲ ﾁｭｳ ﾃﾞｽ! ｿｸﾃｲ ﾉ ﾄｷﾊ ｸﾙﾏ ｦ ｽｲﾍｲ ﾆ ｼﾃｸﾀﾞｻｲ!" と表示されます。

知　識
エンジンを停止してからの待ち時間が足りないときは、"ﾏﾁｼﾞｶﾝ ｦ ﾏﾓｯﾃ ｸﾀﾞｻｲ" と表示されることがあります。

点検結果に応じ、以下のいずれかのメッセージが表示されます。

ｴﾝｼﾞﾝ ｵｲﾙ ﾚﾍﾞﾙ
ｾｲｼﾞｮｳ

このときは、エンジンオイル量は適正です。

ｴﾝｼﾞﾝ ｵｲﾙ ﾚﾍﾞﾙ
1.0 ﾘｯﾀｰ ﾂｲｶ ｼﾃｸﾀﾞｻｲ

このときは、エンジンオイルを約1.0リットル補給してください。

知　識

- エンジンオイルの量に応じて、表示される数値が変わります。
- エンジンオイルの補給は(254ページ)をご覧ください。

エンジン オイル レベル
オイル ヲ ヌイテクダサイ

このときは、エンジンオイルの量が多すぎます。運転を中止し、エンジンオイルの量を適正にしてください。

注　意！

エンジンオイルが多すぎると、エンジンや三元触媒コンバーターを損傷するおそれがあります。

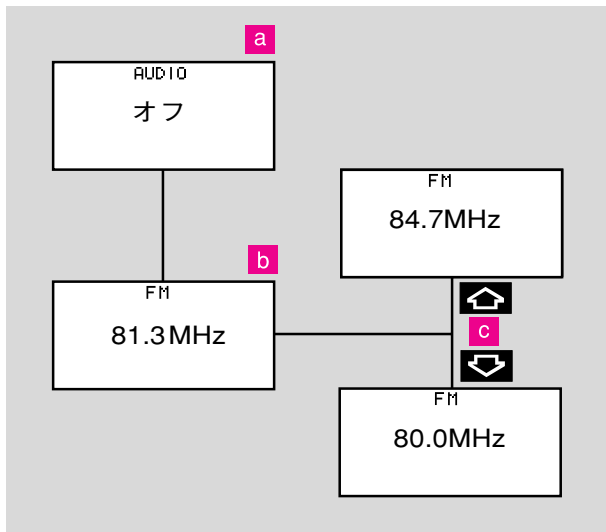
マチジカン ヲ マモッテ クダサイ

このときは、エンジンオイルレベルが安定していません。約30分ほど待ち、オイルレベルが安定してから点検をやり直してください。

注　意！

- 万一、点検をやり直しても結果が表示されないときは、エンジンオイルレベルゲージでエンジンオイル量を点検してください(254ページ)。
- エンジンがかかっているときに、エンジンオイルに関する故障 / 警告メッセージが表示されたときは(296ページ)をご覧ください。

知　識

エンジンがかかっているときは、エンジンオイル量を点検できません。マルチファンクションディスプレイに"ｴﾝｼﾞﾝ ｵｲﾙ ﾚﾍﾞﾙ ｴﾝｼﾞﾝ ﾃｲｼﾁｭｳ ﾉﾐ！" と表示されます。

B オーディオ

オーディオ(ラジオ、CDなど)の使用時にそれぞれの情報を表示します。
オーディオのメイン画面表示中に、▲または▼を押すと、ラジオの選局、CDの選曲などを操作できます。

音量調整

オーディオ画面と、他のメイン画面表示中のときに、＋または－を押すと、音量を調整できます。

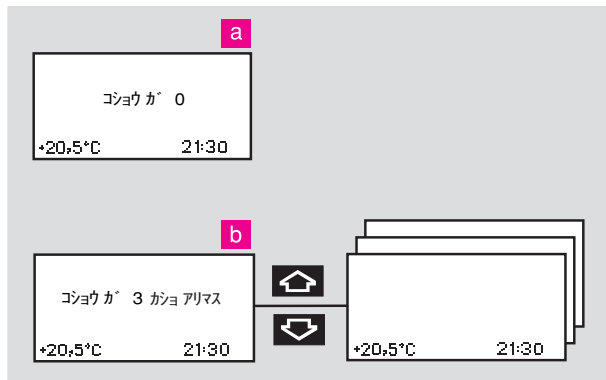
知　識

- ラジオの選局は、周波数での選局とプリセット番号での選局のいずれかが選択できます。選局方法の変更は(131ページ)をご覧ください。
- オーディオについては、別冊の「マルチファンクションコントローラー」取扱説明書をお読みください。

C ナビゲーション・進行方向表示

マルチファンクションコントローラーのナビゲーション機能で目的地を設定したときに、ルート案内をマルチファンクションディスプレイに表示することができます。
ルート案内を行なっていないときは、画面に進行方向の方位が表示されます。

詳細については、別冊「マルチファンクションコントローラー」の取扱説明書をお読みください。

D 故障表示

故障や異常が起きたとき、車の状況をメッセージで表示します。

a 故障はありません

b 故障件数画面(この例では「3件」あります)

手動で確認する

エンジンスイッチが1か2の位置のときに表示されます。

1 ▭または▭を押して、故障表示メイン画面を表示させます。
故障がないときは "ｺｼｮｳ ｶﾞ 0" と表示されます。
故障があるときは、故障件数が数字で表示されます。

2 故障があるときは、⇧または⇩を押すと、故障メッセージ画面を表示できます。すべて表示されると、故障件数画面 b に戻ります。

自動表示機能

走行中に故障が起きたときは、停車後エンジンスイッチを0の位置に戻したとき、またはキーを抜き取ると、故障件数画面 b が自動的に表示されます。

リセット

エンジンスイッチを0の位置にすると、重要度の高いメッセージを除き、故障メッセージの表示が消えます。ただし、故障状況が変わらないときは、次にエンジンスイッチを1か2の位置にしたとき、再びメッセージが表示されます。

注　意！

- 故障 / 警告メッセージの対象範囲は限られており、すべての故障を検知するものではありません。故障 / 警告メッセージは、運転者を支援するものであり、発生した故障について責任を負うものではありません。
- 故障 / 警告メッセージが表示されたときは、必ず指定サービス工場で点検を受けてください。
- 表示される故障 / 警告メッセージについては、(291ページ～)をご覧ください。

E 各種設定

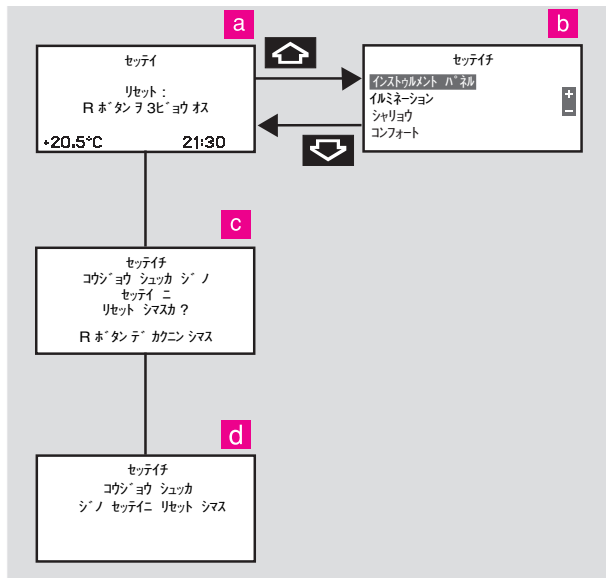
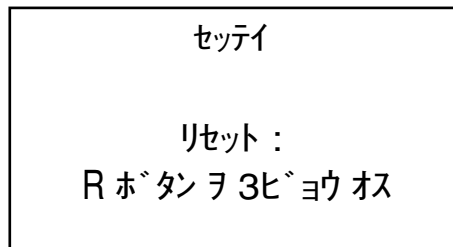
知　識

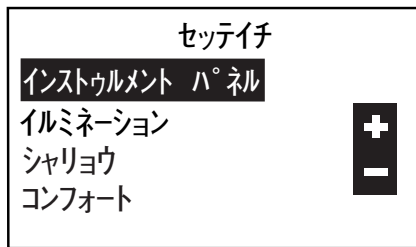
走行中でも設定を変更することができますが、安全のため、必ず停車中に操作してください。

※上記の内容は取扱説明書作成時点のもので、予告なく変更されることがあります。

a 各種設定メイン画面

セッテイ

リセット :
R ボ゛タン ヲ 3ビ゛ョウ オス

メイン画面を表示させる

または を押して、各種設定メイン画面を表示させます。

b 設定グループ選択画面

設定グループ選択画面を表示させる

各種設定メイン画面表示中に［▲］を押して、設定グループ選択画面を表示させます。

設定グループを選択する

1 ［＋］または［－］を押して、設定グループを選択します。
2 選択したグループ名を確認し、［▲］を押すと、選択したグループ内の最初の設定項目画面が表示されます。

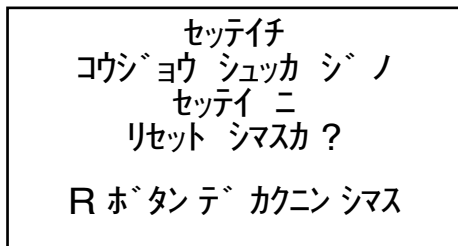
各種項目画面を選択する

選択した設定項目画面の数値や設定を変更することができます。

1 ［▲］または［▼］を押すと、次の設定画面が表示されます。
2 ［◀］または［▶］を押すと、次のメイン画面が表示されます。

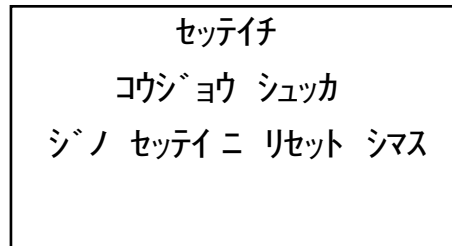
c 各種設定項目の初期化画面

セッテイチ
コウジョウ シュッカ ジ ノ
セッテイ ニ
リセット シマスカ ？

R ボタン デ カクニン シマス

各グループ内のすべての項目を工場出荷時の設定に初期化する(戻す)ことができます。

1 [ボタン] または [ボタン] を押して、各種設定メイン画面を表示させます。
2 リセットボタンを約3秒間押し続けます。
上記の初期化画面が表示されます。

d 各種設定項目の初期化完了画面

セッテイチ
コウジョウ シュッカ
ジ ノ セッテイ ニ リセット シマス

3 初期化画面の表示中(約5秒以内)に、もう1度リセットボタンを押します。
初期化を実行し、上記の初期化完了画面が表示されます。

知 識

- 初期化画面が表示されてから約5秒間リセットボタンを押さずにいると、各種設定メイン画面に切り替わります。
- 走行中にリセット操作をしても、安全のため、初期化されない項目もあります。

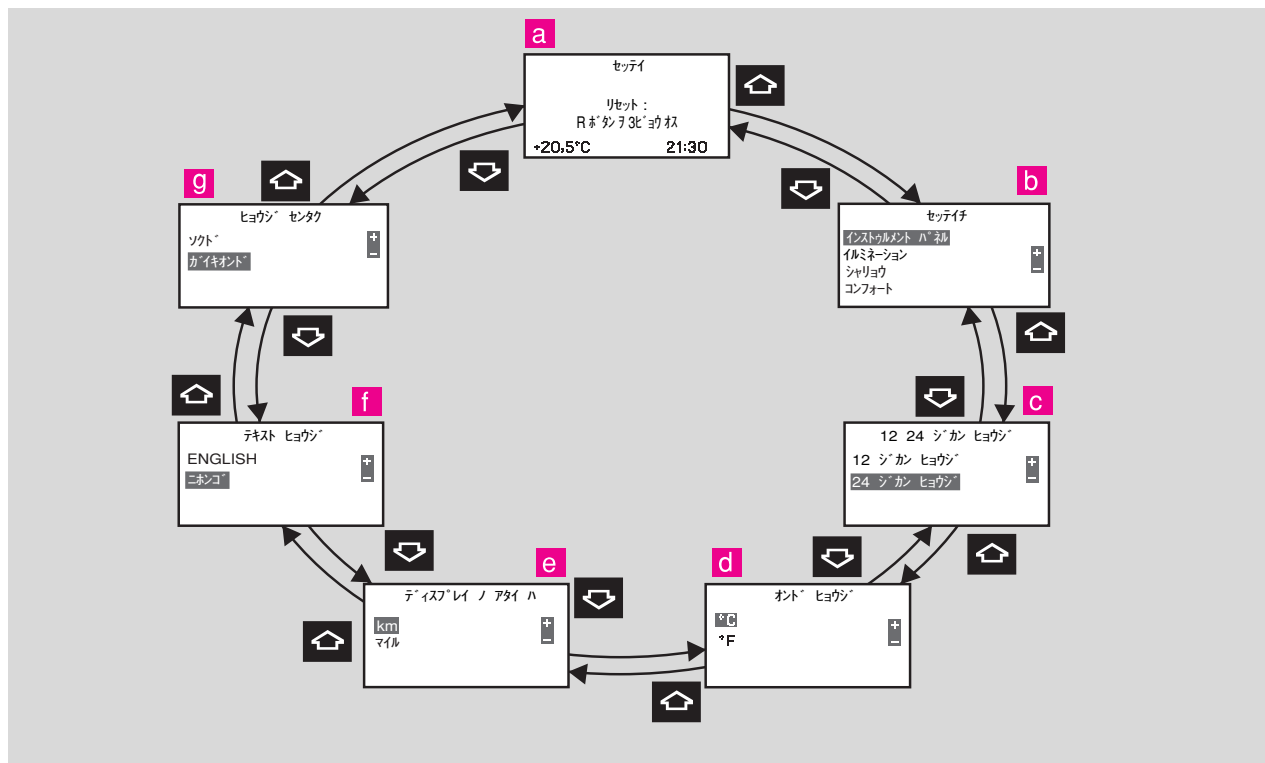
グループ別の項目を初期化する

インストゥルメントパネル、イルミネーション、シャリョウ、コンフォートの各グループごとの項目を工場出荷時の設定に初期化する(戻す)ことができます。

以下の例では、イルミネーショングループを初期化する手順を説明しています。

1 各種設定メイン画面 a を表示させます。
2 ⌂ を押して、設定グループ選択画面 b を表示させます。
3 ＋ または − を押して "ｲﾙﾐﾈｰｼｮﾝ" に反転表示を合わせます。
4 ⌂ または ⌂ を押して、いずれかの設定項目画面を表示させます。
5 リセットボタンを約3秒間押し続けます。
初期化画面が表示されます。
6 初期化画面の表示中(約5秒以内)に、もう1度リセットボタンを押します。
初期化を実行し、初期化完了画面が表示されます。

知　識

初期化画面が表示されてから約5秒間リセットボタンを押さずにいると、元の画面に切り替わります。

インストゥルメントパネル

※上記の内容は取扱説明書作成時点のもので、予告なく変更されることがあります。

設定グループ選択画面を表示させる

1 各種設定メイン画面を表示させせます(118ページ)。

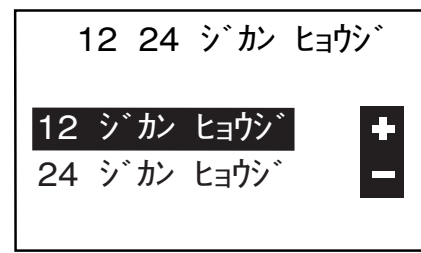
(118ページ)

2 各種設定メイン画面 a 表示中に ⌂ を押して、設定グループ選択画面 b を表示させせます。

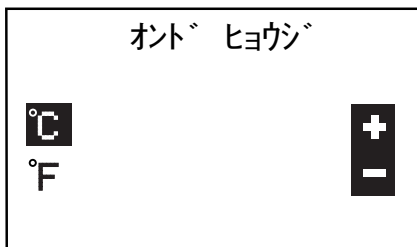
設定グループを選択する

1 ＋ または － を押して、インストゥルメントパネルを選択します。

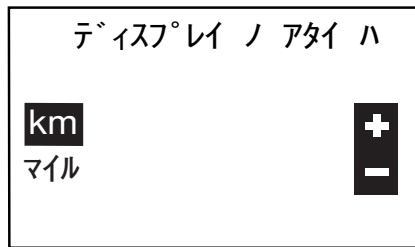
2 選択したグループ名を確認し、⌂ を押すと、選択したグループ内の最初の設定項目画面が表示されます。

c 時計表示設定画面

時計の表示方法の設定をすることができます。12時間表示、24時間表示のいずれかを選択します。

＋ または － を押して、反転表示を移動します。

d 温度単位設定画面

温度表示の単位の設定をすることができます。
摂氏(℃)表示、華氏(°F)表示のいずれかを選択します。

＋または－を押して、反転表示を移動します。

e スピードメーター単位設定画面

マルチファンクションディスプレイの走行速度の表示単位の設定をすることができます。
km(km/h)表示、マイル表示のいずれかを選択します。

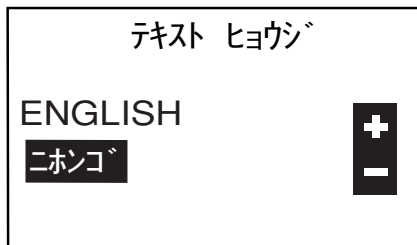
＋または－を押して、反転表示を移動します。

注　意！

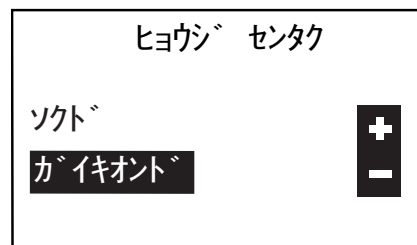
ディスプレイの表示単位がマイル表示になっていると、誤って速度を超過するおそれがあります。必ずkm(km/h)表示を選択してください。

知　識

1マイル(mph)は約1.6km/hです。マイルを選択するとトリップメーターなどもマイル表示になります。

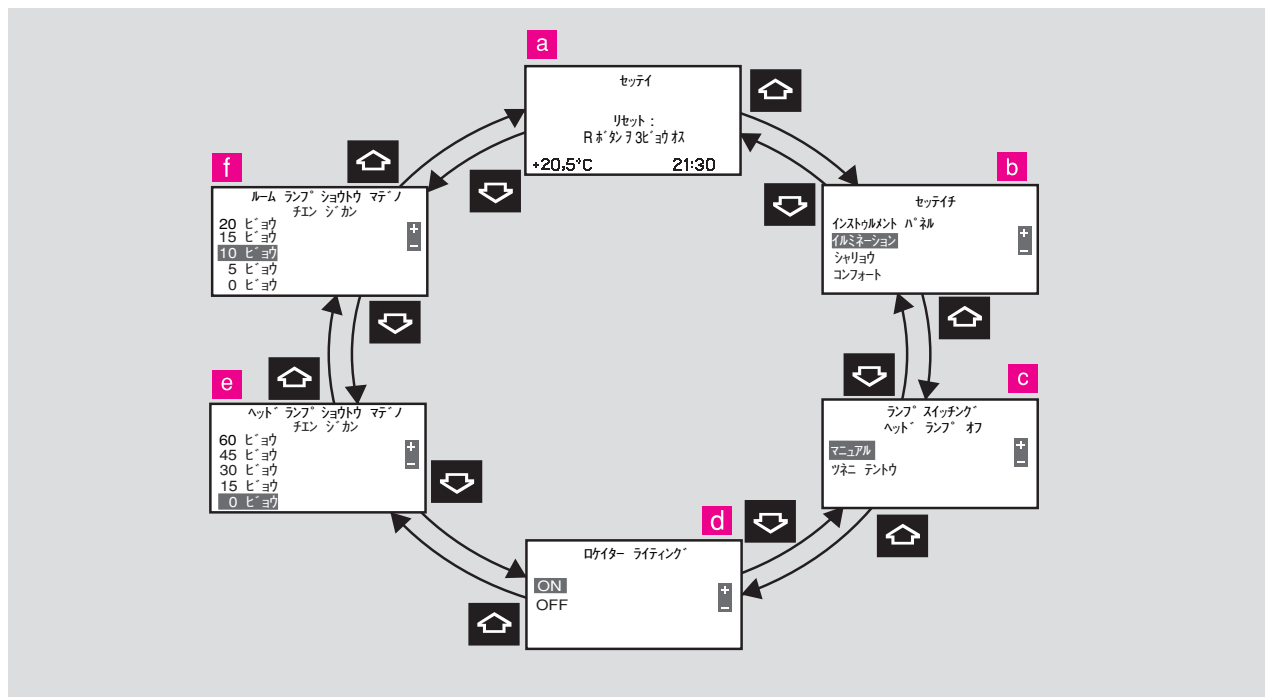
f ディスプレイ言語設定画面

ディスプレイに表示する言語(日本語 / 英語)の設定をすることができます。
ﾆﾎﾝｺﾞ、ENGLISHのいずれかを選択します。

＋または－を押して、反転表示を移動します。

g 車両情報メイン画面の表示設定画面

車両情報メイン画面の左下に表示する内容を設定することができます。
ｿｸﾄﾞ(走行速度)、ｶﾞｲｷｵﾝﾄﾞ(外気温度)のいずれかを選択します。

＋または－を押して、反転表示を移動します。

知　識

車両情報メイン画面の表示を切り替えると、走行速度 / 外気温度表示画面(109ページ)の表示も切り替わります。

イルミネーション

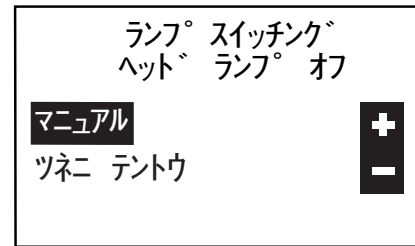
※上記の内容は取扱説明書作成時点のもので、予告なく変更されることがあります。

設定グループ選択画面を表示させる

1 各種設定メイン画面を表示させます(118ページ)。
2 各種設定メイン画面 a 表示中に ⌂ を押して、設定グループ選択画面 b を表示させます。

設定グループを選択する

1 ＋ または － を押して、イルミネーションを選択します。
2 選択したグループ名を確認し、⌂ を押すと、選択したグループ内の最初の項目設定画面が表示されます。

c ヘッドランプ点灯モード設定画面

ヘッドランプの点灯モードの設定をすることができます。

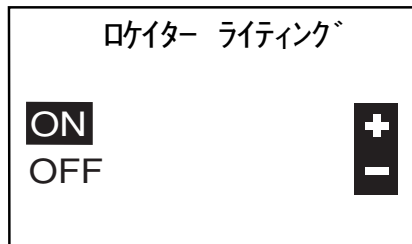
＋ または － を押して、反転表示を移動します。

マニュアル
日本ではこのモードを選択してください。
ヘッドランプなどを点灯するときはランプスイッチを操作します。

ツネニ テントウ
エンジンを始動すると、ヘッドランプなどが常に点灯します。

知　識

- 常時点灯モード(ﾂﾈﾆ ﾃﾝﾄｳ)は、走行中の昼間点灯が義務づけられている国に対応しています。日本では "ﾏﾆｭｱﾙ" に設定して使用してください。
- 常時点灯モード(ﾂﾈﾆ ﾃﾝﾄｳ)で自動的に点灯するランプは、ヘッドランプ(ロービーム)、車幅灯、テールランプ、ライセンスランプです。その他のランプを点灯するときは、各スイッチを操作してください。

d ロケイターライティング設定画面

周囲が暗いときにリモコン操作で解錠すると、ランプが点灯する機能の設定をすることができます。

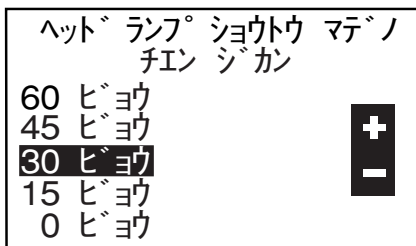
＋ または − を押して、反転表示を移動します。

ON

周囲が暗いときに、リモコン操作で解錠すると、車幅灯、フロントフォグランプ、テールランプ、ライセンスランプが点灯します。
ルームランプが自動点灯モードのときは、ドアミラーランプも点灯します。

OFF

ロケイターライティングは作動しません。

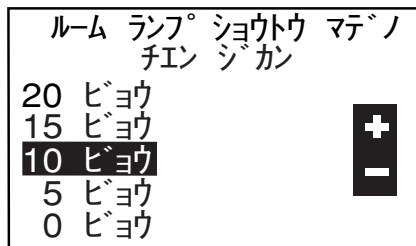
e 車外ランプ消灯遅延時間設定画面

周囲が暗いときにエンジンを停止すると、ヘッドランプなどが一定時間点灯する機能の設定をすることができます。

＋または－を押して、反転表示を移動します。

60、45、30、15ﾋﾞｮｳ
ドアまたはテールゲートを閉じてからそれぞれの時間経過後に、車幅灯、フロントフォグランプ、テールランプ、ライセンスランプが消灯します。

0ﾋﾞｮｳ
車外ランプ消灯遅延機能は働きません。

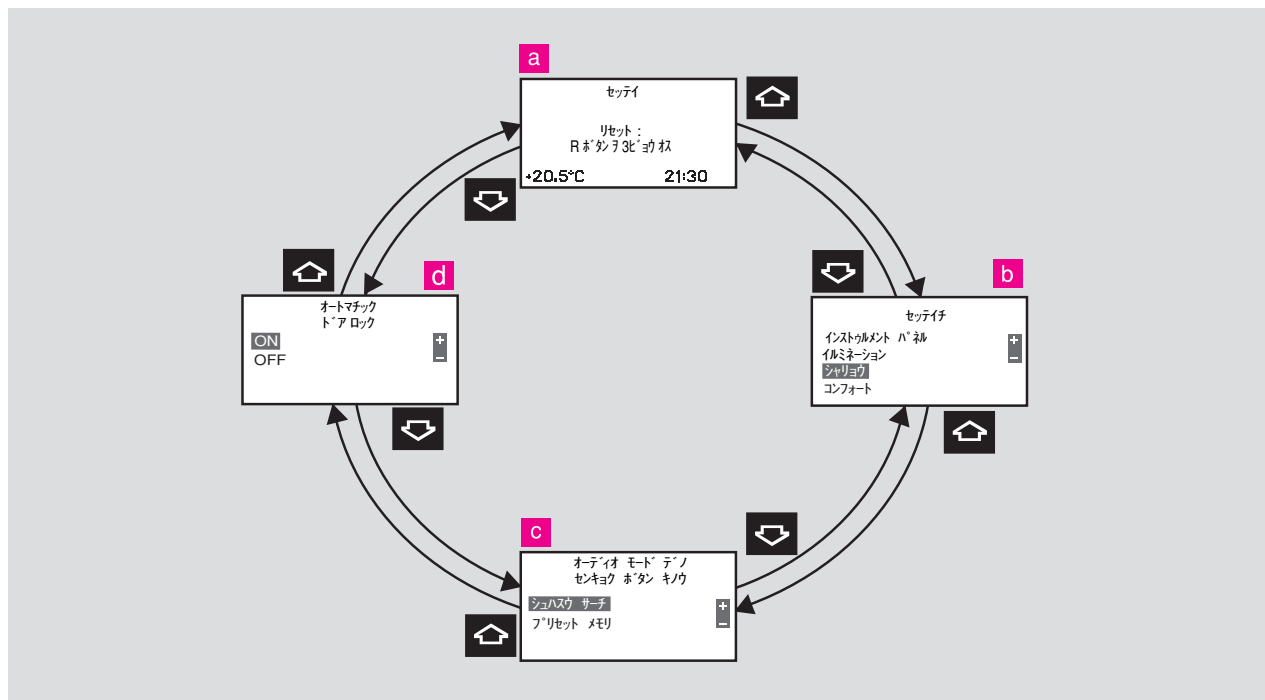
詳しくは(167ページ)をご覧ください。

f ルームランプ消灯遅延時間設定画面

ルームランプが自動点灯モードで、周囲が暗いときにエンジンスイッチからキーを抜くと、ルームランプが一定時間点灯する機能の設定をすることができます。

＋または－を押して、反転表示を移動します。

20、15、10、5ﾋﾞｮｳ
それぞれの時間経過後に、ルームランプが消灯します。

0ﾋﾞｮｳ
ルームランプ消灯遅延機能は働きません。

詳しくは(205ページ)をご覧ください。

シャリョウ

※上記の内容は取扱説明書作成時点のもので、予告なく変更されることがあります。

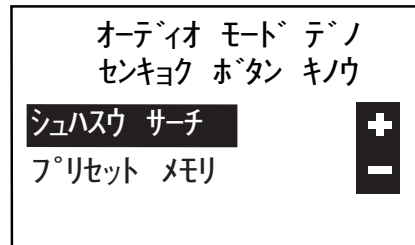
設定グループ選択画面を表示させる

1 各種設定メイン画面を表示させます(118ページ)。
2 各種設定メイン画面 a 表示中に ⌂ を押して、設定グループ選択画面 b を表示させます。

設定グループを選択する

1 ＋ または － を押して、シャリョウを選択します。
2 選択したグループ名を確認し、⌂ を押すと、選択したグループ内の最初の項目設定画面が表示されます。

c ラジオの選局方法設定画面

オーディオ モード デノ
センキョク ボタン キノウ

シュハスウ サーチ

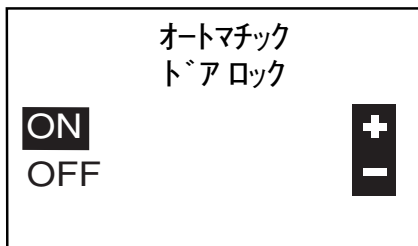
プリセット メモリ

ラジオの選局方法(受信周波数 / プリセット番号順)の設定をすることができます。

＋ または － を押して、反転表示を移動します。

シュハスウ サーチ
放送局の受信周波数によって順次選局します。

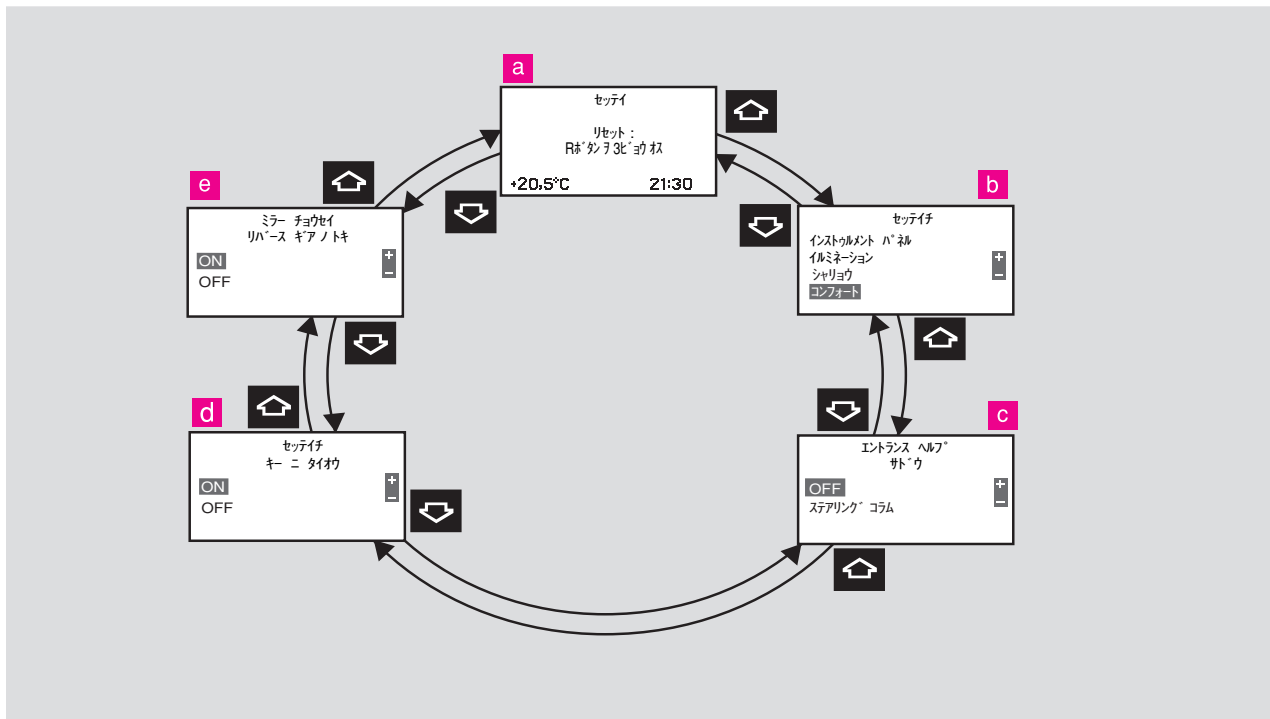
プリセット メモリ
プリセットされた放送局を番号順に選局します。

d 車速感応ドアロック設定画面

走行速度が約15km/h以上になったときに、ドアとテールゲートを自動的に施錠する機能の設定をすることができます。

＋または－を押して、反転表示を移動します。

ON
車速感応ドアロック機能が作動します。

OFF
車速感応ドアロック機能は作動しません。

詳しくは(70ページ)をご覧ください。

コンフォート

※上記の内容は取扱説明書作成時点のもので、予告なく変更されることがあります。

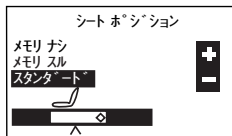
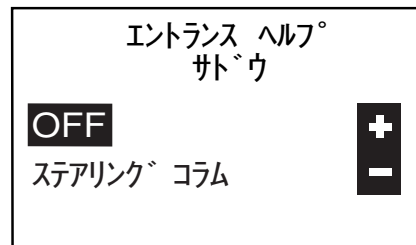
設定グループ選択画面を表示させる

1　各種設定メイン画面を表示させます(118ページ)。
2　各種設定メイン画面 a 表示中に［⌂］を押して、設定グループ選択画面 b を表示させます。

設定グループを選択する

1　［＋］または［－］を押して、コンフォートを選択します。
2　選択したグループ名を確認し、［⌂］を押すと、選択したグループ内の最初の項目設定画面が表示されます。

注　意！

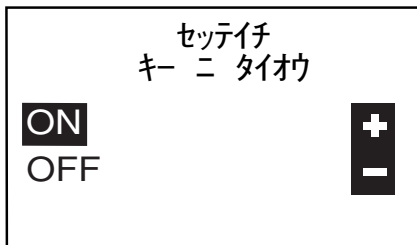
車種や仕様により "コンフォート" のグループに右記の画面が表示されますが、この機能は装備されないため、設定を行なうことはできません。

c イージーエントリー設定画面

運転席への乗り降りを容易にするイージーエントリー機能の設定をすることができます。

［＋］または［－］を押して、反転表示を移動します。

OFF
イージーエントリー機能は作動しません。

ｽﾃｱﾘﾝｸﾞ ｺﾗﾑ
ステアリングが上方に移動します。

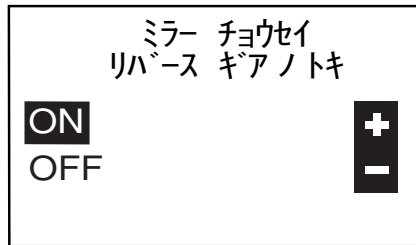
詳しくは(71ページ)をご覧ください。

d 設定項目のキー対応設定画面

各種設定の全項目の設定を、それぞれのキーごとに対応(記憶)させる設定をすることができます。ONにすると、差し込んでいるキーに現在の設定が記憶されます。

＋または－を押して、反転表示を移動します。

ON
差し込んでいるキーに設定を対応(記憶)させます。

OFF
異なるキーを使用しても、設定は変わりません。

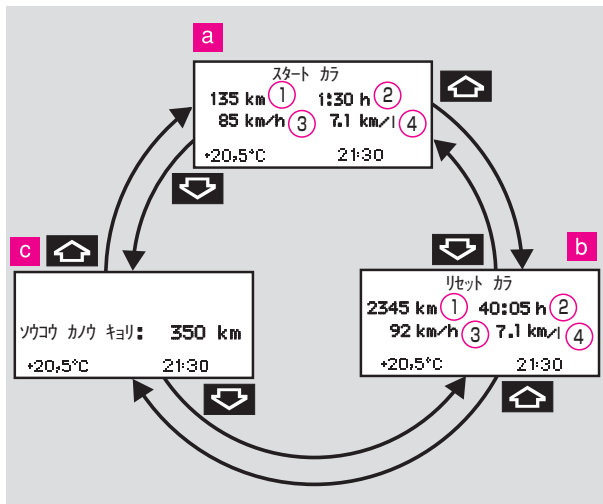
e 後退時の助手席ドアミラー設定画面

後退時の助手席側ドアミラー角度自動調整の設定をすることができます。

＋または－を押して、反転表示を移動します。

ON
後退時に助手席ドアミラーが記憶された角度になります。

OFF
後退時に助手席ドアミラーの角度は変わりません。

詳しくは(98ページ)をご覧ください。

F トリップコンピューター

ショートトリップメーター a とロングトリップメーター b は、エンジンを始動したとき、またはトリップメーターをリセットしたときを起点として以下の情報を表示します。

① 走行距離(km)
② 経過時間(h)
③ 平均速度(km/h)
④ 平均燃費(km/l)

a ショートトリップメーター

ショートトリップメーターは、エンジンを始動したときを起点として情報を表示します（"ｽﾀｰﾄ ｶﾗ"）。

ショートトリップメーターを表示する

▭ または ▭ を押して、ショートトリップメーター画面を表示させます。

知　識
エンジンスイッチを0の位置にしてから、またはキーを抜いてから約4時間経過すると、ショートトリップメーターは自動的にリセットされます。

ショートトリップメーターをリセットする

リセットボタン(102ページ)を押し続けて、表示をリセットします。

b ロングトリップメーター

ロングトリップメーターは、トリップメーターをリセットしたときを起点として情報を表示します("リセット カラ")。

ロングトリップメーターを表示する

1 または を押して、ショートトリップメーター画面を表示させます。
2 を押して、ロングトリップメーター画面を表示させます。

ロングトリップメーターをリセットする

リセットボタン(102ページ)を押し続けて、表示をリセットします。

c 走行可能距離

現在の燃料残量で走行可能なおよその距離を計算し、予測値として表示します。
エンジンスイッチが2の位置のときに表示することができます。

1 または を押して、ショートトリップメーター画面を表示させます。
2 を押して、走行可能距離画面を表示させます。

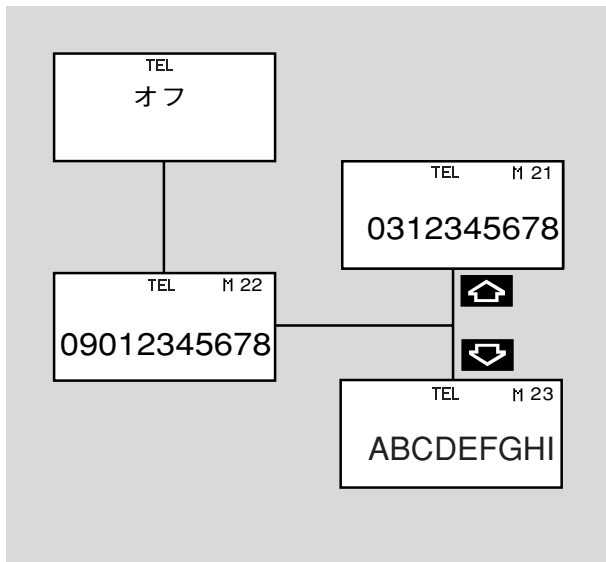
注　意！

走行可能距離は、現在までの平均燃費と残り燃料から計算した予測値です。今後の走行状況に応じて大きく変動することがありますので、燃料計を確認し、早めに給油してください。

知　識

燃料残量が少なくなると、予測値は表示されず、"–R– km" と表示されます。

※上記の内容は取扱説明書作成時点のもので、予告なく変更されることがあります。

G 電話

フロントアームレスト上段の小物入れ(212ページ)内のコネクターに携帯電話を接続すると、電話の発信 / 受信ができます。

通話する(電話を受信する)

電話がかかってきたときにステアリングの通話開始スイッチ を押します。
電話を受信することができます。

通話を終える(電話を切断する)

ステアリングの通話終了スイッチ を押します。
電話を切断することができます。

メモリー番号による電話の発信

メモリーしてある電話番号に電話をかけることができます。

1. 電話画面表示中に、 または を押して、電話をかける相手先のメモリー番号を選択します。
2. ステアリングの通話開始スイッチ を押します。
   電話をかけることができます。

詳細については、別冊「マルチファンクションコントローラー」の取扱説明書をお読みください。

※上記の内容は取扱説明書作成時点のもので、予告なく変更されることがあります。

運転するとき

エンジンスイッチ

⓪ ：キーを差し込む / 抜き取る位置
① ：エンジンを停止したまま電気装備の一部を使用するときの位置
② ：走行するときの位置
すべての電気装備が使用できます(パーキングランプを除く)。
③ ：エンジンを始動する位置
エンジンスイッチをいったん③の位置までまわして手を放せば、自動的にスターターがまわり、エンジンが始動します。

⚠ 警　告

ごく短時間でも、車から離れるときはエンジンスイッチからキーを抜いてください。また、子供が乗車している場合は一緒に降ろしてください。いたずらから車の発進、火災などの事故が発生するおそれがあります。また、炎天下では車内が非常に高温になり、熱中症を起こすおそれがあります。

ステアリングロック
エンジンスイッチからキーを抜くとステアリングがロックされ、キーを差し込むとステアリングのロックが解除されます。

注　意！

- 走行中にエンジンを停止しないでください。エンジンブレーキが効かなくなります。また、ステアリングの操作に非常に大きな力が必要になります。
- エンジンスイッチにエマージェンシーキーを差し込むことはできません。
- バッテリーあがりを防止するために、駐車時は必ずエンジンスイッチからキーを抜き取ってください。

知　識

- セレクターレバーが P に入っていないときはキーを抜き取ることができません。
- キーを抜き取らずに⓪の位置で長時間放置していると、キーがまわせなくなることがあります。このときは、キーをいったん抜き取り、再度差し込んでからまわしてください。
- キーの発信部がカバーされていたり汚れていると、エンジンを始動できなくなります。

エンジンの始動と停止

エンジンを始動するとき

1 駐車ブレーキが確実に効いていることを確認してください。
2 セレクターレバーが P に入っていることを確認してください。
3 確実にブレーキペダルを踏みます。
4 エンジンスイッチにキーを差し込み、アクセルペダルを踏まずに③の位置までまわして手を放します。

注　意！

- エンジンは、セレクターレバーが N に入っているときも始動できますが、安全のため、必ずセレクターレバーを P に入れ、ブレーキペダルを踏んで始動してください。
- 少しでも車を動かすときはエンジンを始動してください。エンジンが停止していると、ブレーキやステアリングの操作に非常に大きな力が必要になります。

知　識

ランプやエアコンディショナーなど、バッテリーの負担になる装置のスイッチをオフにしておくと始動性が良くなります。

エンジンが始動しないとき

エンジンを始動できないときは、指定サービス工場に連絡してください。

知　識

- 始動できないときは、いったんキーを⓪の位置まで戻してから再始動してください。
- セレクターレバーが P に入っていることを確認してください。

エンジンを停止するとき

1 車を完全に停止させます。
2 ブレーキペダルを踏んだまま、駐車ブレーキレバーを確実に引き、セレクターレバーを P に入れます。
3 エンジンスイッチを⓪の位置にします。
4 ブレーキペダルから足をゆっくり放します。

注　意！

水温が高めのときは、少しの間アイドリング状態でエンジンを冷却してから、エンジンを停止してください。

⚠ 警　告

車を駐車するときは、トランスファーを(N)の位置にしないでください。

オートマチックトランスミッション

マルチファンクションディスプレイにシフト位置が表示されます。

P　パーキング
駐車およびエンジン始動 / 停止の位置

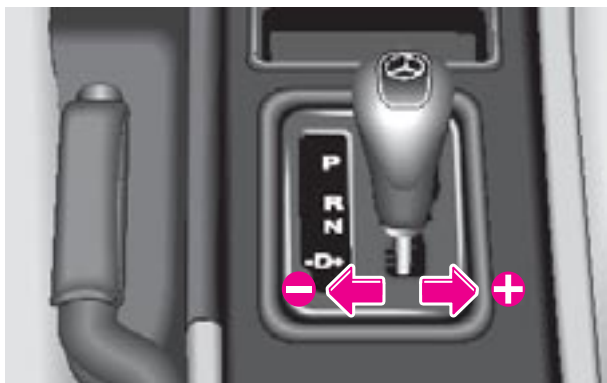
R　リバース
後退するときの位置

N　ニュートラル
動力が伝わらない位置
押したり、けん引されることで車を移動できます。

メーターパネルのシフトインジケーター

D　ドライブ
走行するときの位置
1速〜5速の範囲で自動的に変速します。

知　識

エンジンスイッチが**2**の位置で、なおかつブレーキペダルを踏んでいないと、セレクターレバーをPから動かすことはできません。

ティップシフト

ギアレンジを選択することにより、変速の少ないなめらかな走行をしたり、エンジンブレーキの効きを強くして走行することができます。

ギアレンジ

1　1速ギアに固定されます。
2　1速〜2速の範囲で自動的に変速します。
3　1速〜3速の範囲で自動的に変速します。
4　1速〜4速の範囲で自動的に変速します。

ギアレンジを選択する

シフトインジケーターの表示が D のときにセレクターレバーを⊖の方向に押すと、そのとき、加速や減速に最も適したレンジが選択され、シフトインジケーターに表示されます。

低いギアレンジを選択する

セレクターレバーを⊖の方向に押すと低いギアレンジが選択され、シフトインジケーターに表示されます。

高いギアレンジを選択する

セレクターレバーを⊕の方向に押すと高いギアレンジが選択され、シフトインジケーターに表示されます。

ティップシフトを解除する

セレクターレバーを⊕側に押し続けるとティップシフトが解除され、シフトインジケーターに" D "が表示されます。

⚠警　告

滑りやすい路面やカーブを走行しているときは、シフトダウンによってエンジンブレーキが効くと、駆動輪がグリップを失うおそれがあります。ギアをシフトするときは十分注意してください。また、滑りやすい路面状況で駆動輪を空転させると、駆動系部品を損傷するおそれがあります。

注　意！

トランスファーが"LOW"(L)の位置のときはシフトアップされないことがあるため、エンジンの許容回転数を超えないようにしてください。

知　識

- シフトインジケーターに表示される数字は選択したレンジを示しており、実際のギアを示すものではありません。
- シフトインジケーターの表示が D のときにセレクターレバーを⊕の方向に押すと、車速やエンジン回転数に応じてシフトアップされます。
- 加速時にエンジンの許容回転数(レッドゾーン)を超えるようなときは、自動的にシフトアップされます。

パーキングロックの解除

オートマチックトランスミッションのセレクターレバーを **P** から動かせないときは、以下の方法で動かすことができます。
故障時に車をけん引されるときなどにパーキングロックを解除します。

1 ドライバーなどをシフト表示の **-D+**マーク下に差し込みます。
2 矢印の方向に押しながらセレクターレバーを **P** から動かします。

注　意！

- この方法でセレクターレバーを動かせないときは、指定サービス工場に連絡してください。
- セレクターレバーを動かすことができたときも、指定サービス工場で点検を受けてください。

オートマチック車の運転

運転する前にオートマチック車の特性を理解し、正しい操作をしてください(26ページ)。

オートマチック車の特性

クリープ現象：エンジンがかかっているときに、セレクターレバーを D か R に入れてブレーキペダルから足を放すと、アクセルペダルを踏まなくても車がゆっくりと動き出します。これをクリープ現象といいます。

キックダウン：走行中にアクセルペダルをいっぱいに踏み込むと、自動的に低速ギアに切り替わり、エンジンの回転数が上がります。これをキックダウンといいます。これを利用すると、車を素早く加速させることができます。

発進

1 エンジンを始動します。
2 ブレーキペダルを踏んで、踏みしろや踏みごたえを確認します。
3 ブレーキペダルを踏んだまま、セレクターレバーを走行位置 D に入れます。

⚠ 警　告

アクセルペダルを踏んだ状態でセレクターレバーを操作しないでください。車が急発進するおそれがあります。

4 駐車ブレーキを解除します。
5 ブレーキペダルを徐々に戻して、アクセルペダルをゆっくり踏み込みます。

注　意！

急な坂道で発進するときは、駐車ブレーキを効かせたままブレーキペダルから足を放し、アクセルペダルをゆっくりと踏んで、車が動き出すのを確認してから駐車ブレーキを解除して発進してください。

通常走行

通常はセレクターレバーを D に入れて走行します。アクセルペダルの踏み加減や車速に応じて、自動的に変速が行なわれます。

⚠ 警　告

走行中はセレクターレバーを N に入れないでください。エンジンブレーキが効かないため、事故の原因になったり、トランスミッションを損傷するおそれがあります。

知　識

エンジンが冷えているときは、より高いエンジン回転数でシフトアップが行なわれます。

素早く加速したいとき

アクセルペダルをいっぱいに踏み込むと、キックダウンし、素早く加速します。

上り坂の走行

坂の勾配に応じてティップシフトで低いギアのレンジを選択しておくと、エンジン回転数の変化が少ない、なめらかな走行ができます。

下り坂の走行

下り坂を通常走行の位置 D で走行すると、エンジンブレーキが効かず、速度が出すぎることがあります。このようなときは、坂の勾配に応じてティップシフトで低いギアのレンジを選択し、エンジンブレーキを効かせながら走行します。

エンジンブレーキ：走行中、アクセルペダルを戻したときに発生するエンジン内部の抵抗をエンジンブレーキといいます。低速ギアのときほど効きが強くなります。

⚠ 警　告

- **長い下り坂や急な下り坂では必ずエンジンブレーキを併用してください。ブレーキペダルを踏み続けたり、急ブレーキを繰り返すと、ブレーキが効かなくなるおそれがあります。**
- **シフトダウンによる急激なエンジンブレーキを効かせないでください。タイヤがスリップして車のコントロールを失い、事故を起こすおそれがあります。**

滑りやすい路面での操作

デファレンシャルロックをオンにし(151ページ)、急加速や急減速を避けた運転を心がけてください。

⚠ 警　告

シフトダウンによる急激なエンジンブレーキを効かせないでください。タイヤがスリップして車のコントロールを失い、事故を起こすおそれがあります。

注　意！

シフトダウン操作を行なうとエンジンの許容回転数(レッドゾーン)が許容限度を超えるときは、セレクターレバーを動かしてもシフトダウンされません。

停車

セレクターレバーを D に入れたままブレーキペダルを踏みます。
やむを得ず停車が長くなるときは、駐車ブレーキを確実に効かせ、セレクターレバーを P に入れます。

⚠ 警　告

停車中は空ぶかしをしないでください。万一セレクターレバーが D か R に入ると、車が急発進して重大な事故を起こすおそれがあります。

注　意！

- 急な上り坂での停車時、後退しようとする車をアクセルペダルを踏むことにより停止状態を保たないでください。トランスミッションを損傷するおそれがあります。
- 停車中はブレーキペダルを確実に踏み、クリープ現象(26、147ページ)で車が動かないようにしてください。
- 車が完全に停止しないうちにセレクターレバーを P に入れないでください。トランスミッションを損傷するおそれがあります。

駐車

1 ブレーキペダルを踏み込んだまま、駐車ブレーキを確実に効かせます。
2 セレクターレバーを P に入れます。
3 エンジンスイッチを0の位置にして、キーを抜き取ります。
4 ブレーキペダルから足をゆっくり放します。

⚠警　告

- **車を駐車するときは、トランスファーを(N)の位置にしないでください。**
- **車を離れるときはセレクターレバーを P に入れ、必ず駐車ブレーキを効かせてください。セレクターレバーを P に入れただけでは十分なブレーキ効果が得られず、坂道などで車が動き出すおそれがあります。**

注　意！

- 急な坂道で駐車するときは、駐車ブレーキを確実に効かせてください。さらに輪止めをしてください。
- 短時間でも車から離れるときは、子供だけを車内に残さないでください。また、ドアウインドウやスライディングルーフ＊を閉じ、ドアを施錠してください。

エマージェンシーモード

トランスミッションに異常が発生し、自動変速ができなくなったときは、自動的にエマージェンシーモードに切り替わることがあります。この場合、以下の方法でギアを2速とリバースに入れることができるようになり、走行できる場合があります。安全な場所まで移動して指定サービス工場に連絡してください。

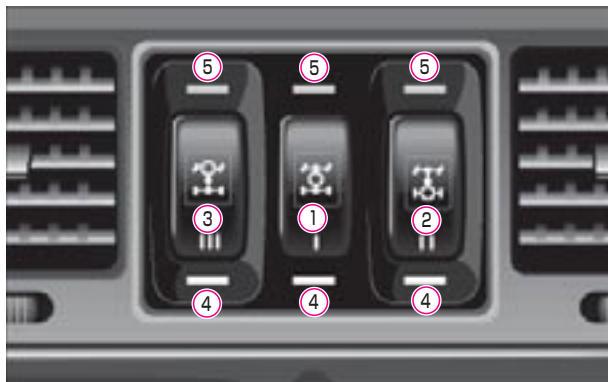
エマージェンシーモードでの走行

1 安全な場所に停車し、セレクターレバーを P に入れます。
2 エンジンを停止し、約10秒間待ちます。
3 エンジンを始動します。
4 前進時は D に、後退時は R にセレクターレバーを操作します。
D に入れると2速ギア、 R に入れるとリバースに固定されます。

注　意！

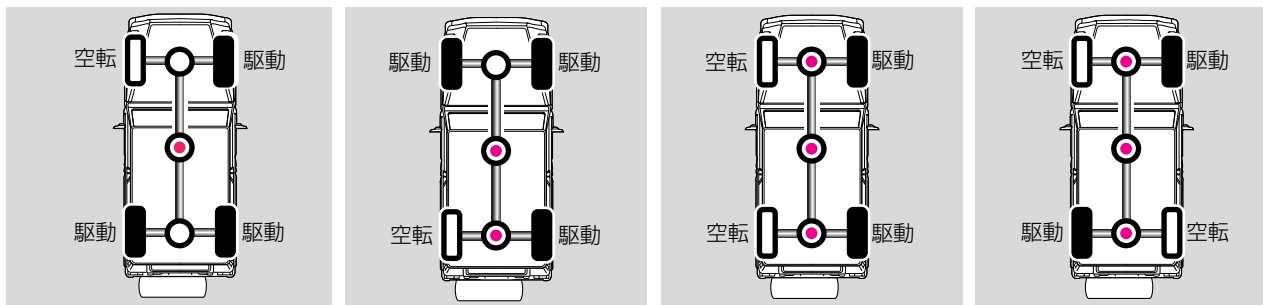
- 2速やリバースに変速できなかったり、変速できても走行できないときは、指定サービス工場に連絡してください。
- エマージェンシーモードで走行するときは、動力性能が大きく制限されます。十分に注意して走行し、指定サービス工場で点検を受けてください。

＊オプションまたは仕様により装備が異なります

デファレンシャルロック

デファレンシャルロックは、オフロードや雪道走行時、あるいは脱輪などで片輪が空転し車が動けなくなった場合などに、脱出を容易にする緊急時の装置です。
スイッチはインストルメントパネルにあります。

① センターデファレンシャルロックスイッチ
② リアアクスルデファレンシャルロックスイッチ
③ フロントアクスルデファレンシャルロックスイッチ
④ 表示灯(黄)
⑤ 作動表示灯(赤)

デファレンシャルロックは、センター→リアアクスル→フロントアクスルの順序でのみ、スイッチをオンにすることができます。

デファレンシャルロックをオンにすると、ABS、BAS、ESPが解除されます。

前輪の片側が空転しているとき　後輪の片側が空転しているとき

前後輪の片側が空転しているとき

デファレンシャルロックの機能

デファレンシャルロックは、センターデフ、リアデフ、フロントデフをロックすることにより、空転した車輪以外の車輪に駆動力を伝える機能です。

以下のときにスイッチを操作して、デファレンシャルロックをオンにしてください。

- 岩石路や脱輪時など、片輪が宙に浮き、走行できなくなった場合
- 片輪が雪上にあり、他の車輪がアスファルト上などで脱出できなくなった場合

脱出後は、ただちにデファレンシャルロックを解除してください。

デファレンシャルロックの使いかた

前輪の片側が空転しているとき

センターデファレンシャルロックをオンにします。後側の2輪に駆動力が伝わります。

後輪の片側が空転しているとき

センターデファレンシャルロックとリアアクスルデファレンシャルロックをオンにします。空転していない他の3輪(前側の2輪と後輪の片輪)に駆動力が伝わります。

前後輪の片側が空転しているとき

すべてのデファレンシャルロック(センターデファレンシャルロック、リアアクスルデファレンシャルロック、フロントアクスルデファレンシャルロック)をオンにします。空転していない他の2輪(前輪の片側と後輪の片側)に駆動力が伝わります。

デファレンシャルロックをオンにする

車輪が空転していないときに、車輪を直進状態にしてから、デファレンシャルロックのスイッチを押します。
スイッチの下側の表示灯と ⚠ ESP表示灯が点灯します。

デファレンシャルロックが機械的に作動すると、ABS、BAS、ESPが解除され、スイッチ上側の作動表示灯と (ABS) ABS警告灯も点灯し、マルチファンクションディスプレイに "ABS ﾊ ｼﾖｳ ﾃﾞｷﾏｾﾝ ﾛｯｸ ｶﾞ ｻﾄﾞｳｼﾃｲﾏｽ" と表示されます。

知　識

スイッチを押してから機械的に作動するまでは、若干の時間差があります。

※上記の内容は取扱説明書作成時点のもので、予告なく変更されることがあります。

デファレンシャルロックを解除する

車輪を直進状態にしてから、デファレンシャルロックのスイッチを押します。
スイッチ下側の表示灯が消灯します。

デファレンシャルロックが機械的に解除されると、スイッチ上側の作動表示灯と ⚠ 、(ABS) が消灯し、マルチファンクションディスプレイの表示が消えます。

知　識

- デファレンシャルロックは、ロックするときとは逆の順序で解除されます。
- リアアクスルのデファレンシャルロックを解除すると、フロントアクスルデファレンシャルロックが自動的に解除されます。
- センターデファレンシャルロックを解除すると、すべてのデファレンシャルロックが自動的に解除されます。
- スイッチを押してから機械的に解除されるまでには、若干の時間差があります。

注　意！

- デファレンシャルロックをオンにするときは、速度を歩く程度まで落としてください。
- デファレンシャルロックをオンにするときは、必ず車輪が空転していないことを確認してください。車輪が空転しているときにオンにすると、車が思わぬ方向に飛び出すおそれがあります。
- デファレンシャルロックは緊急時の脱出などに使用した後はただちに解除してください。駆動装置を損傷するおそれがあります。
- デファレンシャルロックを解除しても作動表示灯が消灯しないときは、ステアリングを大きく切らないでください。駆動装置を損傷するおそれがあります。
- 車を一軸シャシーダイナモ上で動かすときは、必ず駐車ブレーキを確実に効かせ、短時間であっても駆動アクスル以外を持ち上げるか、プロペラシャフトを外してください。このとき、センターデファレンシャルロックを必ずオンにしてください。トランスファーケースを損傷するおそれがあります。

⚠ 警　告

- **緊急時の脱出以外は、雪道や凍結路でデファレンシャルロックを使用しないでください。またデファレンシャルロックをオンにしたときは、急発進をしないでください。車の向きが急に変わり事故を起こすおそれがあります。**
- **デファレンシャルロックをオンにしたまま舗装道路や固い路面を走行しないでください。差動機構がロックされて左右前輪が等速で回転するので旋回時でも直進しようとする力が強く作用し、急激に直進状態に戻るときがあり、事故を起こすおそれがあります。**

トランスファーケース

急勾配の走行や渡河時、トレーラーをけん引するときなど、強い駆動力を必要とする場合は、トランスファーを"LOW"にします。

"LOW"(L)　：オフロード走行用で、"HIGH"(H)に比べて速度が約1/2になります。
"HIGH"(H)：一般道路走行用です。

トランスファーケースの操作

"HIGH"(H)から"LOW"(L)にする

1 車を停止してエンジンがかかっているとき、または走行速度が約40km/h以下のときにセレクターレバーを N に入れます。
2 トランスファーケーススイッチの"LOW"を押します。シフトが完了すると、トランスファーケースインジケーターに(L)と表示されます。

"LOW"(L)から"HIGH"(H)にする

1　車を停止してエンジンがかかっているとき、または走行速度が約70km/h以下のときにセレクターレバーを N に入れます。

2　トランスファーケーススイッチの"HIGH"を押します。シフトが完了すると、トランスファーケースインジケーターに(H)と表示されます。

注　意！

- マルチファンクションディスプレイに "TC ｼﾌﾄ ｼﾞｮｳｹﾝ ﾐﾀｼﾃｲﾅｲ" などと表示された場合は、シフトが行なわれていません。セレクターレバーの位置などを確認してから、シフト操作をやり直してください。
- マルチファンクションディスプレイに "TC ﾊ ﾆｭｰﾄﾗﾙ" と表示されたり、トランスファーケースインジケーターに(N)と表示された場合は、トランスファーがニュートラルになっています。シフト操作をやり直してください。
- マルチファンクションディスプレイに "ﾄﾗﾝｽﾌｧ ｹｰｽ ｼｭｳﾘ ﾋﾂﾖｳ" と表示された場合は、システムが故障しています。ただちに指定サービス工場で点検を受けてください。

けん引されるとき

けん引されるときは、駆動装置の損傷を避けるため、トランスファーをニュートラルにします。

ニュートラルにするとき

1 エンジンを停止します。
2 駐車ブレーキを確実に効かせます。
3 ブレーキペダルを踏みます。
4 エンジンスイッチを**2**の位置にします。
5 セレクターレバーを N に入れます。
6 トランスファーケーススイッチの"LOW"を4秒以上押します。トランスファーケースインジケーターに(N)と表示されます。

"LOW"または"HIGH"に戻すとき

1 エンジンを停止します。
2 駐車ブレーキを確実に効かせます。
3 ブレーキペダルを踏みます。
4 エンジンスイッチを**2**の位置にします。
5 セレクターレバーを N に入れます。
6 トランスファーケーススイッチの"LOW"または"HIGH"を4秒以上押します。トランスファーケースインジケーターに(L)または(H)と表示され、駆動アクスルが接続されます。

警　告

車を駐車するときは、トランスファーを(N)の位置にしないでください。オートマチックトランスミッションのセレクターレバーが P の位置でも駆動アクスルが固定されないため、車が動き出し、事故を起こすおそれがあります。

知　識

トランスファーが(N)の位置にあり、駐車ブレーキが解除された状態で運転席ドアを開くと、警告音が鳴り、マルチファンクションディスプレイに"TC ハ ニュートラル" と表示されます。

オフロードでの走行

車の特性や操縦性を知ることにより、安全に目的地に到達することができます。悪路走行の前に練習走行をされることをお勧めします。
オフロードを走行する前に以下の文章をよくお読みください。

1 オフロード走行に入る前に、トランスファーを"LOW"位置にしてください(155ページ)。
2 荷物は確実に収納または固定してください(79～81ページ)。
3 状況の把握できない地形や路面では、最大限に注意して走行してください。走行する前に、車から降りて危険がないことを確認してください。
4 低速でスムーズに走行し、常にホイールが地面に接していることを確認してください。
5 坂道はできるだけまっすぐに登り、まっすぐに降りてください。
6 登りはじめと終わりはなだらかな斜面を選択して走行してください。
7 下り坂では、走行中にエンジンを停止させたり、セレクターレバーを N に入れないでください。
8 やむを得ず渡河するときは、走行前にあらかじめ水深や地形を確認してください。
9 走行中に車をジャンプさせないでください。車体や駆動装置を損傷するおそれがあります。
10 高低差のある段差を乗り越える場合は、左右両輪で乗り越えてください。車体や駆動装置を損傷するおそれがあります。
11 岩、穴、木の切り株、溝など、大きな障害物を避けて走行してください。
12 ドアウインドウとスランディングルーフ＊は常に閉じておいてください。
13 できるだけわだちから外れないように走行してください。
14 ブレーキに泥汚れがないか点検してください。また砂や土埃などがブレーキに入り込んでないか確認してください。緊急時に十分な制動力が得られないおそれがあります。
15 オフロードを走行するときは、クルーズコントロールを使用しないでください。
16 環境に配慮して走行し、自然破壊をしないでください。

＊オプションまたは仕様により装備が異なります

オフロードを走行する前に

タイヤ：溝の深さと空気圧を点検してください(259、261ページ)。損傷がないか点検し、小石などの異物が挟まっている場合は取り除いてください。バルブキャップが紛失している場合は、取り付けてください。

ホイール：リムが歪んでいたりホイールに損傷がある場合は、走行前に交換してください。

車載工具：ジャッキが正常に動くか点検してください。万一のためにホイールナットキー、けん引用ケーブル、折りたたみ式スコップを車に積んでおいてください。

エンジンオイル：マルチファンクションディスプレイでエンジンオイルレベルを点検し、"ｴﾝｼﾞﾝ ｵｲﾙ ﾚﾍﾞﾙ ｾｲｼﾞｮｳ" と表示されることを確認してください。このメッセージが表示されたときは、オフロードの急坂を走行する場合でも、エンジンオイルの循環が確実に行なわれます。エンジンオイル量が少ないときは必ず補給してください(254ページ)。

上り坂の運転

- 土手や斜面では、まっすぐに走行してください。最大登坂能力は80%です。
- 急勾配に差しかかったときは、トランスファーを"LOW"位置にしてください(155ページ)。
- 必要に応じてデファレンシャルロックをオンにしてください(151ページ)。
- 急斜面を走行しているときは、車を旋回させないでください。車が横転するおそれがあります。急勾配で登りきれない場合は、後退して降りてください。決して、セレクターレバーを N に入れて後退しないでください。
- 斜面を斜めに走行しないでください。車が横転するおそれがあります。斜面を斜めに走行する必要があり、万一横転しそうになった場合は、ただちに斜面の下り側へステアリングを切り、姿勢を立て直してください。

操作

1. トランスファーを"LOW"位置にしてください。
2. 必要に応じてデファレンシャルロックをオンにしてください。
3. 上り坂の勾配に合わせてオートマチックトランスミッションの変速範囲を選択してください。
4. エンジンを高回転までまわさないように走行してください。

山間地の運転

山間地では、ゆるやかにアクセルペダルを踏みホイールが駆動力を保っていることを確認してください。

操作

1 トランスファーを"LOW"位置にしてください。
2 必要に応じてデファレンシャルロックをオンにしてください。
3 上り坂の勾配に合わせてオートマチックトランスミッションの変速範囲を選択してください。
4 エンジンを高回転までまわさないようにして低速で走行してください。

頂上付近での運転

急な勾配を登り切る前にアクセルをゆるめ、車の惰性を利用して登ってください。
このように走行すれば、車が跳ねたりせず、駆動力を失うことがありません。これは下り坂での速度が上がりすぎるのを防止する効果もあります。

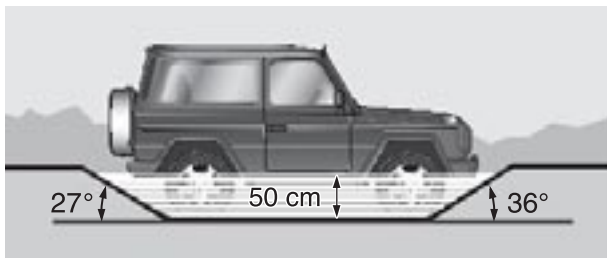
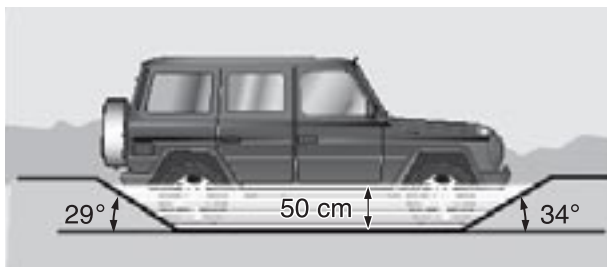
操作

1 トランスファーを"LOW"位置にしてください。
2 必要に応じてデファレンシャルロックをオンにしてください。
3 上り坂の勾配に合わせてオートマチックトランスミッションの変速範囲を選択してください。
4 エンジンを高回転までまわさないように走行してください。

下り坂の運転

- フロントホイールが斜面に対してまっすぐ下り方向を向くようにして、低速で走行してください。斜面を斜めに走行すると、横滑りや横転のおそれがあります。
- エンジンブレーキを効かせても減速できないときは、注意深くブレーキペダルを踏んで速度を下げてください。横滑りや横転を防ぐため、車が下り坂をまっすぐ下っているときだけ、ブレーキペダルを踏んでください。
- デファレンシャルロックをオンにすると、ＡＢＳ、BAS、ESPが解除されます。これにより、一時的にフロントホイールがロックできるようになり、ぬかるみなどでのグリップが容易になります。
  ただし、ホイールがロックするため、車の操縦性に影響をおよぼすおそれがあります。
- すべりやすい急な下り勾配を走行するときは、エンジンブレーキを効果的に利用しながら車を横滑りさせないように注意深くブレーキペダルを踏み込んでください。
- 長い下り坂を走行した後は、必ずブレーキを点検してください。

操作

1 トランスファーを"LOW"位置にしてください。
2 必要に応じてデファレンシャルロックをオンにしてください。
3 ティップシフトで 1 を選択してください。
4 エンジンを高回転までまわさないように走行してください。

G 320

G 320 long / G 500 long / G 55 AMG long

渡河するときの運転

- やむを得ず渡河するときは、走行前に水深と川底の状況を確認してください。
- 安全な場所でテスト走行をしてください。水深が50cm以上のところは絶対に走行しないでください。
- 水深の浅い場所を選択し、歩く速度で渡ります。水に入るときは速度を上げないでください。波が立ちエンジンや車体を損傷するおそれがあります。
- 川の流れに対して直角または下流方向へ横断してください。
- 水の中では、波が立たないようにゆっくりと一定の速度を保って走行してください。水の中を走行しているときは、シフト操作をしたり車やエンジンを停止しないでください。水の中は抵抗が大きいため、発進が困難になります。
- 渡河した後は、ブレーキの効きが悪くなります。ブレーキペダルを軽く数回踏んでブレーキパッドを乾かしてください。また、タイヤの溝を洗浄してください。

操作

1 トランスファーを"LOW"位置にしてください。
2 必要に応じてデファレンシャルロックをオンにしてください。
3 ティップシフトで 1 か 2 を選択してください。
4 エンジンを高回転までまわさないように走行してください。

障害物を乗り越えるときの運転

- 大きな石、木の切り株、その他の障害物を乗り越えるときは、左右いずれか一方の前輪で障害物の中央を乗り越えてください。後輪も同様にしてください。障害物の端のほうを乗り越えると、横滑りするおそれがあります。
- 大きな障害物を乗り越えるときは、ごく低速で走行してください。
- 障害物により車の底部や車体、駆動部を損傷させないように注意してください。

操作

1 トランスファーを"LOW"位置にしてください。
2 必要に応じてデファレンシャルロックをオンにしてください。
3 ティップシフトで 1 を選択してください。
4 エンジンを高回転までまわさないようにして、ゆっくりと走行してください。

砂上を走行するときの運転

- やわらかい砂の上での走行は、スタック(立ち往生)しやすいため、特に注意して運転してください。
- 砂地では車が埋まらないよう、やや速度を上げて走行してください。
- 他の車が残した浅いわだちをなぞって走行すると、スタックや車の損傷を防ぐのに有効です。

操作

1 トランスファーを"LOW"位置にしてください。
2 デファレンシャルロックをオンにしてください。
3 オフロードの状況に合わせてティップシフトでシフトレンジを選択してください。
4 エンジンを高回転までまわさないようにして、やや速度を上げて走行してください。

わだちを走行するときの運転

- 他の車のタイヤ跡(わだち)が深い場合は、車の底部が地面に接触し、ホイールが地面から離れて走行不能になることがあります。
- このような状況では、必ず車の地上クリアランスを確認してください。
- できるだけ深いわだちを避け、左右どちらか一方の車輪をわだちの間に乗せて走行すれば、車の損傷を防ぐのに有効です。

操作

1 トランスファーを"LOW"位置にしてください。
2 必要に応じてデファレンシャルロックをオンにしてください。
3 ティップシフトで 1 を選択してください。
4 エンジンを高回転までまわさないようにして、ゆっくりと走行してください。

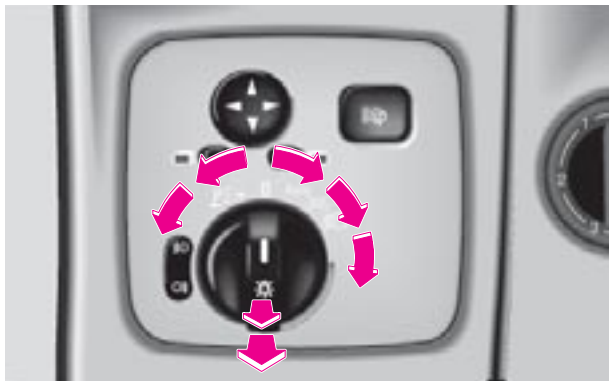
オフロード走行後の手入れ

オフロード走行後は、車を点検することをおすすめします。

手順

1 トランスファーを"HIGH"位置にしてください。
2 ヘッドランプ / テールランプ、ライセンスプレートランプを洗浄し、損傷がないか点検してください。
3 ホイール、ホイールハウス、ボディ底部、タイヤをジェット水流で洗浄し、タイヤに挟まった異物を取り除いてください。
4 植物や枝などが車体や駆動部に挟まっていないか点検してください。これらが挟まっていると火災の危険があるほか、燃料系、ブレーキホース、アクスルジョイントとプロペラシャフトのカバーなどを損傷するおそれがあります。
5 走行後は、車の底部、タイヤ、ボディ、ステアリング、駆動系、排気系などに損傷がないか点検してください。
6 ぬかるみ、砂の上、水の中を走行した後は、ブレーキディスク、ホイール、ブレーキパッド、アクスルジョイントを点検し、掃除してください。
7 オフロード走行後、強い振動を感じる場合は、ホイールの隙間などに異物がかみ込んでいないか点検してください。

車の損傷は乗り心地を悪化させ、事故の原因になります。指定サービス工場で点検を受けてください。

ランプ

ランプスイッチをまわして、各位置に合わせます。

0	すべてのランプが消灯
Auto	周囲の明るさに応じて自動的に点灯/消灯
	車幅灯、テールランプ、ライセンスランプやスイッチなどの照明が点灯
	車幅灯などに加え、ヘッドランプが点灯

キーを抜くか、エンジンスイッチが0の位置のとき、パーキングランプを点灯することができます。

P→	右側のパーキングランプが点灯
←P	左側のパーキングランプが点灯

フォグランプ

スイッチの位置がまたはのとき、ランプスイッチを引くと、フロント、リアのフォグランプが点灯します。ランプスイッチを押すと、フォグランプが消灯します。

1段目：フロントフォグランプ点灯(スイッチ左側の表示灯が点灯)

2段目：フロントフォグランプ+リアフォグランプ点灯(スイッチ左側の表示灯とが点灯)

注　意！

- フォグランプは、霧などの悪天候で、十分な視界が確保できないとき以外には使用しないでください。対向車や後続車の迷惑になります。
- エンジンを停止した状態で、ランプを長時間点灯しないでください。バッテリーがあがるおそれがあります。

知　識

- パーキングランプは、暗がりでの駐車時に後続車などに車の存在を知らせるため、車幅灯とテールランプだけを点灯します。
- パーキングランプ以外のランプを点灯したまま、キーを抜き取り、運転席ドアを開くと、警告音が鳴り、"ﾗﾝﾌﾟ ｦ ｹｼﾃ ｸﾀﾞｻｲ!" と表示されます。

ランプの自動点灯機能
ランプは自動で点灯 / 消灯することができます。

ランプスイッチを Auto 位置に合わせます。周囲が暗いとき、エンジンスイッチを1の位置にすると、車幅灯、テールランプ、ライセンスランプが自動点灯します。エンジンを始動すると、上記に加えてヘッドランプも自動点灯します。

知　識

- トンネルなどの暗い場所や夜間の走行、悪天候のときなどに、ランプは自動的に点灯することがあります。
- フロントウインドウの上部中央には明るさを感知するセンサーがあります。このセンサーは、レインセンサーと同じ位置にあります(171ページ)。センサー部にステッカーなどを貼付すると、自動点灯機能が働かなくなります。

注　意！

- ランプの点灯 / 消灯に関する責任は運転者にあります。ランプの自動点灯機能は運転者を支援する機能です。
- ランプスイッチを Auto の位置に合わせても、状況により、自動的に点灯しないことがあります。このときは、手動でランプを点灯してください。
- ランプスイッチが Auto の位置のときは、フォグランプを点灯することができません。
- ランプが自動的に点灯しているときは、エンジンスイッチを0の位置に戻した状態で運転席ドアを開くと、警告音が鳴り、マルチファンクションディスプレイに "ｵｰﾄﾏﾁｯｸ ﾗﾝﾌﾟ ｵﾝ! ｷｰ ｦ ﾇｲﾃ ｸﾀﾞｻｲ!" と表示されます。このときは、必ずキーを抜いてください。キーを抜かないと、車幅灯、テールランプ、ライセンスランプなどが点灯したままになり、バッテリーがあがるおそれがあります。
- 対向車のライトにより、センサーが正常に作動しなくなり、自動点灯中のランプが消灯することがあります。
- ランプスイッチを Auto から ≣D に切り替えたときにランプが一瞬暗くなる場合がありますので、切り替え操作は停車中に行なってください。

ヘッドランプの下向き / 上向きの切り替え

下向き： コンビネーションスイッチを①の位置にすると、ヘッドランプが下向きになります。

上向き： コンビネーションスイッチを②の位置にすると、ヘッドランプが上向きになります。メーターパネル内のハイビーム表示灯 が点灯します。

パッシング： コンビネーションスイッチを③の方向に引いている間、ヘッドランプが上向きになり、メーターパネル内のハイビーム表示灯 が点灯します。コンビネーションスイッチから手を放すと①の位置に戻ります。

注　意！

対向車があるときや市街地を走行するときはヘッドランプを上向きにしないでください。

車外ランプ消灯遅延機能

周囲が暗いときにエンジンを停止すると、車幅灯、フロントフォグランプ、テールランプ、ライセンスランプが点灯し、ドアやテールゲートを開いて閉じた後、一定の時間が経過すると消灯します。

消灯するまでの時間は、最長60秒までの範囲で15秒間隔で設定することができます（129ページ）。0秒を選択するとランプは点灯しません。

車外ランプ消灯遅延機能を一時的に解除する

エンジンを停止後、エンジンスイッチを**2**の位置にすると解除されます。

知　識

- 車外ランプが消灯するまでの時間は、ドアまたはテールゲートを閉じてから消灯するまでのおよその時間です。
- ドアまたはテールゲートが閉じたままのとき、または開いたままのときは、約60秒後に消灯します。
- この機能は、エンジンスイッチを**0**の位置にしてから約10分以上経過すると働かなくなります。

ヘッドランプ照射角度の調整

乗員数が増えたり荷物を積載してヘッドランプの照射角度が変わったときに調整します。
エンジンがかかっているときに調整できます。

0　1名乗車時(運転席)または2名乗車時(運転席と助手席)。

1～5　乗員数および荷物の積載量に応じて調整します。

注　意！

対向車に迷惑がかからないように注意しながら調整してください。

方向指示

コンビネーションスイッチを上または下へ操作すると右または左の方向指示灯が点滅します。
メーターパネル内の方向指示表示灯⇦⇨も点滅します。

ステアリングを戻すとコンビネーションスイッチは自動的に戻ります。戻らないときは手で戻してください。
短時間だけ方向指示灯を使用するときは、コンビネーションスイッチを手ごたえが感じられる位置にして手を放すと、方向指示灯が3回点滅します。

知　識

方向指示灯を使用しているときに非常点滅灯スイッチを押すと、非常点滅灯に切り替わります。再度、非常点滅灯スイッチを押すと、再び方向指示灯に切り替わります。

非常点滅灯

故障などの非常時に、やむを得ず路上で停車するときなどに使用します。

非常点滅灯を使用する

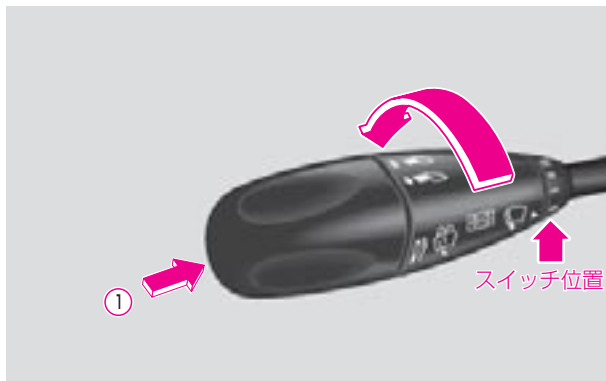
スイッチを押すとすべての方向指示灯が点滅し、スイッチと、メーターパネル内の方向指示表示灯⇦⇨も同時に点滅します。
解除するときは再度スイッチを押します。

注　意！

- 非常時以外は使用しないでください。
- エンジンを停止して長時間使用すると、バッテリーがあがるおそれがあります。

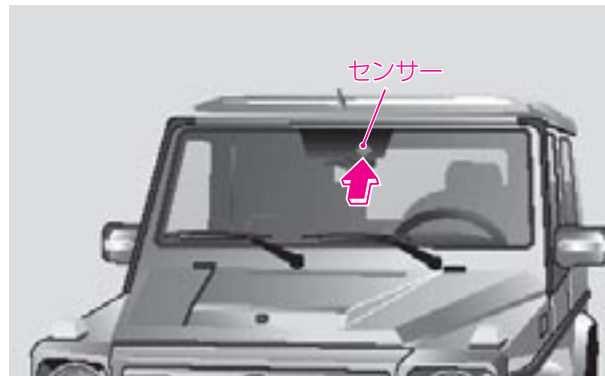
知　識

- 非常点滅灯を使用しているときにコンビネーションスイッチを左折または右折方向に操作すると、その方向の方向指示灯の点滅に切り替わります。コンビネーションスイッチを中立の位置に戻すと、再び非常点滅灯に切り替わります。
- エアバッグが作動すると、非常点滅灯が自動的に点滅します。自動的に点滅した非常点滅灯を消灯するときは、非常点滅灯スイッチを押して、消灯させます。

ワイパー

エンジンスイッチが**1**か**2**の位置のときにコンビネーションスイッチをまわすと、以下のように作動します。

0：停止
I：AUTOモード
フロントウインドウのレインセンサーが感知した雨滴量や走行速度などに応じて、ワイパーの作動を自動的に切り替えます。
II：低速モード
III：高速モード

知　識

コンビネーションスイッチが **II**、**III** の位置のときも、停車時および低速走行時のワイパーの作動は、レインセンサーにより自動調整されます。

レインセンサー
フロントウインドウの図の位置にレインセンサーがあります。

注　意！

レインセンサー部にステッカーなどを貼付しないでください。レインセンサーが正しく機能しなくなります。

知　識

AUTOモードのとき、停車時にフロントドアを開くとワイパーは作動しません。ドアを閉じて、セレクターレバーを D か R にして走行すると、ワイパーは作動を再開します。

ワイパーのティップ機能

コンビネーションスイッチを矢印①の方向に軽く押すと、ワイパーが1回だけ作動します(ウォッシャー液は噴射しません)。これはフロントウインドウが濡れているときだけ使用してください。

ウォッシャーを噴射する

エンジンスイッチが**1**か**2**の位置のとき、コンビネーションスイッチを矢印①の方向に押し続けると、その間ウォッシャー液が噴射し、ワイパーも作動します。

知　識

- 停車中は、ボンネットがロックされていないとワイパーは作動しません。
- ワイパーが作動しないときは、別のモードを選択すると作動することがあります。
- 冬季にはウォッシャー液の濃度に注意し、冬用の純正ウォッシャー液を使用してください。

注　意！

- 停車時にワイパーやウォッシャーを作動させるときは、周囲の歩行者に水しぶきがかからないように注意してください。
- フロントウインドウを拭くときなどは、必ずコンビネーションスイッチを**0**(停止)の位置にしてください。ワイパーが動き、けがをするおそれがあります。
- フロントウインドウが乾いているときはワイパーを使用しないでください。ウインドウの表面に細かい傷が付くおそれがあります。フロントウインドウが汚れている場合は、必ずウォッシャー液を噴射してから使用してください。
- エンジンを停止するときは、必ずコンビネーションスイッチを**0**の位置に戻してください。コンビネーションスイッチが**I**～**III**の位置のままエンジンスイッチを**1**の位置にすると、ワイパーが作動し、ウインドウが濡れていないときは傷が付くおそれがあります。
- ウォッシャー液が出なくなったときは、ウォッシャーの操作をしないでください。ウォッシャーポンプを損傷するおそれがあります。
- 寒冷時にはワイパーがガラスに貼り付くことがあります。作動させる前に貼り付いていないことを確認してください。貼り付いたままワイパーを操作すると、ワイパーブレードやモーターを損傷するおそれがあります。
- 雪などが付着しているときは、雪などを取り除いてからワイパーを操作してください。作業の際には、安全のため、エンジンスイッチからキーを抜き取ってください。

リアワイパー

エンジンスイッチが1か2の位置のときリアワイパーとリアウインドウウォッシャーを操作できます。

リアワイパーの操作
スイッチの上側を押すとリアワイパーが間欠モードで作動し、スイッチの表示灯が点灯します。停止するときは、再度スイッチの上側を押します。

ウォッシャーの操作
スイッチの下側を押すとウォッシャー液が噴射され、リアワイパーが数回作動します。

注　意！

- ウインドウが汚れているときは、必ずウォッシャー液を噴射してから使用してください。ウインドウの表面に細かい傷が付くおそれがあります。
- ウォッシャー液が出なくなったときは、ウォッシャーの操作をしないでください。ウォッシャーポンプを損傷するおそれがあります。
- 寒冷時にはワイパーがガラスに貼り付くことがあります。作動させる前に貼り付いていないことを確認してください。貼り付いたままワイパーを操作すると、ワイパーブレードやモーターを損傷するおそれがあります。
- 雪などが付着しているときは、雪などを取り除いてからワイパーを操作してください。作業の際には、安全のため、エンジンスイッチからキーを抜き取ってください。

知　識

フロントワイパーが作動しているときにセレクターレバーを R に入れると、リアワイパーがフロントワイパーに連動して作動します。

ヘッドランプウォッシャー

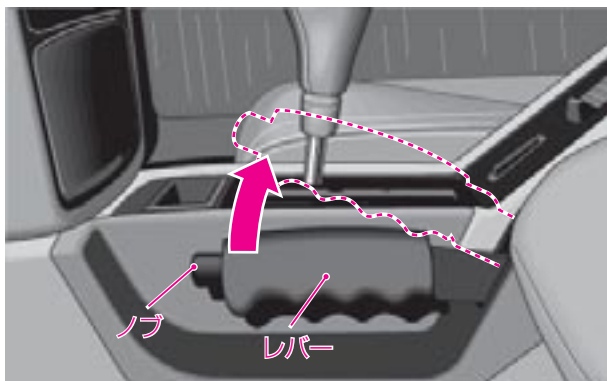
エンジンスイッチが2の位置のときに作動します。スイッチを押すとノズルからウォッシャー液がヘッドランプに向けて噴射されます。

注　意！

- ヘッドランプウォッシャーを使用するときは、歩行者などにウォッシャー液がかからないように注意してください。
- ヘッドランプは樹脂製レンズを使用しているので、必ず純正の専用ウォッシャー液を使用してください。レンズを損傷するおそれがあります。
- ウォッシャー液が出なくなったときは、ヘッドランプウォッシャーの操作をしないでください。ウォッシャーポンプを損傷するおそれがあります。

知　識

冬季にはウォッシャー液の濃度に注意し、冬用の純正ウォッシャー液を使用してください。

駐車ブレーキ

駐車ブレーキを効かせるときはレバーを引きます。解除するときはレバーを少し引いて、ノブを押し込んだまま、レバーを下げます。

⚠ 警　告

駐車ブレーキを効かせたまま走行しないでください。ブレーキが過熱して効かなくなったり、火災が発生するおそれがあります。

注　意！

- 駐車ブレーキは車が完全に停止してから効かせてください。
- 急な坂道に駐車するときは、タイヤに輪止めをしてください。

知　識

駐車ブレーキを解除せずに走行すると、警告音が鳴り、マルチファンクションディスプレイに警告メッセージが表示されます。

ブレーキ

⚠警　告

- **長い下り坂や急な下り坂では必ずエンジンブレーキを併用してください。エンジンブレーキを併用しないでブレーキペダルを踏み続けたり、急ブレーキを繰り返すと、ブレーキが効かなくなり停車できなくなるおそれがあります。**
- **ブレーキペダルの上に足を置いたまま運転しないでください。ブレーキパッドが早く摩耗するだけでなく、ブレーキが過熱して効かなくなったり、火災が発生するおそれがあります。**

注　意！

- ブレーキが過熱している状態では、ブレーキに水がかからないようにしてください。ブレーキディスクを破損するおそれがあります。
- 水たまりの通過後や洗車直後は、ブレーキの効きが遅れたり、悪くなることがあります。このようなときは、後続車に注意しながら低速で走行し、ブレーキの効きが回復するまでブレーキペダルを数回軽く踏んでください。
- 必ず純正のブレーキパッドを使用してください。純正以外のブレーキパッドを使用すると、ブレーキ特性が変わって安全なブレーキ操作ができなくなるおそれがあります。

知　識

バッテリーがあがったり、バッテリーの接続が断たれると、次にバッテリーを接続しても、エンジン始動後に、マルチファンクションディスプレイにBASやESPに関する警告メッセージが表示されたり、ABS警告灯が点灯することがあります。このときはステアリングを左右どちらかにいっぱいまでまわし、次に反対方向にいっぱいまでまわすと、警告メッセージと警告灯が消灯します。

ブレーキ警告灯

エンジンスイッチを**2**の位置にすると点灯し(点灯しないときは警告灯が故障しています)、エンジン始動後に消灯します。

エンジン始動後も駐車ブレーキを効かせているときは、点灯したままになります。

駐車ブレーキを解除しても消灯しないときや、走行中に点灯する場合は、ブレーキ液量が低下しています。安全な場所に停車し、指定サービス工場に連絡してください。

※マルチファンクションディスプレイにブレーキに関する警告メッセージが表示されたときは(292ページ)をご覧ください。

ABS

ABS(アンチロック・ブレーキング・システム)は、急ブレーキ時や滑りやすい路面でのブレーキ時など、車が不安定な状況になったときに、タイヤのロックを防ぎ、ステアリングでの車両の操縦を確保する装置です。

⚠警　告

- **ABSはブレーキ操作を補助する装置で、無謀な運転からの事故を防ぐものではありません。ABSが適切に作動しても、車両操縦性や走行安定性の確保、制動距離の短縮には限界があります。また、タイヤのグリップが失われた状況では効果を発揮しません。**
- **ABS作動時の安全確保や危険回避については運転者に全責任があります。**

注　意！

- ABSは制動距離を短くする装置ではありません。以下のように路面が滑りやすい状況では、ABSを装備していない車と比べ制動距離が長くなることがあります。
  ◇雪の積もった路面や凍結した路面
  ◇砂利道などの荒れた路面
  ◇石だたみのように摩擦係数が連続して変化する路面
  ◇スノーチェーン装着時
- 軽くブレーキペダルを踏み込んだだけでもABSが作動するときは、路面が滑りやすくなっています。十分注意して走行してください。
- ブレーキペダルを数回に分けてこまかく踏むこと(ポンピングブレーキ)は制動能力を低下させる原因になります。ブレーキペダルは一定の力で確実に踏み込んでください。

ABSの作動

ABSには以下のような特性があります。

- ABSが作動すると、ブレーキペダルに脈動を感じたり車体が振動することがあります。そのまま、ペダルを踏み続けてください。
- エンジン始動後や発進直後にブレーキペダルを踏み込むと、ペダルがわずかに振動したりモーターの音が聞こえますが、これは、システムが自己診断をしているときの音で異常ではありません。

知　識

バッテリーの電圧が下がると、バッテリーあがりを防ぐため一時的にABSがオフになり、ABS警告灯が点灯します。バッテリー電圧が正常になると、再びオンになり、警告灯が消灯します。

知　識

- デファレンシャルロックをオンにすると、ABSが解除され、ABS警告灯とESP表示灯が点灯します。また、マルチファンクションディスプレイに "ABS ﾊ ｼﾖｳﾃﾞｷﾏｾﾝ ﾛｯｸ ｶﾞ ｻﾄﾞｳ ｼﾃｲﾏｽ" と表示されます。
- ABSに異常があると、以下の装置に関する警告が表示されることがあります。すみやかに指定サービス工場で点検を受けてください。
  ◇4ESP
  ◇BAS
  ◇4ETS
- ABSは速度が約8km/hを超えると作動できるようになります。
- ABSは急激なエンジンブレーキなどでタイヤがスリップするなどタイヤの性能の限界を越えたときは効果を発揮しません。
- バッテリー電圧が低下するとABSが一時的に機能を停止します。電圧が回復すると、機能も元に戻ります。

ABS警告灯

エンジンスイッチを2の位置にすると点灯し(点灯しないときは警告灯が故障しています)、エンジン始動後に消灯します。点灯しないときや点灯後消灯しないとき、走行中に点灯したときは、ABSに異常があります。
通常のブレーキ時の制動能力は確保されますが、ABS、BAS、ESPは作動しません。
いつもより慎重に運転し、すみやかに指定サービス工場で点検を受けてください。

※マルチファンクションディスプレイにABSに関する警告メッセージが表示されたときは(291ページ)をご覧ください。

BAS

BAS(ブレーキアシスト)は、緊急ブレーキの操作時に、短い時間で大きな制動力を確保するブレーキの補助装置です。
BASの操作は、通常のブレーキ操作と同じですが、ブレーキペダルを踏み込む速さなどをセンサーが感知して、緊急ブレーキと判断したときに自動的に作動します。
BASはブレーキペダルから足を放せば自動的に解除されます。

※マルチファンクションディスプレイにBASに関する警告メッセージが表示されたときは(292ページ)をご覧ください。

⚠ 警　告

- **BASは緊急ブレーキの操作を補助する装置で、無謀な運転からの事故を防ぐものではありません。BASが作動しても制動距離の短縮には限界があります。また、タイヤのグリップが失われた状況では効果を発揮しません。**
- **BAS作動時の安全確保や危険回避については運転者に全責任があります。**

知　識

- BASに異常があり、マルチファンクションディスプレイにBASに関する警告メッセージが表示されたときでも、通常のブレーキは作動します。
- デファレンシャルロックをオンにすると、BASが解除されます。
- デファレンシャルロックを解除しても、マルチファンクションディスプレイに"ﾌﾞﾚｰｷｱｼｽﾄ ｼﾖｳﾃﾞｷﾏｾﾝ!"と表示されるときは、エンジンスイッチを一度0の位置まで戻し、エンジンを再始動します。
- バッテリー電圧が低下するとBASが一時的に機能を停止します。電圧が回復すると機能も元に戻ります。

4ETS

4ETS(4エレクトロニック・トラクション・サポート)は、車輪の空転を感知してブレーキを制御し、滑りやすい路面での発進時や加速時の安定性を確保しようとするシステムです。
速度が約60km/h以下のときに作動します。

知　識

ABSに不具合が生じたときは、4ETSとESPも機能を停止します。

4ESP®

ESP(エレクトロニック・スタビリティ・プログラム)は、タイヤの空転や横滑りなどによって車が不安定な状況になったとき、車の操縦性や安定性を確保しようとするシステムです。

⚠ 警　告

• ESPは車両操縦性や走行安定性を高めるシステムで、無謀な運転からの事故を防ぐものではありません。ESPが作動しても、車両操縦性や走行安定性の確保には限界があります。また、タイヤのグリップが失われた状況では効果を発揮しません。
• ESP作動時の安全確保や危険回避については運転者に全責任があります。

ESP表示灯

エンジンスイッチを2の位置にすると点灯し(点灯しないときは表示灯が故障しています)、エンジン始動後に消灯します。発進時または走行中に点滅したときは、ESPが作動しています。

マルチファンクションディスプレイにESPに関する警告メッセージが表示されたときは(293ページ)をご覧ください。

注　意！

ABS警告灯 (ABS) が点灯しているときは、ESPも作動しません。指定サービス工場で点検を受けてください。

⚠ 警　告

ESP表示灯が点滅したときは、タイヤが空転しているか、車が横滑りしています。アクセルペダルを踏む力を少しゆるめてください。また、慎重に運転するとともに、以下の操作は絶対に行なわないようにしてください。
• 急ハンドル
• 急ブレーキ
• 急発進、急加速
• 急激なエンジンブレーキ

知　識

エンジンがかかっている状態で、駐車場などのターンテーブルで回転させたり、駐車場のらせん状のアプローチを走行しているときなどに、マルチファンクションディスプレイにESPに関する警告メッセージが表示され、ABS警告灯が点灯することがあります。このようなときは、安全な場所に停車して、エンジンスイッチを0の位置に戻し、エンジンを再始動してください。

ESP OFFスイッチ

ESP OFFスイッチは、ESPを解除するためのスイッチです。

雪道や砂、砂利道などの上を走行するときや、スノーチェーンを装着しているときなどは、ESPを解除したほうが走行しやすい場合があります。

ESPを解除する

ESP OFFスイッチの上側を押すと、ESPの機能が解除されます。メーターパネルのESP表示灯が点灯したことを確認してください。

ESPを待機状態にする

ESPの機能が解除されているときに、ESP OFFスイッチの下側を押すと、ESPが待機状態になります。メーターパネルのESP表示灯が消灯したことを確認してください。

⚠ 警　告

ESP OFFスイッチでESPの機能を解除したときは、必ず路面の状況に応じた速度で慎重に運転するとともに、以下の操作は絶対に行なわないようにしてください。

- **急ハンドル**
- **急ブレーキ**
- **急発進、急加速**
- **急激なエンジンブレーキ**

知　識

エンジンを始動したとき、ESPは常に待機状態になります。

注　意！

- 車輪を上げてけん引されるときは、エンジンスイッチを2の位置にしないでください。ESPが作動し、接地している車輪のブレーキが作動します。
- ESPが故障すると、マルチファンクションディスプレイに故障 / 警告メッセージが表示され、エンジンの出力が低下することがあります。走行が困難なときは、すみやかに安全な場所に停車し、指定サービス工場に連絡してください。

知　識

- デファレンシャルロックをオンにすると、ESPの機能が解除されます。
- デファレンシャルロックを解除しても、マルチファンクションディスプレイに "ESP ｼﾖｳ ﾃﾞｷﾏｾﾝ!" と表示されるときは、エンジンスイッチを一度0の位置まで戻し、エンジンを再始動します。
- 指定サイズで4輪とも同じ銘柄のタイヤを装着しないと、ESPが作動することがあります(走行中にESP表示灯が点滅したままになります)。
- ＡＢＳに不具合が生じたときは、ESPも停止します。
- バッテリーがあがったり、バッテリーの接続が断たれると、次にバッテリーを接続しても、エンジン始動後にマルチファンクションディスプレイにESPに関する警告メッセージが表示されることがあります。このときはステアリングを左右どちらかにいっぱいまでまわし、次に反対方向にいっぱいまでまわすと、警告メッセージが消え、機能が回復します。

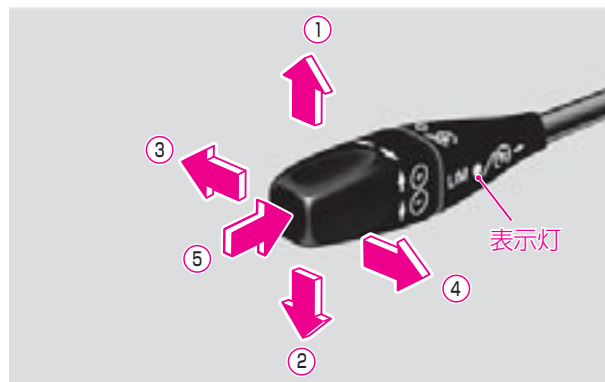
クルーズコントロール

クルーズコントロールは、アクセルペダルを踏まなくても、設定した速度を自動的に維持して走行できます。
設定できる速度は約30km/h以上です。

⚠ 警　告

- **車の走行速度や先行車との車間距離の確保など、クルーズコントロール使用時の安全確保や危険回避については運転者に全責任があります。**
- **以下のような場合はクルーズコントロールを使用しないでください。車のコントロールを失い、事故を起こすおそれがあります。**
  ◇急な下り坂、急カーブ、曲がりくねった道路
  ◇加減速を繰り返すような交通状況や交通量の多い道路
  ◇降雨時や雪道、凍結路などの滑りやすい路面

注　意！

クルーズコントロールは、主に高速道路や自動車専用道路で使用することを想定したものです。市街地では使用しないでください。

可変スピードリミッター(188ページ)と同じレバーを使用します。

1　レバーの表示灯が消灯しているときに、クルーズコントロールの操作ができます。表示灯が消灯していることを確認してください。表示灯が点灯しているときは、レバーを⑤の方向に押すと表示灯が消灯します。
2　希望の速度まで加速または減速します。
3　希望の速度に達したとき、レバーを①か②の方向に操作して手を放します。
4　クルーズコントロールが設定されます。
　アクセルペダルから足を放すと、設定した速度を維持するように走行します。

設定速度を上げる
レバーを①の方向に上げ続けると加速します。
希望の速度になったら手を放します。
手を放したときの速度に設定されます。

設定速度を下げる
レバーを②の方向に下げ続けると減速します。
希望の速度になったら手を放します。
手を放したときの速度に設定されます。

知　識
- レバーを①か②の方向にごく短時間操作すると、1km/h単位で速度の設定ができます。
- レバーを②の方向に下げて減速しているときには、シフトダウンすることがあります。

一時的に速度を上げる
追い越しなどで一時的に速度を上げるときは、アクセルペダルを踏んで速度を上げてください。アクセルペダルから足を放すと、元の設定速度に戻ります。

クルーズコントロールを解除する
- レバーを③の方向に押します。

次の操作をしたときも解除されます。
- ブレーキペダルを踏んだとき
- レバーを⑤の方向に押したとき
  レバーの表示灯が点灯し、可変スピードリミッターを操作できる状態に切り替わります。

⚠ 警　告

クルーズコントロールはセレクターレバーを N に入れても解除されますが、走行中はセレクターレバーを N に入れないでください。エンジンブレーキが効かないため、事故を起こしたり、トランスミッションを損傷するおそれがあります。

解除前に設定していた速度に再設定する

約30km/h以上の速度で走行しているときにレバーを④の方向に引くと、解除前に設定していた速度に再設定されます。

⚠警　告

解除前に設定していた速度に再設定するときは、周囲が安全な状況であることを確認してください。走行中の速度と設定速度に大きな差があると、急加速して事故を起こすおそれがあります。

知　識

エンジンスイッチを一度0か1の位置にすると、メモリーに記憶された速度は消去され、その後はレバーを④の方向に引いても、解除前に設定していた速度に戻すことはできません。

注　意！

- 急な上り坂では、クルーズコントロールが速度を維持するためにシフトダウンしますが、設定した速度を維持できないことがあります。このようなときはアクセルペダルを踏んで加速してください。
- 急な下り坂では、エンジンブレーキだけではクルーズコントロールが速度を維持できないことがあります。このようなときは、ブレーキペダルを踏んで減速してください。
- 指定のサイズで4輪とも同じ銘柄のタイヤを装着しないと、クルーズコントロールが誤作動するおそれがあります。
- マルチファンクションディスプレイにクルーズコントロールに関する警告メッセージが表示されたときは(295ページ)をご覧ください。

可変スピードリミッター

可変スピードリミッターは、制限速度を設定するとアクセルペダルを踏み込んでいても、設定した速度を超えないように走行することができます。

設定範囲

設定できる制限速度は30km/hから210km/hの間です。ただし、最高速度以上に設定しても、車の最高速度以上の速度で走行することはできません。

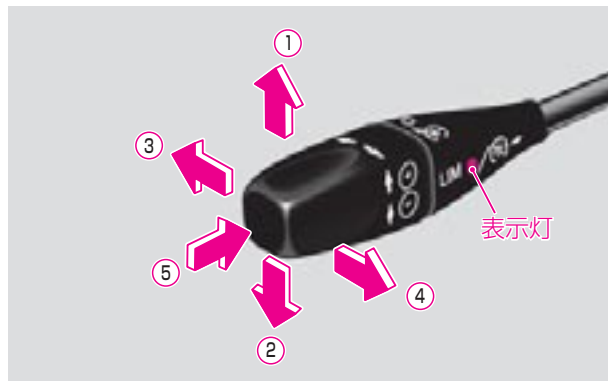
⚠ 警　告

- **走行時は法定速度を遵守してください。可変スピードリミッター使用時の安全確保や危険回避については運転者に全責任があります。**
- **運転を交代するときは、必ず交代する運転者に、可変スピードリミッターの機能と設定した制限速度を伝えてください。**
  可変スピードリミッターの機能を知らずに運転すると、アクセルペダルを踏んでも速度が上がらず、事故を起こすおそれがあります。
- **可変スピードリミッターはブレーキペダルを踏んでも解除できません。**
- **可変スピードリミッターは設定した制限速度以上に加速する必要のないときに使用してください。**

注　意！

- 急な下り坂などで惰性がつき、可変スピードリミッターが制限速度を維持できないときは、警告音が鳴り、マルチファンクションディスプレイに "ﾘﾐｯﾄ ｺｴﾏｼﾀ!" と表示され、可変スピードリミッター表示灯が点滅します。このときはブレーキペダルを踏んで減速してください。
- マルチファンクションディスプレイに可変スピードリミッターに関する警告メッセージが表示されたときは(295ページ)をご覧ください。

LIM **可変スピードリミッター表示灯**

エンジンスイッチを**2**の位置にすると点灯し(点灯しないときは表示灯が故障しています)、エンジン始動後に消灯します。可変スピードリミッターを使用すると点灯します。また、可変スピードリミッターが制限速度を維持できないときに点滅します。

制限速度を設定する

クルーズコントロール(185ページ)と同じレバーを使用します。
レバーの表示灯が点灯しているときに可変スピードリミッターを操作できます。表示灯が消灯しているときは、レバーを⑤の方向に押すと表示灯が点灯します。
停車中と走行中では設定方法が異なります。

停車中の設定方法

1 レバーを④の方向に引くと、すでに制限速度が記憶されているときは、その速度がメーターパネルのマルチファンクションディスプレイに表示され、数秒後に表示が画面下に移ります。

2 レバーを①の方向に操作すると、制限速度が10km/h単位で上がります
レバーを②の方向に操作すると、制限速度が10km/h単位で下がります
レバーを④の方向に操作すると、制限速度が1km/h単位で上がります

3 希望する速度になったらレバーから手を放します。

知　識

車をしばらく使用していなかったり、バッテリーの接続を外していたときなどは、ディスプレイに任意の速度や "---km/h" が表示されることがあります。

走行中の設定方法

約30km/h以上の速度で走行しているときに、レバーを①か②の方向に操作して手を放します。
走行している速度によって操作後の制限速度が変わります。
例えば、約45km/hで走行しているとき

- レバーを①の方向に操作すると、制限速度が50km/hに設定されます
- レバーを②の方向に操作すると、制限速度が40km/hに設定されます
- レバーを④の方向に操作すると、すでに記憶されている制限速度に設定されます

その速度がメーターパネルのマルチファンクションディスプレイに表示され、数秒後に表示が画面下に移ります。

注　意！

制限速度を設定するときは、周囲の状況、特に後方の車などに注意しながら操作してください。事故を起こすおそれがあります。

制限速度を変更する

- レバーを①の方向に操作すると、制限速度が10km/h単位で上がります
- レバーを②の方向に操作すると、制限速度が10km/h単位で下がります
- レバーを④の方向に操作すると、制限速度が1km/h単位で上がります

希望する速度になったらレバーから手を放します。

可変スピードリミッターを解除する

- レバーを③の方向に押します。

次の操作をしたときも解除されます。

- アクセルペダルを踏んでキックダウンしたとき
- クルーズコントロールに切り替えたとき
- 停車後、エンジンを停止したとき

知　識

設定されている制限速度より20km/h以上低い速度のときには、一時的にキックダウンしても可変スピードリミッターは解除されません。

注　意！

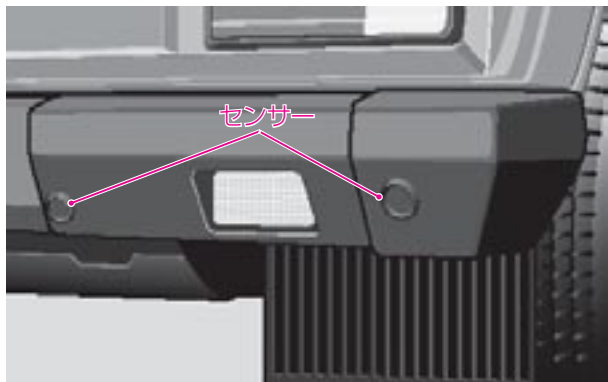
可変スピードリミッターを解除しても、制限速度はメモリーに記憶されています。レバーの表示灯が点灯しているときに、レバーを④の方向に引くと、この記憶されている制限速度が呼び出されます。したがって、記憶されている制限速度が走行速度よりも低い場合に記憶速度を呼び出すと、車はアクセルペダルを踏んでいても減速します。

記憶されている制限速度に再設定する

記憶されている制限速度との差が約30km/h以内、あるいは記憶されている制限速度以下で走行中にレバーを④の方向に引くと、記憶されている制限速度に再設定されます。

知　識

走行速度が、記憶されている制限速度より約30km/h以上高いときは再設定できません。このときマルチファンクションディスプレイの制限速度表示が数回点滅します。

パークトロニック

パークトロニックは、リアのバンパーにあるセンサーで障害物などを感知し、車と障害物とのおよその距離を、インジケーターと警告音で運転者に知らせる装置です。

エンジンスイッチが**2**の位置で、セレクターレバーの位置が R のときに作動します。

注　意！

パークトロニックは運転者を支援するシステムです。運転者はパークトロニックだけに頼らず、必ず周囲の状況を確認してください。特に周辺に人や動物がいないことを確認してください。

パークトロニックセンサー
リアバンパーの4個のセンサーが、車の周辺の障害物などを感知します。

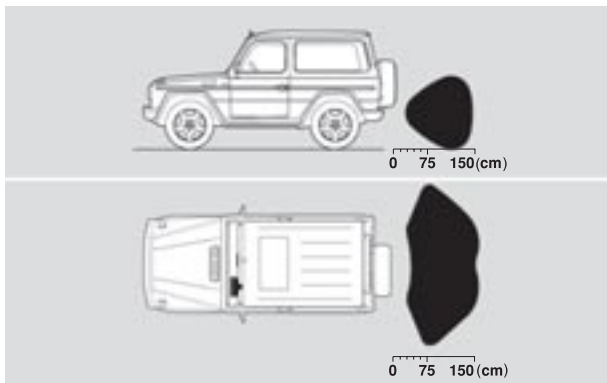
インジケーター

インジケーターはテールゲート脇の右側上部にあります。

インジケーターは、緑色 / 黄色 / 赤色で表示され、バンパーのセンサーと障害物との距離を、点灯する色と数で表示します。

- セレクターレバーを R に入れると、警告音が1回鳴り、すべてのインジケーターが点灯して、すぐに消えます。
- 障害物がセンサー感知範囲(約150～100cm)に入ると、緑色の表示が１個点灯します。障害物との距離がさらに短くなると、緑色の表示が2個点灯します。
- 障害物との距離がさらに短くなると黄色の表示灯が１個点灯し、警告音が断続的に鳴ります。障害物との距離がさらに短くなると黄色の表示灯が2個点灯し、警告音の間隔が短くなります。
- 障害物がセンサーの最短感知距離に近づくと、1個目の赤色の表示が点灯し、警告音の間隔が短くなります。さらに最短感知距離(約30cm)になると、すべての表示灯が点滅し、警告音が継続的に鳴ります。

注　意！

- 障害物との距離がセンサーの最短感知距離よりも近くなると、センサーは障害物を感知できなかったり、正常に作動しなくなることがあります。
- スペアタイヤカバーはリアバンパーより後ろに位置しているため、パークトロニックが知らせる距離よりも、実際の障害物との距離が短くなります。十分注意してください。
- 温度や湿度が高いときや超音波や低周波を発生させる機器が車の近くにあるとき、またエンジンルームの温度が高いときは、パークトロニックが正常に働かないことがあります。運転者はパークトロニックだけに頼らず、必ず周囲の状況を確認してください。特に車の周辺に人や動物がいないことを確認してください。

センサーの感知範囲

リアバンパー：　中央で約150cm〜30cm
　　　　　　　　コーナーで約100cm〜30cm

注　意！

- センサーは、約30cm以内にある障害物は感知できません。
- センサーに泥や氷、雨、水しぶきなどが付いた状態のときは正しく作動しないことがあります。センサーに傷や損傷を与えないよう注意して、定期的に清掃(270ページ)をしてください。
- センサーの周辺にアクセサリーなどを取り付けないでください。パークトロニックが正常に作動せず、車を損傷したり事故につながるおそれがあります。
- 針金やロープなど細いものや、植木鉢やトレーラーシャフトなどセンサーの上下にあるものに十分注意してください。これらが至近距離(約30cm)内にあるとき、状況によっては、センサーがこれらを感知せず、車や物を損傷するおそれがあります。
- センサーは雪などの超音波を吸収しやすいものを感知しないことがあります。
- 電波を発するものが近くにあるときや、不整地などを走行しているときは、パークトロニックが正しく機能しないことがあります。
- 大型車の排気ブレーキや工事用のエアコンプレッサーなどが近くにあると、超音波が乱され、パークトロニックが正常に作動しないことがあります。
- センサーに傷が付いていたり、泥や雪、氷、雨、水しぶきなどで汚れていると、パークトロニックが正しく機能しないことがあります。このときはセンサーを洗浄し、作動を確認してください。
- システムが故障しているときは、セレクターレバーを R の位置に入れても、低い音が鳴り続けたり、インジケーターが点灯しなかったり、警告音が鳴らない状態になります。すみやかに指定サービス工場で点検を受けてください。

快適・室内装備

エアコンディショナー

エアコンディショナーは、温度設定や外気温度などに応じて、送風量や送風口の組み合わせなどを自動的に調整し、車内の温度や湿度を快適な状態に保ちます。
エアコンディショナーはエンジンがかかっているときに作動します。

注　意！

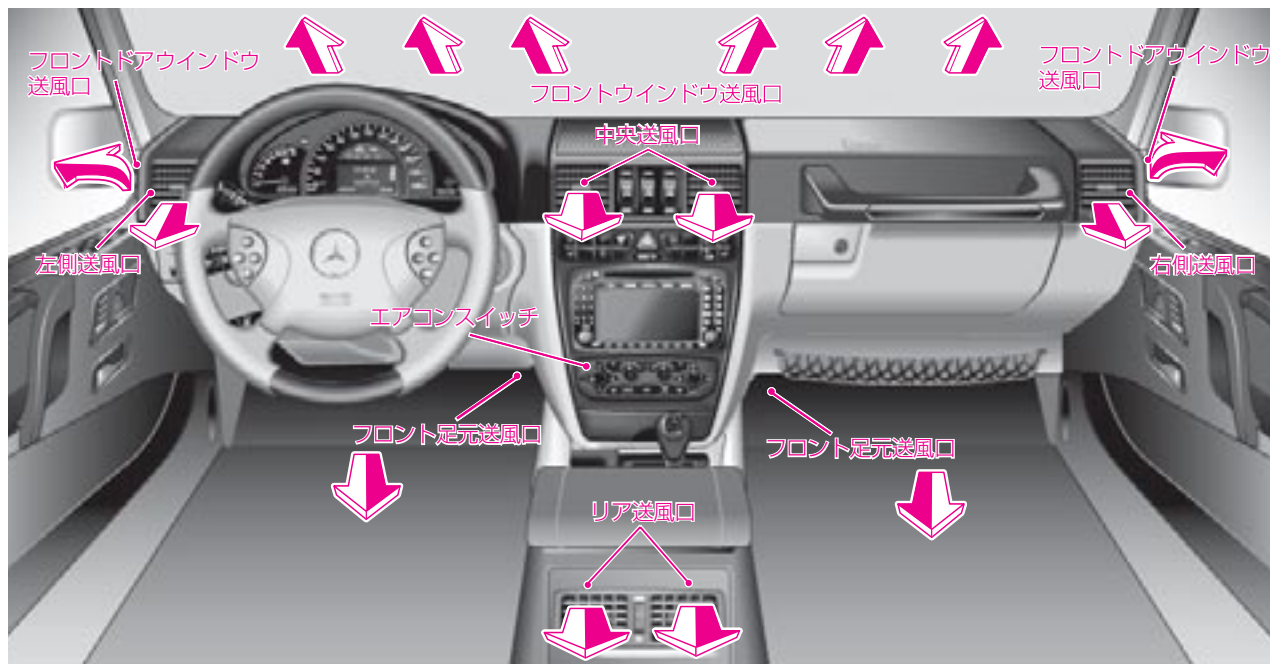
- 皮膚の弱い人は、送風口に身体を近づけすぎないように注意してください。
- 送風温度を上げたときは、送風口周辺が非常に高温になることがあります。送風口周辺に身体を触れないでください。火傷をするおそれがあります。
- 車内が高温になっているときは、エアコンディショナーを作動させる前に換気をしてください。
- ボンネットの吸気口が雪や氷で覆われないようにしてください。

知　識

- エアコンディショナーの機能やモードのなかには、併用可能な組み合わせがあります。
- ドアウインドウやスライディングルーフ＊が開いていると、設定温度を維持できません。
- 除湿された水分は車体下方に排水されます。
- エンジン始動後は設定にかかわらず約30秒間、足元に送風が行なわれます。
- 中央、左/右の送風口からの送風は、常に自動的に制御されています。
- エアコンディショナーのフィルター類は定期的な交換が必要です。

- エアコンディショナーの冷媒には、新冷媒R134aを使用しています。
- 地球環境を保護するため、フロンガスを大気放出することは法律で禁止されています。また、すべての自動車オーナーは、フロンガスが適切に処理されるよう努めなければなりません
- エアコンディショナーの冷媒の補充、交換、廃棄などは、必ず指定サービス工場にご相談ください。

＊オプションまたは仕様により装備が異なります

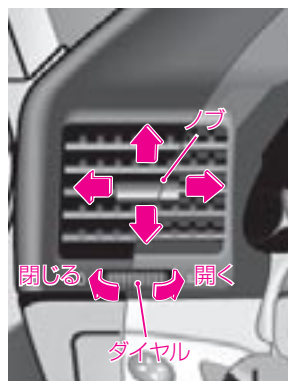
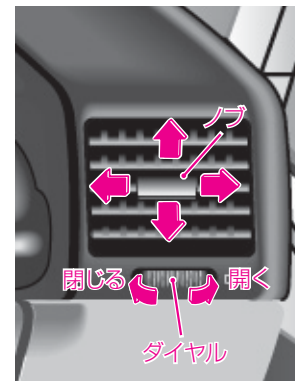
送風口の位置

知　識
フロントシートの下には、リア足元送風口があります。

中央送風口

左側送風口

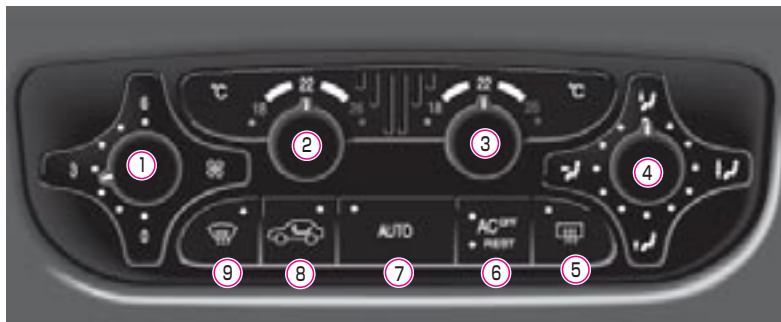
右側送風口

中央送風口の調整

開くとき　：ダイヤルを右にまわします。
閉じるとき：ダイヤルを左にまわします。
風向き調整：ノブを上下左右に動かします。

右側 / 左側送風口の調整

開くとき　：ダイヤルを右にまわします。
閉じるとき：ダイヤルを左にまわします。
風向き調整：ノブを上下左右に動かします。

知　識

- ダイヤルは中間位置を選択することもできます。
- 送風口開閉ダイヤルを止まるまで左側にまわしても、完全に送風口を閉じることはできません。

スイッチの名称

①	送風量調整ダイヤル	201ページ
②	送風温度調整ダイヤル(左側)	200ページ
③	送風温度調整ダイヤル(右側)	200ページ
④	送風口選択ダイヤル	200ページ
⑤	リアデフォッガースイッチ	201ページ
⑥	AC OFFスイッチ / 余熱ヒータースイッチ	203ページ 203ページ
⑦	AUTOスイッチ	200ページ
⑧	内気循環スイッチ	202ページ
⑨	デフロスタースイッチ	201ページ

スイッチの使いかた

AUTOスイッチ

スイッチを押すとエアコンディショナーが作動し、送風口と送風量が自動で調整され、車内温度を一定に保ちます。

送風温度調整ダイヤル

温度を調整するときに使用します。
ダイヤルをまわして温度を設定します。
送風温度は運転席と助手席でそれぞれに設定できます。

送風口選択ダイヤル

好みの送風口を選択することができます。
ダイヤルをまわして送風口を選択します。

：フロントウインドウ送風口とフロントドアウインドウ送風口を中心に送風されます
：すべての送風口から送風されます
：フロント足元送風口とリア足元送風口を中心に送風されます
：中央送風口と右 ／ 左側送風口、リア送風口を中心に送風されます

知　識

- 選択した送風口以外の送風口からも、微量の送風が行なわれることがあります。
- ダイヤルを中間の位置に合わせると、組み合わせた送風口から送風することができます。

送風量調整ダイヤル
送風量を手動で切り替えることができます。

送風を強くする： ダイヤルを時計回りにまわします。
送風を弱くする： ダイヤルを反時計回りにまわします。

ダイヤルを0の位置にまわすと送風が止まります。

デフロスタースイッチ
フロントウインドウとフロントドアウインドウの曇りを取るときに使用します。

使用する： スイッチを押します。
スイッチの表示灯が点灯します。
停止する： 再度スイッチを押します。
スイッチの表示灯が消灯します。

知　識

- 曇りが取れたら、すみやかに解除してください。
- 車外の湿度が高いときなど、ウインドウの外側が曇ることがあります。このときは、フロントウインドウやフロントドアウインドウに冷気が当たらないように調整すると、ウインドウの外側の曇りを軽減できます。

リアデフォッガースイッチ
リアウインドウの曇りを取るときに使用します。
エンジンスイッチが2の位置のときに使用できます。

使用する： スイッチを押します。
スイッチの表示灯が点灯します。
停止する： 再度スイッチを押します。
スイッチの表示灯が消灯します。

リアデフォッガーは、外気温度と走行速度に応じて、約6分以上経過すると自動的に停止します。

注　意！

- リアウインドウに雪や氷が付いている場合は、それらを取り除いてからスイッチを入れてください。
- 消費電力が大きいため、曇りが取れたら早めにスイッチを切ってください。

知　識

バッテリーの電圧が低くなると自動的に停止し、表示灯が点滅します。電圧が回復すると自動的にスイッチが入ります。

内気循環スイッチ

トンネル内などで、外気を車内に入れたくないときに使用します。内気循環にすると、車内の空気が循環されます。

内気循環にする： スイッチを押します。
スイッチの表示灯が点灯します。

外気導入にする： 再度スイッチを押します。
スイッチの表示灯が消灯します。

内気循環は、一定の時間が経過すると、自動的に外気導入に切り替わります。

- 外気温度が5℃以上のときは約30分後
- 外気温度が5℃以下のときは約5分後
- AC OFFモードにしているときは約5分後

知　識

- ドアウインドウとスライディングルーフ＊が閉じているときに内気循環にすると、ウインドウの内側が曇りやすくなります。
- 外気温度が非常に高いときは、自動的に内気循環に切り替わります(このときは表示灯は点灯しません)。そして約30分経過すると、一定の割合で外気導入を始めます。
- またはACOFFを押すと、自動的に外気導入に切り替わります。

＊オプションまたは仕様により装備が異なります

AC OFFスイッチ

除湿と冷房が行なわれないようにするときに使用します。

設定する：スイッチを押します。
スイッチの表示灯が点灯します。

解除する：再度スイッチを押します。
スイッチの表示灯が消灯します。

知　識

- ドアウインドウとスライディングルーフ＊が閉じているときにAC OFFモードにすると、ウインドウの内側が曇りやすくなります。
- 冷媒が減っていると、エアコンディショナーが自動的に停止し、除湿と冷房が行なわれなくなります。このときはスイッチの表示灯が点滅します。

余熱ヒータースイッチ

エンジン停止中に車内を暖房するときに使用します。

エンジンスイッチが**0**か**1**の位置のとき、またはキーが抜いてあるときに使用できます。

使用する：スイッチを押します。
スイッチの表示灯が点灯します。
送風温度調整ダイヤルで好みの温度に調整します。

停止する：再度スイッチを押します。
スイッチの表示灯が消灯します。

以下のときは、余熱ヒーターが自動的に停止します。

- エンジンスイッチを**2**の位置にしたとき
- 余熱ヒーターをオンにしてから約30分後
- バッテリーの電圧が低下したとき

知　識

- 送風量や送風口は自動的に調整されます。
- 冷却水の温度が低いときは暖気の送風は行なわれません。

＊オプションまたは仕様により装備が異なります

リア送風口

フロントアームレスト後部に後席用のリア送風口があります。

送風口を開く

ダイヤルを上方にまわすと、風量が上がります。

送風口を閉じる

ダイヤルを下方にまわすと、風量が下がります。ダイヤルを止まるまで下方にまわすと送風が止まります。

知　識

送風口開閉ダイヤルを止まるまで下方にまわしても、完全に送風口を閉じることはできません。

送風口の風向きを調整する

ノブを動かして調整します。

ルームランプ

フロントルームランプ（スライディングルーフ装備車）

自動点灯モード

ルームランプスイッチを中立の位置④に、リアルームランプスイッチを⑧の位置にします。
周囲が暗いときに以下の操作をすると点灯 / 消灯します。

- エンジンスイッチからキーを抜くと点灯し、設定した遅延時間後に消灯します(129ページ)。
- リモコン操作で解錠すると点灯し、約30秒後に消灯します。
- G 320はドアを開くとフロントルームランプとリアルームランプが点灯します。
  G 320 long、G 500 long、G 55 AMG longはフロントドアを開くとフロントルームランプが点灯します。

リアルームランプ

また、リアドアを開くとリアルームランプが点灯します。

◇エンジンスイッチが**2**の位置のときは、ドアを閉じるとただちに消灯します。
ドアを開いたままのときは約30分後に消灯します。

◇エンジンスイッチが**0**か**1**の位置のとき、またはキーが抜いてあるときは、ドアを閉じると約10秒後に消灯します。
ドアを開いたままのときは約5分後に消灯します。

- テールゲートを開くと、ラゲッジルームランプが点灯します。
  ◇テールゲートを開いたままのときは、約10分後に消灯します。

注　意！

車を施錠したときは、ルームランプが消灯することを確認してください。

知　識

スイッチの位置が④、⑧のときでも、周囲が明るいときはルームランプが点灯しないことがあります。

フロントルームランプの常時消灯

ルームランプスイッチの③側を押しているときは、フロントルームランプは点灯しません。

フロントルームランプの手動点灯 / 消灯

ルームランプスイッチの⑤側を押すと、フロントルームランプが点灯します。
消灯するときは、中立の位置④にするか③側を押します。

読書灯

読書灯スイッチ②を押すと、読書灯が点灯 / 消灯します。

リアルームランプの点灯 / 消灯

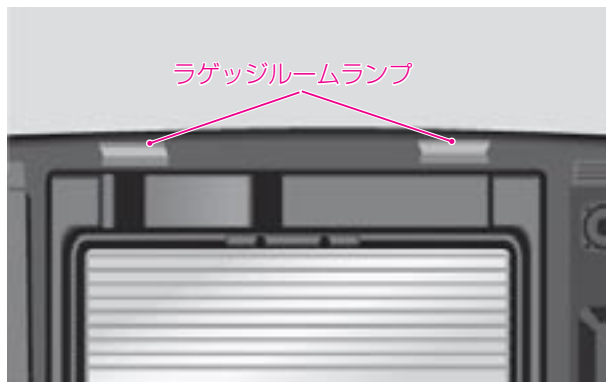
リアルームランプスイッチを⑥の位置にするとリアルームランプが点灯します。また、リアルーム

注　意！

スイッチが⑥の位置で点灯しているときは、自動的に消灯しません。バッテリーがあがるおそれがありますので、必ず消灯してください。

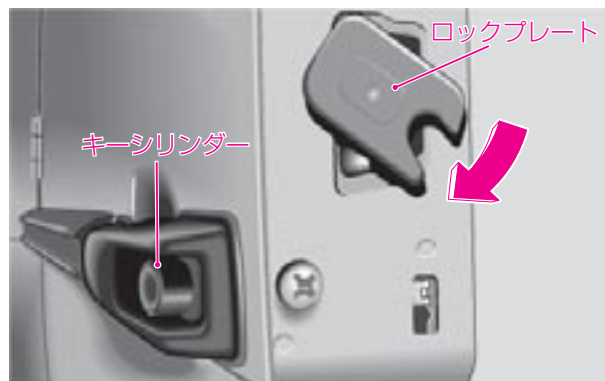
ランプスイッチを⑦の位置にするとリアルームランプが消灯します。

ラゲッジルームランプ

エンジンスイッチが**2**の位置のとき、ラゲッジルームランプスイッチ①を押すと、ラゲッジルームランプが点灯 / 消灯します。

ラゲッジルームランプ

ルームランプの位置が④の位置(205ページ)で周囲が暗いときにテールゲートを開くと点灯します。

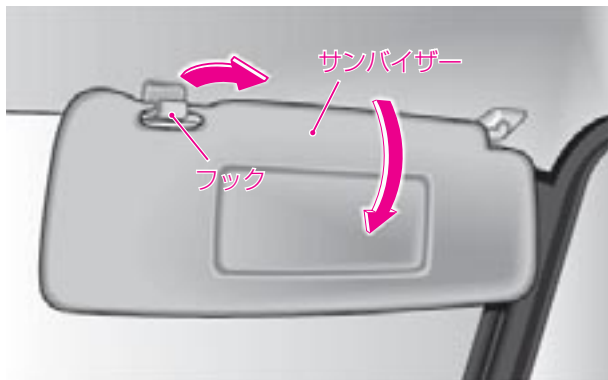
エンジンスイッチが**2**の位置のとき、ラゲッジルームランプスイッチ①(205ページ)を押すと、点灯/消灯します。

長時間テールゲートを開いたままにするときは、バッテリーあがりを防ぐためにラゲッジルームランプを消灯してください。

ラゲッジルームランプの消灯

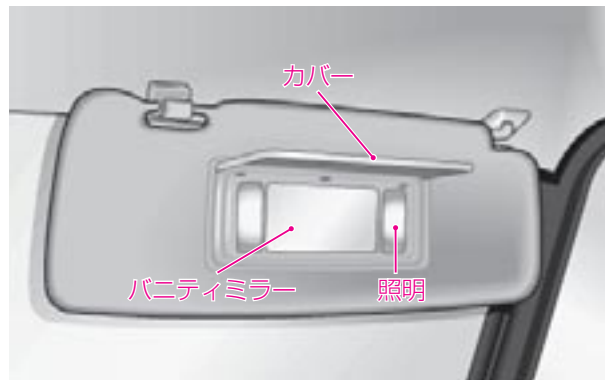
テールゲートのロックプレートを矢印の方向にいっぱいにまわすと、ラゲッジルームランプが消灯します。点灯させるときはテールゲートハンドルのキーシリンダーを押します。

注　意！

テールゲートを閉じる前には、必ずテールゲートハンドルのキーシリンダーを押し、ロックプレートを元の位置(イラストの位置)に戻してください。ロックプレートが下方にロックされた状態でテールゲートを閉じようとすると、ロックプレートがボディのロック部に当たり、ボディやテールゲートのロックを損傷するおそれがあります。

サンバイザー

直射日光などが眩しいときに使用します。
横からの光が眩しいときは、サンバイザーをフックから外して横にまわします。

注　意！

サンバイザーを横にまわすときは、バニティミラーのカバーを閉じてください。ルーフやバニティミラーカバーを損傷するおそれがあります。

バニティミラー

カバーを開いて使用します。
カバーを開くと照明が点灯します。

注　意！

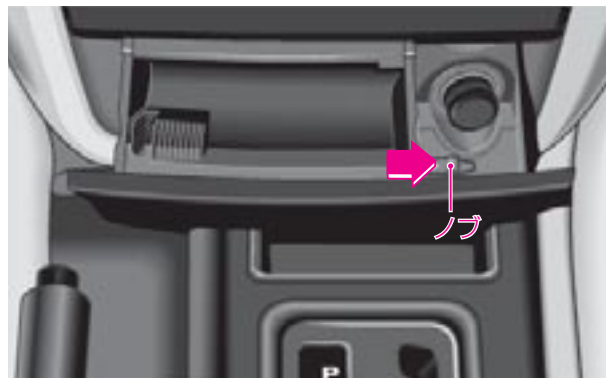
眩惑を防ぐため、走行中はカバーを閉じてください。

灰皿

センターコンソールの灰皿
フロントセンターコンソールにあります。

開く　：カバーを軽く押します。
閉じる：カバーを前方に押して閉じます。

注　意！

- 吸いがらやマッチの火は確実に消してください。
- 紙くずなどの燃えやすい物は入れないでください。
- 使用後は確実にカバーを閉じてください。

取り外す　：エンジンを停止し、駐車ブレーキを確実に効かせます。エンジンスイッチを2の位置にして、ブレーキペダルを踏みながら、セレクターレバーをNに入れます。
ノブを矢印の方向に押すと灰皿が持ち上がり、取り外すことができます。

取り付ける：灰皿を押し込みます。

注　意！

灰皿を取り外すときは、必ずエンジンを停止し、駐車ブレーキを確実に効かせてください。

リアドアの灰皿＊
左右のリアドアにあります。

開く　：灰皿の上部を手前に引きます。
閉じる：灰皿を押し込みます。

取り外す　：灰皿をいっぱいに開き、矢印の位置を押しながら手前に引き出します。
取り付ける：灰皿底部を合わせ、矢印の位置を押しながらはめ込みます。

注　意！

- 吸いがらやマッチの火は確実に消してください。
- 紙くずなどの燃えやすい物は入れないでください。
- 使用後は確実に灰皿を閉じてください。

＊オプションまたは仕様により装備が異なります

ライター

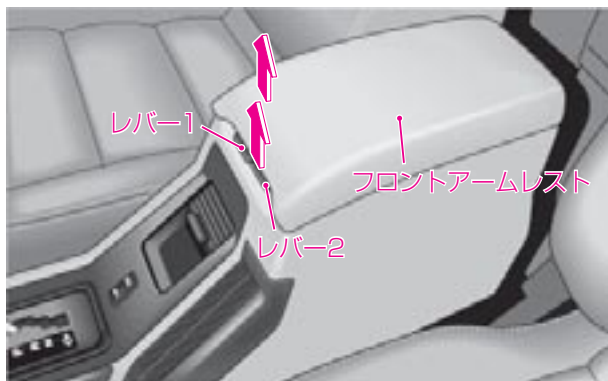
フロントセンターコンソールにあります。
エンジンスイッチが**1**か**2**の位置のときに使用できます。
ライターを押し込んで元の位置に戻るのを待ち、抜いて使用します。
使用後は灰皿で灰を落とし、元の位置に戻してください。

⚠ 警　告

ライターは必ずノブの部分を持ってください。金属部を持つと火傷をするおそれがあります。

注　意！

- 安全のため、子供を乗せるときはライターを抜き取ってください。
- ライターを押し込んだ後、押さえ続けないでください。ライターを損傷するおそれがあります。
- 赤熱部に灰や異物が付着したまま使用しないでください。火災が発生するおそれがあります。
- ライターを改造したり、純正品以外のライターを使用しないでください。ライターやセンターコンソールを損傷したり、火災が発生するおそれがあります。
- ライターが戻らなくなったときは、エンジンスイッチを**0**の位置にするか、エンジンスイッチからキーを抜いて、指定サービス工場に連絡してください。
- アクセサリー電源としてライターソケットを使用するときは、純正アクセサリーだけを使用してください。

フロントアームレスト

フロントアームレストの小物入れ

レバー**1**を押しながら持ち上げると、上段の小物入れが開きます。

レバー**2**を押しながら持ち上げると、下段の小物入れが開きます。

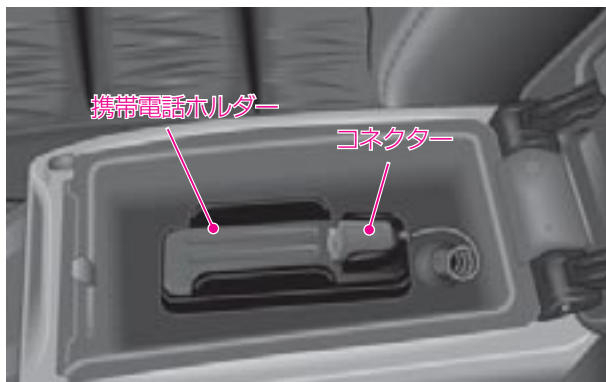
⚠ 警　告

走行中は必ずフロントアームレストを閉じてください。急ブレーキ時や事故のときなどに収納物が飛び出して、乗員がけがをするおそれがあります。

注　意！

フロントアームレストが閉じなくなるような大きな物を小物入れに入れないでください。アームレストや収納物を損傷するおそれがあります。

知　識

上段の小物入れには携帯電話を接続することができます(213ページ)。

携帯電話の接続

フロントアームレスト上部の小物入れ内のコネクターに携帯電話を接続して、電話の発信 / 受信ができます。
電話機能については、別冊「マルチファンクションコントローラー」の取扱説明書をご覧ください。

携帯電話を取り付ける

1 携帯電話ホルダーを下方に押し、ホルダーを開きます。
2 携帯電話の外部端子をコネクターに接続します。
3 ホルダーを下方に押し、携帯電話を固定します。

携帯電話を取り外す

1 携帯電話ホルダーを下方に押し、ホルダーを開きます。
2 携帯電話をコネクターから取り外します。

注　意！

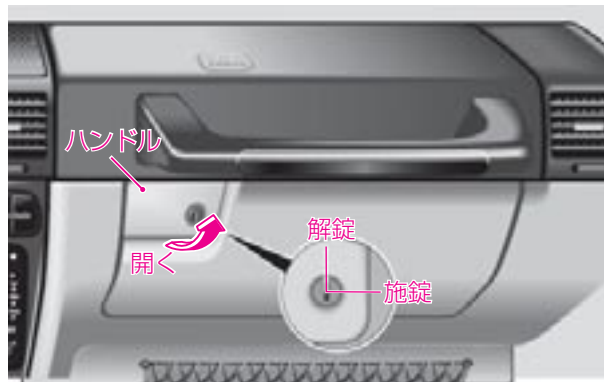
携帯電話のサイズや形状がホルダーに合わないときや、コネクターに接続できないときは、携帯電話を無理に取り付けないでください。携帯電話やホルダー、フロントアームレストを損傷するおそれがあります。

カップホルダー

グローブボックスのカバーの裏側にあります。

注　意！

- 火傷防止のため、熱い飲み物を置かないでください。
- サイズに合ったカップを置いてください。
- 走行中は使用しないでください。

グローブボックス

開く　：ハンドルを引いて開きます。
閉じる：カバーを押してロックさせます。

グローブボックスの施錠
キーシリンダーにエマージェンシーキーを差し込んで解錠 / 施錠することができます。

解錠する：キーを垂直方向にまわします。
施錠する：キーを水平方向にまわします。

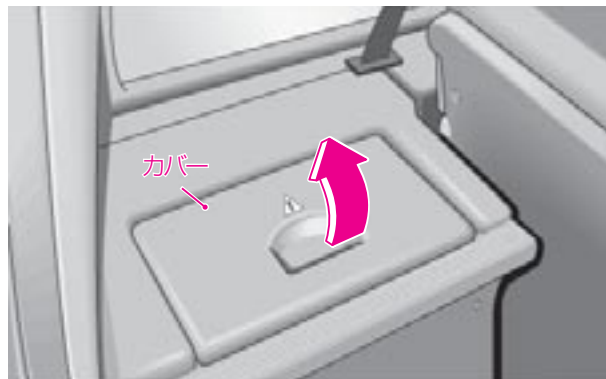
注　意！

- 走行中は、グローブボックスのカバーを開いたままにしないでください。急ブレーキ時や事故のときなどに乗員がけがをしたり、収納物が飛び出すおそれがあります。
- 貴重品はグローブボックス内に保管しないでください。

知　識

- 駐車場などでキーを預ける場合に、グローブボックスを開けられたくないときは、グローブボックスを施錠してください。その際は、エマージェンシーキーをキー本体から取り外し、携帯してください。
- エンジンスイッチが**1**か**2**の位置のときにグローブボックスを開くと、グローブボックスランプが点灯します。

小物入れ

センターコンソールの小物入れ
使用するときは、カバーを後方に引きます。
カップホルダーとして使用することもできます。

ラゲッジルームの小物入れ＊
使用するときはカバーを開きます。

＊オプションまたは仕様により装備が異なります

収納ネット

助手席側の足元に新聞や雑誌などを収納できるネットを備えています。

注　意！

- 収納ネットには、重い物や固い物、ビンや缶、割れやすい物、鋭利な形状の物を入れないでください。
- 収納物がネットからはみ出さないようにしてください。

アシストグリップ

フロントとリアのサイドウインドウ上部にアシストグリップがあります。コーナリング時の姿勢保持などに使用します。
リアのアシストグリップには、コートフックが装備されています。

注　意！

- アシストグリップにぶらさがったり、必要以上の大きな荷重をかけないでください。アシストグリップが破損することがあります。
- 運転者は運転中にアシストグリップを使用しないでください。
- コートフックを使用するときは、衣服が運転者の視界の妨げにならないようにしてください。

⚠ 警　告

SRSウインドウバッグ＊の作動を妨げたり、作動時に物が飛んで乗員がけがをするおそれがありますので、以下の点に注意してください。

- **アシストグリップにハンガーやアクセサリーなどをかけないでください。**
- **コートフックを使用するときは、ハンガーなどを使用せず、衣服を直接かけてください。**
- **コートフックには軽く柔らかい衣服以外の物をかけないでください。**

＊オプションまたは仕様により装備が異なります

電源ソケット

センターコンソール後部

センターコンソール後部とラゲッジルーム左側ににあります。
電気製品などの電源として使用します。
使用するときはカバーを上方に開きます。

注　意！

- 必ずDC12V、最大消費電流15A以下(最大消費電力180W以下)の規格に合った電気製品を使用してください。規格外の製品や規格以上の大きな容量の製品を使用するとヒューズが切れたり、火災が発生するおそれがあります。
- ソケット内に指などを入れたり、ライターを差し込まないでください。感電したり、ショートするおそれがあります。
- エンジンがかかっていないときは長時間使用しないでください。バッテリーがあがるおそれがあります。
- 電源ソケットを使用しないときはカバーを閉じてください。異物が入ったり、水がかかると故障の原因になることがあります。

万一のとき

事故・故障のとき

⚠警　告

燃料などが漏れている場合は、すぐにエンジンを停止してください。また、車に火気を近づけないように注意してください。火災や爆発が発生するおそれがあります。

事故が起きたとき

以下の処置をとってください。

- 続発事故を防ぐため、交通の妨げにならない安全な場所に停車し、エンジンを停止してください。
- 負傷者がいるときは、消防署に救急車の出動を要請するとともに、負傷者の救護を行なってください。ただし、頭部を負傷している場合は負傷者をむやみに動かさないでください。
- 警察に連絡してください。事故が発生した場所や事故状況、負傷者の有無や負傷状態などを報告してください。
- 相手の方の氏名や住所、電話番号などを確認してください。
- 保険会社に連絡してください。

路上で故障したとき

安全な場所に停車し、非常点滅灯を点滅させてください。高速道路や自動車専用道路では、車の後方に停止表示板を置くことが法律で義務づけられています。追突のおそれがあるため、乗員は車内に残らず、ただちに安全な場所に避難してください。

車が動かなくなったとき

セレクターレバーを N に入れ、同乗者や付近の人に救援を求めて、安全な場所まで車を押して移動してください。

注　意！

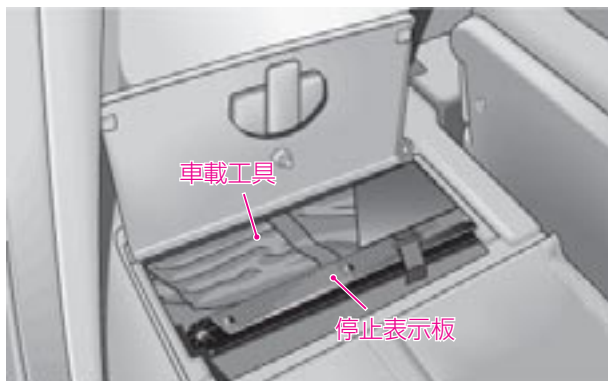
踏切内で動けなくなったときは、ただちに踏切の非常ボタンを押してください。緊急を要するときは非常信号用具を使用してください。

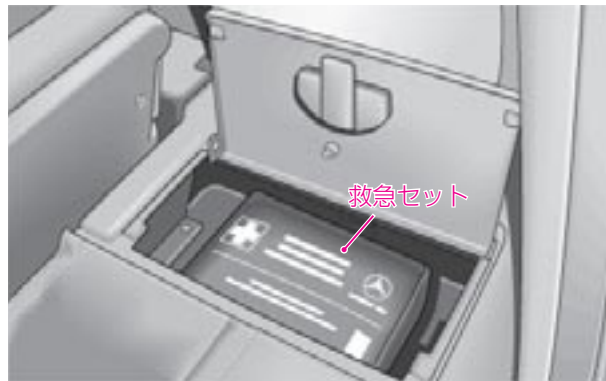
非常信号用具

懐中電灯がドアポケット内に装備されています。

知　識

- 新車時は電池の自然放電を防ぐため、電池の間に紙が挟まれています。使用するときは紙を取り除いてください。
- 懐中電灯が十分な明るさで点灯することを定期的に点検してください。

停止表示板 / 車載工具 / 救急セット / ジャッキ (G 320)

停止表示板 / 車載工具

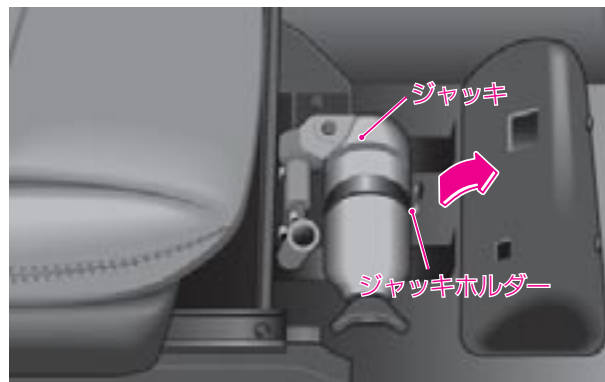
停止表示板と車載工具は、ラゲッジルーム左側の小物入れに収納されています。

救急セット

救急セットは、ラゲッジルーム右側の小物入れに収納されています。
救急セットの中身が揃っていて、使用可能かどうかを、定期的に点検してください。

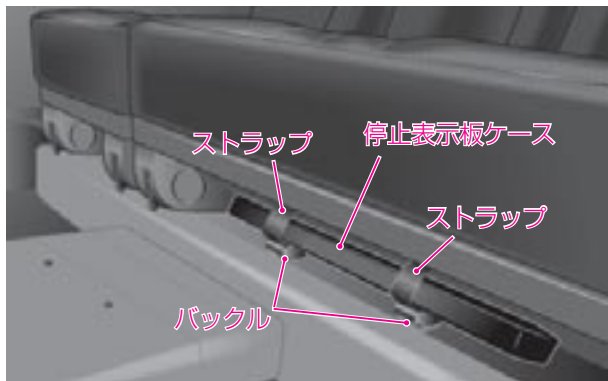
ジャッキ

ジャッキは助手席の下に収納されています。

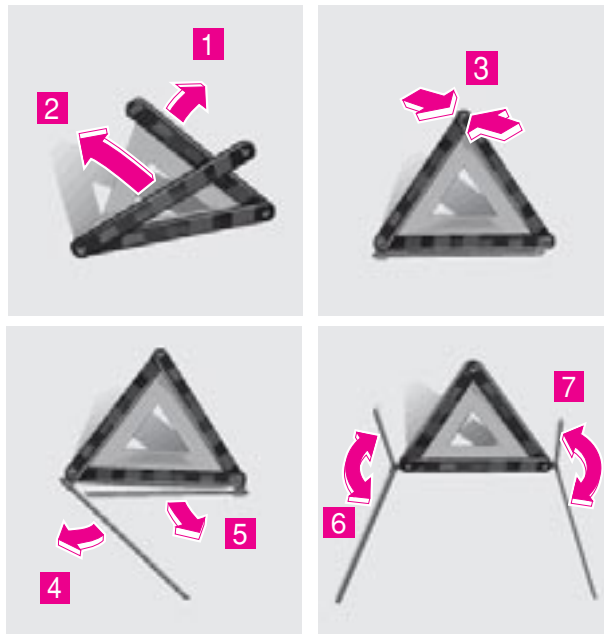
ジャッキを取り外すとき

1　マイナスドライバーなどで、カバーを止めるピンの凸部を取り外します。
2　ピンの凹部を抜き取り、カバーを外します。
3　ジャッキホルダーからジャッキを取り外します。

ジャッキを収納するとき

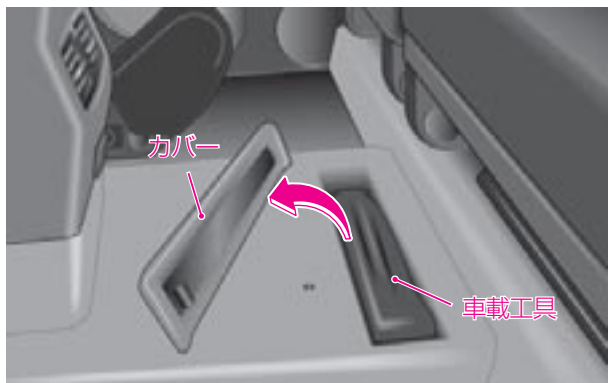
1　図のようにジャッキをジャッキホルダーに取り付けてから、カバーを被せます。
2　カバーにピンの凹部を取り付けてから、凸部をはめ込みます。

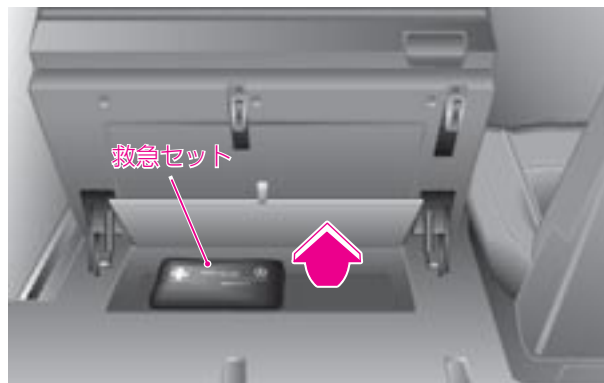
停止表示板 / 車載工具 / 救急セット / ジャッキ (G 320 long / G 500 long / G 55 AMG long)

停止表示板

停止表示板は、左側リアシートの下に収納されています。

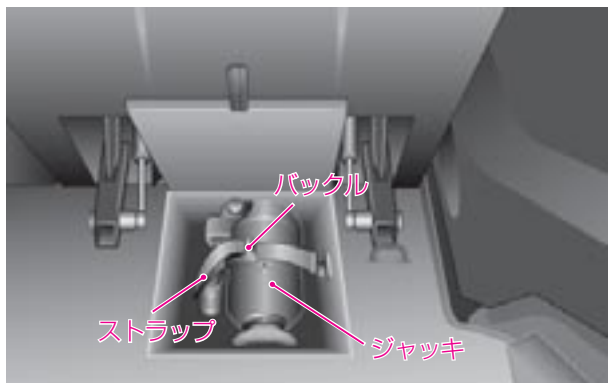
取り出すときは、リアシート下のストラップのバックルを押し、ストラップをゆるめます。戻すときは、停止表示板ケースにストラップをかけ、バックルを押しながらストラップをいっぱいに引いて締めます。

停止表示板の組み立てかた

使用するときは、図の順序で組み立てます。

※停止表示板は車種により異なることがあります。

車載工具

車載工具は、リアシート中央部のフロア下に収納されています。
カバーを上方に取り外して、取り出します。

救急セット

救急セットは、左側リアシート下の小物入れに収納されています。
取り出すときは、左側リアシートを前方に折りたたみ(66ページ)、小物入れのカバーを開きます。
救急セットの中身が揃っていて、使用可能かどうかを、定期的に点検してください。

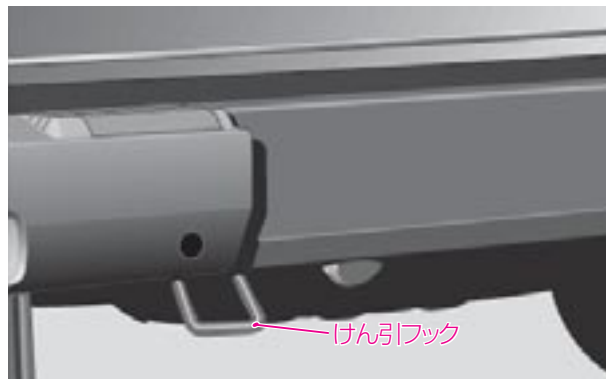
※ 車種や仕様により、救急セットがドアポケット内に収納されていることがあります。

ジャッキ

ジャッキは、右側のリアシート下に収納されています。

取り出すときは、右側リアシートを前方に折りたたんでから(66ページ)、カバーを開き、ストラップのバックルを押し、ストラップをゆるめます。

戻すときは、ジャッキをストラップで固定し、バックルを押しながらストラップをいっぱいに引いて締めます。

けん引されるとき

けん引フック(フロント)

けん引フック(リア)

- けん引されるときは、専門業者に依頼して車両運搬車で移送してください。
- やむを得ず、他車にけん引されるときは以降に記載する説明に従ってください。

けん引フックは前後バンパーの左下にあります。

1　ロープをけん引フックにかけます。
2　車間距離が5m以内になるようにロープを結びます。
3　ロープの中央に白い布(30cmX30cm以上)を付けます。
4　セレクターレバーを N に入れます。

エンジン / トランスミッション / 電気系統が故障しているとき
セレクターレバーを N に入れて、トランスファーの位置を(N)にしてください。

トランスファーケースが故障しているとき
前後のアクスルからドライブシャフトを外してください。

フロントアクスルを損傷しているとき
フロントアクスルを持ち上げ、リアアクスルとトランスファーケース間のドライブシャフトを外してください。

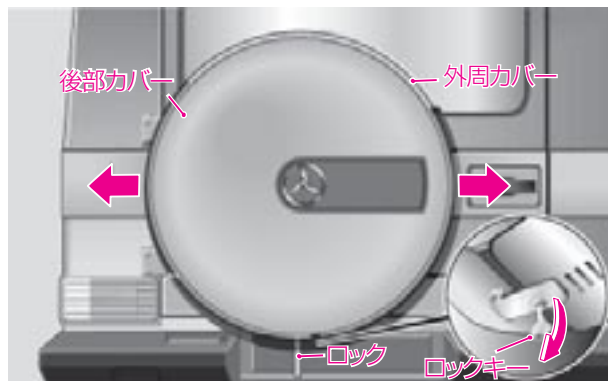
リアアクスルを損傷しているとき
リアアクスルを持ち上げ、必ずフロントアクスルにホイールローラーを取り付けてけん引してください。ホイールローラーを取り付けないと、フロントアクスルの直進性が失われます。

注　意！

けん引ロープを使用してけん引されるときは、以下の点に注意してください。
- ロープは両車ともできるだけ同じ側につないでください。
- ロープの長さは5m以内とし、ロープの中央に白い布(30cm×30cm以上)を付けて2台の車がロープでつながれていることを周囲に明示してください。
- ロープに無理な力や衝撃がかからないようにしてください。
- けん引フック以外にはロープをかけないでください。
- 走行中、ロープをたるませないように車間距離と前車のブレーキランプに注意してください。
- ワイヤーロープやチェーンを使用しないでください。車を損傷するおそれがあります。

注　意！

- 一般道では30km/h以下の速度で、距離は50km以内に限り、けん引走行することができます。距離が50kmを超えるときは、必ず車両運搬車などを利用してください。トランスミッションを損傷するおそれがあります。
- エンジンを停止した状態でけん引走行するときでも、エンジンスイッチからキーを抜かないでください。ステアリングロックが作動し、ステアリング操作ができなくなります。
- エンジンがかかっていないと、ブレーキ倍力装置やパワーステアリングが作動しません。ステアリングをまわすときやブレーキペダルを踏み込むときに非常に大きな力が必要になります。
- 車速感応ドアロックを設定した状態でけん引されると、タイヤが回転したときにドアが施錠され、車外に閉め出されるおそれがあります。車速感応ドアロックを解除してください(132ページ)。
- 車輪を上げてけん引されるときは、エンジンスイッチを**2**の位置にしないでください。ESPが作動し、接地している車輪のブレーキが作動します。また、ブレーキシステムを損傷するおそれがあります。
- 駆動輪が柔らかい地面やぬかるみの中に埋まって動かなくなった車を引き出すときは、慎重に行なってください。積載物があるときは特に注意してください。
- 車を急激に引き出したり、斜めに引き出さないでください。車体を損傷するおそれがあります。
- トレーラーをけん引している場合は、絶対にトレーラーを接続したまま車を引き出さないでください。この場合は車の後部のトレーラーカップリングで引っ張り、できるだけ走行してきたわだちに添って後方へ引き出してください。

スペアタイヤ

スペアタイヤを取り外すとき

1 専用のロックキーでスペアタイヤの外周カバーのロックを外します。
2 外周カバーを矢印の方向に広げて外します。
3 後部カバーを手前に引いて外します。
4 スペアタイヤを固定しているナット(3本)をゆるめ、タイヤホルダーからスペアタイヤを外します。

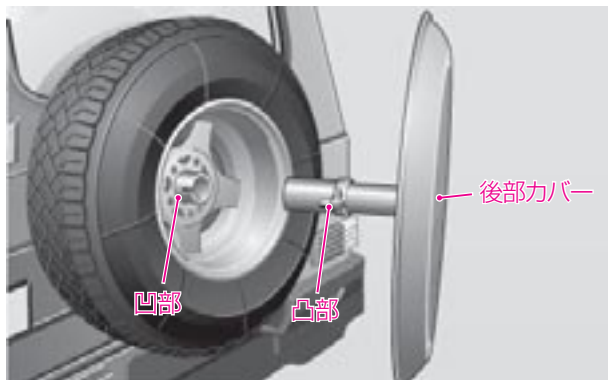
注　意！

スペアタイヤの外周カバーや後部カバーを外すときは、必ず手袋などを着用してください。素手で作業するとけがをするおそれがあります。

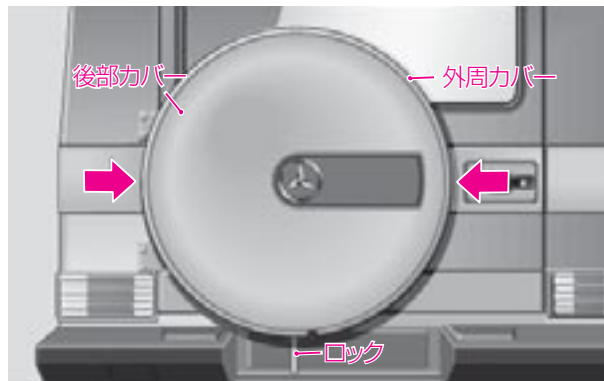
知　識

ロックキーは車内の安全で取り出しやすい場所に保管してください。

タイヤを収納するとき

1 タイヤをタイヤホルダーにかけ、ナット(3本)をねじ込んで固定します。

2　後部カバーの凸部をタイヤホルダーの凹部に合わせ、後部カバーを取り付けます。
3　外周カバーのロックを下に向けて、外周カバーを後部カバーに被せるように取り付けます。
4　ロックキーを押し込みながらまわし、外周カバーをロックします。

⚠ 警　告

- **G 55 AMG longはスペアタイヤに交換したときは、必ず80km/h以下で走行してください。短い時間の使用にとどめ、できるだけ早く標準タイヤに戻してください。**
- **G 55 AMG longはスペアタイヤと標準タイヤのサイズが異なるため、スペアタイヤを装着した場合、走行特性が大きく変化します。注意して走行してください。**

注　意！

- スペアタイヤの溝が摩耗限度になったら、ただちに新品と交換してください。
- 摩耗具合にかかわらず、6年を経過したスペアタイヤは新品と交換してください。
- 安全上の理由から、スペアタイヤが確実に固定されているかどうか定期的に点検してください。スペアタイヤは必ずタイヤホルダーに取り付け、外周カバーおよび後部カバーを被せてください。
- 外周カバーを取り付けるときは、必ず外周カバーが確実に後部カバーに被さっていることを確認してください。後部カバーが脱落するおそれがあります。
- ロックキーを紛失しないように注意してください。
- G 55 AMG longは、スペアタイヤを2本以上装着して走行しないでください。

安全のために
安全装備
運転する前に
運転するとき
快適・室内装備
万一のとき
点検と整備
サービスデータ
こんなときは

タイヤ交換

パンクしたときは、スペアタイヤに交換します。
タイヤ交換は、十分に安全を確保できる、地面が固くてすべりにくい、水平な場所で行なってください。

⚠ 警　告

- **パンクしたタイヤで走行しないでください。車のコントロールを失い、事故を起こすおそれがあります。また、タイヤが異常に過熱し、火災が発生するおそれがあります。**
- **路上でタイヤ交換をするときは、非常点滅灯を点滅させてください。また、十分注意しながら車の後方に停止表示板を置いてください。**

注　意！

- ジャッキアップする前に人や荷物を車から降ろしてください。
- 車速感応ドアロックを設定した状態で車を押したり、タイヤ交換などで車を持ち上げるときは、エンジンスイッチを**0**の位置にしてください。ホイールが回転すると車が自動的に施錠され、車外に閉め出されるおそれがあります。
- タイヤ交換をするときは、必ず手袋を着用してください。素手で作業を行なうとけがをするおそれがあります。

スペアタイヤに交換する

1　安全な場所に停車後、駐車ブレーキを確実に効かせてからセレクターレバーを**P**に入れ、ステアリングを直進位置にして、エンジンを停止します。
　エンジンスイッチからキーを抜き、ステアリングがロックされたことを確認してください。
2　ホイールレンチ、ジャッキレバー、ジャッキ、スペアタイヤを準備します。
3　交換するタイヤの対角線の位置にあるタイヤの前後に輪止めをします。
　やむを得ず傾斜地でタイヤ交換をするときは、以下のように輪止めをします。
　- 前輪のいずれかを交換するときは、左右の後輪の下り側に輪止めをします。
　- 後輪のいずれかを交換するときは、左右の前輪の下り側に輪止めをします。

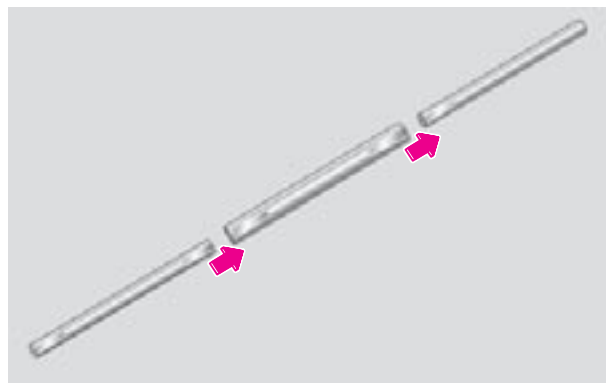
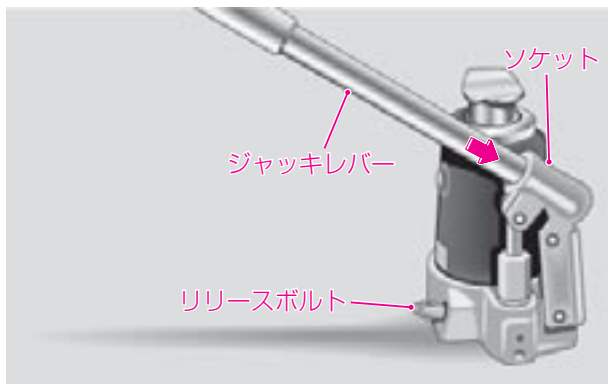
知　識

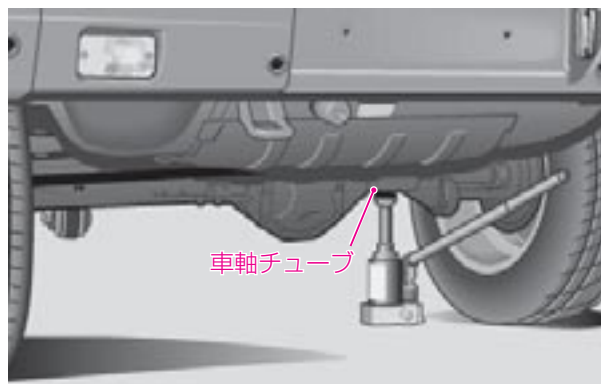
輪止めは装備されていません。適当な大きさの木片か石を、上記の手順に従って使用してください。

4　ホイールレンチで、交換するタイヤのホイールボルト(5本)を約1回転ほどゆるめます。この時点では、ホイールボルトを取り外しません。

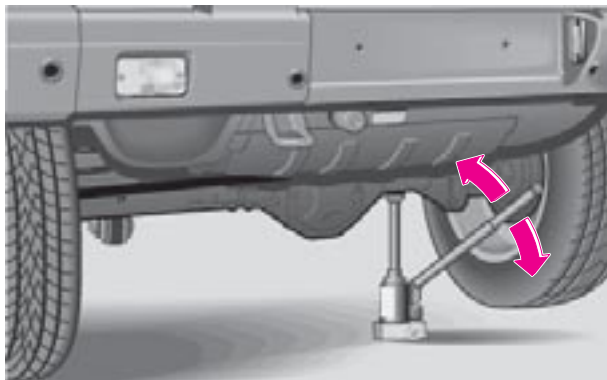
注　意！

ホイールレンチを使用するとき、ホイールレンチがホイールボルトから外れると、けがをしたり、ボルトを損傷することがあります。以下の点に注意してください。

- ホイールレンチを確実に差し込んでください。
- 足で踏んでまわさないでください。
- 両手で握り、ホイール側に押し付けるようにしながらまわしてください。

5　3分割のジャッキレバーを1本に組み立てます。

6　図のようにジャッキレバーをソケットの奥まで差し込み、左にまわして固定します。

7　ジャッキレバーを上下に動かし、ジャッキが上昇するか確認してください。
もし上昇しない場合は、ジャッキレバーをリリースボルトに差し込み、時計回り(右)に止まるまでまわしてから、再度、ジャッキレバーをソケットに差し込み、ジャッキレバーを上下に動かして上昇するか確認してください。

8　ジャッキを車軸チューブの下に置きます。

注　意！

- ジャッキアップする前に人や荷物を車から降ろしてください。
- ジャッキアームが正しく車軸チューブの下に置かれていることを確認してください。
- ジャッキは側面から見て、垂直になるようにしてください。
- ジャッキの底面が、確実に路面に接地するようにしてください。

9 ジャッキレバーを上下に動かし、タイヤが地面から離れるまでジャッキアップします。

⚠ 警　告

車が車載のジャッキだけで支えられているときは、絶対に車の下に入ったり、身体を入れないでください。ジャッキが外れると、車に挟まれて致命的なけがをするおそれがあります。ジャッキは車を一時的に持ち上げるときだけに使用してください。

注　意！

車を持ち上げているときは、エンジンを始動したり、駐車ブレーキを解除しないでください。車が落下するおそれがあります。

10 ホイールボルトを取り外して、タイヤを外します。

注　意！

- ホイールボルトに砂や泥が付着しないように注意してください。
- タイヤを地面に置くときは、ホイールの外側を下にしないでください。下にして置くと、ホイールに傷が付くおそれがあります。
- ホイールを取り外したときは、ホイールの内側を十分に清掃し、点検をしてください。リムの凹みや曲がりは空気圧減少の原因になり、タイヤを損傷するおそれがあります。

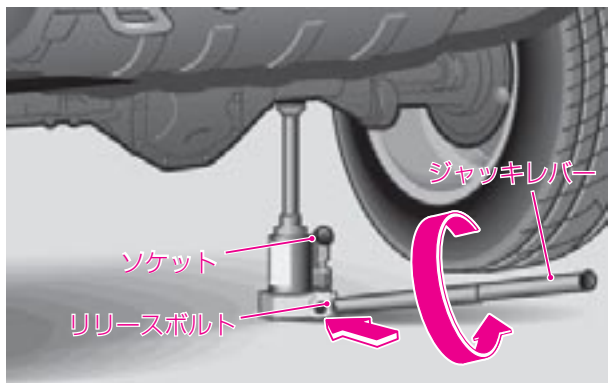
11 スペアタイヤをホイールハブに挿入しホイールボルトを差し込み、ホイールの位置決めを行ないます。

注　意！

- ホイールボルトに損傷や錆があるときは交換してください。また、ネジ山には決してオイルやグリスを塗布しないでください。ボルトがゆるむおそれがあります。
- ホイールハブのネジ山に傷が付いたときは、すぐに修理してください。

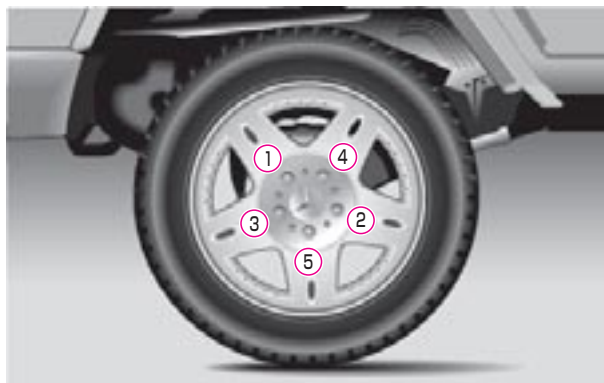
12 すべてのホイールボルトを差し込み、軽く締め付けます。

知　識

スペアタイヤが回転方向の指定されたタイヤの場合、取り付ける位置によって、回転方向が逆向きになってしまうことがあります。応急的な走行には支障ありませんが、すみやかに標準タイヤに戻してください。

13 ジャッキレバーをソケットから外して、リリースボルトに取り付けます。

14 ジャッキレバーを反時計回りにゆっくりまわして車を下げ、ジャッキを外します。

注　意！

リリースボルトは、車を下げるときに、1～2回転だけゆるめてください。ゆるめすぎると内部から液が漏れるおそれがあります。

15 ホイールボルトを図の順序で何度かにわけて締め付けます。

締め付けトルク：13kg-m(130Nm)

タイヤ交換後は、ただちに指定サービス工場などで締め付けトルクを確認してください。

16 タイヤの空気圧を点検します。

17 外したタイヤ、ジャッキ、工具を収納します。

⚠ 警　告

ジャッキアップした状態でホイールボルトを強く締め付けないでください。締め付ける勢いでジャッキが外れるおそれがあります。

注　意！

ホイールレンチを使用するとき、ホイールレンチがホイールボルトから外れると、けがをしたり、ボルトを損傷することがあります。以下の点に注意してください。

- ホイールレンチを確実に差し込んでください。
- 足で踏んでまわさないでください。
- 両手で握り、ホイール側に押し付けるようにしながらまわしてください。

また、ホイールレンチにパイプを継ぎ足してまわすなど、必要以上にホイールボルトを締め付けないでください。ホイールボルトやネジ山を損傷するおそれがあります。

オーバーヒートしたとき

オーバーヒートしたときは、以下のような症状があらわれます

- 冷却水温度画面(108ページ)のバーグラフが右端に達している。
- マルチファンクションディスプレイに "ﾚｲｷｬｸｽｲ ｴﾝｼﾞﾝ ｦ ﾃｲｼ ｼﾃｸﾀﾞｻｲ" と表示される。
- エンジンルームから蒸気が出ている。

⚠ 警　告

- **エンジンルームから蒸気が出ているときや冷却水が吹き出しているときは、ただちにエンジンを停止し、冷えるまで車から離れてください。エンジンルームの中に漏れた液体が発火して火災が発生するおそれがあります。**
- **水温が下がるまで、絶対にボンネットやリザーブタンクのキャップを開かないでください。高温の蒸気や熱湯が吹き出して火傷をするおそれがあります。**

注　意！

- オーバーヒートした状態で走行したり、冷却水が吹き出している状態でエンジンをかけたままにすると、エンジンを損傷するおそれがあります。
- オーバーヒートしたときは必ず指定サービス工場で点検を受けてください。

オーバーヒートしたときは、以下のように処置してください

1 ただちに安全な場所に停車します。
2 エンジンをアイドリング状態で冷却します。
エンジンファンが停止しているときや、冷却水が吹き出しているときは、エンジンを停止して冷却してください。
3 エンジンが十分に冷えてから、冷却水量、水漏れ、エンジンファンなどを点検します。
4 冷却水が不足していたら補給します(253ページ)。

注　意！

冷却水は、エンジンが熱いときに補給しないでください。エンジンを損傷するおそれがあります。

バッテリー

バッテリーがあがったときは、エンジンルーム内のバッテリー端子にブースターケーブルを接続します。

知　識

バッテリーはリアシート中央部のフロア下にあります。

※マルチファンクションディスプレイにバッテリーに関する警告メッセージが表示されたときは(297ページ)をご覧ください。

⚠ 警　告

- **バッテリーの液量が“MIN”マーク以下の状態で使用しないでください。バッテリー液が少ないとバッテリーの劣化が促進され、寿命が縮まったり、爆発する原因となります。ただちにバッテリー液を補充してください。**
- **バッテリーを接続するときは、決してバッテリーをのぞき込まないでください。万一、爆発した場合にけがをするおそれがあります。**
- **絶対に⊕と⊖を間違えて接続したり、⊕と⊖の端子を接触させせないでください。万一、爆発した場合にけがをするおそれがあります。**
- **たばこなどの火気を近づけないでください。バッテリーからは可燃性のガスが発生しているため、爆発するおそれがあります。**
- **バッテリー液は希硫酸です。絶対に触れないでください。万一、目に入ったときは、すぐに流水で十分に洗眼し、医師の診断を受けてください。**

注　意！

- バッテリーの接続を外すときは、⊖側のバッテリー端子を先に外してください。また、バッテリー端子を接続するときは⊕を先に接続します。
- バッテリー端子を外すときは、エンジンスイッチを0の位置にし、すべての電気装備のスイッチがオフになっていることを確認してください。
- 充電器で充電するときは、バッテリーからバッテリー端子を外してください。
- エンジンがかかっているときは、絶対にバッテリー端子をゆるめたり外さないでください。オルタネーターや他の電気装備を損傷するおそれがあります。
- バッテリー端子は、ゆるまないよう確実に締め付けてください。
- バッテリー端子を外すと、ラジオなどのメモリーが消去されます。各装置の取り扱いに従いリセットしてください。不明な点は指定サービス工場におたずねください。
- 車を長期間にわたって使用しないときや、主に短距離の走行に使用するときは、バッテリーの点検を通常よりも頻繁に行なってください。
- ランプがいつもより暗くなったときは、バッテリーの電圧が低下しています。指定サービス工場でバッテリーを点検してください。

環境保護のため、使用済みのバッテリーは、新しいバッテリーをお買い求めになった販売店で廃棄処分をお願いしてください。

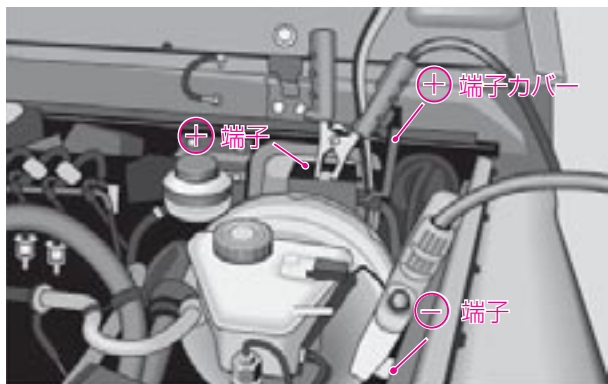
バッテリーがあがったとき

以下のようなときはバッテリーの電圧が低下しています。

- スターターがまわらない。まわっても回転が弱く、エンジンが始動しない。
- ランプがいつもより暗い。

バッテリーの電圧が低下し、エンジンの始動が困難なときは、ブースターケーブルを使用して他車のバッテリーを電源として始動することができます。容量の大きい太めのブースターケーブルを使用してください。

⚠ 警　告

- **他車のバッテリーを使用してエンジンを始動するとき、バッテリーの取り扱いやブースターケーブルの接続を誤ると、バッテリーが爆発してけがをしたり、車の電装部品を損傷するおそれがあります。**
- **他車のバッテリーを使用してエンジンを始動しているときは、決してバッテリーをのぞき込まないでください。爆発した場合にけがをするおそれがあります。**

始動の方法

1　バッテリー電圧が同じ(12V)で、バッテリー容量が同程度の救援車を用意します。
2　救援車のエンジンを停止します。
3　両車の電気装備をすべてオフにします(エンジンスイッチを**0**の位置にします)。
4　自車の⊕端子カバーを開きます。
5　救援車のバッテリーの⊕端子と自車の⊕端子を赤色ブースターケーブルで接続します。
先に救援車のバッテリーの⊕端子を接続してください。
6　救援車のエンジンを始動し、アイドリング状態にします。
7　救援車のバッテリーの⊖端子に黒色ブースターケーブルの一方を接続し、反対側を自車の⊖端子に接続します。
8　自車のエンジンを始動します。

注　意！

- 電気回路を守るため、エンジンを始動したら、ただちにヒーターやデフォッガーなどの電気装備を作動させてください。ただし、ランプは点灯させないでください。
- 救援車の取扱説明書もよくお読みください。

9　取り付けたときと逆の順序でケーブルを取り外します。
10　必要のない電気装備を停止します。

注　意！

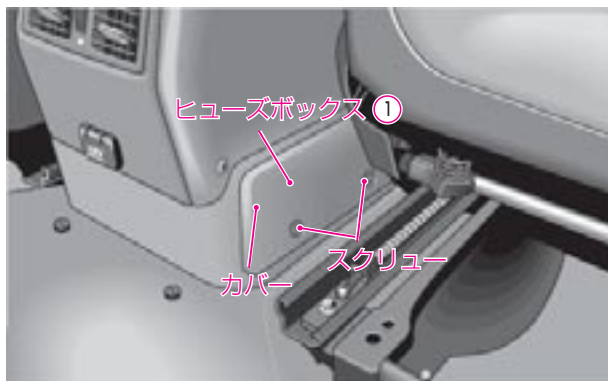
- 急速充電器などを接続してエンジンを始動しないでください。車の電気装備を損傷します。
- 触媒装置の損傷を避けるため、以下の点に注意してください。
  ◇「押しがけ」や下り勾配を利用してエンジンを始動しないでください。
  ◇エンジンが暖まっているときは、ブースターケーブルでエンジンを始動しないでください。
  ◇エンジン始動を2～3回試みても始動できないときは、時間をおいてから、再度始動してください。それでも始動しないときは指定サービス工場へ連絡してください。
- ブースターケーブルは、十分な容量（太さ）のケーブルを使用してください。
  ◇ケーブル部分や絶縁部分が損傷しているものは使用しないでください。
  ◇ケーブルがラジエター冷却ファンやVベルトなどに巻き込まれないようにしてください。

知　識

- 放電したバッテリー液は、約－10℃で凍結します。凍結しているときは、火気を近づけずにバッテリー全体を暖め(50℃以下)、バッテリー液を解凍してからエンジンを始動してください。
- バッテリーがあがったり、バッテリーの接続が一時的に断たれると、次にバッテリーを接続してエンジンを始動したときに、マルチファンクションディスプレイに故障 / 警告メッセージが表示されることがあります。このときは、以下の手順で再設定してください。
  1　安全な場所に停車し、エンジンを始動します。
  2　ステアリングをいずれかに止まるまでまわし、次に反対側へ止まるまでまわします。

VRLAバッテリー

バッテリーのケースが黒色で、上面にVRLA-BATTERYのラベルがある場合は、バッテリー液のレベル点検や補充はできません。点検については指定サービス工場におたずねください。

ヒューズの交換

ランプ類が点灯しないときや、電気装備が作動しないときはヒューズが切れていることが考えられます。
ヒューズの交換は、指定サービス工場で行なうことをお勧めします。

注　意！

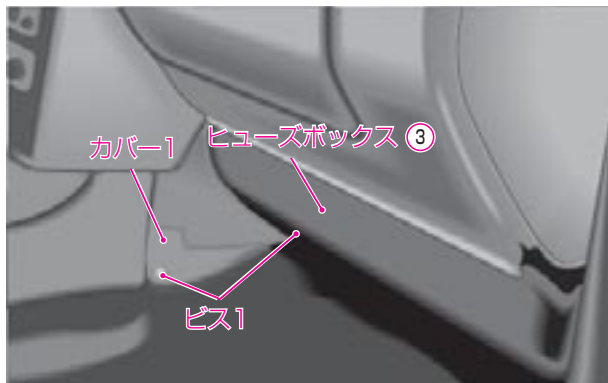
電気系統の作業を行なうときは、バッテリーの⊖端子を外してください。

ヒューズボックスの位置
ヒューズボックスは3箇所にあります。

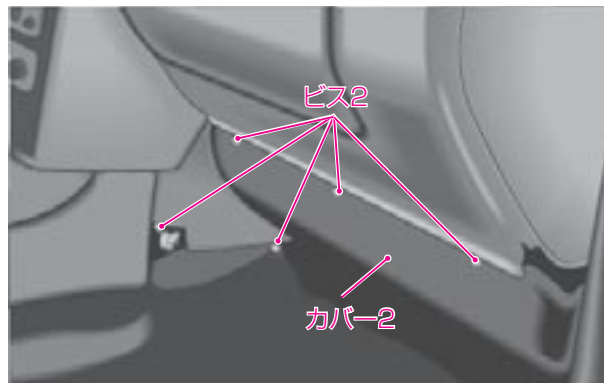
ヒューズボックス①は、センターコンソール右側後部にあります。助手席シートを最前部まで動かし、スクリューをゆるめ、カバーを取り外します。

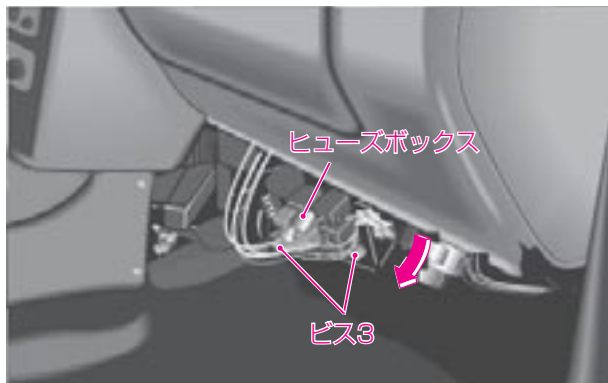
注　意！

ヒューズボックス①のヒューズの交換は指定サービス工場で行なってください。

ヒューズボックス②は、ランプスイッチの横にあります。
カバーを矢印の方向に取り外します。

ヒューズボックス③は、グローブボックス下部のカバー内にあります。

注　意！

ヒューズボックス③のヒューズの交換は指定サービス工場で行なってください。

ヒューズボックス③を開くとき

1　ビス**1**をゆるめ、カバー**1**を取り外します。
2　ビス**2**をゆるめ、カバー**2**を取り外します。

3　ヒューズボックス③は、交換作業を容易にするため引き出すことができます。引き出すときはビス**3**を外します。

ヒューズの交換

1　エンジンスイッチからキーを抜いてください。
2　ヒューズリムーバーなどを使用して、該当ヒューズを取り外します。
3　ヒューズが切れていたら同じ容量のヒューズと交換します。

詳しくはヒューズ一覧(275ページ)をご覧ください。

注　意！

- 規定より大きい容量のヒューズを使用したり、ヒューズの改造、ヒューズ以外の物による代用をしないでください。火災が発生するおそれがあります。
- ヒューズボックスの中には湿気が入らないようにしてください。
- ヒューズを交換してもすぐに切れたり、電気装備が作動しないときは、他に原因があります。指定サービス工場で点検を受けてください。
- ヒューズが切れていないのに、ランプ類が点灯しなかったり、電気装備が作動しないときは、電球切れや故障が考えられます。指定サービス工場で点検を受けてください。

知　識

ヒューズリムーバーは、車載工具に収納されています。

電球の交換

電球を交換するときは、規格に合った同容量の電球と交換してください。
LEDやキセノンランプの交換は、必ず指定サービス工場で行なってください。その他の電球の交換も、指定サービス工場で交換作業を行なうことをおすすめします。

マルチファンクションディスプレイの警告表示

主要なランプ類のいずれかの電球が切れたときは、マルチファンクションディスプレイに故障 / 警告メッセージが表示されます(295ページ)。すみやかに電球を交換してください。

方向指示灯の電球が切れたときは、マルチファンクションディスプレイの故障 / 警告メッセージに加えて、メーターパネル内の方向指示表示灯の点滅と音の間隔が短くなります。

注　意！

- 指定以外の電球を使用しないでください。過熱してレンズを損傷したり、故障の原因になることがあります。
- ハロゲンランプが熱くなっているときは、電球に触れたり、電球を取り外さないでください。ハロゲンランプには圧力のかかったガスが封入されているので、破裂するおそれがあります。
- ハロゲンランプを交換するときは、手袋などを着用し、直接手で電球に触れないようにしてください。ハロゲンランプは高温になるため、電球の表面に油などが付着すると切れやすくなります。触れたときは、薄めた中性洗剤を含ませた柔らかい布で電球をよく拭いてください。

知　識

ドアミラーの方向指示灯とハイマウントブレーキランプは、すべてのLEDが切れたときにマルチファンクションディスプレイに故障 / 警告メッセージが表示されます。

※電球一覧は(274ページ)をご覧ください。

点検と整備

メンテナンス

車の性能を十分に発揮させ、安全かつ快適に運転するためには、指定サービス工場で点検整備を受ける必要があります。指定サービス工場では以下のような点検を行ないます。

- ダイムラー・クライスラー社指定の点検整備
  ダイムラー・クライスラー社の指示による点検整備項目があります。これらはメンテナンスインジケーターの表示に応じて実施します。
- 1年および2年点検整備
  1年、2年点検整備は、車検時を含め、法律で定められ実施するものです。次の点検整備時期を示すステッカーがフロントウインドウに貼付してあります。詳しくは指定サービス工場におたずねください。

メンテナンスインジケーター

メーカー指定点検整備の時期を知らせる目安として、メンテナンスインジケーターが装備されています(110ページ)。

整備手帳

車には整備手帳が備えてあります。点検整備で実施された作業は整備手帳で確認してください。

日常点検

長距離走行前や洗車時、燃料補給時など、お客様が日常、車をご使用される中で、お客様ご自身の判断で実施していただく点検です。
点検項目は整備手帳に記載されています。
点検を実施したときに異常が発見された場合は、すみやかに点検を受けてください。

エンジンルーム

エンジンルーム内の各所を点検をするときは以下の事項を厳守してください。

⚠ 警　告

- **イグニッションシステムに手を触れないでください。高電圧が発生しているため、感電するおそれがあります。**
- **エンジンスイッチからキーを抜いても、冷却水の温度が高いときはエンジンファンが自動的に回転することがあります。エンジンファンの回転部には身体や物を近づけないでください。**

エンジンルーム内の手入れ
手作業で拭いてください。火傷や感電をしないように注意してください。
エンジンルームには多くの電気装備があり、水分や湿気を嫌います。水をかけたり、スチーム洗浄をしないでください。

注　意！

- エンジンや補器類の熱や動きに十分注意してください。火傷やけがをするおそれがあります。
- ラジエターに手を触れないでください。火傷やけがをするおそれがあります。
- 作業は安全な場所を選んで行なってください。
- 適切な工具を使用してください。
- 部品や工具をエンジンルーム内(エンジンの上など)に置かないでください。中に落とすおそれがあります。
- 油脂類(オイルなど)やフルード類(ブレーキ液、バッテリー液、冷却水など)は、十分注意して取り扱ってください。万一、目に入った場合は、すぐに清潔な水で十分に洗い流し、医師の診断を受けてください。
- 油脂類やフルード類が皮膚に付着したときは、すぐに石けんで洗い流してください。放置すると皮膚に障害を起こすおそれがあります。
- 油脂類やフルード類の容器は、子供の手が届くところや火気の近くに保管しないでください。

環境保護のため、油脂類やフルード類の交換および廃棄は、指定サービス工場で行なってください。

冷却水

冷却水はリザーブタンクで点検と補給を行ないます。

冷却水量を点検する

点検は水平な場所で行ないます。
冷却水が冷えている状態で、リザーブタンク本体の白と黒の境目(矢印)までであれば適量です。水温が高いときは約15mmほど高くなります。

※マルチファンクションディスプレイに冷却水に関する警告メッセージが表示されたときは(294ページ)をご覧ください。

⚠ 警　告

- 水温が高いときは、絶対にリザーブタンクのキャップを開かないでください。高温の蒸気や熱湯が吹き出して、火傷をするおそれがあります。
- 不凍液をエンジンルームにこぼさないようにしてください。不凍液が熱くなったエンジンに付着すると、発火して火傷をするおそれがあります。

注　意！

冷却水のレベルが著しく下がっているときは、ただちに指定サービス工場で点検を受けてください。

冷却水を補給する

冷却水が不足している場合は、冷却水が冷えているときにリザーブタンクに補給します。

1　リザーブタンクのキャップをゆっくり反時計回りにまわします。約1回転までまわして、圧力を抜きます。
2　圧力が抜けたら、キャップをさらに反時計回りにゆっくりまわして取り外します。
3　レベルに注意して冷却水を補給します。
　　通常は水道水に純正の不凍液を混ぜて使用します。車を使用する地域(最低気温)によって濃度を変えます。

不凍液の濃度

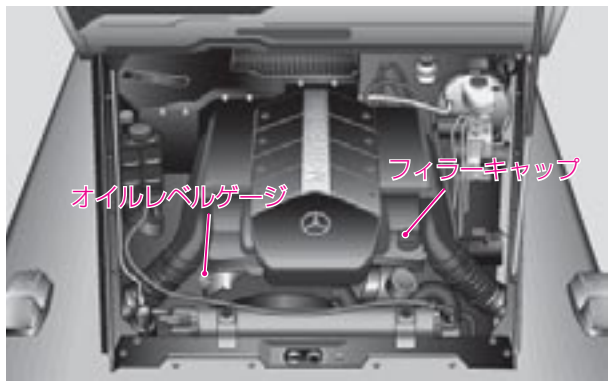
凍結温度	不凍液混合率
−37℃	約50%
−45℃	約55%

注　意！

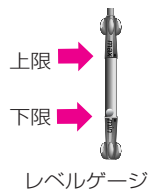
- 冷却水の補給は、冷却水が冷えてから行なってください。
- 冷却水には必ず不凍液を混ぜてください。不凍液には防錆の効果もあります。
- 不凍液の濃度を50%から55%の間にしてください。冷却性能が低下するので濃度を55%以上にはしないでください。
- 指定以外の不凍液や不適当な水を使用しないでください。錆や腐食などの原因になります。
- 不凍液は塗装面を損傷させます。ボディに付着したときは、すぐに水で洗い流してください。
- 冷却水の減りかたが著しいときは、指定サービス工場で点検を受けてください。

冷却水の交換時期

冷却水は時間の経過とともに劣化しますので、整備手帳に従って定期的に交換してください。
詳しくは指定サービス工場におたずねください。

エンジンオイル

G 500 long

エンジンオイル量を点検する

1　水平な場所に停車します。
2　エンジンを始動し、エンジンオイルを温めます。
3　エンジンを停止して、5分ほど待ちます。
4　オイルレベルゲージを抜き取り、きれいに拭いて差し込みます。
5　再度オイルレベルゲージを抜き取り、付着したエンジンオイルの量と汚れ具合を点検します。付着したオイルがオイルレベルゲージの上限(max)と下限(min)の間にあれば正常です。

6　エンジンオイル量が下限(min)以下のときは、フィラーキャップを開いて、指定のエンジンオイルを補給します。

知　識

オイルレベルゲージの上限と下限の間は約2リットルです。

※マルチファンクションディスプレイにエンジンオイルに関する故障 / 警告メッセージが表示されたときは(296ページ)をご覧ください。

⚠ 警　告

エンジンオイルをエンジンルーム内にこぼさないでください。エンジンが熱いときにオイルが付着すると、発火して火傷をするおそれがあります。

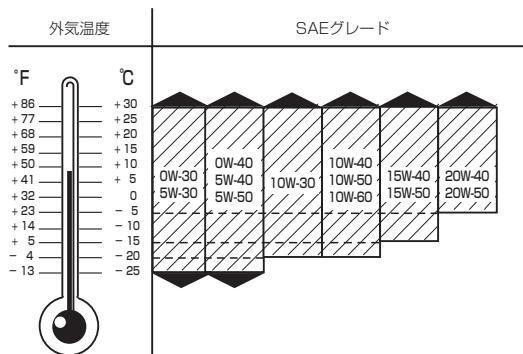
知　識

慣らし運転中のエンジンオイル消費量は多少増加することがあります。また、頻繁にエンジン回転数を上げて走行すると、エンジンオイル消費量は増加します。

注　意！

- 必ず指定のエンジンオイルを使用してください。指定以外のエンジンオイルを使用して故障が発生した場合は、保証が適用されないことがあります。
- 種類の異なるエンジンオイルを混ぜないでください。エンジンオイルの特性が発揮されません。
- エンジンオイルがエンジンルーム内に付着したときは完全に拭き取ってください。
- エンジンオイル量が多すぎると故障の原因になることがあります。
- エンジンオイルの減りかたが著しいときは、指定サービス工場で点検を受けてください。

使用するエンジンオイル

指定のエンジンオイルを使用してください。詳しくは指定サービス工場におたずねください。
グレードと粘度は、下図を参考にして、使用する場所の外気温度に合わせて選択してください。

エンジンオイル交換の時期

エンジンオイルおよびフィルターは定期的な交換が必要です。交換時期はメンテナンスインジケーターを目安としてください。ただし、交換時期は使用状況によって異なりますので、詳しくは指定サービス工場におたずねください。

ブレーキ液

ブレーキ液量を点検する

ブレーキ液リザーブタンクのレベルマークで点検します。ブレーキ液量が上限(MAX)と下限(MIN)の間にあれば正常です。

※マルチファンクションディスプレイにブレーキ液に関する警告メッセージが表示されたときは(292ページ)をご覧ください。

ブレーキ液の交換

定期的に指定サービス工場で交換してください。詳しくは指定サービス工場におたずねください。

⚠ 警　告

- 必ず指定のブレーキ液を使用してください。指定以外のブレーキ液を使用したり、他の銘柄を混ぜると、ブレーキの効き具合やブレーキシステムに悪影響を与え、安全なブレーキ操作ができなくなるおそれがあります。
- ブレーキ液を補給するときは、上限(MAX)を超えないように補給してください。あふれたブレーキ液が熱くなったエンジンに付着すると、発火して火傷をするおそれがあります。
- マルチファンクションディスプレイにブレーキ液に関する警告メッセージが表示された場合、むやみにブレーキ液の補給はしないでください。補給によって故障が解消することはありません。安全な場所に停車し、指定サービス工場に連絡してください。

注　意！

- ブレーキ液の減りかたが著しいときは、指定サービス工場で点検を受けてください。
- ブレーキ液の補給や交換は、指定サービス工場で行なってください。
- 補給のときは、ゴミや水がリザーブタンクの中に入らないようにしてください。たとえ小さなゴミでも、ブレーキが効かなくなるおそれがあります。
- 補給はエンジンが冷えているときに行なってください。排気系などにブレーキ液が付着すると、火災が発生するおそれがあります。
- ブレーキ液量の上限(MAX)を超えて補給すると、走行中に漏れて塗装面を損傷するおそれがあります。ボディに付着したときは、すみやかに水で洗い流してください。
- ブレーキ液は使用している間に大気中の湿気を吸収して劣化します。劣化した状態で使用すると、苛酷な条件下ではベーパーロックが発生するおそれがあります。

ペーパーロック：長い下り坂や急な下り坂などでブレーキペダルを踏み続けると、ブレーキ液が沸騰してブレーキパイプ内に気泡が発生し、ブレーキペダルを踏んでも圧力が伝わらず、ブレーキが効かなくなる現象のことです。

ウォッシャー液

ワイパーウォッシャーとヘッドランプウォッシャーのリザーブタンクは兼用です。

ウォッシャー液を補給する

リザーブタンクのキャップを開いて行ないます。

※マルチファンクションディスプレイにウォッシャー液に関する警告メッセージが表示されたときは(296ページ)をご覧ください。

使用するウォッシャー液

純正の専用ウォッシャー液を水に混ぜて使用します。

⚠ 警　告

ウォッシャー液は可燃性です。火気を近づけたり、近くで喫煙をしないでください。また、エンジンが熱くなっているときには補給しないでください。

注　意！

- ウォッシャー液は、リザーブタンクに補給する前に別の容器で適正な混合比に混ぜてください。
- 粗悪なウォッシャー液や石けん水を使用すると、塗装面を損傷するおそれがあります。
- ウォッシャー液が出なくなったときは、ウォッシャーの操作をしないでください。ウォッシャーポンプを損傷するおそれがあります。
- ヘッドランプには樹脂製レンズを使用していますので、必ず純正の専用ウォッシャー液を使用してください。専用以外のウォッシャー液を使用すると、レンズを損傷するおそれがあります。

知　識

ウォッシャー液には夏用と冬用の2種類があります。夏用には油膜の付着を防ぐ効果があり、冬用には凍結温度を下げる効果があります。

タイヤとホイール

タイヤとホイールは必ず純正品および承認されている製品を使用してください。詳しくは指定サービス工場におたずねください。

タイヤの点検

1 タイヤ接地部のたわみ状態(別冊「整備手帳」)を見て、空気圧が適当であるか点検します。
2 タイヤに大きな傷がないか、くぎや石などがささったり、かみ込んでいないか点検します。
3 タイヤが偏摩耗を起こしたり極端にすり減っていないか点検します。スリップサイン(別冊「整備手帳」参照)が現われているときは、新しいタイヤに交換します。

⚠ 警　告

- タイヤの摩耗には十分に注意し、スリップサイン(別冊「整備手帳」参照)が現われたら、すぐに交換してください。タイヤの溝の深さが3mm以下になると著しく滑りやすくなり、事故につながるおそれがあります。
- 必ず規定の空気圧を守ってください。燃料給油フラップの裏側に、規定のタイヤ空気圧を記載したラベルが貼付してあります(261ページ)。
- 空気圧の低いタイヤで走行しないでください。タイヤが過熱して破裂したり、火災を起こすおそれがあります。
- ホイールボルトはホイールに適合した純正品だけを使用してください。純正品以外のホイールボルトを使用すると、ホイールが脱落して事故を起こすおそれがあります。
- 再生タイヤを装着した場合、安全性の保証はできません。

注　意！

- タイヤに空気を入れても、すぐに空気圧が低下するときは、パンクやホイールの損傷、タイヤバルブからの空気漏れなどのおそれがあります。ただちに指定サービス工場で点検を受けてください。
- タイヤのトレッドがひどくすり減ったり、損傷しているときは交換してください。
- ホイールやタイヤの選択を誤ると、車全体のバランスが悪くなり、安全性に影響するおそれがあります。
- 回転方向が指定されているタイヤは、タイヤの側面に記された回転方向の矢印などの指示に従って装着してください。
- 路面の段差などを乗り越えるときは、速度を落とし、注意して走行してください。タイヤやホイールを損傷するおそれがあります。
- 純正品または承認されている製品以外のタイヤやホイールを装着すると、道路運送車両法違反になることがあります。
- 装着するタイヤは指定されたサイズ、および4輪とも同じ銘柄のものにしてください。サイズや銘柄が異なるタイヤを組み合わせて装着すると、操縦性に悪影響をおよぼし、事故を起こすおそれがあります。
- 摩耗具合にかかわらず、6年以上経過したタイヤは新品のタイヤと交換してください。

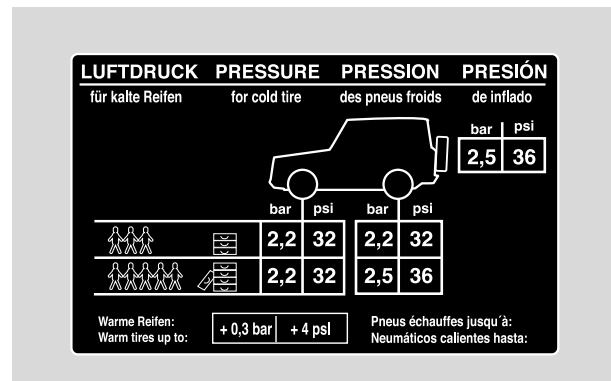
知　識

- 新品タイヤを装着したときは、走行距離が約100kmを超えるまでは速度を控えて運転することをお勧めします。
- 日頃からタイヤの空気圧を点検してください。特に重い荷物を積んで高速走行するときなどは必ず行なってください。
- タイヤが温まっているときの空気圧は、冷えているときよりも約0.3kg/cm²ほど高くなります。空気圧はタイヤが冷えているときに調整してください。規定の空気圧は(261ページ)または整備手帳の別紙「点検整備項目」に記載されています。

定期的にタイヤの空気圧を点検してください。タイヤの空気圧が低いと、燃料を余計に消費します。

LUFTDRUCK für kalte Reifen | PRESSURE for cold tire | PRESSION des pneus froids | PRESIÓN de inflado

	bar	psi	bar	psi
			2,5	36
(2人)	2,2	32	2,2	32
(5人)	2,2	32	2,5	36

Warme Reifen: Warm tires up to: + 0,3 bar + 4 psi Pneus échauffes jusqu´à: Neumáticos calientes hasta:

タイヤ空気圧ラベル

タイヤ空気圧ラベルは燃料給油フラップ裏側に貼付されています。ラベルはシンボル表記になっています。乗車人数と荷物の量に応じて、前輪と後輪の空気圧を調整してください。

単位は「bar（≒kg/cm²）」と「psi」で示しています。たとえば、「2.0bar」は「約2.0kg/cm²」になります。

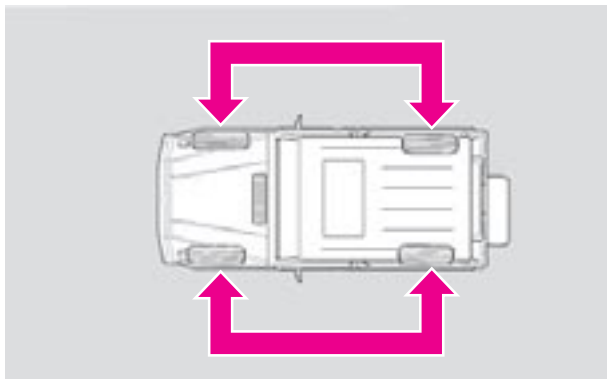
※タイヤ空気圧ラベルは車種により異なることがあります。

⚠ 警　告

- 空気圧の低いタイヤで走行しないでください。タイヤが過熱して破裂したり、火災を起こすおそれがあります。
- タイヤに空気を入れすぎないでください。空気を入れすぎたタイヤは、路上の破片や凹みなどにより損傷を受けたりパンクしやすくなります。また、車両操縦性に影響をおよぼすおそれがあります。必ず規定の空気圧を守ってください。

知　識

- 日頃からタイヤの空気圧を点検してください。特に重い荷物を積んで高速走行するときなどは必ず点検を行なってください。
- 走行直後や炎天下のようにタイヤ自体が高温になっているときは、約0.3barほど空気圧が高くなります。空気圧はタイヤが冷えているときに測定してください。

定期的にタイヤの空気圧を点検してください。タイヤの空気圧が低いと、燃料を余計に消費します。

タイヤローテーション
タイヤの摩耗具合は、走行距離や運転方法、路面状況によって大きく異なります。5,000～10,000kmを目安に摩耗具合を点検し、偏摩耗の兆候がはっきりした時点でタイヤローテーションを行なってください。

注　意！

- タイヤローテーションを行なった後は、ホイールボルトの締め付けトルク13kg-m(130Nm)を確認してください。
- 必ず純正のホイールボルトを使用してください。

知　識

- タイヤローテーションを適切に行なうと、タイヤの摩耗を均一化することができます。その結果、タイヤの寿命を延ばすことができます。
- タイヤローテーションは、前後の位置を入れ替えてください。
- タイヤローテーションを行なった後は、タイヤ空気圧を調整してください。

寒冷時の取り扱い

寒冷時には、通常とは異なった取り扱いが必要です。必ず以下の注意事項を守ってください。

冷却水 / バッテリー

指定サービス工場で、冷却水の不凍液の濃度が適正であること、バッテリーの液量や充電状態に不足がないことを点検してください。

ウォッシャー液

ウォッシャー液には、夏用と冬用があります。冬用の純正ウォッシャー液を使用してください。

ウィンタータイヤ / スノーチェーン

積雪地域では、ウィンタータイヤ、スノーチェーンが必要です(279ページ)。
スノーチェーンは、ダイムラー・クライスラー社の指定品を使用してください。取り扱いについては、スノーチェーンに添付されている取扱説明書に従ってください。

冬季の手入れ

凍結防止剤がまかれた道路を走行したときは、早めに下回りの洗車をしてください。凍結防止剤が付着したまま放置すると、腐食の原因になります。
凍結防止用の塩類をまく地方の場合、1年に一度ボディ下回りの防錆処理をすることをおすすめします。

積雪

ボディやウインドウに雪が積もったときはすべて取り除いてください。走行中に雪が落ちて視界を妨げるおそれがあります。

ドアやテールゲートの凍結

ドアやテールゲートが凍結しているときは以下のような方法で走行する前に解凍するか、氷を取り除いてください。

- 氷を取り除くときは、樹脂製のへらなどを使用し、ボディやウインドウが損傷しないように注意してください。
- ドアやテールゲートが凍結して開かないときは、開口部周囲にぬるま湯をかけ、解凍してから開いてください。また、ドアやテールゲートのキーシリンダーにはぬるま湯がかからないようにしてください。
- 再凍結を防止するため、余分な水分はきれいに拭き取ってください。
- 凍結したまま無理にドアやテールゲートを開こうとすると、周囲の防水シールを損傷するおそれがあります。

ボディ下側の着氷

- 走行前にボディ下部やフェンダーの内側を点検してください。ブレーキ関連部品やステアリング関連部品、サスペンションなどに雪や氷塊が付着していたり凍結していると、ボディを損傷したり、ステアリングがまわせなくなって事故を起こすおそれがあります。
  また、フェンダーの内側に雪が詰まって固まっていると、ボディを損傷したり、ステアリングがまわせなくなって事故を起こすおそれがあります。
- 雪や氷塊が付着しているときは、ぬるま湯をかけるなどして、部品やボディを損傷しないように注意しながら、雪や氷塊を取り除いてください。
- 走行中にも、はね上げた雪や水しぶきが凍結し、氷となってボディ下部やフェンダーの内側に付着し、ステアリング操作ができなくなるおそれがあります。休憩時もこまめに点検し、雪や氷塊が付着しているときは、大きくなる前に取り除いてください。

ワイパーなどの凍結

ワイパーやドアウインドウ、スライディングルーフ＊などが凍結しているときに、無理に動かすとモーターを損傷することがあります。周囲にぬるま湯をかけるなどして、必ず解凍してから操作してください。

乗車前に

靴底などに付着した雪や氷を落としてから乗車してください。ペダルを操作するときに滑ったり、車内の湿度が高くなってウインドウの内側が曇りやすくなります。

雪道を走行するとき

雪道や凍結路面ではタイヤが非常に滑りやすくなっています。十分な車間距離を確保し、いつもより控えめな速度で慎重に走行してください。
安全な走行と操縦性を確保するため、以下の注意事項を守ってください。

- ウィンタータイヤまたはスノーチェーンを必ず使用してください。
- 急ハンドル、急ブレーキ、急加速などを避けてください。
- ブレーキに付着した雪や水滴が凍結し、ブレーキの効きが悪くなるおそれがあります。後続の車に十分注意し、ときどきブレーキペダルを操作してブレーキの効き具合を確認してください。

＊オプションまたは仕様により装備が異なります

雪道で動けないとき

雪道で動けなくなったときは、先にマフラー（排気ガスの出口）と車の周囲から雪を取り除いてください。排気ガスが車内に侵入してくるおそれがあります。

⚠ 警　告

マフラーなどが雪に埋もれた状態でエンジンをかけていると、排気ガスが車内に入り一酸化炭素中毒を起こしたり、中毒死するおそれがあります。

駐車するとき

寒冷時や積雪地での駐車時は以下の点に注意してください。

- 駐車ブレーキが凍結するおそれがある場合は、駐車ブレーキを使用せず、セレクターレバーを P に入れ、確実に輪止めをしてください。
- できるだけ風下や建物の壁、日光の当たる方向にエンジンルームを向けて駐車し、エンジンが冷えすぎないように心がけてください。
- 軒下や樹木の陰には駐車しないでください。雪やつららが落ちてきてボディを損傷するおそれがあります。
- エンジンを毛布でカバーしたり、フロントグリルの内側に段ボールや新聞紙などを挟まないでください。放置したままエンジンを始動すると、火災や故障の原因になります。

ウィンタータイヤ

雪道や凍結路を走行するときは、ウィンタータイヤの装着をおすすめします。

装着するウインタータイヤは、指定されたサイズで4輪とも同じ銘柄のものにしてください(279ページ)。

注　意！

- 回転方向が指定されているウィンタータイヤは、タイヤの側面に記された回転方向の矢印などの指示に従って装着してください。
- ウィンタータイヤの装着時に、スペアタイヤを装着すると、車両安定性や制動性能が大きく低下するので注意してください。
- スペアタイヤは応急的に使用し、できるだけ早くウィンタータイヤに戻してください。
- ウィンタータイヤの溝の深さが4mm以下になったときは、必ず新品と交換してください。
- ウィンタータイヤを装着していても、雪道や凍結路面では、クルーズコントロールは使用しないでください。
- ウィンタータイヤを外した後は､タイヤ / ホイールを乾燥した冷暗所で保管してください。

スノーチェーン

ウィンタータイヤでも走行が困難なときは、スノーチェーンを装着してください。

- スノーチェーンは、ダイムラー・クライスラー社の指定品を使用してください。取り扱いについては、スノーチェーンに添付されている取扱説明書に従ってください。
- スノーチェーンは4輪すべてに装着することをおすすめします。
- スノーチェーン装着時は約30km/h以下の速度で走行してください。
- スノーチェーン装着時は、ESPの機能を解除したほうが走行しやすい場合があります。

※ウィンタータイヤ、スノーチェーンについて、詳しくは指定サービス工場におたずねください。

注　意！

- G 55 AMG longは、標準タイヤにスノーチェーンを装着しないでください。
- 指定品以外のスノーチェーンを装着すると、タイヤから外れたり、車体に接触するおそれがあります。
- スノーチェーンの脱着は、周囲の交通を妨げない、安全で平坦な場所で行なってください。路面に雪や凍結がなくなったときは、スノーチェーンを外してください。

日常の手入れ

定期的に手入れをすることで、いつまでも車を美しく保つことができます。ダイムラー・クライスラー社の純正カーケア用品のご使用をおすすめします。詳しくは指定サービス工場におたずねください。

⚠ 警　告

- **一部の合成クリーナーなどには、揮発性有機溶剤や可燃性物質が含まれているおそれがあります。カーケア用品を使用するときは、必ず添付の取り扱い上の注意を読み、指示に従ってください。**
- **車内でカーケア用品を使用するときはドアウインドウを開き、十分に換気してください。有機溶剤による中毒を起こしたり、静電気が可燃性ガスに引火して火災を起こすおそれがあります。**
- **車の手入れをするときに、ガソリンやシンナーなどを使用しないでください。中毒を起こしたり、気化ガスに引火して火災を起こすおそれがあります。**
- **カーケア用品は、子供の手が届くところや火気の近くに置いたり保管しないでください。**

外装

- 走行後は、ボディに付着したほこりを毛ばたきなどで払い落としてください。
- 少なくとも月に1度は洗車してください。
- 飛び石により塗装面に傷が付くと、錆の原因になります。純正タッチアップペイントで早めに補修してください。
- 保管や駐車は、風通しの良い車庫や屋根のある場所をおすすめします。
- 泥や虫の死がい、鳥のふん、樹液、油脂類、およびガソリンなどが付着したときは、すみやかに拭き取ってください。とくに、鳥のふんは塗装面を損傷しやすいので、できるだけ早く水で洗い流してください。
- 凍結防止剤が散布してある道路の走行後は、すみやかに洗車し、ボディ下側やフェンダー内を洗い流してください。

注　意！

純正カーケア用品の使用方法については、必ず添付の取扱説明書をお読みください。

洗車

1 ボディ全体に低圧で水をかけ、ほこりなどを洗い流します。
2 水に純正カーシャンプーを混ぜた洗浄液を用意し、車全体にかけます。外気取り入れ口付近では少量にし、ダクト内に洗浄液が残らないように注意してください。
3 スポンジやセーム皮などを使用して、十分な量の水で洗い流します。
4 洗車後は、すみやかに水滴を拭き取ります。

注　意！

水が凍るような寒いときや直射日光が強く当たる場所、走行直後でボンネットが熱くなっているようなときは洗車をしないでください。

- 虫の死がいなどは、洗車前に純正インセクトリムーバーで取り除いてください。
- コールタールやアスファルトの汚れは、純正タールリムーバーで拭き取ってください。乾いてしまうと落としにくくなるので、早めに処理してください。
- ヘッドランプを含むランプ類は樹脂製レンズです。流水または水と純正カーシャンプーを混ぜた洗浄液で洗い流してください。有機溶剤や強アルカリ洗剤などを使用したり、強くこすると細かい傷を付けることがあります。

自動洗車機の使用

自動洗車機で洗車するときは以下の点に注意してください。

- 車の汚れがひどいときは、自動洗車機で洗車する前に水洗いをしてください。
- 自動洗車機が車のサイズに合っているかを確認してください。
- 洗車前にドアミラーを格納してください。
- 回転ブラシの硬さによっては、細かな傷が付き、塗装面の光沢が失われたり、劣化を早めるおそれがあります。

高圧式スプレーガンの使用

- 高圧式スプレーガンのノズルは、 車から十分離して使用してください。
- 高圧式スプレーガンのノズルをウインドウガラス接合面やボディパネルの継ぎ目部分などに近づけないでください。水圧が高いため、車内に水が侵入したり、防水シールや塗装を損傷することがあります。
- 高圧式スプレーガンのノズルをタイヤに向けないでください。水圧が高いため、タイヤを損傷するおそれがあります。

塗装面

塗装面の手入れには、以下の純正カーケア用品を使用してください。手入れ方法などは、添付の取扱説明書をお読みください。

- ペイント保護剤
  塗装面に被膜をつくり、ボディの光沢を守ります。
- ペイントポリッシュ
  光沢を失った塗装面の汚れを落とします。
- スポットクリーナ
  腐食の原因となる鳥のふんや樹脂などの頑固な汚れを除去します。
- タッチアップペイント
  塗装面にできた小さな傷の応急補修に使用します。

注　意！

直射日光が強く当たる場所や走行直後でボンネットが熱くなっているようなときに、塗装面の手入れをすると、塗装面を損傷するおそれがあります。

知　識

誤って傷を付けたり、誤った手入れにより錆などが発生したときは、指定サービス工場で補修することをおすすめします。

ホイール

- ぬるま湯に純正カーシャンプーを混ぜた洗浄液で洗い流してください。
- 落ちにくい汚れのときは、純正アルミホイールクリーナを使用します。

注　意！

走行直後は、ブレーキディスクやホイールに直接水などをかけないでください。ブレーキディスクが熱いときに急激に冷やすと、ディスクを損傷するおそれがあります。

ウインドウ / スライディングルーフ＊ガラス

ガラスの室内面には、曇り止め配合の純正インテリアガラスクリーナを使用します。室外面の汚れがひどいときは、純正ウインドウクリーナを使用します。

注　意！

リアウインドウやリアサイドウインドウに、極細の熱線やアンテナ線がプリントされている車種があります。ガラスの室内面を清掃するときは、柔らかい布を使用し、熱線やアンテナ線に沿って拭き取り、傷を付けないように注意してください。

＊オプションまたは仕様により装備が異なります

車内

- プラスチックやゴム部分は、純正カーシャンプーを混ぜた洗浄液または純正プラスチッククリーナで拭き取ります。
- ステアリングやセレクターレバー、メーターパネルなどは、純正カーシャンプーを混ぜた洗浄液で拭き取ります。

ファブリック

- ブラシなどでほこりを払い落とします。
- 汚れがひどいときは、純正クロスクリーナを使用し、染み抜きには純正スポットリムーバーを使用します。

ベロアー

水分や熱によって毛足が寝てしまうと汚れたように見えます。このようなときは軽く湿らせたブラシで整えます。

本革

汚れを落としてから、純正レザーケアフォームを使用します。使用方法については指定サービス工場におたずねください。

人工皮革

純正カーシャンプーを使用します。

アルカンタラ / ヌバックレザー

柔らかい布で軽く乾拭きするか、布を軽く湿らせて拭き取ってください。

注　意！

アルカンタラ / ヌバックレザーには手入れ用品などを使用しないでください。また、強い力で乾拭きしないでください。シートが色落ちしたり、表面に傷を付けるおそれがあります。

パークトロニックセンサー

- リアバンパーにあるセンサーを清掃します。
- きれいな水、または水に純正カーシャンプーを混ぜた洗浄液で洗ってください。

知　識

他にも純正カーケア用品があります。詳しくは指定サービス工場におたずねください

サービスデータ

純正部品 / 純正アクセサリー

ダイムラー・クライスラー社では、点検や整備に必要な純正部品を豊富に用意しています。メルセデス・ベンツ純正部品は厳格な基準により品質管理されております。点検や整備、修理のときは必ず純正部品を使用してください。
アクセサリーについても、ダイムラー・クライスラー社またはダイムラー・クライスラー日本株式会社が指定する製品だけを使用してください。

⚠ 警　告

どんな場合でも、ブレーキ関連部品などの重要保安部品や走行系統に使用する部品に、純正部品以外の物を使用しないでください。事故や故障の原因になります。

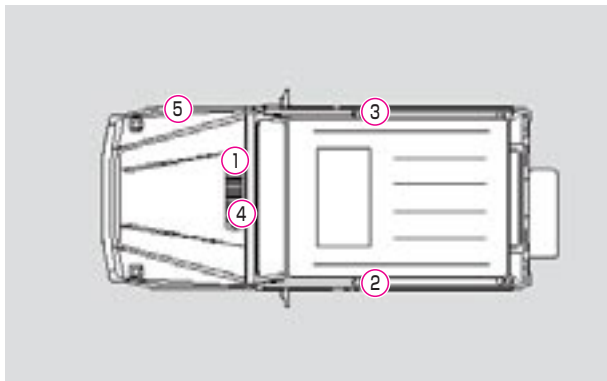
知　識

純正部品以外の部品を使用したときは、該当箇所だけでなく関連箇所に不具合が生じても、保証を適用できないことがあります。

ダイムラー・クライスラー社では、資源の有効利用を促進するため、リサイクル部品を積極的に導入しています。

注　意！

- エアバッグやシートベルトテンショナー、インストルメントパネル、センターコンソール、センターピラーのフロアパネル付近には、エアバッグやシートベルトテンショナーのセンサー類が取り付けられています。これらの部位にオーディオなどを追加装備したり、修理や鈑金作業などを行なうと、エアバッグやシートベルトテンショナーの作動に悪影響を与えるおそれがあります。詳しくは指定サービス工場におたずねください。
- 車載無線機など電装アクセサリーを装着するときは、指定サービス工場に相談してください。装着方法などが適切でないと、車の電子制御部品に悪影響を与えるおそれがあります。また、電気配線を間違えると、火災や故障の原因になります。
- ウインドウに透明な吸盤を貼り付けないでください。透明吸盤がレンズとして作用し、火災が発生するおそれがあります。

ビークルプレート

純正部品を注文するときに車台番号あるいはエンジン番号が必要になることがあります。車台番号やエンジン番号を示すプレート類は図の箇所に取り付けられています。

① エンジン番号
エンジン右側後部にエンジン番号が打刻されています。

② ニューカープレート
運転席側のセンターピラーに表示されています。ニューカープレートにはカラーコードも記載されています。

③ オプションコードプレート
助手席側のセンターピラーに表示されています。

④ ボディプレート
エンジンルーム内の空気取り入れ口の下に表示されています。

⑤ 車台番号
右側フロントホイールアーチ内のフレームに打刻されています。

電球一覧

電球(ランプ)		ワット数(規格)
ヘッドランプ		60W / 50W(H4)
フロントフォグランプ		55W(H3)
フロントパーキングランプ / 車幅灯		4W
方向指示灯	フロント	21W(黄色)
	リア	21W(黄色)
バックランプ		21W
ブレーキランプ		21W
リアパーキングランプ / テールランプ		5W
リアフォグランプ(右側のみ)		21W
ライセンスランプ		5W

ドアミラーの方向指示灯とハイマウントブレーキランプにはLED(発光ダイオード)が使用されています。

※記載の内容は取扱説明書作成時点のもので、予告なく変更されることがあります。

ヒューズ一覧

ヒューズボックス1(センターコンソール右側後部)

1 30A :オプション
2 30A :オプション
3 7.5A:マルチファンクションコントローラー
4 20A :コントロールユニット(G 55 AMG long)、燃料ポンプ
5 :未使用
6 7.5A:燃料ポンプ内タンク(G 55 AMG long)
7 :未使用
8 7.5A:盗難防止警報システム
9 25A :盗難防止警報システム、ルームランプ、バニティミラー照明、自動防眩ミラー、レインセンサー、スライディングルーフ
10 20A :リアデフォッガー
11 :未使用
12 7.5A:トランスミッションセンサー
13 :オプション
14 15A :リアウインドウウォッシャー
15 7.5A または 10A:燃料給油フラップロック、タンクキャップリリース
16 :オプション
17 20A :オプション
18 20A :オプション
19 20A :オプション
20 7.5A または 10A:リアドアセントラルロッキング

(A463 545 09 00 2003-10-01)

※記載の内容は取扱説明書作成時点のもので、予告なく変更されることがあります。

ヒューズボックス2(ライトスイッチ横)

21 30A :ミラー調整、ドアミラーヒーター、フロントパワーウインドウ、ステアリング調整
22 30A :ミラー調整、ドアミラーヒーター、フロントパワーウインドウ
23 5A :ルームランプ
24 :未使用
25 30A :シートヒーター
26 7.5A:乗降用ランプ、イルミネーテッドステップカバー
27 40A :運転席シート調整、ステアリング調整
28 15A :電源ソケット
29 15A :オプション
30 40A :エアコンディショナー、ブロワーモーター
31 20A :スターター、ステアリングロック
32 30A :リアパワーウインドウ
33 30A :リアパワーウインドウ
34 7.5A:オプション
35 :未使用
36 :未使用
37 15A :デファレンシャルロック
38 40A :助手席シート調整
39 40A :トランスファーケース
40 30A :ESP
41 7.5A:エアコンディショナー、ブロワーモーター、ドアロックスイッチ、非常点滅灯、リアデフォッガー
42 7.5A:エアバッグ警告灯、メーターパネル

A 7.5A または 10A:インタークーラー(G 55 AMG long)
B 10A :ESP
C :未使用
D 5A :ESP、ウォーターレベルセンサー
E 20A :マルチファンクションコントローラー
F 20A :リアシートヒーター
G 20A :エンジンファン、スターター (G 320 / G 320 long / G 500 long)
H 20A :エンジンファン、燃料ポンプ (G 320 / G 320 long / G 500 long)

(A463 545 09 00 2003-10-01)

ヒューズボックス3（グローブボックス下部）

43A 15A :ホーン
43B :未使用
44 5A :電話
45 7.5A :エアバッグコントロールユニット、エアバッグ警告灯
46 20A :ワイパー
47 15A :ライター、グローブボックスランプ
48 15A :イグニッションコイル
49 7.5A :エアバッグコントロールユニット、エアバッグ警告灯
50 5A :リアシートヒーター
51 7.5A :メーターパネル
52 15A :スターター
53 15A :エンジンエレクトロニクス
54 15A :エンジンエレクトロニクス
55 7.5A :トランスミッションエレクトロニクス
56 5A :デファレンシャルロック、パークトロニック
57 5A :スターター
58 40A :オプション
59 50A :ESP
60 40A :オプション
61 :未使用
62 5A :診断ソケット、ヘッドランプ
63 5A :ヘッドランプ、デファレンシャルロック
64 10A :マルチファンクションコントローラー
65 40A :セカンダリーエアインジェクション

(A463 545 09 00 2003-10-01)

※記載の内容は取扱説明書作成時点のもので、予告なく変更されることがあります。

知　識

- ヒューズ配置表は、ヒューズボックス2の中にあります。
- 仕様 / 装備などの違いにより、装備されているヒューズが異なることがあります。

オイル・液類

必ずダイムラー・クライスラー社の純正品または指定品のみを使用してください。
詳しくは指定サービス工場にお問い合わせください。

注　意！

- オートマチックトランスミッションオイルの交換については別冊「整備手帳」をご参照ください。
- オートマチックトランスミッションオイルは専用品のみを使用してください。
- オートマチックトランスミッションオイルの漏れを見つけたり、トランスミッションの作動に異常を感じたときは、指定サービス工場で点検を受けてください。

	車　種	容　量(ℓ)	指　定　品　目	備　考
エンジンオイル	G 500 long	約8.0	承認オイル	オイルフィルターを含む
	G 320 G 320 long G 55 AMG long	約8.5		
オートマチックトランスミッションオイル	G 320 G 320 long	約8.0	承認オイル	工場出荷時注入量
	G 500 long G 55 AMG long	約9.0		
パワーステアリングオイル	全車	―	純正パワーステアリングオイル	―
フロントアクスル	全車	―	承認オイル	ハイポイドギアオイル SAE90、85W90
リアアクスル	全車	―	承認オイル	ハイポイドギアオイル SAE90、85W90
ブレーキ液	全車	―	純正ブレーキ液	DOT 4

※油脂類の正確な量はレベルゲージで確認してください。
※記載の内容は取扱説明書作成時点のものです。予告なく変更される場合があります。

	車　種	容　量(ℓ)	指　定　品　目	備　考
燃　料	全車	約95	無鉛プレミアムガソリン	警告灯点灯時の残量 約13ℓ
冷却水	G 320 G 320 long	約11.3	純正不凍液	水に純正不凍液を混ぜて使用します。濃度に注意してください。 (253ページ)
	G 500 long	約12.0		
	G 55 AMG long	約12.7		
ウォッシャー液	全車	約7.5	純正ウインドウウォッシャー液 冬用、夏用	水に純正ウインドウウォッシャー液を混ぜて使用します。 濃度に注意してください。
バッテリー	全車	12V / 90Ah、12V / 95Ah、12V / 100Ah		リアシート足元のフロア下
エアコンディショナー	全車	R134a		R-12を使用しないこと

注　意！

- 必ず取扱説明書に記載の指定の燃料を使用してください。指定燃料は無鉛プレミアムガソリンです。
- 指定以外の燃料(高濃度アルコール含有燃料など)を使用すると、燃料系部品の腐食や損傷などによりエンジンが故障したり、火災が発生するおそれがあります。
- 指定以外の燃料(高濃度アルコール含有燃料など)を使用して故障が発生した場合は、保証の適用外となりますので、ご了承ください。

タイヤとホイール

標準タイヤ

車　種	タイヤサイズ	ホイール	オフセット
G 320 G 320 long	265 / 70R16	軽合金7.5J×16	63mm
G 500 long	265 / 60R18	軽合金7.5J×18	63mm
G 55 AMG long	285 / 55R18	軽合金9.5J×18	50mm

注　意！

- G 55 AMG longは、標準タイヤにスノーチェーンを装着しないでください。
- 必ず純正品または承認されているタイヤを使用してください。純正タイヤは、G 320 / G 320 long / G 500 longがブリヂストン、G 55 AMG longがヨコハマです。

※ウィンタータイヤやスノーチェーンについては、指定サービス工場にご相談ください。
※記載の内容は取扱説明書作成時点のものです。予告なく変更されることがあります。
詳しくは指定サービス工場におたずねください。

スペアタイヤ

車　種	タイヤサイズ	ホイール	オフセット
G 320 G 320 long	265 / 70R16	軽合金7.5J×16	63mm
G 500 long	265 / 60R18	軽合金7.5J×18	63mm
G 55 AMG long	265 / 60R18	軽合金7.5J×18	43mm

警　告

- **G 55 AMG longはスペアタイヤに交換したときは、必ず80km/h以下で走行してください。短い時間の使用にとどめ、できるだけ早く標準タイヤに戻してください。**
- **G 55 AMG longはスペアタイヤと標準タイヤのサイズが異なるため、スペアタイヤを装着した場合、走行特性が大きく変化します。注意して走行してください。**

積載荷物の制限重量

車　種	ラゲッジルーム	ルーフ
G 320	630kg	150kg
G 320 long	730kg	200kg
G 500 long	780kg	200kg
G 55 AMG long	650kg	−

※ルーフの制限重量には、ルーフラックやアタッチメントの重量も含まれます。

※記載の内容は取扱説明書作成時点のものです。予告なく変更されることがあります。
　詳しくは指定サービス工場におたずねください。

こんなときは

トラブル	原因	対応
盗難防止警報が突然作動しはじめた。	盗難防止警報システムが待機状態のときに、運転席ドアまたはテールゲートをエマージェンシーキーで解錠し開いた。	▶ キーの または を押してください。またはエンジンスイッチにキーを差し込んでください。
警告音が鳴った。	マルチファンクションディスプレイに警告 / 故障メッセージが表示されている。	▶ 291ページからの警告 / 故障メッセージをご覧ください。
	駐車ブレーキを解除しないで走行している。	▶ 駐車ブレーキを解除してください。
	ランプを消灯しないでエンジンスイッチからキーを抜き、ドアを開いた。	▶ ランプスイッチを**0**にしてください。
エンジンの回転が滑らかでなく、ミスファイアも起きている。	以下の原因により、燃焼していない燃料が触媒に入っている。 • イグニッションケーブルが損傷している。 • エンジンエレクトロニクスに異常がある	▶ 触媒が損傷するおそれがあります。 ▶ アクセルペダルを踏み過ぎないでください。 ▶ ただちに指定サービス工場で点検を受けてください。

トラブル	原因	対応
エンジンが始動しない。	エンジンのエレクトロニクス、あるいは燃料供給に異常がある可能性がある。	▶ エンジンを再始動する前に、エンジンスイッチを0の位置に戻してください。 ▶ 始動操作を繰り返してください(142ページ)。ただしエンジン始動操作を長時間続けると、バッテリーがあがるおそれがあります。 ▶ 何度始動を試みてもエンジンが始動しない場合は、指定サービス工場に連絡してください。
	バッテリーがあがっている可能性がある。	▶ ブースターケーブルを使用して始動してください(241ページ)。 ▶ 何度始動を試みてもエンジンが始動しない場合は、指定サービス工場に連絡してください。
冷却水の温度表示が120℃以上を示している。	冷却水の温度が高すぎて、エンジンが冷却されていない。	▶ すみやかに停車し、エンジンと冷却水を冷やしてください。 ▶ エンジンと冷却水が冷えてから、冷却水量を点検し、必要であれば冷却水を補給してください(253ページ)。

トラブル	原因	対応
ガソリンが漏れている。		▶ 状況を問わず、エンジンを始動しないでください。 ▶ 指定サービス工場に連絡してください。
トランスミッションの作動に問題がある。	トランスミッションオイルが減っている。	▶ 指定サービス工場でトランスミッションの点検を受けてください。
加速性能が悪化している。 トランスミッションが変速しない。	トランスミッションに異常がある。	▶ エマージェンシーモードにして走行できる場合があります。 ▶ 車を停止してください。 ▶ セレクターレバーを P に入れます。 ▶ エンジンを停止します。 ▶ 10秒以上待ってから、エンジンを再始動します。 ▶ 前進する場合はセレクターレバーを D に入れます。 後進する場合はセレクターレバーを R に入れます。 ▶ ただちに指定サービス工場でトランスミッションの点検を受けてください。
エンジンスイッチがまわらない。	エンジンスイッチからキーを抜かずに0の位置で長時間放置していた可能性がある。	▶ エンジンスイッチからキーを抜き、再度差し込んでください。 ▶ バッテリーを点検し、必要であれば充電してください。 ▶ ブースターケーブルを使用して始動してください(241ページ)。

トラブル	原因	対応
リモコン操作で解錠 / 施錠できない。	キーの電池が消耗している。	▶ キーの電池を点検し、必要であれば交換してください(57ページ)。
	キーが故障している。	▶ エマージェンシーキーで運転席ドアを解錠 / 施錠してください(68ページ)。 ▶ エマージェンシーキーでテールゲートを解錠してください(73ページ)。 ▶ 指定サービス工場でキーの点検を受けてください。
キーのスイッチを押しても表示灯が点灯しない。	キーの電池が消耗している。	▶ キーの電池を交換してください(57ページ)。 電池は指定サービス工場で入手できます。
キーを紛失した。		▶ ただちに指定サービス工場に連絡してください。 ▶ ただちに自動車保険会社へキー紛失の事実を報告してください。 ▶ 必要であればキーシリンダーも交換してください。 ▶ 新しいキーの入手については、指定サービス工場におたずねください。
エマージェンシーキーを紛失した。		▶ ただちに指定サービス工場に連絡してください。 ▶ ただちに自動車保険会社へキー紛失の事実を報告してください。 ▶ 必要であればキーシリンダーも交換してください。 ▶ 新しいキーの入手については、指定サービス工場におたずねください。

トラブル	原因	対応
ワイパーの動きが妨害されている。	ウインドウに落葉や雪などの障害物が付着している。	▶ エンジンスイッチからキーを抜いて、障害物を取り除いてください。
ワイパーが作動しない。		▶ コンビネーションスイッチをまわして、別のモードを選択してください(171ページ)。 ▶ 最寄りの指定サービス工場でワイパーの点検を受けてください。
シートヒータースイッチの表示灯が点滅している。	多くの電気装備が使用されているために電力の供給が不足し、シートヒーターが自動的に停止している。	▶ 電力が回復すると、シートヒーターは自動的に作動を開始します。
エアコンディショナーのAC OFFスイッチを押しても表示灯が点灯しないか、または点滅する。	エアコンディショナーの冷媒が不足しているため、エアコンプレッサーが停止している。	▶ 冷房 / 除湿は行なわれません。 ▶ 最寄りの指定サービス工場でエアコンディショナーの点検を受けてください。
リアデフォッガーが短時間で停止し、表示灯が点滅する。	多くの電気装備が使用されているために電力の供給が不足し、リアデフォッガーが自動的に停止している。	▶ 電力が回復すると、リアデフォッガーは自動的に作動を開始します。
助手席エアバッグオフ表示灯が点灯している。	助手席にチャイルドセーフティシートが装備されているため、助手席エアバッグが作動しない状態になっている。	
	助手席にチャイルドセーフティシートが装備されていない場合は、チャイルドセーフティシート検知システムが故障している。	▶ 指定サービス工場でチャイルドセーフティシート検知システムの点検を受けてください。

トラブル	原因	対応
車が後退しているときに警告音が聞こえる。	パークトロニックセンサーが汚れているか、付着物などがある。 パークトロニックが故障している。	▶ パークトロニックセンサーを清掃してください(192ページ)。 ▶ 再度、エンジンスイッチを**2**の位置にしてください。 ▶ 正常に作動しないときは、指定サービス工場でパークトロニックの点検を受けてください。
	周囲に電波や高周波を発生する物があるため、パークトロニックが停止している。	▶ 場所を変えて、パークトロニックを使用してください。
車が後退しているときに警告音が聞こえるか、障害物が近づいてもパークトロニックのインジケーターが点灯しない。	パークトロニックに異常があり、機能が停止している。	▶ 指定サービス工場でパークトロニックの点検を受けてください。

<table>
<tr><th>警告灯</th><th>原因</th><th>対応</th></tr>
<tr><td rowspan="2">エンジンがかかっているときに黄色のESP表示灯が点灯する。</td><td>ESPの機能が解除されている。</td><td>▶ ESPを待機状態にしてください。
事故のおそれがあります。</td></tr>
<tr><td>デファレンシャルロックスイッチが押されており、ESPとともにBASとABSも解除されている。</td><td>▶ デファレンシャルロックをオフにするとESP、BAS、ABSが復帰します。</td></tr>
<tr><td>走行中に黄色のESP表示灯が点滅する。</td><td>タイヤがグリップを失っているか、車が横滑りをしているため、ESPまたはABSなどが作動している。</td><td>▶ 発進するときにアクセルペダルを必要以上に踏み込まないでください。
▶ 走行中はアクセルペダルをゆるめてください。
▶ ESPの機能を解除しないでください(雪道などでの走行を除く)。
事故のおそれがあります。</td></tr>
<tr><td rowspan="3">ABS
エンジンがかかっているときに黄色のABS警告灯が点灯する。</td><td>故障のためABSが解除されている。ABSとともにBAS、ESP、4ETSも解除されている。</td><td>▶ マルチファンクションディスプレイの表示に従ってください。
▶ 十分注意して走行を続けてください。
▶ 通常のブレーキ時の制動能力は確保されますが、ABS、ESP、BAS、4ETSは作動しません。また、パークトロニックやオートマチックトランスミッションも作動しない可能性があります。
▶指定サービス工場で点検を受けてください。
これらの注意を守らないと事故につながるおそれがあります。</td></tr>
<tr><td>電圧低下のためABSが解除されている。バッテリーが充電されていない可能性がある。</td><td>▶ マルチファンクションディスプレイの表示に従ってください。
▶ 不必要な電気装備は停止してください。
電圧が回復すると、ABSの機能が回復する場合があります。</td></tr>
<tr><td>デファレンシャルロックスイッチが押されている。</td><td>▶ デファレンシャルロックをオフにすると、ABSが復帰します。</td></tr>
</table>

警告灯	原因	対応
走行中に赤色のブレーキ警告灯が点灯する。	駐車ブレーキを解除しないで走行している。	▶ 駐車ブレーキを解除してください。
	リザーブタンクのブレーキ液量が不足している。	▶ 走行しないでください ▶ 指定サービス工場に連絡してください。 ▶ マルチファンクションディスプレイの表示(292ページ)に従ってください。 ブレーキ液を補給しないでください。ブレーキ液を補給しても問題は解消しません。
SRS エンジンスイッチを1の位置にしても、赤色のエアバッグシステム警告灯が点灯しない。 走行中にエアバッグ警告灯が点滅または点灯する	乗員保護システムに異常がある。エアバッグやシートベルトテンショナーが不意に作動したり、事故のときに作動しない可能性がある。	▶ 十分注意して最寄りの指定サービス工場まで走行してください。
SRS エンジンスイッチを2の位置にしても、赤色のエアバッグシステム警告灯が点灯しない。	エアバッグシステム警告灯が故障している。	▶ 十分注意して最寄りの指定サービス工場まで走行してください。
エンジンを始動すると、赤色のシートベルト警告灯が点灯し、警告音が鳴る。	シートベルトを着用していない。	▶ シートベルトを着用してください。
走行中に黄色の燃料残量警告灯が点灯する。	燃料の残量が少なくなっている。	▶ 最寄りのガソリンスタンドで給油してください。

警告灯	原因	対応
エンジンがかかっているときに黄色のエンジン警告灯が点灯する。	以下に異常があるため、エンジンがエマージェンシーモードになっている。 • インジェクションシステム • イグニッションシステム • 排気システム 排出ガスの成分が基準値を超えたために、エンジンがエマージェンシーモードになっている可能性がある。	▶ すみやかに指定サービス工場で点検を受けてください。
	燃料タンクが空になっている。	▶ 燃料の補給後、エンジン始動操作を3〜4回繰り返してください。エマージェンシーモードが解除されます。車の点検を受ける必要はありません。

ディスプレイ表示		原因	対応
ABS	ABS ｼｭｳﾘ ﾋﾂﾖｳ	ABSが故障している。ABSは作動しないが、ブレーキは通常通り作動する。	▶ 十分注意して走行を続けてください。 ▶ すみやかに指定サービス工場に連絡してください。 事故のおそれがあります。
	ｼｭｳﾘ ﾋﾂﾖｳ ｲﾝｼﾞｹｰﾀ ｶﾞ ｺｼｮｳ ﾃﾞｽ	ABSまたはABS表示が故障している。	▶ 十分注意して走行を続けてください。 ▶ すみやかに指定サービス工場に連絡してください。 事故のおそれがあります。
DIFFERENTIAL LOCK	ABS ﾊ ｼﾖｳ ﾃﾞｷﾏｾﾝ ﾛｯｸ ｶﾞ ｻﾄﾞｳ ｼﾃｲﾏｽ	デファレンシャルロックがオンになっている。	▶ デファレンシャルロックをオフにすると、ABSが復帰します。

ディスプレイ表示		原因	対応
BAS	ｼﾖｳ ﾃﾞｷﾏｾﾝ ﾛｯｸ ｶﾞ ｻﾄﾞｳ	デファレンシャルロックがオンになっている。	▶ デファレンシャルロックをオフにすると、BASが復帰します。
	ﾌﾞﾚｰｷ ｱｼｽﾄ ｼﾖｳ ﾃﾞｷﾏｾﾝ!	デファレンシャルロックがオンになっている。	▶ デファレンシャルロックをオフにすると、BASが復帰します。
	ｼﾖｳ ﾃﾞｷﾏｾﾝ!	デファレンシャルロックがまだオフになっていない。	▶ ステアリングを一定方向に保持し、一定の速度で約3秒間走行してください。 道路と交通の状況に注意してください。
	ﾌﾞﾚｰｷｱｼｽﾄ ｼｭｳﾘ ﾋﾂﾖｳ	BASが故障している。BASは作動しないが、ブレーキは通常通り作動する。	▶ 十分注意して走行を続けてください。 ▶ すみやかに指定サービス工場に連絡してください。 事故のおそれがあります。
	ｼｭｳﾘ ﾋﾂﾖｳ ｲﾝｼﾞｹｰﾀ ｶﾞ ｺｼｮｳ ﾃﾞｽ	BASまたはBAS表示が故障している。	▶ 十分注意して走行を続けてください。 ▶ すみやかに指定サービス工場に連絡してください。 事故のおそれがあります。
(!)	ﾌﾞﾚｰｷ ﾊﾟｯﾄﾞ ｼｭｳﾘ ﾋﾂﾖｳ	ブレーキパッドの摩耗が限界に達している。	▶ すみやかにブレーキパッドを交換してください。
	ﾌﾞﾚｰｷ ｵｲﾙ ｼｭｳﾘ ﾋﾂﾖｳ	リザーブタンクのブレーキ液量が不足している。	▶ すみやかに車を停止してください。 ▶ 走行しないでください。 ▶ 指定サービス工場で点検を受けてください。 ブレーキ液を補給しないでください。ブレーキ液を補給しても問題は解消しません。

ディスプレイ表示		原因	対応
ESP	ｼｮｳ ﾃﾞ ｷﾏｾﾝ ﾛｯｸ ｶﾞ ｾﾝﾀｸｻﾚﾃｲﾙ	デファレンシャルロックスイッチが押されている。	▶ デファレンシャルロックをオフにすると、ESPが復帰します。
	ｼｮｳ ﾃﾞ ｷﾏｾﾝ ﾛｯｸ ｶﾞ ｻﾄﾞｳ	デファレンシャルロックが機械的に作動している。	▶ デファレンシャルロックをオフにすると、ESPが復帰します。
	ｼｮｳ ﾃﾞ ｷﾏｾﾝ!	デファレンシャルロックがまだオフになっていない。	▶ ステアリングを一定方向に保持し、一定の速度で約3秒間走行してください。 道路と交通の状況に注意してください。
	ESP ｼｮｳ ﾃﾞ ｷﾏｾﾝ	電力供給が断たれたためESP、ABS、BASが解除されている。システムをリセットする必要がある。	▶ 通常のブレーキ時の制動能力は確保されます。 ▶ ESPをリセットしてください(184ページ)。 ▶ リセットできないときは、注意して走行を続け、指定サービス工場に連絡してください。 事故のおそれがあります。
		システムの自己診断が完了していないため、一時的にESP、ABS、BASが作動しない状態になっている。	▶ 約20km/h以上の速度で短い距離を走行してください。メッセージが消えれば、ESPは待機状態になります。
	ESP ｼｭｳﾘ ﾋﾂﾖｳ	故障または電力供給が断たれたためESP、ABS、BASが解除されている。ブレーキシステムは通常通り作動する。	▶ 十分注意して走行を続けてください。 ▶ ただちに指定サービス工場に連絡してください。 事故のおそれがあります。
	ｼｮｳ ﾃﾞ ｷﾏｾﾝ!	ESPまたはESP表示が故障している。	▶ 十分注意して走行を続けてください。 ▶ ただちに指定サービス工場に連絡してください。 事故のおそれがあります。

ディスプレイ表示		原因	対応
	ｳﾝﾃﾝｾｷ ｼｰﾄ ﾛｯｸ	運転席のバックレストが正しくロックされていない。	▶ 運転席のバックレストを確実にロックさせてください(60ページ)。
	ｼﾞｮｼｭｾｷ ｼｰﾄ ﾛｯｸ	助手席のバックレストが正しくロックされていない。	▶ 助手席のバックレストを確実にロックさせてください(60ページ)。
	ﾊﾟｰｷﾝｸﾞ ﾌﾞﾚｰｷ ｶｲｼﾞｮ ｼﾃｸﾀﾞｻｲ!	駐車ブレーキを解除せずに走行している。	▶ 駐車ブレーキを解除してください(175ページ)。
	ｷﾉｳ ｼﾖｳ ﾃﾞｷﾏｾﾝ	電話が装備されていない状態でステアリングのまたはを押している。	
	ﾚｲｷｬｸｽｲ ﾚﾍﾞﾙ ｦ ﾃﾝｹﾝ ｼﾃｸﾀﾞｻｲ!	冷却水量が不足している。	▶ 冷却水を補給してください(253ページ)。 ▶ 通常よりも頻繁に冷却水を補給している場合は、指定サービス工場で点検を受けてください。
	ﾚｲｷｬｸｽｲ ﾃｲｼｬ ｼﾃ ｴﾝｼﾞﾝ ｦ ﾃｲｼ!	Vベルトが切れている可能性がある。	▶ ただちに安全な場所に停車し、Vベルトを点検してください。 Vベルトが切れているとき： • 走行しないでください。指定サービス工場に連絡してください。 Vベルトが切れていないとき： • ただちに最寄りの指定サービス工場まで走行してください。
	ﾚｲｷｬｸｽｲ ｼｭｳﾘ ﾋﾂﾖｳ	冷却ファンが故障している。	▶ 冷却水温度画面で冷却水温度を点検してください(108ページ)。 ▶ 指定サービス工場に連絡してください。

ディスプレイ表示	原因	対応
ﾋﾀﾞﾘ ﾛｰ ﾋﾞｰﾑ ﾗﾝﾌﾟ ｦ ﾃﾝｹﾝ ｼﾃｸﾀﾞｻｲ! 1)	左ヘッドランプ(ロービーム)が切れている。	▶ すみやかに指定サービス工場に連絡してください。
ﾗﾝﾌﾟ ｾﾝｻ ｼｭｳﾘ ﾋﾂﾖｳ	ランプセンサーが故障している。自動的にランプが点灯する。	▶ 各種設定の "ﾗﾝﾌﾟ ｽｲｯﾁﾝｸﾞ、ﾍｯﾄﾞ ﾗﾝﾌﾟ ｵﾌ" で "ﾏﾆｭｱﾙ" に切り替えてください。 ▶ ランプスイッチでランプを点灯 / 消灯してください。
ﾎﾞﾝﾈｯﾄ ｶﾞ ｱｲﾃｲﾏｽ!	ボンネットが開いたまま走行している。	▶ ボンネットを閉じてください。
ﾄﾗﾝｸｶﾞ ｱｲﾃｲﾏｽ!	テールゲートが開いたまま走行している。	▶ テールゲートを閉じてください。
ｴﾝｼﾞﾝ ｴｱ ﾌｨﾙﾀｰ ｼｭｳﾘ ﾋﾂﾖｳ	エンジンのエアフィルターが詰まっている。清掃する必要がある。	▶ すみやかに指定サービス工場に連絡してください。
SRS SRSｼｽﾃﾑ ｼｭｳﾘ ﾋﾂﾖｳ	乗員保護システムが故障している。エアバッグとベルトテンショナーが不意に作動したり、事故のときに作動しないおそれがある。	▶ 十分注意して最寄りの指定サービス工場まで走行してください。
ﾘﾐｯﾀ、ｸﾙｰｽﾞ ｺﾝﾄﾛｰﾙ ｼｭｳﾘ ﾋﾂﾖｳ	可変スピードリミッターまたはクルーズコントロールが故障している。	▶ すみやかに指定サービス工場で可変スピードリミッターまたはクルーズコントロールの点検を受けてください。

1) 他のランプが切れたときは、この例以外のメッセージが表示されます。
車外ランプいずれかに異常が発生すると、その箇所と対応が表示されます。

ディスプレイ表示		原因	対応
	ｴﾝｼﾞﾝ ｵｲﾙ ﾚﾍﾞﾙ ﾚﾍﾞﾙ ｦ ﾃﾝｹﾝ ｼﾃｸﾀﾞｻｲ!	エンジンオイル量が不足している。	▶ エンジンオイル量を点検し、必要であれば補給(254ページ)してください。
	ｴﾝｼﾞﾝ ｵｲﾙ ﾚﾍﾞﾙ ﾃｲｼｬ ｼﾃ、 ｴﾝｼﾞﾝ ｦ ﾃｲｼ	エンジンオイル量が不足している。エンジンを損傷するおそれがありる。	▶ エンジンを停止してください。 ▶ エンジンオイルを補給し、エンジンオイル量を点検してください。
	ｴﾝｼﾞﾝ ｵｲﾙ ﾚﾍﾞﾙ ｵｲﾙ ｦ ﾇｲﾃｸﾀﾞｻｲ	エンジンオイル量が多すぎる。エンジンや三元触媒コンバーターを損傷するおそれがある。	▶ オイルを抜いてください。オイルを廃棄するときは規則に従ってください。
	ｴﾝｼﾞﾝ ｵｲﾙ ｼｭｳﾘ ﾋﾂﾖｳ	エンジンオイル量が限界まで下がっている。	▶ エンジンオイル量を点検し、必要であれば補給(254ページ)してください。 ▶ エンジンオイルを頻繁に補給している場合は、指定サービス工場で、エンジンからオイルが漏れていないか点検を受けてください。
		オイルに水が混じっている。	▶ オイルを点検してください。
	ｴﾝｼﾞﾝ ｵｲﾙ ﾚﾍﾞﾙ ｼｭｳﾘ ﾋﾂﾖｳ	計測システムが故障している。	▶ すみやかに指定サービス工場に連絡してください。
	ｳｫｯｼｬｴｷ ﾚﾍﾞﾙ ｦ ﾃﾝｹﾝ ｼﾃｸﾀﾞｻｲ!	リザーブタンク内のウォッシャー液量が最低レベルまで減っている。	▶ ウォッシャー液を補給してください(258ページ)。
	ｷｰ ｦ ｺｳｶﾝｼﾃｸﾀﾞｻｲ!	キーが作動しなくなっている。	▶ 指定サービス工場に連絡してください。

ディスプレイ表示		原因	対応
	E-call ｼｭｳﾘ ﾋﾂﾖｳ	日本仕様には設定がない機能ですが、メッセージが表示されることがあります。	▶ 指定サービス工場で点検を受けてください。
	E-call ﾊﾞｯﾃﾘｰ ｼｭｳﾘ ﾋﾂﾖｳ	日本仕様には設定がない機能ですが、メッセージが表示されることがあります。	▶ 指定サービス工場で点検を受けてください。
	ﾈﾝﾘｮｳ ｷｭｳﾕ ｼﾃｸﾀﾞｻｲ	燃料残量が非常に少なくなっている。	▶ 最寄りのガソリンスタンドで燃料補給してください。
	ﾄﾞｱ ｶﾞ ｱｲﾃｲﾏｽ!	ドアが完全に閉じていない状態で走行している。	▶ ドアを閉じてください。
	ﾃﾞﾝｱﾂ ﾃｲｶ ﾊﾞｯﾃﾘｰ ｼﾞｭｳﾃﾞﾝ	バッテリーの電圧が低下している。	▶ エンジンを始動してください。
	ﾃﾞﾝｱﾂ ﾃｲｶ ﾃﾞﾝｿｳﾋﾝ ｦ ｵﾌ	バッテリーの電圧が低下している。	▶ 必要でない電気装備のスイッチを切ってください。
	ﾊﾞｯﾃﾘｰ / ｵﾙﾀﾈｰﾀ ｼｭｳﾘ ﾋﾂﾖｳ	以下の原因によりバッテリーが充電されていない。 • オルタネーターの故障 • Ｖベルトの損傷	▶ ただちに安全な場所に停車し、Ｖベルトを点検してください。 Ｖベルトが切れているとき： 走行しないでください。指定サービス工場に連絡してください。 Ｖベルトが切れていないとき： ただちに最寄りの指定サービス工場まで走行してください。

ディスプレイ表示		原因	対応
	ｼｭｳﾘ ﾋﾂﾖｳ ｲﾝｼﾞｹｰﾀ ｶﾞ ｺｼｮｳﾃﾞｽ!	いくつかのシステム表示が故障している。システム自体が故障しているおそれがある。	▶ 指定サービス工場に連絡してください。
	ｼｭｳﾘ ﾋﾂﾖｳ ｲﾝｼﾞｹｰﾀ ｶﾞ ｺｼｮｳﾃﾞｽ!	１つ以上のエレクトロニックシステムが情報を伝達できない状態になっている。以下のシステムが故障している可能性がある。 • 冷却水温度計 • タコメーター • クルーズコントロールまたは可変スピードリミッターのインジケーター	▶ 指定サービス工場でエレクトロニックシステムの点検を受けてください。
LOW HIGH	TC ｼﾌﾄ ﾁｭｳﾀﾞﾝ	エラーのため、トランスファーケースのシフトが中断された。	▶ 再度、シフト操作を行なってください(155ページ)。
	TC ｼﾌﾄ ｼﾞｮｳｹﾝ ﾐﾀｼﾃｲﾅｲ	トランスファーケースのシフト条件を満たしていない。	▶ 再度、シフト操作を行なってください(155ページ)。
	TC ﾊ ﾆｭｰﾄﾗﾙ	トランスファーケースがニュートラル位置になっている。	▶ 必要に応じて、トランスファーケースをHIGHまたはLOWにシフトしてください(155ページ)。
	ﾄﾗﾝｽﾌｧｰｹｰｽ ｼｭｳﾘ ﾋﾂﾖｳ	トランスファーケースが故障している。	▶ トランスファーケースのシフト操作を行なわないでください。 ▶ すみやかに指定サービス工場でトランスファーケースの点検を受けてください。

注　意！

- メーターパネルやマルチファンクションディスプレイが故障した場合はメッセージは表示されません。このときは指定サービス工場に連絡してください。
- 表示される故障や不具合は、一部の限られた装備についてであり、また表示される内容も限られています。この故障表示の機能は運転者を支援する装置です。発生した故障に対処して車の安全性を維持する責任は運転者にあります。

知　識

故障 / 警告メッセージによっては警告音が鳴ることがあります。

※取扱説明書に記載の警告メッセージは、取扱説明書作成時点でのものです。マルチファンクションディスプレイに表示されるメッセージや表記などは、予告なく変更されることがあります。

ア

カ

サ

タ

ハ

マ

ヤ

ラ

ワ

A

B

E

S

4

“ESP®” はダイムラー・クライスラー（株）の登録商標です。

※この取扱説明書の内容は、2006年２月現在のものです。

対象モデル

G 320
G 320 long
G 500 long
G 55 AMG long